

建築物、構築物を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2022	1	10 ～ 12	コンクリート製品用の砂を屋根付きのホッパーに保管していた。災害発生当日、砂の表面が氷結していたため、被災者は一人でホッパー内の砂の上でハンマー等で氷結した砂を破砕する作業を行っていた。事業主は被災者が破砕している最中にホッパー出口のベルトコンベアを可動させてホッパーの砂を排出していたところ、出口から被災者の足が出てきた。消防隊がホッパー内で砂に埋もれていた被災者を救出したが、窒息により死亡した。	010901	1	1～9
2022	1	6 ～ 8	被災者が乗用車で出勤した後、駐車場から事務所へ移動していたところ、敷地内の深さ2.5mの水路へ墜落した。被災者はその数日後に死亡した状態で同僚により発見された。死因は低体温症であった。	030201	1	100 ～ 299
2022	1	16 ～ 18	食料品の製造に伴って発生する、油脂を多量に含む排水を処理する施設において、排水を受け入れる槽等からあふれ出た排水を別の槽に移す作業等を行っていた3名の労働者のうち、1名が槽の上部に設けられた点検口から、深さ約5メートルの槽の内部に転落し、医療機関に搬送されたが、同日、死亡した。災害発生時、点検口の2枚のふた板のうち、1枚は取り外されており、槽には深さ約3メートルの排水が入っていた。	010109	10	100 ～ 299
2022	1	14 ～ 16	建物屋上の防水工事を行っていた労働者が、高さ約7.5m下のコンクリート地面に倒れている状態で発見されたもの。直前の作業状況等から屋上端から墜落したものと推測される。	030309	1	1～9
			被災者はトラックを運転して高速道路を走行中、前方を走行する車と			

2022	2	4 ～ 6	激突することを防止するため、急ブレーキを踏みハンドルを右に切った際にトラックが横転した。被災者は後続を運転する人々に救出された後、緊急電話を使用するために、高速道路の路肩を徒歩により移動中、誤って側壁（高さ90cm）を乗り越え、高さ約12m下の地上に墜落した。	040301	1	10～ 29
2022	2	14 ～ 16	図書館の設備運転管理等を受託する事業者の所属労働者1名が、同図書館3階の4か所にあるバルコニーのルーフドレン（ベランダの排水溝のつまり防止のための金物）の点検清掃を行った際に、誤って地上へ墜落（高さ9.1m）し死亡したもの。	170209	1	300 ～ 499
2022	2	12 ～ 14	被災者は、河川維持工事を行う土木現場において、敷設後のU字溝内の洗浄のため、河川の水を利用し水中ポンプ及びホースを使用した洗い流しを行ったあと、当該ホースの水流排水口側を引っ張り、河川近くのコンクリートの床上を移動していたところ、同コンクリート床が割れ、直高145センチメートル下の河川内に墜落し、河川内の石に前頭部を打ち付けた。	030199	1	1～9
2022	2	10 ～ 12	被災者が砕砂製造プラントの原料ホッパーで、原料である砕石が詰まったため、詰まりを除去しようとして、ホッパー内に入り、スコップで除去作業を行っていたところ、砕石が崩れたため、砕石の中に埋まり、被災した。	020201	1	30～ 49
2022	2	10 ～ 12	3階建て公共建築物の3階窓の掃除作業において、被災者は外開き窓（内付けサッシ）の室外にあるステップ（奥行約51cm×幅約89cm）上で窓ガラス及び窓枠周辺の掃除作業中、室内の脚立上にいたもう一人の労働者が脚立上でバランスを崩し、被災者が清掃している外開き窓を誤って押し開けてしまったため、被災者はその反動で押し出されるように8.1m下へ墜落し死亡したもの。	150101	1	100 ～ 299
2022	3	10 ～ 12	建物屋上の空調室外機の撤去作業中、建物屋上を台車資材を移動中に高さ19mから墜落して死亡したもの。	030302	1	1～9

2022	3	6 8	被災者は被災事業場の事務所に自家用車で出勤し、敷地内に駐車後、車を降りて、事務所に向かって歩いていたところ、災害発生日前日に降った雪と路面の段差で足を滑らせて、後方に転倒したもの。被災後、病院へ搬送され、頭部の手術を受けた後、容態が悪化し、災害発生日から数日後に死亡したもの。	170209	2	1～9
2022	3	14 16	被災者は、ダム取水放流設備内に設けられた点検歩廊から、設備の最終確認の点検中（清掃等含む）、設備内に設けられた昇降はしごの開口部に設置されたチェーンを潜り抜けようとしたところ、誤って15.7m下のコンクリート製の構造部に墜落し、搬送先の病院にて、同日、死亡が確認された。	030101	1	100 ～ 299
2022	4	10 12	鉄骨鉄筋コンクリート造5階建て建物の解体現場において、4階の壁の解体作業を行うにあたり、3面の壁の解体を終え、南面の壁1面を転倒工法により解体するために、南面壁のハツリ作業等を行っていたところ、南面壁が内側に倒れてきたため、ハツリ作業等を行っていた作業員4名の内2名が倒れてきた壁に挟まれ被災し内1名の2次下請労働者が死亡した。	030209	6	10～ 29
2022	4	10 12	解体工事現場にて、騒音防止のための防音シートを足場の外側に張るため、建物最上部の看板の天端（H鋼ウェブ上、幅約25cm、地表からの高さ約32.6m、屋上からの高さ約5.9m）から垂らしたヒモに、防音シート3枚（1枚7～8kgとの証言）を結び、引き上げていた際、看板の天端から5.9m下の屋上に墜落した。	030209	1	1～9
2022	4	14 16	被災者が、自動車整備作業場において軽自動車のシーズンタイヤの交換作業を行っていたところ、軽自動車後部のピット開口部から約1.4メートル下のピット底面に墜落し、病院に搬送されたが死亡した。	011701	1	1～9
2022	5	16	秤量機の撤去のため、高さ3.2mの架台上で架設通路を取り外す作業中、架台の小梁に足をかけたところ、小梁と架設通路を固定するボルトが外されていたため小梁が外れ、コンクリート床面に墜落した。小梁と架設通路はボルトにより接合した構造であるが、災害発生時は	030302	1	1～9

		18	解体のためボルトを外した状態であり、被災者が足をかけた個所は、小梁と架設通路が摩擦によりかろうじて固定されている状態であった。			
2022	5	16 ～ 18	解体工事現場において、被災者は2Fの庇（高さ5m、幅50cm）の上で作業中、壁のレンガが崩壊したため、当該レンガとともに5m下の歩道に墜落し、被災した。その後、病院へ搬送されたが、同日、出血性ショックにて死亡したものの。	030309	5	1～9
2022	5	8 ～ 10	屋上防水の補修工事のため、被災者（職長）含め3名で屋上へ上がった。被災者以外の2名が作業準備をしていたところ、現場の確認作業中の被災者が屋根からアスファルトの地面へ墜落して死亡したものの。	030209	1	1～9
2022	6	8 ～ 10	畜産を営む事業場に雇用される被災者が、被災場所の製材所に赴き、牛舎の敷料とする木屑を譲り受けるため、木屑を保管する車庫型のサイロの貯蔵部内部に立入り、山状に積もった木屑をスコップ等で崩しながら床面の排出口に入れ、サイロ下部に停めたトラックの荷台に木屑を積む作業を行っていたところ、別の排出口に足を取られ袋状に閉じた箇所に落ち、さらに、その上から崩れた木屑の山が被さり呼吸不全により死亡したものの。	070101	1	1～9
2022	6	10 ～ 12	被災者は、農業用通路を1m拡幅するための床掘作業後、オートレベル測定作業中、既設の重力式擁壁（道路側高さ約1.5m・水田側高さ約0.7m×長さ約3.5m、天端幅0.2m）が倒れて身体を挟まれたもの。被災者の在留資格：特定技能1号	030199	5	1～9
2022	6	8 ～ 10	地上10階建てSRC造のビルを解体する工事において、9階部分を解体する工程を進めていた。被災労働者は西面外壁の窓に固定されていた外部足場の壁つなぎを建物内側から取り外そうとしたところ、西面外壁の一部が被災者側に崩落し、これと窓の下部の外壁に胸部が挟まれ死亡した。崩落した外壁を支持していた柱と梁は、引き倒しの準備のため一部を破断させており、外壁は不安定な状態であった。	030201	4	1～9
			被災者は、事業場敷地内で、刈払機を用いて草刈り作業を行っていた			

2022	6	8 ～ 10	ところ、高さ3.25メートルの擁壁から、何らかの理由により転落し、頸髄損傷により死亡したものの。被災者は用水路で発見された。被災者はヘルメットを着用していなかった。	010502	1	50～ 99
2022	6	8 ～ 10	コンクリートブロック造の倉庫の解体作業を行っており、倉庫北面と西面のみ残った状況で、最初に西面を解体しようとした。西面に、北面の横鉄筋3本がかぎ掛けされていたため、横鉄筋を切断しようとしたところ、2本切断し終えて3本目を切断中に、北面が倉庫外側に倒壊した。その影響で、西面が倉庫内側に倒れ、倉庫内側で切断作業をしていた被災者が下敷きとなり死亡した。	030201	5	1～9
2022	6	10 ～ 12	道路舗装工事に必要なアスファルトをダンプトラックで運搬していた際に、道路上の通行の妨げとなる樹木の枝を橋梁の欄干にのぼって切った際に、足元が滑って川底に墜落したものの。	040302	1	1～9
2022	7	12 ～ 14	事業者Aが元請として施工する現場において、橋脚の深礎工事のうち鉄筋の設置作業を担当する二次下請事業者Bに所属する被災者は、同僚3名とともに、地上からの深さ約10mの深礎底部で前作業で底部に落下した結束線等の清掃作業を行っていたところ、主鉄筋に結束線により仮止めしていたフープ筋（重量480kg）25組が被災者の頭上に落下し、被災者は押し潰される形となり窒息死したものの。	030105	4	1～9
2022	7	12 ～ 14	スライド式可動屋根の上部に設置された電線の移設工事のため、被災者が、当該可動屋根のレール上に乗り、電線を支持する架台の鉄骨支柱に金物を設置していた際、地上にいた他の労働者が可動式屋根の開閉スイッチを押したため、可動屋根と金物を設置していた架台の鉄骨支柱との間に胸部を挟まれたもの。	030301	7	1～9
2022	7	16 ～ 18	防音壁を作成するため、架台の溶接作業中、突然意識を失ってコンクリートブロックから1.6m下にある用水路に転落した。	080401	1	0
		10	住宅の解体工事において、解体途中の躯体風呂場部分高さ1.8メー			

2022	8	～ 12	トルの外壁が倒壊し、当該外壁が被災者の胸部に直撃し死亡した。	030202	5	0
2022	8	14 ～ 16	被災者は同僚の作業員3名と東日本大震災によって地盤が沈下したガス充填作業場の修正工事を行うため、当該作業場の地下をスコップ等で横方向に掘削し、ジャッキを設置する作業を行っていた。坑口から約9mの箇所において、地下の土砂を掘削していたところ、ガス充填作業場の基礎部にある捨てコンクリートが崩壊し、被災者がその下敷きとなったもの。その後、外傷性窒息により死亡した。	030199	5	10～ 29
2022	8	8 ～ 10	R C 7階建て新築工事の6階バルコニーで避難ハッチ部の型枠解体作業を行い、バルコニー付近に置いてあった型枠パネルを片付けようとした際、パネルに打ち付けられていた釘に足を引っ掛け下がったところ、バルコニー端部の段差部分に足をとられバランスを崩し、バルコニーに直付けされていたロングスパンエレベーター昇降路から1階に降ろしていた搬器上に墜落し死亡したものの。	030201	1	1～9
2022	8	14 ～ 16	地上5階建てアパートの外壁改修工事現場において、元請会社の労働者である被災者が高さ約15.35メートルの屋上から地上コンクリート床へ墜落し、死亡した。	030201	1	1～9
2022	8	22 ～ 24	被災者は運転代行を依頼した客の自動車の運転を終え、当該自動車から随伴用軽自動車の助手席に乗り込む際に、道路脇から用水路（深さ約1.07m）に転落した。被災者は転落した際に頸椎を損傷し、病院に搬送され治療を受けていたが、低酸素脳症にて心肺停止となり、死亡した。	170209	1	1～9
2022	9	12 ～ 14	倉庫2階張り出し部分下の駐車スペースに自家用車を停車し車内にいたところ、2階張り出し部分が崩落し、車に高コンクリート片等が落下したことにより車の屋根がつぶれて負傷し、死亡したものの。	080109	5	10～ 29
2022	9	16 ～ 18	被災者は、事業主と共に建物2階庇の上にエアコンを設置し、その後被災者は当該庇の上で一人で片付けを行っていたところ、誤って庇の上から約3.5m下の地面に墜落した。	080209	1	1～9

2022	9	14 ～ 16	令和元年度台風の災害復旧工事現場において、高さ約2.5mの擁壁から墜落したもの。	030106	1	1～9
2022	10	14 ～ 16	RC造3階建てマンションの解体工事において、屋根裏フロアの開口部（屋根を部分的に撤去）で被災者及び同僚1名は、建物の縁に脚立を立てかけ、その上を転がしてフレコンバッグを持ち上げ、地上に投げ落とししたところ、何らかの理由により被災者が縁を乗り越えて転落し、高さ10.5m墜落してアスファルト舗装面に激突した。	030201	1	10～ 29
2022	10	10 ～ 12	校舎屋上の防水シートを設置する作業を行っていた被災者は、新しく設置する防水シート（幅1.2メートル、全長10メートル）の端部に切れ目を入れて、引っ張りながら切り離す作業を屋上中央部から屋上端部を背にして行っていたところ、屋上端部の高さ53センチメートル、幅39センチメートルのパラペットを乗り越えて、13メートル下の植え込みに墜落した。	030209	1	1～9
2022	11	12 ～ 14	地上6階、地下1階建て自社ビルの1階事務所で、被災者は窓ガラス等を拭いていた。室内の事業主が被災者の悲鳴を聞き、探すと全開の窓（高さ2×幅1m開放）の外の、地下へのスロープのコンクリ床（2.2m下）に倒れていた。搬送先病院で頭部挫傷による即死を確認。窓の外は垂直壁面なので安全のため約15cm離れた室内に高さ1.1mのアルミ柵があり、柵を乗り越えないと窓の外に出られない構造だった。	030203	1	1～9
2022	11	4 ～ 6	ごみ焼却施設内において、委託業務を請負う事業場に所属する被災者は、単独でプラットホームにあった家庭ごみをホイールローダーで、ゴミピット内に投入作業中、ゴミ投入口4番ゲート右側の観音扉が自然に閉まってきたためホイールローダーから降車し、人力で押し戻そうとした際、扉が被災者の背中に倒れ下敷きとなった。	150103	5	10～ 29
			被災者は個人宅手前の駐車場にバイクを停車し、個人宅に行くための橋（橋長約2.3mコンクリート製）を渡り、新聞を配達した。その			

2022	12	2 ～ 4	後、橋を渡って、駐車場に戻る際に、橋付近でバランスを崩し、橋の南側にあった手すり（木製）を掴んだところ、手すりが外れ、約1.7 m下の用水路に転落した。被災後知人に用水路から救出されて、2日間新聞配達を続けていたが、体調不調を訴えたため、病院に搬送され、その後死亡したものの。	080205	1	10～ 29
2022	12	12 ～ 14	管理人兼清掃員として勤務している被災者が頭部を負傷し、死亡した状態で発見された。災害発生前にはマンションの擁壁上（高さ1.5 m）の斜面で剪定作業を行っていたと推定される。	080409	1	100 ～ 299
2021	1	18 ～ 20	守衛兼ボイラー監視の業務において、ボイラーの給水タンクへの井戸水の供給状況を確認しようと給水タンクのタラップ（昇降ハシゴ）を1 mほど上った際に転落し、給水タンク近くの用水路（深さ90 cm）に落ちた（用水路の水温は45度から70度）。用水路に落ちた際に右の肋骨や肩甲骨を骨折したため、すぐに用水路から上がることが出来ず、身体の大部分に熱傷を負った。	10401	11	30～ 49
2021	1	14 ～ 16	家屋解体工事において、敷地境界線沿いのコンクリートブロック塀を敷地内に倒す作業を行っていた。午前中に反対側の塀を倒し、正午過ぎからドラグ・ショベルでガラの粉碎作業（1名）、同作業のガラを集める作業（被災者含め3名）を始めた。その後、被災者は斫りハンマー（ガソリンエンジン式）で残る塀の土台との境を横に斫り始め、ほぼ斫り終えた箇所で塀（長さ約1.5 m、重量約1.8トン）が敷地内に倒れ下敷きになった。	30209	5	10～ 29
2021	2	8 ～ 10	外構工事の一環としてL字型擁壁を設置するため、クレーン機能付きドラグショベルを用いてつり上げた同擁壁の玉外し作業の際、被災者は緊結された3箇所のうち、同人が担当する2箇所のみ金具を取り外し、1箇所が緊結された状態のまま手のひらを上に向けて手招きしたところ、玉外し作業の完了と受け取ったドラグショベルの運転手がバケットを上げた結果、同擁壁が被災者側に倒れて下敷きになったものの。	30107	5	1～9

2021	2	14 ～ 16	被災者は、当該工事現場で掘削した土砂を処理するプラントにおいて、土砂が投入されたホッパーの詰まりを解消させるため、下部にある排出口の隙間に寝そべった状態で身体を入れ、スコップ等を用いて土砂のかき出し作業を行っていた。その後、少量の土が落ちてきたため、作業をやめて出ようとしたところ、多量の土砂が落ちてきて、胴体の下敷きとなった。間もなく救出されて病院に搬送されたものの、死亡が確認された。	30106	5	100 ～ 299
2021	2	12 ～ 14	被災者が鉄塔のアーム上（高さ約8.6m）において、塗装作業等に使用する部材の受け取り、取り付け作業に従事していたところ、地上へ墜落したものの。	30309	1	30～ 49
2021	2	16 ～ 18	公園改修工事における公衆トイレ（重量約10トン）の設置に伴い、当該トイレをコンクリート基礎場へ曳家作業中、地盤が崩れたことによりトイレ本体が傾倒したことで、被災者がトイレと地盤の間に挟まれ死亡した。	30199	5	1～9
2021	2	20 ～ 22	混銑車修理工場において、混銑車内側の耐熱煉瓦張替え作業のため、被災者が混銑車の内部に立ち入ったところ、モルタルで貼り付けられていた頭上の耐熱煉瓦が崩壊し、被災者が当該煉瓦の下敷きとなったものである。	30209	5	100 ～ 299
2021	2	8 ～ 10	解体途中の発電所の四脚鉄塔支持型煙突において、地上から約40メートルの高さの煙突周囲に設置されていたデッキ上で作業を行っていたところ、デッキ下に設置されていた鉄塔支持用の部材の切断作業のためにデッキ床面に開けられていた開口部（129cm×78cm）から被災者が墜落した。	30209	1	1～9
2021	3	8 ～ 10	被災者は高所作業車バケットに乗り込んで上昇し、競輪場ドーム天井にあるセンターバンク（スクリーン設置設備）に乗り移り、センターバンクの手すりのボルト部分を塗装していたところ、一部作業床がななく開口部となっていた箇所から、約2.5メートル下の地上床面に墜落した。	30201	1	10～ 29

2021	3	14 ～ 16	建築工事に先立ち地盤改良のため空地进行掘削していたところ、過去の建築物のPHC杭の残置が判明したが、杭を自立させたまま掘削を継続した。被災者は土留の矢板を設置するため、掘削深さ4.5mの箇所において、杭の東側で小型ドラグショベルで掘削していたところ、長さ4.1mの杭が倒壊し運転席に激突した。掘削深さは杭の下端まで達しており、杭が折れたことによる倒壊ではなかった。	30201	5	1～9
2021	3	8 ～ 10	個人所有の納屋（木造）の解体作業に従事していたところ、倒壊した納屋の屋根部分の下敷きになり死亡した。納屋の東側の柱は被災者が切断しており、倒壊のおそれが高まっていた。なお納屋の解体は庭木の剪定に付随して発注者から依頼されていたもの。	30199	5	1～9
2021	3	12 ～ 14	3階建て木造住宅の2階の床を解体するため、1階からバールを使用して手ばらし解体中に2階の床が崩落し、逃げ遅れた被災者が下敷きとなったもの。	30209	5	1～9
2021	4	8 ～ 10	墜落防止措置の講じられていないビル3階テラス部端で排水口（高さ約9.7メートル）の清掃作業を行っていた被災者が地面まで墜落したものの。	150101	1	100 ～ 299
2021	4	10 ～ 12	被災者は、建造途中の貨物船内において、塗装作業を行うため、船倉の上部構造部分（アッパースツール）の内部を移動中、蓋が開いたままの状態だった開口部から墜落した。当該開口部は、船倉内へ降りるための垂直はしごの出入口となっていた。	11501	1	1～9
2021	5	12 ～ 14	災害発生当日の午前中、被災者は同僚に屋上で修繕の作業を行うことを伝えて、1階のフロントを離れた。午後になっても、被災者が戻ってこないことを同僚が不審に思い、屋上に赴いて確認したが、被災者の姿が見えなかった。風が強かったことから同僚が屋上の端から地上を覗き込んだところ、屋上から約30メートル下の2階バルコニー部分に倒れている被災者を発見した。	140101	1	10～ 29
2021	5	14	3階建てマンションの雨漏り調査のため、当該マンション2階の個人住宅の出窓から身を乗り出して外壁の雨漏り部の写真を撮っていたとこ	80409	1	1～9

		16	ろ、墜落した（墜落高さ：約5 m）。頭部出血により死亡。			
2021	6	14 ～ 16	道路の拡幅工事において、被災者は拡幅部分の土砂の均し作業を行っていたところ、何らかの拍子で道路端部から深さ4.2 mの川底に墜落したもの。	30106	1	1～9
2021	6	18 ～ 20	被災者が、当該事業場4階建て新館の屋上端（防護フェンスの外側）にて、側溝に生えた雑草の除去作業を行っていたところ、地上に墜落して死亡したもの。翌日、出勤した同僚の労働者に、保護帽、墜落制止用器具の装着がない状態で発見された。	130101	1	100 ～ 299
2021	7	14 ～ 16	被災者は、送電線建設工事現場において、高さ約59 mの中間鉄塔の頂部付近で、鉄塔間の架線中に金車（ロープで吊った滑車）から架線用ロープが脱落しないよう監視する作業に就くため、一人で当該鉄塔に登った。約10分後、無線での呼びかけに応じないため様子を見に行った作業班長らが、鉄塔下の地面に墜落している被災者を発見したもの。被災者はフルハーネス型の墜落制止用器具とU字つり腰ベルトの2丁を着用していた。	30301	1	10～ 29
2021	7	10 ～ 12	出勤中の警備員が、ふ頭ゲートに立ち寄ったところ、門扉中央付近で被災者が血を流し、倒れていたもの。	170201	6	100 ～ 299
2021	7	14 ～ 16	学校棟外壁他改修工事にて、屋上防水作業の施工管理中、パラペットに侵入した生徒が飛び降りた際、助けようとし約11.5 mから墜落したもの。	30201	1	1～9
2021	8	10 ～ 12	高さが3メートルほどの擁壁にはしごをかけた状態で、高さが213センチメートルにある擁壁の中段において木の枝を剪定しようとした被災者が墜落したもの。災害発生時の目撃者はおらず、墜落した箇所は不明である。	80209	1	1～9
2021	8	10 ～	被災者廃校の植栽の管理を行う職員である。被災当日は、北棟裏のひな壇となった隣地との間の雑草伐採作業中に、ひな壇上部（幅0.6	140309	1	1～9

		12	m) から隣接する歩道に2. 3 m転落した。頭部を強打し、脳挫傷等により後日死亡（保護帽未着用）。			
2021	8	12 ～ 14	小学校校舎屋上の高さ4 mの貯水塔で、貯水槽の配管保温材の撤去、新設作業を行うため、配管を支えていた架台を配管から外し、貯水塔から撤去するため、被災者は貯水塔に上り、他2名の労働者が架台を貯水塔から降ろすための昇降設備を設置していたところ、被災者が貯水塔から校舎屋上に転落した。	30203	1	1～9
2021	8	8 ～ 10	埋設されていたボックスカルバートの開口部を仮止めしていたコンクリート壁が突如落下し、立坑内ではつり作業に従事していた被災者がその下敷きとなり、胸腹部圧迫により死亡したものの。	30209	5	10～ 29
2021	8	14 ～ 16	取引先から回収した汚泥をタンク車のタンクから廃棄物ピット（深さ1. 3 m）にダンプ投入した後、被災者はタンク内に残った汚泥を掻き出すためタンク内に入り、水圧及びスコップで掻き出していたところ、頭から倒れるようにタンク内から廃棄物ピットに落下し、約20分後に救出・搬送されたが、同日夕方に搬送先の病院で死亡が確認されたものの。	10899	10	100 ～ 299
2021	9	10 ～ 12	校舎屋上の煙突の撤去工事において、約2 mのコンクリート製煙突を倒すため、基礎部分を削岩機で斫り、その後鉄筋を切断機で切ったところ、同煙突が倒れ、鉄筋を切っていた被災者が同煙突の下敷きとなった。	30209	7	10～ 29
2021	9	10 ～ 12	体育施設の天井裏において、白熱電球をLED電球に取り替える作業を行うために、被災者がキャットウォーク上を通行していたが、キャットウォークの手すりを超えて天井板上を通行した際に、天井板が外れ、約15. 3メートル下に墜落したものの。被災者は救急搬送されたものの、当日死亡が確認された。	30203	1	1～9
2021	9	14 ～	解体用機械で発生する粉じんを抑制するため、被災者は午前中は屋上から散水、午後は1階で散水作業中、2階天井のコンクリート（約9×1×1 m、推定13. 6 t）が崩壊（支えていた建物の壁が先に解	30201	5	1～9

		16	体され、増築の張り出し天井部が隣接建物との摩擦で支えられ残っていたが工事の振動で離れたもの) し、下敷きとなった。			
2021	9	12 ~ 14	被災者は、建設工事現場1階北東側のフロア上部でEPS室（電気配管区画）のフロア床材敷設作業中、同僚の外国人技能実習生にサンダー（素材の研磨等を行う工具）を持ってくるように指示し、同僚が作業場を離れている間、フロア上部（高さ約3m85cm）を移動中に端部から墜落した。	30201	1	1~9
2021	9	16 ~ 18	農協の支店建築工事の駐車場舗装工事現場において、現場西端部のコンクリート擁壁上を歩いていた被災者が、何らかの原因でバランスを崩して1.3m下の休耕田に墜落した。災害発生直後は意識があったが、その後容体が急変し、収容先の病院で死亡した。	30199	1	10~ 29
2021	10	8 ~ 10	ビル玄関前スロープ付近で頭部及び鼻から血を出している被災者を他事業場職員が発見。被災者が清掃に入った5階事務室は、生体認証及びセキュリティーカード入室する仕組みであったが、当該社員のカード不良によりマスターキーで入室し、アンチパスパック（退出時には入室とおなじカードをかざして退出する仕組み）により退出できない状況になったと推測される。	150101	1	500 ~ 999
2021	11	8 ~ 10	被災者は集じん室に集積された木屑の上でスコップを用いて木屑をならしていたところ、生き埋めとなった。集じん室とは木材加工で発生した木屑を集積する縦横約4メートル、高さ約6メートルの建屋である。	10401	1	10~ 29
2021	11	10 ~ 12	鉄鋼排水処理のための薬注装置のポンプが故障していたため、設備担当者が当該ポンプの分解整備を行い、復旧させた。その後、被災者は薬剤の納品のため現場を訪れたが、薬注状況を確認するためか、立入禁止の地下階段を降り、スケールピットへ通じる排水溝へ当該ポンプ2次側配管出口から薬剤が注液されているか現認しようとしたときに、温度約80度の排水が流れる排水溝に転落し、スケールピットまで流され、溺れて死亡した。	80109	10	10~ 29

2021	11	12 ～ 14	2階建て木造建築物の解体工事現場において、コンクリートブロック壁（縦約2m×横約6m×幅15cm）を解体中、被災者は解体ガラの整理をしていたところ、倒れてきたコンクリートブロック壁の下敷きになり死亡した。	30202	5	1～9
2021	12	12 ～ 14	被災者は、火力発電所のボイラー煙道内部における煙道と煙突との境界部分で、下請事業場所所属作業員の作業状況を確認中に煙道から高さ7.3メートル下の煙突底面へ墜落したものの。	30309	1	1～9
2021	12	10 ～ 12	住宅の建て替えに伴う外壁（コンクリートブロック塀、高さ1.2メートル、幅4.2メートル、厚さ12センチメートル）の解体撤去作業中、突如、外壁が倒れ、労働者1名が下敷きとなり死亡したものの。当時、事業主と被災者の2名作業、事業主がハンマーでコンクリートブロック塀を叩いたり、電動工具ではつり作業を行い、被災者が地面に散らばったコンクリートブロックの破片を集めトラックの荷台に運搬する作業を行っていた。	30209	5	1～9
2021	12	10 ～ 12	木造アパート解体工事現場において、アパート横にあるガスボンベ保管庫（コンクリートブロック製、高さ約1.5m）の解体作業時に発生。被災者は電動ハンマを用いて保管庫壁面のコンクリートブロックをはつる作業を行っていたところ、自立していた保管庫の1側面の擁壁が倒れてきて地面に設置してあったパイプと擁壁の間に首を挟まれた。救急車にて搬送されたが、後日死亡が確認された。	30209	5	1～9
2020	1	14 ～ 16	被災者は、工場内において、2名の労働者とダクト工事のため下見を行っていた。下見は現場に設置された作業ステージ上で行っていたが、被災者は作業ステージの安全柵を越えて、骨組みの構造物の上で、ダクトを確認していたが、L形鋼にかけ渡してあった石膏ボードに乗ったところ、石膏ボードが割れ、約4メートルの高さから墜落した。	30309	1	10～ 29
		10	建造中の化学薬品運搬船のタンク内の水洗い作業のため、被災者がマンホールからタンク内に降りていたところ、高さ約1.2メートル下の			

2020	1	～	タンク底に墜落したもの。被災時の被災者を目撃した者がいないため、どこからどのようにして墜落したのかは不明であるが、タンク内のはしご道を降りていた際に発生したものと推測される。	11501	1	10～ 29
2020	2	～	12 県道沿いの河川に高さ50cm幅1m奥行約1mの護岸ブロックを奥 14 行方向に25cmずつずらしながら約13段積み重ねた最上部に現場 16 打ち施工のため型枠を組んでおり、被災者は補助作業員として、階段 状になっている幅25cmの護岸ブロック上を移動してホームタイを 締めていたところ、高さ470cmから墜落した。	30107	1	1～9
2020	2	～	14 河川整備工事において、被災者は型枠解体が完了したコンクリート製 16 樋門の表面仕上げ作業を行っていたところ、高さ1.1メートルの作 業箇所から地面に墜落し、後日死亡した。	30107	1	10～ 29
2020	2	～	14 太陽光発電設備設置現場において、既設の立体駐車場2階床部分に太 陽光発電設備を取り付ける作業中、開口面の向かい側へ渡るために使 用していた道板（長さ4メートル、幅20センチメートル、厚さ3. 5センチメートル、重さ13.2キログラム）を付け替えのため外し ていた際、4枚のうち1枚目を持ちあげたところバランスを崩し、高 さ約3メートル下のアスファルト面に墜落したものの。	30209	1	1～9
2020	2	～	12 建物の窓ガラス清掃中の作業員が、2階窓のサッシと壁の厚みの部分に 14 足を置き、窓の外側を清掃していたところ、4.85m下の地面に墜 落したものの。	150101	1	100 ～ 299
2020	3	～	0 新幹線のトンネルの坑口の上に通路が2段あり、被災者は、作業（坑 口構造物の草取り）場所に行くため、上の段の通路を歩行中、体勢を 崩し前のめりになり、たたらを踏みながら下の段の通路に落ち、体の 向きを180度変えて、背中から更に11.5m下の線路付近に墜落 した。通路の幅は、上の段1.5m、下の段1.6mで、下の段は上 の段の1.9m下にあり、その間の斜面は長さ3.6m・傾斜32～ 35度であった。	30104	1	30～ 49

2020	3	12 ～ 14	5本の鉄骨支柱と鉄製屋根（高さ2.5m）からなる鉄骨製倉庫の解体作業中に、溶断した鉄製屋根の一部（根元を溶断した支柱が2本付いた状態）を車載型移動式クレーンで吊り上げたところ、残る屋根を支える3本の支柱が折れて屋根が倒壊し、当該屋根上で溶断作業のために立っていた被災者が地上に落ち、死亡したものの。	30301	1	10～ 29
2020	3	16 ～ 18	木造2階建て民家の新築工事において、被災者は、午後、建築中の躯体の外壁に張る合板を丸のこ盤で加工する作業を終え、後片づけを行っていたところ、何らかの理由で躯体の2階から墜落したものの。	30202	1	1～9
2020	3	14 ～ 16	水管橋歩廊上にて足場解体後の資材を一輪車にて運搬作業中、前方で別の一輪車を押していた作業者が停止していたため、追い越そうと歩廊の手すり（高さ90センチメートル）を乗り越えて、歩廊外にある水管橋の横桁を移動しようとしたところ、バランスを崩し当該横桁上（高さ約13メートル）から墜落した。	30309	1	1～9
2020	3	8 ～ 10	農場内において、被災者はバルク車から高さ約6mのサイロ上部の投入口に飼料を入れる作業を行っていたが、サイロ脇の地面で頭部から血を流して倒れているところを発見されたもの。発見時、被災者は墜落制止用器具を装着しておらず、ヘルメットが外れていた。負傷後、入院加療を行っていたが、後日死亡した。	40301	1	30～ 49
2020	3	8 ～ 10	前日に打設を行ったモルタルの一部が、ずい道坑内の天端付近でフィルム（防水シート）の外側に溢れ出ていたため、除去しようと被災者等はこのモルタルをハンマー等で斫っていたところ、溢れ出ていたモルタル（重量600kg）が落下し、真下にいた被災者が下敷きとなり死亡した。また、モルタルの落下とともに剥がれた防水シートで背部を押された作業者が、一段下の足場に転落し、打撲傷を負った。	30102	4	1～9
2020	5	8 ～	被災者が夜になっても帰宅しないことを不審に思った被災者の息子が事業場に赴き捜索したところ、事業場敷地内にある魚加工作業時に生じる排水を貯留する沈殿槽内に体を丸め横向きに倒れ沈んでいる被災者を発見した。沈殿槽はコンクリート製、長辺1.2m×短辺0.9	10102	1	10～ 29

		10	m×深さ1.0mで発見時には水槽内に0.2m程度の水が溜まっていた。目撃者がいないことから災害発生状況は不明。			
2020	5	10 ～ 12	行方不明となっていた被災者が、当該事業場の屋外排水処理施設内に設けられている活性汚泥槽（幅6.2メートル、奥行4.0メートル、水深約5メートル）内に沈んでいたところを捜索中の潜水士に発見されたもの。	10106	10	100 ～ 299
2020	5	14 ～ 16	ロッカーの清掃作業中に仰向けに倒れていたところを利用客に発見され、救急搬送されたが、災害発生から11日経過後に入院先の病院で死亡した。	140301	2	30～ 49
2020	6	8 ～ 10	解体工事現場において解体用機械を用いて、10トントラックに解体した鉄材を搬入作業中、立入禁止域の外側でケイカル板を袋に詰め直す作業を行っていた被災者が、立入禁止域の内側で倒れている状態で発見された。病院に緊急搬送されたが、胸背部外傷による外傷性ショックにより、災害発生日に死亡が確認された。	30209	4	1～9
2020	6	16 ～ 18	被災者は、6階ベランダから同階ロフト部分の作業床開口部に架け渡してあった足場板上を通行していた際、約2.7m下の5階スラブに墜落し、死亡したもの。	30201	1	1～9
2020	7	10 ～ 12	被災者は、プールの天井裏に設置した温度計8個を撤去するため、当該プールの天井裏において、移動中又は作業中に、天井板（地震対策用軽量天井板）を踏み抜き約10m下のプールサイドのコンクリートの床に墜落したもの。	11409	1	300 ～ 499
2020	7	8 ～ 10	4階建マンションの屋上防水工事において、職長と被災者が屋上（地上から高さ13.43メートル）に上がり、当日の作業内容の説明後、職長は被災者を残し、1人で1階に降り、道具を（高圧洗浄機、電源コード）を持って再度屋上へ上がった。職長は、道具を使用する際の電源や水の準備のため、1階にエレベーターで降りたところ、マンション敷地内で仰向けに倒れている被災者を発見し、同日に死亡が	30209	1	1～9

		確認された。				
2020	8	16 ~ 18	調液タンクの配管の詰まり解消作業を行っていた被災者が、タンク上部の開口部に体が挟まった状態で発見されたもの。タンクの開口部は長辺44cm、短辺35cmの扇形で、タンクの直径は90cm。歩廊面からの高さは95cmである。発見時、被災者は上半身がタンク内部、下半身がタンク外側、足は歩廊面から浮いた状態で、ボルトで固定されたタンクの蓋をずらし、被災者を救出したが、腹部圧迫による循環不全で死亡したものの。	10601	7	100 ~ 299
2020	8	14 ~ 16	工事現場で発生した建設残土を施設跡地内残土処分場に仮置きし、被災者はドラグ・ショベルで残土均し作業を行うため仮置き場所に常駐していた。作業中に作業場所が崩れ落ち、大きく開いた穴（直径約45m、深さ約30mの穴）にドラグ・ショベルごと墜落し、水抜き後、泥に埋まった運転室内で遺体が発見された。	30110	1	10~ 29
2020	9	16 ~ 18	会社の構内において、同社の構内下請事業者の労働者が、船舶の居住区部分の船室側面に設けられた鋼構造物（重さ約6.3トンで、船室の側面部分にアーク溶接で仮止めされているもの）下を地面に敷かれていた上盤と称する鉄骨上を屈みながら通行していたところ、溶接部当該鋼構造物が落下、同人に激突したものの。	11501	4	1~9
2020	9	10 ~ 12	支店の構内にある建屋の屋根の雨漏り補修工事を行うため、雨樋の取付作業を行っていたところ、1次下請の作業員が高さ約5メートルの位置（ベランダの腰壁の上）から誤って墜落し、死亡したものの。	30209	1	1~9
2020	9	10 ~ 12	被災者である作業主任者（指揮者）は、災害発生当日、掘削した溝（深さ約1.7m）の中に入り、墨出しレーザーで墨出し作業を行っていたところ、重さ約10トン（横20m、縦1.4m、厚さ0.15m）の擁壁がほぼ垂直に落下（約2.2m。）し、その後、被災者側に倒れたもの。	30199	5	10~ 29
		10	被災者は、乾燥機で乾燥した粃を精米する業務に従事し、粃摺り機の稼働状況の確認及び調整を行っていたが、粃を受け止めるホッパーが			

2020	10	～ 12	取り付けられていた梁ごと脱落，頭部に衝撃を受けた被災者はくも膜下出血を発症し，そのまま乾燥機から排出された粉の下敷きとなり，窒息により死亡した	60101	5	1～9
2020	10	～ 12	寺楼門改修工事にて、腐食した楼門の土台を取り換えるため、ジャッキを8基用いて持ち上げようとしたところ、楼門が倒壊し、倒壊した楼門に労働者2名が下敷きになったもの。なお、うち1名が頭蓋骨開放骨折により死亡した。	30202	5	1～9
2020	10	～ 14	橋梁の補修工事現場において、昼休憩を終え、作業を再開しようとしたが、被災労働者が見当たらず、付近を確認したところ、付近の河床に被災者がうつぶせで倒れているのを発見、病院に救急搬送されるも死亡が確認されたもの。	30105	1	1～9
2020	11	～ 14	工作物解体撤去工事（建物解体後に残っている基礎部分と人工地盤の解体撤去、自社が元請）において、被災者は、人工地盤に混在している廃棄物（皿等の生活用品）を手作業で分別作業中、人工地盤の端部から高さ約5.79メートル下の地上部分に墜落した。救急搬送先の病院で、多発性外傷からの出血性ショックによる低酸素脳症のため死亡したもの。	30209	1	10～ 29
2020	11	～ 4	トラックで配送作業中、座席に置いていた書類が助手席側の窓から飛ばされたために、トラックを道路上に停車させて、降りて書類を探していたところ、高架橋の柵を乗り越えて墜落したもの。	40301	1	50～ 99
2020	12	～ 16	被災者は、鉄骨製倉庫の新築工事において、地上から高さ約5mにある倉庫屋根の端から墜落し死亡した。	30201	1	1～9
2020	12	～ 16	被災者は、工場のスレート屋根の張り替え工事で使用した足場の解体作業を行っていたところ、腐食していた既設点検台の床面を踏み抜いて地面に墜落したもの。	30209	1	10～ 29
		8	被災者はホッパー下部に堆積している残留微粉炭をバキュームホースで吸い出すため、縄梯子を使用してホッパー内部に下り、吸い出し作			10～

2020	12	～ 10	業を行っていた。その際、被災者が頭まで微粉炭に埋もれて、窒息により死亡したものの。	30302	1	29
2019	1	10 ～ 12	道路片側一車線を作業帯としてのり面に雪流れ防止柵を設置する工事において、移動式クレーンのオペレーターがクレーン作業を一時中止し、待機していた際、コンクリート擁壁（短手方向、87cm）に仮置きしていた重量約2.1tの削孔機（幅90cm、）が落ちて、コンプレッサと削孔機の間には被災者が頭部を挟まれ、死亡したものの。	30199	5	10～ 29
2019	1	8 ～ 10	建築物屋上にて、高所ガラスの清掃作業を行う準備作業を行っていたところ、墜落して死亡したものの。	150101	1	30～ 49
2019	2	8 ～ 10	工場2階加工室の南側に位置するスリッターと呼ばれる反物加工機械周辺をほうきとちりとりで清掃していた際に、換気のため開けていた窓から工場の外に墜落し、死亡したものの。	10309	1	30～ 49
2019	2	20 ～ 22	被災者は、会社構内の警備業務に従事していたものであるが、翌朝、出勤してきた者が守衛室に被災者の姿がないことに気付き、捜索していたところ、海に浮いている被災者を発見したものの。なお、翌朝まで守衛室のボードが「巡回中」となっていたこと、巡回時に使用する双眼鏡が海底から発見されていること等から、夜間の巡回中に被災したものと推定される。	170201	10	30～ 49
2019	2	10 ～ 12	市道の側溝の敷設替を行う工事現場において、U字溝を設置するため、ドラグ・ショベルを使用して掘削した溝の内部で被災者が溝の形を整えていたところ、同溝付近のブロック塀が倒れ、被災者が下敷きとなった。	30106	5	10～ 29
2019	2	10 ～	被災者は同僚とともに、3階の窓（地上からの高さは約9m）を廊下側（内側）から清掃していた。同僚は大きな物音が聞こえたので、音のした方を見ると、被災者が使用していた脚立があり、窓が開いてい	150109	1	10～ 29

		12	た。すぐに近づいて、窓の外を見たところ、仰向けになって地面に倒れている被災者を発見した。被災者に意識はなく、救急搬送された。			
2019	3	20 ～ 22	事業場敷地内破碎選別プラントにおいて、選別作業を行うベルトコンベヤーのリミッタースイッチに不具合が生じたことを示すランプが点灯したことから、破碎設備に上ってターンシュートと呼ばれるベルトコンベヤーの分岐点でリミッタースイッチに干渉していた堆積粉じんの除去作業を行っていたところ、3. 2メートルの高さから墜落し死亡したものの。	20201	1	10～ 29
2019	3	12 ～ 14	被災者は保安対応力テストのための現場巡回中、テスト対象場所ではない地下1階の部屋に入り、地下2階ピット吹き抜けに通じる扉を開けて、約6メートル下の地下2階に転落したものの。	170209	1	300 ～ 499
2019	4	14 ～ 16	船底ブロックのロンジ上で配管固定作業を行っていたところ、2. 7 m下の地上に墜落した。被災者は病院にて療養中であったが、後日死亡したものの。	11501	1	1000 ～ 9999
2019	4	6 ～ 8	店舗のシンボルタワーを設置しようとして高さ1 2 mの木製の支柱に3名が上がり、移動式クレーンで吊り上げられた木製のパネル（1枚 1 5 0 k g）を支柱に取り付ける作業中、一番上にいた被災者が地上に墜落したものの。	140201	1	100 ～ 299
2019	6	16 ～ 18	自社の倉庫内に鉄骨造の中二階を設ける作業中、鉄骨製の柱2本と梁を組み立てた門形の部材を壁に立てかけ、これにフォークリフトを使用して持ち上げた別の梁をボルトで固定しようとしていたところ、門形の部材が倒れ、被災者の頭部に激突した。	30302	5	1～9
2019	6	12 ～ 14	被災者は就業中に銀行に立ち寄った後、車両に戻る際に道路で転倒し、頭蓋骨を骨折したため、療養中であったところ、後日死亡した。	40201	2	100 ～ 299
		14	被災者は事務所に出勤後、通常の管理業務を行うため自らが担当している農業用水路に向かった。帰りが遅いので他の職員が携帯電話で連絡を取ろうとするも通じず、職員で捜索したところ、被災者が乗って			10～

2019	6	～ 16	いた車が発見された。その近くに蓋が開いた水槽があり、水槽に墜落した可能性があるとして消防に連絡したところ、当該水槽の下流約80mのところにある別の水槽にて溺死状態の被災者が発見された。	60101	10	29
2019	7	6 ～ 8	建物3階玄関の屋根に上がり、4階の網戸取り付け作業を行っていたときに誤って転落した。	170209	1	10～ 29
2019	7	10 ～ 12	被災労働者は、災害発生場所に所在する経理事務所の庭木の剪定作業を出張作業として行っていた。同日、被災労働者が脚立を用いて高さ1.7メートルのブロック塀に上り、高さ0.2メートルの段差に左足をかけ、庭木を剪定する作業を開始したところ、直後にバランスを崩して道路側の地面に墜落した。搬送先の病院で被災労働者の容体が急変し死亡した。	130101	1	50～ 99
2019	7	～ 14	作業員3名で、幅1.2m弱、深さ1.6m弱の用水路脇の草刈り作業を行っていたところ、水路の中でコンクリート床の一部（コンクリートブロック：幅0.4m×長さ1.9m×厚さ0.16m、重さ約280kg）の下敷きになった被災者を発見した。死亡原因は脳挫傷であった。	30199	5	1～9
2019	7	～ 16	浄水場において、変電所から電源を供給するためのケーブル等を格納するダクトを原水管（直径2800ミリ）の下部にアンダーパスとして施工するため、深さ約6m付近で掘削作業を行った。被災者は原水管を支える受台コンクリートの下側に矢板を設置するため、受台コンクリート下側をはつる作業をしていたところ、同コンクリート（重さ約6トン）が落下し、被災者の頭部に当たったもの。被災者は技能実習生	30199	5	10～ 29
2019	8	～	倉庫の新設工事現場において、コンクリート基礎打設作業に従事していた被災者が、作業場所を移動のため打設済みのコンクリート基礎を歩いていたところ転倒したため、コンクリート基礎から突き出てい	30201	2	1～9

		16	た長さ70センチメートル、直径1センチメートルの鉄筋が顎から頭部に刺さったもの。保護帽は着用していた。			
2019	9	16 ～ 18	砂防堰堤の改修工事発注に係る地質調査の準備作業中に川に墜落し、溺れたもの。なお、被災者は、川の対岸にいた作業員の居場所へ行くために、本来の通路である仮橋を通らずに堰堤上を移動し、水通しのコンクリート崩壊箇所（幅約4m）を飛び越えようとしたところ、飛び越えられずに、約10m下へ墜落し川に流され、翌日午後の下流で発見されたもの。	170209	10	1～9
2019	9	12 ～ 14	廃棄された墓石や石塔の仮置き場で、重機を用いて側溝の法面に墓石等を石積み（2段）作業を行った後、土の裏込めや石の微調整を行っていた被災者が、何らかの理由で側溝内に転落し、頭から血を流した状態で発見され、搬送先の病院で死亡したもの。法面の高さは約3.5メートルであった。	10909	1	1～9
2019	9	10 ～ 12	被災者は、区に所在する液化ガスの受入配管の架台の塗装作業現場において、作業箇所への移動中に当該架台の下部（高さ5.5メートル）から墜落した。被災者は、墜落後意識を失い、病院へ搬送されたが7日後に死亡した。	30309	1	1～9
2019	9	12 ～ 14	マンション新築工事中の建物8階において、外部枠組足場に設置された建設用リフト搬器から内装材（クロス材）を建物内に搬入する作業中に、外部枠組足場と躯体との隙間35センチから、21.6メートル下の地上まで墜落したもの。	30201	1	10～ 29
2019	9	16 ～ 18	石積み塀を補強するため、床掘り（深さ50cm）作業をしていたところ、石積み塀（高さ1m、幅1.6m）が崩壊し、続けてその上のコンクリートブロック塀（高さ1m、幅1.6m）が被災者方向へ倒壊し、下敷きとなったもの。	30106	5	1～9
		14	ビルの1階2階テナント跡の改修（原状回復）工事で、作業員2名が1階テナントに設置されていたブロック塀（高さ1.80×長さ2.80×厚さ12cm、重量推定600kg、内部は鉄筋が組まれ、鉄筋で			

2019	9	～	床に固定)の下部を、ハンマー等の手工具を使い、はつり作業(最終的に塀を作業者の反対側に倒す前提)中、当該ブロック塀が作業者の方に倒れ、1名が下敷きとなり頭部強打で死亡、1名が倒れてくる塀と接触し軽傷を負ったもの。	30209	5	1～9
2019	10	～	8 木材加工会社の保管庫に木材チップを受け取りに行き、その保管庫からチップをトラックに移す作業中に、チップに埋没しているところを 10 発見され、病院に救急搬送されるも、窒息により死亡したもの。	40301	1	10～ 29
2019	10	～	10 民家の解体工事現場において、地上からの高さ2.1mのブロック塀 12 を地上からの高さ0.3mの位置でコンクリートカッターで切断して いたところ、長さ約20mに亘ってブロック塀が倒れ、当該ブロック 塀が被災者の頭部に激突して死亡したもの。	30209	5	1～9
2019	10	～	16 造船工場の入出渠水路内において、入出渠ドックゲート注水用配管 18 (150A×2本)の栓をするために潜水していたところ、入出渠水路から海へ排水中の排水管(12本のうち6本開放、600A)の 1つに吸い込まれ、開閉弁に引っかかった状態で発見されたもの。死因は外傷性ショックである。	11501	7	1～9
2019	11	～	12 ダムの洪水吐右岸側の排水管の敷設工事において、擁壁の上に設置 14 されていた墜落防止用の手すり(単管パイプ)を解体していたところ、 手すりとともに12m下の洪水吐の孫ダム水路(コンクリート製、当時水深約30cm)に墜落し、被災した。	30199	1	10～ 29
2019	11	～	12 被災者は、災害発生日の午前中に屋上パラペットの仮設の手すりを取 14 り外し、午後から屋上パラペット付近の除雪作業を行っていたところ、約12m下のアスファルト路面に墜落したもの。パラペットの 高さは約30cmであった。親綱等の設置はなく安全帯は着用していたものの使用はしていない。保護帽は着用していた。	30209	1	1～9
2019	12	～	8 個人宅の無線鉄塔の解体作業で、鉄塔上でトラス部材のボルトを緩 めた後、移動しようとした際に、緩めたトラス部材にU字吊り用安全帯 をかけたため、体重をかけた瞬間に、トラス部材が鉄塔から外れ、安	30209	1	1～9

		10	全帯がトラス部材から抜け落ち、約11mの高さから墜落した。被災者は墜落用保護帽を着用していた。			
2019	12	16 ~ 18	被災者が、建物の地下ピットにて躯体補強のため行われた増打ちコンクリート除去作業に従事していたところ、倒壊した増打ちコンクリート塊と壁との間にはさまれた。	30209	5	1~9
2019	12	8 ~ 10	被災者は、始業時清掃・点検作業を行うため、事務室より被災者のみでトンネル内へ向かった。その後、戻らないため、警察・消防に行方不明の通報をした。捜索中の消防が川で横たわっている被災者を発見したが、すでに心肺停止であった。	140309	10	1~9
2018	1	16 ~ 17	ビート集積場において、ビートを放水により、水路（幅68.5cm、深さ113cm、水深20~30cm）に落とし込む作業を行っていたところ、何らかの要因で水路に転落し、水路内に設置された柵に引っ掛かり、ビートをせき止めている状態で同僚に発見されたもの。水路を流れているビートに押され、柵とビートの間に挟まり、窒息死したと思われる。	10109	1	10~ 29
2018	1	12 ~ 13	市道に設置されている街灯の灯具をLED化するための工事を実施していた。電柱の高さ4.67mの位置で作業を行っているとき、U字型安全帯を使用していたものの、安全帯のロープを電柱に巻いて、自身の着用した安全帯のD環にフックを掛けるところを、ハンマーホルダーの環にフックを取り付けて作業したため、体重をかけたところでハンマーホルダーの環が破損し、地面に墜落。全身を強打し後日死亡した。	30301	1	10~ 29
2018	1	12 ~ 13	作業員3人（被災者を含む。）が建物3階壁面解体作業中、被災者が倒れてきた壁と3階の床面との間に挟まれ、死亡したものの。	30209	5	10~ 29
2018	2	16 ~	競輪場内での警備業務終了後、帰社のため敷地内駐車場に停めた車輛へ向かう途中、うつ伏せで倒れていたところを同僚により発見された。発見当時、被災者は顔面を強打しており、出血した状態で意識が	170201	2	50~

		17	無かったため、救急搬送により療養も、後日多発脳梗塞により死亡が確認されたもの。			99
2018	2	10 ～ 11	送電鉄塔の高さ47.5mの腕金にある水平レール端部を閉塞する作業中、被災者が作業予定箇所まで移動後に地面に墜落した。被災者は水平レールに接続した移動用ロープ（単軸ローラー）を安全帯のD環に取り付け、作業予定箇所まで移動したが、墜落時移動ロープのフックはD環に取り付けられておらず、水平レールに接続され、本胴綱のフックはD環に取り付けられた状態で安全帯等は使用されていない状態だった。	30301	1	10～ 29
2018	2	14 ～ 15	民間航空機レーダー施設更新工事に伴うドーム取付け架台の撤去作業において、被災者を含む労働者2名がコンクリート壁（周囲約48m、高さ約3.1m、幅約30cmの円筒状の壁）の上に跨り、約50cmスパンで埋設されていたアンカーボルトの撤去を行っていた際に、被災者が次のボルトを切断するために中腰で立ち上がり後ずさりしたところ、誤って約3.1m下のテラス部に転落し死亡した。	30301	1	10～ 29
2018	2	6 ～ 7	職長の指示により船尾部ブロックの歪み取り作業を開始するため、当該ブロックの甲板にある縦2.45メートル横3.00メートルの開口部の周囲に墜落防止用の手すりを設置しようと作業床高1.2メートルの高所作業車を操作して甲板に上がった直後、手すりを設置するため甲板上を移動していたところ、高さ5.42メートルの同開口部から墜落した。その後、搬送先の医療機関にて療養していたが、後日死亡した。	11501	1	10～ 29
2018	2	10 ～ 11	県道道路法面からの岩石、岩盤崩壊の状況を確認する道路防災点検業務を行うに当たり、道路下を横断するボックスカルバートの中の土砂の堆積状況等の写真を撮影するため、被災者が道路のガードレールを乗り越え、道路下の法面上に突き出たボックスカルバート（下流側）の天端に降り、さらに下にある小段に降りようとしたところ、13.48m下の川床に転落して死亡したもの。	170209	1	1～9

2018	2	8 ～ 9	倉庫の脇のテント小屋内において、住宅の新築工事で使用する煉瓦を加工していたところ、屋根（表面はブルーシート）に積もっていた雪と倉庫からの落雪によりテント小屋が倒壊、構造部材（廃材）や落雪の下敷きになり死亡したものの。	30202	5	30～ 49
2018	3	16 ～ 17	河川の落差工（コンクリート構造物＝幅4.3m・高さ2.2m・奥行0.8m重さ約10トン）及び石積み護岸を修繕する工事において、掘削作業終了後、被災者は落差工の直下において、排水用の水中ポンプを移設する作業をしていたところ、落差工が倒壊して下敷きとなった。	30107	5	1～9
2018	3	16 ～ 17	アンテナ設置工事の見積もりを行うため、同僚と2人でマンションの屋上塔屋部へ登り、既設アンテナの状態とケーブルの配線状況を確認するため、幅24cmのパラペット上を移動していたところ、バランスを崩して23.3m下のアスファルト道路に墜落したものの。	30301	1	1～9
2018	3	12 ～ 13	8階建て集合住宅の消火用連結送水管の耐圧試験を実施するため、被災者は屋上で送水状況等を確認し、その後、使用していたホースを巻き取るため、一旦ホースを伸ばそうと後退していたところ、屋上の端から後ろ向きに落ち、地上に駐車していた乗用車の上に墜落したものの。	11502	1	30～ 49
2018	3	12 ～ 13	水田の漏水修繕工事現場において、石積み擁壁の裏側を深さ約1メートル、幅約80センチ、長さ約20メートルにわたってドラグショベルで掘削後、作業員2名が当該掘削溝に入り擁壁下部付近をスコップで人力掘削中、石積み擁壁が突然作業員側に倒れて被災者の下半身が挟まれた。	30199	5	1～9
2018	5	10 ～ 11	水処理後の汚泥・し尿を、圧送用ポンプを用いてバキューム車から予備処理タンクに移送する作業中、予備処理タンクが設置された高さ（深さ）約4mのピット内に墜落し、急性硬膜下血腫により死亡した。	150102	1	1～9

2018	5	14 ～ 15	<p>物流センターの工事現場において、鉄骨建て方のため3Fの床に長さ約6.7メートルの鉄骨柱4本の根元の仮止めを行った。2本の柱に鉄骨梁を渡して柱と梁の仮止めを終えたところ、門型になった鉄骨が仮止めした柱の根元から倒れた。この時、仮止めのために柱の上部にいた作業員2人が投げ出され、一人が約20メートル下の地上に墜落、もう一人が墜落防止ネット上に墜落した。地上に墜落した作業員が頭部を強打し死亡したものの。</p>	30201	1	1～9
2018	6	12 ～ 13	<p>被災者は、刈払機を使用し、水力発電所へ水を供給する設備（導水路）の護岸に生えた草を刈る作業に従事していた。傾斜42度の護岸上部の縁にある幅0.7メートルの平らな箇所と幅0.1メートルの傾斜の緩い箇所を足場として被災者が草刈作業をしていた際、被災者は足を滑らせ導水路に転落した。転落時、被災者は自ら遊泳し、約100メートル下流で救出されたときには意識がなく、病院に搬送されたものの死亡した。</p>	30309	10	10～ 29
2018	6	18 ～ 19	<p>作業場兼倉庫の地上4mの底上で作業場兼倉庫の外壁の釘打ち作業を行っていた被災者が墜落し、地面に頭を打ち付けた状態で発見された。病院に救急搬送されたものの、脳挫傷により後日死亡したものの。</p>	30202	1	1～9
2018	6	10 ～ 11	<p>5階建物の屋外階段の踊り場手すりに立ち（高さ約14m）、隣接する駐車場に設けたエアマット（厚さ2.5m）を目指して飛び降り時のアクション訓練を行っていたところ、8回目の飛び降り後からイビキをかき始め意識不明となり、後日死亡した。</p>	100109	3	10～ 29
2018	6	6 ～ 7	<p>被災者が高さ1.12メートルの手すりが設置されている高さ1.9メートルの作業床面において、手すりから身を乗り出して点検口をのぞき込み点検作業を行っていたところ、何らかの原因により墜落したものと推定される。被災者は保護帽を着用していた。</p>	10909	1	50～ 99
2018	7	18 ～	<p>被災者は、有料老人ホームの建物外部南西にあるグリーストラップ（幅1000mm×奥行き550mm×深さ約1400mm）の清掃を行っていたところ、何らかの原因で、グリーストラップ内に溜まっ</p>	80209	10	1～9

		19	ていた深さ約400mmの汚水に頭から転落し、溺死したものの。			
2018	7	14 ～ 15	被災者は配管工として建設現場に入場していたが、1階で作業をしていた内装業者よりエレベーターピット付近で人が墜落したような音がしたとの連絡を受け、元請作業所長が確認したところエレベーターピット内で倒れている被災者を発見した。発見後、AEDによる救命措置等を行ったが搬送先の病院で脳挫傷による死亡が確認された。	30201	1	1～9
2018	7	8 ～ 9	10階建てマンションの窓ふきのため、被災者は1人で屋上からブラコンコを設置した後、何らかの理由で約25.5m下のエントランスの屋根に墜落し、その後、約3.5m下の地上に墜落したものの。	150101	1	10～ 29
2018	7	14 ～ 15	被災者は、勤務先の養護老人ホームと道路との境界付近に設置されたコンクリート擁壁上の作業床の端部で清掃作業に従事していたところ、3.75メートル下の道路上に墜落し、死亡した。被災者は、保護帽及び安全帯未着用であった。	130201	1	30～ 49
2018	7	10 ～ 11	天井クレーン設置建屋に設けられた建屋側歩道の手すり（壁）のさらに内側（手すり（壁）と天井クレーン走行レールの間）に設置されたグレーチングの床に工事（建屋梁改修工事）で使用した架設部材（作業床、単管）を移動式クレーンで荷下ろしのため仮置き作業中、グレーチング床端部（天井クレーン走行レール内側）より25m下へ墜落したものの。	30201	1	1～9
2018	7	12 ～ 13	擁壁上に設置されているネットフェンスに絡んでいる雑草を擁壁上（高さ約2.4m）で撤去作業中に、墜落したものの。救急搬送後、死亡が確認されたものの。	150101	1	30～ 49
2018	8	14 ～ 15	工場の増築工事において、既設の鉄骨の横梁の取外し作業を行っていた。被災者は、ローリングタワーを使用して横梁のボルトを取り外す作業を行っていたが、隣の列のボルトを取り外すためにローリングタワーから鉄骨に移り、鉄骨上でボルトの取外し作業を行っていたところ、約3m下のコンクリート床に墜落した。なお、災害発生時におい	30201	1	1～9

			て、被災者は保護帽を着用していなかった。			
2018	8	8 ～ 9	被災者は、解体用建設機械のオペレーターと共に、駐車場の周囲にあるブロック塀（13段積み、高さ2.6メートル）上部（上から5段目まで）を撤去する作業を行っていたところ、ブロック塀が崩れ（上から3段目まで）、ブロックが被災者の頭部に当たり、死亡したものである。	30209	5	1～9
2018	8	12 ～ 13	福祉施設において、施設内の庭に設置されているグリストラップ内のメンテナンス・清掃作業中、作業していた被災者がグリストラップ内（深さ：110センチメートル）に逆さまの状態で落ちているのを発見されたもの。その後、病院に搬送されたが、後日死亡したものである。	80409	10	10～ 29
2018	9	12 ～ 13	2階建て木造家屋の解体工事現場において、2階床部分の端で、解体した木材を1階部分に停めていたトラックの荷台に投げ下ろしていたところ、木材に付いていた釘が作業服に引っ掛かり、バランスを崩して木材と一緒に2.6m下のトラックの荷台に墜落した。被災者は医療機関へ搬送され、意識不明の重体であったが、後日死亡した。	30209	1	10～ 29
2018	9	14 ～ 15	焼却炉から取り外し補修した壁（材質：粘土等、大きさ：高さ1.53m、幅2.45m、厚さ8cm、重量約200kg）を立て掛けた状態で、被災者がバールを用い固定位置の微調整を行っていたところ、立て掛けていた壁が倒れ、身体を倒壊した壁と後方のホッパー架台との間にはさまれたもの。	150102	5	1～9
2018	10	14 ～ 15	ビル屋上に取り付けられていた外装パネル（金属製、厚さ2ミリ）が、地面まで約32メートルを飛来し、顧客先へ向かうため歩道上を、徒歩で移動中であった被災者を直撃したもの。	170202	4	30～ 49
2018	10	10 ～	高さ25メートルの照明塔（内部に踊り場が7階、頂上に屋上を有する。）の附帯設備の更新工事を作業員7人で行い、被災者は床上までの高さ15メートルの5階踊り場において、1人で塔外側に張り出た無線アンテナ（単管の先端にアンテナが取り付けられている。）の交	30203	1	1～9

		11	換作業をしていたところ、踊り場の周囲に設けられた高さ1.2メートルの手すりを乗り越え、地上に墜落し、死亡したものである。			
2018	10	2 ～ 3	夜間、埠頭内の警備業務において、11ゲートから8ゲートに自転車で移動している際に、岸壁から海へ転落したもの。事故当時、雨天であった。	170201	10	10～ 29
2018	11	12 ～ 13	既設送電鉄塔の点検保守作業後、アース（送電線を鉄塔に接地）取り外し作業を終えた被災者が鉄塔から地上に降りる際、約30メートルの高さから墜落したもの。アース取り外し作業は被災者を含め2名で行われており、降下の際被災者が背負っていた搬送部材の落下を防止するため途中で2名の上下位置を入れ替えようとした際に上側に移動した被災者がバランスを崩し墜落に至ったもの。	170209	1	100 ～ 299
2018	12	12 ～ 13	木造平屋建ての音楽教室の手作業による解体中に、防音設備として設けられていた3.88×3.47m四方のコンクリートブロックの壁部分が倒れて、当該壁の側で床の解体をしていた被災者が背中側から下敷きとなり、床材との間に挟まり被災した。災害発生当日の午前中に当該壁の周囲の木製柱と梁が解体され自立した状態であったが、突然倒れたもの。救出後、医療機関に搬送されたが、後日死亡した。	30202	5	10～ 29
2018	12	8 ～ 9	被災者を含む4名で、個人宅（木建）の解体作業を行っていたところ、土壁が倒壊し、被災者1名が下敷きとなり、心破裂により死亡に至ったもの。	30209	5	10～ 29
2018	12	8 ～ 9	被災者は、立体駐車場屋上（5F）の社用車置き場から墜落した。	120109	1	1000 ～ 9999
2018	12	16 ～ 17	同日、駅に入線する8名（本）の電車の運転士に対し、実設訓練を行っていた。被災者は2本目の電車の出発前に、出発信号機から約1.2m、線路の路盤から2.5mの高さにある、排気シャフトのコンクリート壁の縁（幅約20cm）に立ち、表示灯に訓練カバーを取	40101	1	100 ～ 299

			り付けていたところ、誤って排気シャフト内の約12.4mの地下3階に墜落し、死亡したものの。			
2017	1	14 ～ 15	2階建てビルのガラス清掃業務の現場において、ガラス外面の清掃のためロープ高所作業を行う予定であった被災者が、路上に倒れている状態で他の作業員に発見された。	150101	1	1～9
2017	2	8 ～ 9	宅地造成工事において、隣地付近に擁壁を設置するために、掘削作業を行っていたところ、隣地に設置されていたブロック塀が倒壊し、付近で掘削作業を行っていた労働者が挟まれ・死亡した。	30109	5	1～9
2017	2	12 ～ 13	プール棟の屋上に設置されている採光用ガラス（厚み6.8mm）のシール部の補修作業中、被災者がガラスを踏み抜き約9.2メートル下の屋内プールに墜落した。屋上には安全帯取付設備として単管が格子状（上下・左右1.8m間隔）に設置されていたが、被災者は安全帯を着用していたものの墜落時使用していなかった。	30203	1	1～9
2017	2	14 ～ 15	マンション新築工事現場において、朝から地中梁の配筋作業を行っていた被災者が、午後の休憩を終えて作業場所に戻るべく、地足場から地中梁（高さ約2.4m）に降り、反対側の地足場に安全帯を掛け替えようとしたところ、左手の革手袋が地足場のクランプに引っかかり、身体のバランスを崩して、根切り底に後ろ向きに墜落した。	30309	1	1～9
2017	2	10 ～ 11	老朽化した用水路を取り壊して、新たに拡幅による用水路の設置工事現場において、用水路の法面を仕上げるために凹凸箇所を均す法面整正作業を行っていた。被災者は、用水路に背を向け、その縁にしゃがんだ作業姿勢から次の作業に取りかかるため立ち上がった拍子に、突然、仰向けで、深さ1.0mの用水路の底へ墜落し、後頭部を打ち付けた。	30107	1	1～9
2017	2	12 ～ 13	マンション5階の屋上の除雪作業中に、屋上の端から地上に墜落（約15m）し、意識不明の状態での病院へ搬送され、その後死亡した。	140309	1	1～9
			S造5階建雑居ビル解体工事において、車両系建設機械（解体用機			

2017	2	14 ～ 15	械、鉄骨切断機) を使用して5階天井部分から随時解体を行っていたが、鉄骨のガス溶断のために作業していた被災者ががれきの上に墜落した。	30209	1	1～9
2017	2	8 ～ 9	専門学校駐車場で講師がビルの屋上から墜落し倒れているのが発見された。	120109	1	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	橋梁補修工事において、つり足場を設置する作業中、吊りチェーンを橋桁に取付けるため、橋脚上へ移動する際、つり足場上から橋桁にぶら下がり、橋脚側へ足を掛けて上がろうと試みたが上がることができずに川へ墜落し、おぼれた。	30105	10	10～ 29
2017	3	10 ～ 11	鉄骨造地上3階建物(高さ12.275m)の解体工事において、3階床で壁を引き倒そうとするため、被災者が鉄骨柱の根本をガス溶断し、他の作業員が柱にかけたロープを引っ張ったが、壁が倒れなかったため、被災者が鉄骨柱を確認しに行ったところ、壁が倒れて下敷きになった。	30309	5	1～9
2017	3	14 ～ 15	既存ごみ焼却施設解体工事において、蒸気タービン建屋最上階で、チッパーにてALC板の床の解体作業を行っていたところ、建屋西面の既に解体したALC板の破片が、水平ブレスに引っかかっていたため、被災者は、当該破片を落とそうとしたところ、ALC板の床の端部より約15メートル下の中間層に墜落した。	30201	1	10～ 29
2017	3	10 ～ 11	光回線のケーブル新設工事のため、電柱に上って作業をはじめようとしていたところ、約5メートルの高さから地上に墜落し、全身を強く打った。上る際には安全帯を「ベルブロック」に掛けていたが墜落した際には、ベルブロックから安全帯は外されていた。	30301	1	10～ 29
2017	4	4 ～ 5	元方職員がクレーン警報音のスイッチの場所が分からず、別の場所にあった被災者に携帯電話で連絡を取り確認している途中で会話が途絶えたため、元方職員が被災者を捜したところ、通路から深さ5.5メー	30102	1	10～ 29

			トルの立坑内に倒れていた。			
2017	4	14 ～ 15	プラントの貯蔵びん内補修工事に立ち会っていた被災者と施工業者の責任者が、ホッパーの排出ゲートが開いた状態で排出されていなかった骨材（砂）をスコップでほぐす作業を行っていた。施工業者の責任者が作業道具を探しに貯蔵びん内のタラップを昇っていたところ、下方から悲鳴が聞こえ、振り返ると、被災者はヘルメットが見える状態で砂に埋まっていた。3時間後に救出されたが、死亡していた。	10901	1	10～ 29
2017	5	14 ～ 15	被災者を含む2名の労働者によりごみ処理施設のピットにパッカー車に積んでいたゴミ袋を手作業で投げ入れる作業を行った。その後、1名がパッカー車を運転してピット際まで後進し、当該パッカー車のタンクをダンプさせてタンク内のごみを投入したところ、被災者の姿が見当たらなかった。搜索の結果、被災者が、ピット内に溜まったゴミに埋まった状態で発見された。	150103	1	30～ 49
2017	5	10 ～ 11	生コン工場において砂堆積ヤード付近でコンクリートミキサー車の始業前点検を行っていた労働者が突然倒れてきた砂堆積ヤードの擁壁に当たりはね飛ばされ死亡した。ヤード内ではトラクター・ショベルを使用して擁壁側に砂を積み上げる作業をしていた。	10901	5	10～ 29
2017	5	10 ～ 11	9段積みされた敷地境界ブロック塀を撤去するため、ブロック二段目で縦鉄筋をガス溶断するにあたり、被災者ともう一名にてチッパーを用いてブロック二段目と三段目の境目で、はつり作業し、縦鉄筋が見える状態とした後、ガス溶断をするにあたり問題ないかどうか目視確認していたところ、ブロック塀が傾き倒壊した。その際、被災者がブロック塀の下敷きとなり、頭部を強打したことにより死亡した。	30309	5	1～9
2017	6	8 ～ 9	県道の歩道設置工事現場において、地山の掘削後における大型ブロック積擁壁工の現場打ちコンクリート部の施工に際し、積み上げた大型ブロックの裏側（山側）へ被災者が立ち入った際に、当該ブロックが山側に倒壊したため被災者が地山とブロックの間に挟まれ圧迫された。倒壊した大型ブロックの重量は約4 tであった。	30106	5	1～9

2017	6	10 ～ 11	出張先の外国において、得意先との食事会の後、宿泊しているホテルに戻り、ホテルの窓から墜落し、死亡した。	80109	1	50～ 99
2017	7	8 ～ 9	原料を倉庫から自動搬送装置で搬出中、搬出口である棚4段目（高さ約5.5m）で自動搬送装置がエラーで停止したため、被災者が状況を確認するため4段目の棚に登ったところ1階床に墜落した。	10101	1	50～ 99
2017	7	8 ～ 9	被災者は鉄筋コンクリート造5階建てマンションの大規模修繕工事において屋上階スラブ面の防水シートの張り替えの作業を行っていた。両面テープが施された防水シートを後ろ向きの座位の体勢で張り替えていたところ、屋上の端部に気づかずにパラペットを乗り越え、約15m下の地上に墜落した。	30209	1	1～9
2017	7	10 ～ 11	ビルの5階の雨漏り補修工事を行っていたところ、何らかの原因で脚立ごと落下した。	30209	1	0
2017	7	8 ～ 9	被災者は、朝礼を始める際、換気のために開けていた消防用の窓を閉めようとしていた。ブラインドカーテンの紐が、窓の外側に出ており、このままでは窓が閉められない為、窓枠に上がり、手を伸ばし、紐を取ろうとした際、窓が動き、バランスを崩し、4階より地上に墜落し、全身を強打した。	80302	1	10～ 29
2017	7	8 ～ 9	仮置きしていたFRPタンク（高さ＝8m、直径＝3m）のマンホールの向きを変えるため、被災者がタンク頂部ノズルフランジ（直径＝56cm）にベルトスリングを2重に巻きつけた。同僚がドラグショベルで地切りしたところ、ノズルフランジ部が切断してベルトスリングが外れてその弾みでタンク頂部から墜落した。	70101	1	1～9
2017	8	16 ～ 17	管理しているマンションの外階段の踊場（9階から10階部）において、脚立を用いて作業をしていた際に、その踊場から約25メートル下の地上に墜落し、全身を強打した。	150101	1	1～9
			木造家屋の解体工事現場において、敷地と前面道路（私道）の境界に			

2017	8	8 ～ 9	設置されていたコンクリートブロック塀（長さ2.8m、高さ1.4m、幅10cm）が倒れた。その際に、前面道路に停車していたトラックと倒壊したブロック塀の間にいた労働者が、当該塀とトラックとの間に挟まれ死亡した。	30209	5	1～9
2017	8	8 ～ 9	被災者は、当該事業場校舎とラクビーグラウンドの間にある屋外通路の手すりを越えて行う除草作業の事前作業として、レイカー（熊手）を用いて除草区域における蜂の巣の有無の確認を行っていた際に、誤って開口部より約5メートル下の地下駐車場に墜落した。	120109	1	300 ～
2017	9	8 ～ 9	河川災害復旧工事現場において、被災者は、クレーン機能付きドラグショベルを使用した土のう設置作業に手元作業員として従事していた。被災者は、土のうに親綱を固定し、ロリップ付きの安全帯を使用しながら魚道内（水深約30cm）を下っていたところ、洗堀により魚道が傾いた際に出来た溝（幅約80cm、水深約400cm）に転落し溺水した。	30107	10	10～ 29
2017	10	10 ～ 11	被災者及び職長の2名が解体用機械2台を搬入し、内1台のアタッチメントをバケットからブレーカに交換した後、職長が当該解体用機械を当日の解体予定場所まで走行させようとしたところ、ブレーカ先端が解体現場の壁（幅5m×高さ2m×幅15cm、重量4t）に当たり走行方向とは反対の解体用機械側に倒壊し、解体用機械の側面を取り外した後のバケット等を片付けていた被災者が挟まれ死亡した。	30209	5	10～ 29
2017	10	14 ～ 15	関連会社の監査中に、建屋屋上（約14m）から下方を見下ろしていたところ、地面に墜落した。	170209	1	1000 ～ 9999
2017	10	10 ～ 11	3階建て居住用マンションの共用部の清掃業務を行っていた被災者が、何らかの原因で1階の庇の屋上部分にて身動きが取れない状態になり、その後救急車にて搬送されたが死亡した。	150101	1	300 ～
		8	被災者らは碎石場内に構築したブロック積みの法面の補修を行うべ			

2017	10	9	く、法面の天端で転圧作業を行っていたところ、突如法面が崩壊し、使用していたドラグショベル、タンパーとともに墜落、崩壊した土砂やコンクリートブロックの間に生き埋めとなった。	30109	1	0	
2017	10	10	11	工事現場において、休憩中、被災者の行方が分からなくなり、音がした場所で、被災者が倒れていたところを発見された。建物から墜落したものと思われる。	30309	1	1～9
2017	11	14	15	地震により被災した木造2階建ての建設物の解体工事において、廃材をダンプに積み込む作業中、接近した位置にあったブロック積みの壁が倒壊し、シート掛けをしようとした被災者が下敷きになり死亡した。	30202	5	10～29
2017	11	10	11	1階建の建物窓ガラスを清掃中、地上まで約31メートル墜落した。	150101	1	1～9
2017	11	12	13	被災者は、林道改良工事現場において、橋の山側端部にガードレールを取り付ける支柱の設置作業等を行っていたが、当該栈道橋の端部を移動中に5.1m下の斜面に墜落、当該斜面を目測60m以上滑落し、さらに切り立った崖を30m以上墜落して、山沿いを流れる川辺に落ちて死亡した。	30106	1	30～49
2017	11	12	13	コンクリート用骨材の砂プラント内において、構内下請業者の労働者1名が、高さ約3.6mの砂ホッパー内の砂が凍結していたので、ホッパー下部の砂排出口に上半身を入れて電動ピックを用いて凍結した砂を崩していたところ、崩れ落ちた砂によりホッパー内で埋まり、被災した。	20202	5	10～29
2017	11	14	15	地震で損傷した高床式倉庫の復元模型の復旧作業に従事中的被災者が、床材（重量約45kgの丸太）の荷上げ作業を行っていたところ、地上から高さ1.8mの床部に上がった被災者が地上に墜落し、死亡した。なお、荷上げを終え床部に仮置きしてあった床材も同時に落下した。	30202	1	1～9

2017	11	16 ～ 17	被災者は、建物内にある自動ラック倉庫の鉄骨・ダクト等をガス溶接機により解体していたところ、ラックの棚上から約10m下の床に墜落し、死亡した。	30309	1	1～9
2017	11	10 ～ 11	建物（木造2階建）解体作業を行っていた被災者は、最後に残った浴室部分の外壁（コンクリートブロック）を解体するため、1人で外壁1階部分をハンマーではつる作業を行っていたところ、倒れてきた外壁に右足を挟まれ外傷性出血により死亡した。	30202	5	1～9
2017	12	10 ～ 11	コンクリートブロック用の型枠にコンクリートを打設した後に養生をするため、養生室に型枠（コンクリート及び型枠重量約1.5t）をフォークリフトで積み上げ、コンクリートを均そうと当該型枠に足を掛けたところ、当該型枠が倒れ、倒れた型枠と隣列の下段の型枠の間に挟まれた。	10901	5	30～ 49
2017	12	8 ～ 9	被災者は、一人で戸建住宅の完了検査を出張作業にて行っていた。隣接する建物の外構工事をしていた者が音がしたので行ってみると、被災者が倒れているのを発見した。検査を行っていた建物の敷地と発見された隣地には約1.6メートルの段差があった。	170209	1	10～ 29
2017	12	22 ～ 23	冷蔵倉庫のプラットホーム（高さ1m）上で、10tトラックの荷台後部から食品用空コンテナをプラットホームに降ろし、次にプラットホームから冷蔵庫内へ運ぶ作業を単独で行っていた被災者が、プラットホームの下で頭部左側を下に横向きで倒れているところを発見された。なお、安全帽は着用していなかった。高さ1mのプラットフォームから転落したものと推定。	40301	1	100 ～ 299
2017	12	12 ～ 13	浄水場内の施設点検のため、敷地内を1人でパトロール中に、沈殿池（深さ約3m）の中の通路を東側から西側に向かって歩行中に足を踏み外し沈殿池に落下、溺死した。	11603	10	10～ 29
2017	12	16 ～	事業場倉庫付近の側溝を流れる水を利用するために側溝の中に入って工具を洗浄中、被災者の姿が見えなくなったため、事業主が探していたところ、8m離れた下流の側溝で、うつ伏せで倒れている被災	30209	2	1～9

		17	者を発見した。			
2016	1	16 ～ 17	店舗兼住宅の解体工事現場において、店舗部（平屋鉄骨造）の屋上ベランダ上で廃材等の清掃を行っていた被災者が、既に梁を外した箇所のスラブに乗ったところ、スラブが長さ約7.2m、幅0.93mにわたって崩落したため、一緒に約3mの高さから墜落した。	30209	1	30～ 49
2016	1	11 ～ 12	ビル4階建て（本館、別館）の窓拭き作業を6人で行っていた。被災者は、別館の建物4階の外側の庇（幅1m、地上からの高さ11.6m）で、外側の窓拭き作業を1人で行っていた。その後、しばらくして、何か落ちたような音がし、他の作業者が見に行ったところ、アスファルト上の地面に倒れている被災者を発見した。被災者は、救急車で病院へ搬送され、死亡した。	150101	1	100 ～ 299
2016	1	12 ～ 13	ドライブイン建物から生じた汚水を浄化槽へ流す配管の途中に設けられた会所桧において、配管中の詰まりを除去するため、労働者が会所桧のマンホール蓋を開けて、会所桧横の地上で腹這いになり、会所桧内に上半身を入れ、棹状の用具を用いて詰まった物を除去している途中溺死した。	140201	10	10～ 29
2016	1	16 ～ 17	太陽光発電施設の内部で行う柱、はり等の防錆塗装工事において、塗料の飛散汚れを防ぐためにソーラーパネルのビニール養生作業をしていた被災者が、約10m下のアスファルト路面に墜落した。	30209	1	1～9
2016	2	15 ～ 16	カーポート取付工事現場において、被災者一人が、現場より5.2メートル離れた休憩場所で座り込んでいたところ、前のめりに転倒し、深さ1.37メートルの用水路内に転落し、水深10センチメートルの同用水路内にてうつ伏せの状態で見つかるまで発見されなかった。	30309	1	1～9
		13	AM8時からビニールハウスの横に地上から網状の布を装着する作業を被災者1名で行っていた。AM11時頃、事業主が被災者が作業を行っていることを確認した後、事業主はビニールハウス内で他の仕事			

2016	2	14	～	をしていた。PM1時5分頃、事業主が被災者の作業箇所に行くと被災者がいなくなっていた。また、被災者の帽子が溜池の水面に浮いており、被災者の車にも被災者不在を確認。捜索後、PM2時頃、溜池に沈んでいるところを発見。	60101	10	0
2016	2	7	～	被災労働者が高さ約19mのタンクの天井部の端で、タンク内部の温度計等の状況を確認するためタンク検尺口を取り外す途中、当該作業箇所からコンクリートの地上へ墜落した。	80401	1	10～ 29
2016	2	16	～	解体工事現場において、解体していた建屋屋上で4人が作業に従事していた。そのうちの作業員2名（被災者を含む）で取り外した折板屋根部材を屋上端部から投げ下ろしていたところ、被災者がバランスを崩し、3m10cm下の地面に墜落した。	30309	1	10～ 29
2016	2	10	～	一般住宅（平屋）新築工事に現場において、L型擁壁を設置するため、既設のコンクリートブロック塀の横をドラグ・ショベルで50cm程度床掘りした場所を、被災者がスコップを使い床均しを行っていたところ、倒れてきたコンクリートブロック塀（高さ約1.3m重さ約3t）に胸部まで挟まれ、心肺停止状態となり、発生から約2時間後に病院で多発外傷により死亡が確認された。	30202	5	30～ 49
2016	2	12	～	重油の配達先において、高さ約2.8mの重油タンクに給油するため、タンクの側面に固定されているタラップに足をかけて作業を行っていたところ転落し、コンクリート製の防油堤の淵に頭部を強打した。災害後意識があったが、2日後、病院で死亡した。	80109	1	10～ 29
2016	2	11	～	平屋コンクリートブロック造の壁（3面撤去済み、H=2.7m、L=7.3m）の撤去のため、電動ハンマーで基礎部のはつり作業を行っていたところ、壁が倒壊し作業員2名が下敷きとなった。	30209	5	1～9
2016	2	11	～	平屋コンクリートブロック造の壁（3面撤去済み、H=2.7m、L=7.3m）の撤去のため、電動ハンマーで基礎部のはつり作業を行っていたところ、壁が倒壊し作業員2名が下敷きとなった。	30209	5	1～9
		8					

2016	2	9	木造2階建て住宅を解体中、ベランダ部分が崩れ下にいた被災者が下敷きになった。	30209	5	10～29
2016	2	15～16	被災者は、擁壁の建設中、擁壁の端部にいた時に高さ約4メートル下に墜落し、入院して治療していたが、約4箇月後に死亡した。	30199	1	10～29
2016	3	9～10	民家ブロック塀の解体作業にあたり、ブロック塀外側の側溝に入り手持式ブレイカーでブロック塀下部を削っていたところ、突然ブロック塀が倒壊し、倒壊したブロックと地面の間に頭部を挟まれた。	30107	5	10～29
2016	3	13～14	3階建てのビル解体工事現場において、被災者は屋上階にある階段室内で外壁解体の手元作業にあたっていたところ、窓枠及び外壁とともに9.64m下の地上に墜落して死亡した。	30209	1	1～9
2016	3	17～18	マンション防水工事現場において、高さ14.4mの屋上で塩ビ製シート設置作業に従事していた被災者が、塩ビ製シートロールを持ち後退しながら高さ約38cmのパラペットを乗り越え墜落した。	30209	1	1～9
2016	4	14～15	増改築工事現場において、R階の大梁を取り付けるため、柱頂部に取り付けられたスタンションに接続された安全ブロックを用い当該柱に昇り、梁位置調整用バールをボルト穴に仮差し後、何らかの原因でスタンションが外れ、スタンション、安全ブロックごと墜落した。	30201	1	30～49
2016	4	12～13	12時過ぎ、工場のアスベスト対策工事現場において、つり足場の解体に伴う足場材の荷卸し作業中、高さ約14mの足場（ステージ）上から地上に墜落した。	30209	1	1～9
2016	4	8～9	3階建てビルの塗装工事の養生を行う予定の被災者が、路上に倒れているのを通行人が発見し救急車で病院に収容されたが死亡した。	30309	1	1～9
		16	橋台と橋脚に鋼製橋桁（全長123.9m）を架けるために、橋台の丘側から送出し設備を使用し、橋桁を送り出した後、橋脚側に設置した降下設備（ジャッキつり上げ装置）により橋脚側の橋桁を吊り下げ			

2016	4	～	た。橋台側はH鋼等で組み立てた架台の上に油圧ジャッキ4基設置し	30105	5	10～
		17	橋桁を受けた。橋台側を降下設備で吊り下げるために、降下設備を設置した後、鋼棒で吊り下げた受桁と橋桁にセッティングビームを置いたところ、橋桁が落橋した。			29
2016	4	～	橋台と橋脚に鋼製橋桁（全長123.9m）を架けるために、橋台の丘側から送出し設備を使用し、橋桁を送り出した後、橋脚側に設置した降下設備（ジャッキつり上げ装置）により橋脚側の橋桁を吊り下げ	30105	5	1～9
		17	た。橋台側はH鋼等で組み立てた架台の上に油圧ジャッキ4基設置し橋桁を受けた。橋台側を降下設備で吊り下げるために、降下設備を設置した後、鋼棒で吊り下げた受桁と橋桁にセッティングビームを置いたところ、橋桁が落橋した。			
2016	5	～	隣のプラントで運転業務を行っていた構内下請事業場の労働者が物音	30302	1	30～
		9	に気づき確認したところ、被災者が地面に横たわっていた。被災者は			49
		10	工事開始に先立ち、下請けとの打ち合わせをするにあたって現場の状況等の確認をしていたところ、サイロの上のコンベアの点検歩道付近より地上に墜落した。			
2016	5	～	被災者は、室外機の交換作業のため、2階建て建物の屋上に接して架	30309	1	1～9
		10	け渡された幅15センチメートルの鋼材上に立ち、滑車ロープを用い			
		11	て室外機を下ろしていたところ、固定していた滑車が外れたことにより、バランスを崩し、約6.4メートル下の床面に墜落し、搬送先の病院で死亡が確認された。			
2016	5	～	被災者が、自身の勤務するビル7階の事業場の窓から、直下の歩道へ	90201	1	1～9
		9	と墜落し死亡した。墜落高さ22.9m。災害発生状況を確認した者は			
		10	おらず、通行人が、倒れている被災者を発見した。			
2016	5	～	災害が発生した地区に常駐する社員として稲作の技術指導を行っていた被災者は、8時30分頃から12時30分頃まで別事業場の農機具	80209	10	10～
		12	販売店の担当者とともに災害発生現場付近の水田で農家に対する肥料			
		～				

		13	の使用方法等の指導を行い、用務終了後に担当者と別れてから連絡がとれなくなっていたが、翌日に用水路（幅40cm、深さ40cm、水深約15cm）で倒れているところを発見された。			29
2016	5	16 ～ 17	木造2階建ての牛舎解体工事において、解体用つかみ機を用いて1階部分の壁（コンクリートブロック積み）を倒そうとしていたところ、何らかの原因により当該壁（幅20m、高さ2.4m、厚さ0.15m、推定総重量7.2t）が倒れ、退避していなかった被災者が当該壁の下敷きとなり死亡した。	30209	5	10～ 29
2016	6	14 ～ 15	バイオチップ製造工場の新築工事現場にて、建屋3階の天井クレーンのレールを設置するためのH鋼（床面から高さ5.4m、幅30cm）に、高所作業車で親綱を取付けするスタンプの設置を行っていた。H鋼にレール（重さ300kg、長さ10m）が仮置されており、スタンプの設置に差支えたため、H鋼に乗りレールを動かそうとしたところ、高さ5.4mのH鋼から床面まで墜落して負傷し、同日搬送先の病院で死亡した。	30201	1	0
2016	6	9 ～ 10	木造2階建てアパートの解体作業において、前日までにアパート上屋の取り壊しを終え、解体用つかみ機運転者1名、手元4名で木くず等の積み込み作業を行っていたところ、解体せずに残していた渡り廊下（スラブデッキ）部分が落下し、その下で作業を行っていた被災者が逃げ遅れてコンクリートスラブの下敷きになった。	30309	5	1～9
2016	6	11 ～ 12	被災者含め3名は、無線局の鉄塔の地上高さ34mの位置にあるプラットフォームで、新たなケーブルの設置工事を行っていた。被災者は、プラットフォームの外側にて作業していたところ、地上に墜落し、死亡した。	30301	1	10～ 29
2016	6	13 ～ 14	土手で剪定用機械を使用して、低木剪定作業を行っていたところ約1.5m下の川に落下し、溺れた。	60101	10	1～9
		13				

2016	7	～ 14	小学校解体工事現場において、高所から地面に墜落し、胸部を打撲。胸腔内臓器損傷による血胸で死亡した。	30199	1	10～ 29
2016	7	～ 17	擁壁補修工事において、被災者は高さ3.57メートル、60度の斜面上でロープ高所作業によりフレームの設置作業を行っていたところ、身体保持器具をメインロープに取り付けていた接続器具（ロリッポ）を取り外していた際、墜落し、死亡した。	30108	1	10～ 29
2016	7	～ 13	被災者は教育資料用の写真撮影のため、デジタルカメラを持って1人で建屋（機械棟）屋上に上がった。その後13時10分、地上に墜落して倒れているのを同僚に発見された。屋上は地上から高さ23.4メートルあり、屋上に張られた避雷針のワイヤロープのそばに左足の靴だけが残されていた。	150109	1	10～ 29
2016	8	～ 14	13時30分頃、被災者が空調の室外機の点検が終了し、事務所に戻るため、室外機が設置されている普通教室棟の屋上から管理室棟の屋上へ移動していたところ、屋上の端部を移動していたため、バランスを崩し、約13m下の地上へ墜落した。	120109	1	100～ 299
2016	8	～ 10	浄水場周囲の勾配35度の傾斜地上にて、被災者含む2名が刈り払い機を使用して草刈りを行い、その他作業員が刈った草を集める作業を行っていたところ、被災者が浄水場に転落した。救助作業を行うも被災者は池に沈み、救急隊が救出して直ぐに救急搬送されるも意識が戻ることなく、同日に溺死で死亡が確認された。	60101	10	1～9
2016	8	～ 17	家屋解体工事において、解体用つかみ機で屋根の一部を解体し、瓦礫の分別作業・搬出作業中、家屋全体が揺れたため、家屋を倒してからその後の作業を行うことにした。屋内に置いた工事用資材や工具を屋外へ搬出した後、解体用つかみ機で家屋を押したところ、家屋全体が一気に倒壊し、被災者が倒壊した屋根の下敷きになり死亡した。	30309	5	10～ 29
2016	9	～ 9	小学校プールの屋根部分に相当するビニールテントをはがす作業を終え、親綱を取り外す作業に取り掛かろうとしたところ、鉄骨梁（高さ	30202	1	1～9

		10	約3.6m)から墜落し、出入口コンクリートたたきに左太ももを強打し、出血性ショックのため、病院搬送後約12時間後に死亡した。			
2016	9	14 ～ 15	労働者が、外板シームをガウジングするため、高所作業車に乗り作業床を回転させていたところ、上部回転体が船台の作業ヤードに設置された墜落防止用の手すりに接触し、手すりが破断。破断した手すりの先端が上部回転体に引っ掛かったため、労働者がそれを引き抜いていた際にバランスを崩し、3m60cmの高さから船台に墜落した。	11501	1	10～ 29
2016	9	6 ～ 7	浄化センターの下水処理用の合流No.1曝気槽において、紐付きのバケツで採水を行う際に、何らかの原因で曝気槽内に転落し、溺れた。	11603	10	30～ 49
2016	9	10 ～ 11	建造中の船のアップパーデッキからドックの底部床コンクリートに墜落し即死した。	11501	1	1～9
2016	9	0 ～ 1	勤務途中から行方不明となっていた被災者がスキー場Cリフトの支柱の下に倒れて死亡しているのが発見された。	140309	1	1～9
2016	10	8 ～ 9	被災者は4階フラットデッキ上で配筋作業を行うための準備中、フラットデッキ上を歩いていたところ、フラットデッキにあらかじめ取り付けてあったインサートの突起につまずき、その衝撃でフラットデッキが梁からずり落ち、フラットデッキとともに4.55m下の3階床に墜落し、コンクリート床に激突して死亡した。	30201	1	1～9
2016	10	7 ～ 8	橋脚の耐震補強工事現場において、現場代理人である被災者が、早朝、現場が始まる前に工事現場の上方に位置する橋の欄干(既設)から現場の状況を確認するため身を乗り出した際、約21メートル下の地面に墜落した。	30105	1	10～ 29
2016	11	10 ～ 11	霊園内の生け垣の剪定作業を行っていた被災者は、高さ約3.6mの擁壁上から墜落し、死亡した。	170209	1	10～ 29

2016	11	21 ~ 22	被災者は、ダム管理所の夜間警備及び情報連絡業務を単独で行っていた。午後9時30分頃、施設管理者の担当者に停電通知メールが自動送信されたため、原因調査のために当該担当者が翌日午前0時10分頃にダム管理所を訪れたところ、玄関横に倒れている被災者を発見した。	170209	1	100 ~ 299
2016	11	11 ~ 12	アパートの屋上防水改修工事において、被災者が布設されている防水シートをカッターナイフで後退りしながら切断中、墜落防止措置が講じられていなかったため、アパート屋上（高さ9.3m）から地上に墜落した。	30209	1	30~ 49
2016	11	11 ~ 12	避難タワー建屋内スロープの踊場に位置する東端から高さ2.7メートルの地面に墜落した。	30201	1	1~9
2016	12	13 ~ 14	急傾斜地崩壊危険区域台帳を作成する測量のため、同僚は地上で測定器の操作、被災者は法面に登り、ミラーを設置する作業分担で、急傾斜地の測量作業を行っていた。その際に、コンクリート法枠に登っていた被災者が約5.9m（計算値）の高さから墜落した。	170209	1	1~9
2016	12	16 ~ 17	民家敷地の法面保護工事において、当日の作業を終えるために片付けを行っていたところ、資材置場として使用していた場所に隣接する道路（幅1.1m）の下方に位置する民家の敷地（コンクリート上）に倒れている被災者を発見し救急搬送したが、頭部打撲により死亡した。	30199	1	1~9
2016	12	9 ~ 10	送電鉄塔のアーム上で被災者は同僚2名とともにアース線接地作業を行っていた。被災者は作業中に安全帯の補助ロープを取りはずした後で、何らかの理由でバランスを崩したはずみで、安全帯のメインロープもかけた箇所からはずれ、約40メートル下の地面に墜落した。	30301	1	50~ 99
2016	12	11	被災者が寺院境内の斜面を切り開いた段状になっている墓地区画の清掃の作業を行っていたところ、枝や枯れ葉を集めるポリ袋が約2m下	170209	1	1~9

		12	に落ち、これを熊手で拾い上げようとしたところ墜落した。			
2016	12	16 ～ 17	被災者は解体工事現場内において、エンジンカッターを用いブロック壁の切断・解体作業を行っていたところ、当該ブロック壁の上部（8 m×2.4 m重量約3.3 t）が倒れてきて下敷きになり死亡した。	30201	5	1～9
2016	12	2 ～ 3	朝刊の配達中、川に掛けられた橋を歩行していたところ、凍結した床面に足を滑らせバランスを崩し手すりの隙間から3メートル下の川へ転落した。	80205	1	10～ 29
2015	8	14 ～ 15	5階建てマンションの防水工事現場において、不動産管理を行っている同社の営業社員が現場の状況を確認中に4階屋上から3階屋上（高さ約3.1メートル）に墜落し、死亡したものの。同社は、マンションの所有者から依頼を受け、U社に防水工事の施行一式を発注しており、被災者は出張中に被災したものの。警察署において、災害調査実施済。	80409	1	1～9
2015	1	1 ～ 2	多目的イベントホールで開催されたコンサートの舞台装置撤去作業中に、可動式客席が格納されるピット内（深さ約2.5 m）で倒れている被災者が発見された。（現認者なし）発見時ピットの囲いとして設けられている移動式の間仕切り壁が一部開放していた。被災者は病院に搬送され、外傷性脳出血、血胸、肋骨骨折と診断され療養していたが、平成27年1月16日死亡した。	100109	1	1～9
2015	1	17 ～ 18	右岸側の橋の上方の斜面より落石があり、現場監視のため、橋を通行止めにして自動車を止め、右岸側の同斜面の落石状況を確認していたところ、土砂崩壊が発生し、土砂により橋桁が崩落し被災者2名が、河川に墜落したものの。	30106	1	30～ 49
2015	8	11 ～ 12	被災者は川の支流にかけられた橋付近で、河川の点検作業を1人で行っていた際、右岸側の石積み護岸の天端を通行中、約4.7 m下の河床まで転落した。	30199	1	50～ 99
2015	1	17 ～	右岸側の橋の上方の斜面より落石があり、現場監視のため、橋を通行止めにして自動車を止め、右岸側の同斜面の落石状況を確認していたところ、土砂崩壊が発生し、土砂により橋桁が崩落し被災者2名が、	30106	1	30～ 49

		18	河川に墜落したもの。			
2015	1	8 ～ 9	防球ネット改修工事において、防球ネットを支えるコンクリート製の支柱に登り、防球ネットを取り外し、引き続き支柱上部の補強用ワイヤーを取り外す作業を行う際に、高さ約9mから墜落したもの。安全帯（U字型）及び墜落防止用の保護帽は着用していた。	30209	1	10～ 29
2015	1	9 ～ 10	造船会社第1号ドックにおいて、修繕船のショットブラス補助作業を行っていた被災者が、ドックサイドに固縛していたブラストホースを解き、移動させようとしていたところ、約9メートル下のドック底部に転落したもの。傷病名は、重症頭部外傷	11501	1	1～9
2015	8	16 ～ 17	個人住宅の解体工事現場において、被災者がアルミサッシ（ガラスが入っていた）をフレームごと取り外していたところ、アルミサッシに入っていたガラスが割れ、その一部が被災者の左前頸部（頸動脈）を切創したもの。	30209	8	1～9
2015	2	7 ～ 8	被災者の同僚が、何かが落ちた様な音が聞こえ、5階エレベーターホールの窓が開いていたことを不審に感じ、窓の外をのぞいたところ、地上1階部分の駐車場に被災者が倒れているのを発見したもの。	10909	1	50～ 99
2015	11	11 ～ 12	被災者と同僚は、小麦粉用サイロの外側をデッキブラシ等で清掃する作業を行っていた。同僚はサイロの頂上部分の掃除を行い、被災者がサイロ中段部分の清掃を行っていた。その時、被災者が高さ約5メートルの位置から地面に墜落した。（被災者はヘルメット、安全帯未着用で作業を行っていた。）	10104	1	1000 ～ 9999
2015	7	15 ～ 16	木造家屋建築工事現場（新築）において、火打梁（高さ約3m）の上で母屋材の設置を行っていた時に、足を踏み外し墜落したことにより右頭部を打撲し、病院に搬送されたが、午後9時56分頃死亡した。	30202	1	1～9
2015	9	22 ～	通信用光ケーブルの張替作業終了後、小用を足すためにガードレールを乗り越えてコンクリート擁壁の上端に立ったところ、足を滑らせ約16m下の川へ転落した。コンクリート擁壁の上端には苔が生えてお	30301	1	1～9

		23	り滑りやすい状況であった。また、現場は照明が無く薄暗い状況であった。			
2015	5	20 ～ 21	体育館プール棟の建設工事（RC造）において、プール棟2階スラブコンクリートの打設後、腰壁部のコンクリートの天端均し作業を一人で行っていた被災者は、何らかの理由により、うつ伏せに倒れ、硬化していないスラブコンクリートに顔が埋まり、窒息により死亡した。	30201	99	10～ 29
2015	9	12 ～ 13	自社敷地内の雨水排水路の補強工事中、コンクリート製の擁壁（縦約2m 横約1m 厚さ約30cm）を排水路内に立てて支保工で固定していたところ、支保工が折れ、排水路内で作業していた労働者が下敷きとなった。	30199	5	1～9
2015	2	9 ～ 10	通信ケーブルの更新工事において、山頂に設置したウインチで旧ケーブルとこれを架設していたメッセンジャーワイヤーを巻き取る際に、メッセンジャーワイヤーに取付けられたケーブル支持用金具を取り外すため、被災者と現場代理人は支柱上で作業を行っていたところ、被災者は高さ約20mの位置から墜落し、現場代理人は手の指を切断したものの。	30301	1	1～9
2015	2	0 ～ 1	地下鉄駅で、案内業務交代時にホームから墜落した。	170201	1	100 ～ 299
2015	5	13 ～ 14	始業時刻直前に、事業場4階電気室で点検業務に従事していたところ、当該点検業務に係る点検箇所が存在しない屋上の端から墜落し、死亡したもの。なお、屋上の端には墜落防止用のパラペット（手すり壁：墜落箇所の高さ0.97メートル、幅0.36メートル）がある。地上からパラペット上部までの高さは14.5メートル。	10701	1	10～ 29
2015	9	9 ～ 10	客先の浄化槽の点検作業を行っていたところ、マンホール（直径45cm）から浄化槽内の接触ばっき室（高さ約1m71cm、水深約95cm）内に墜落したもの。その後、搬送先の病院にて死亡が確認されたもの（直接死因：溺死）。	150103	10	10～ 29

2015	1	10 ～ 11	S造4階建の倉庫の解体工事現場において、上層より解体を進め、2階床面で北面の外壁引き倒し作業準備のため、鉄骨柱をガス溶接機により溶断を行っていたところ、外壁（10.8m×3.6m）が内側に倒れ下敷きとなったもの。	30209	5	10～ 29
2015	1	11 ～ 12	被災者は、市発注の測量業務委託において、同僚と水源林の境界を測量する準備作業として、刈り払い機を用いて、雑草の刈り払いを擁壁上で行っていたところ、4.8メートル下の道路上に墜落したもの。保護帽の着用や墜落防止措置はなされていなかった。	170209	1	1～9
2015	10	3 ～ 4	平成27年10月8日午前3時30分頃、被災者は、卸売市場内において、ターレー（構内運搬車）に乗って、タイムカードを押すため、その設置箇所に向かった。ターレーを運転している被災者は、市場内の段差箇所に気付かず、ターレー左前側ガードが当該段差箇所に衝突し、ターレー運転位置の左側から投げ飛ばされ、前頭部を地面に打ち付け被災した。（平成27年12月24日午前死亡）	80109	3	100 ～ 299
2015	7	17 ～ 18	スチール会社3製鋼天井クレーンランウェイ上の粉じん清掃作業において発生。ダスト吸引車での吸引作業完了後のホース片付け作業中、天井クレーンランウェイから地上にホースとともに25.4m墜落した。	11001	1	30～ 49
2015	9	2 ～ 3	被災者は、7階建てのビルに隣接する鉄骨造の立体駐車場の解体工事現場において、鉄骨の外周に設置されている壁パネルの撤去作業中、ビルの屋上部から25.4m下方の地上に墜落したもの。災害発生時、被災者は墜落時保護用の保護帽を着用していた。また、安全帯は着用していたものの、使用していなかった。	30209	1	10～ 29
2015	3	12 ～ 13	木造平屋農機具倉庫解体作業で、東側、西側、南側の壁を解体後に残っていた北側の土壁（高さ約5m、幅約6m）が南側に向かって倒壊した。1階で足場部材の撤去を行っていた作業員と代表が倒壊した土壁の下敷きになった。周辺で分別作業を行っていた2人の作業員が、土壁を撤去して作業員を救出した。代表は自力で脱出し、救急要	30209	5	1～9

			請した。作業員は意識不明であったが、搬送先の病院で死亡した。			
2015 6	11 ～ 12		PC橋桁架設のためのエレクションガーダー（長さ82m、1本65トン×2本）の高さを調整するため、油圧ジャッキでガーダーを持ち上げていたところ、ガーダーが傾き、ガーダー下に敷設されていた鉄骨ブロック等がはね飛ばされ、その反動で労働者2名がPC桁の上に組まれた鉄骨ステージ上から約20m墜落し、1名が死亡もう1名が被災した。また同ステージ上で、飛来等した鉄骨ブロック等により2名が被災した。	30105	1	30～ 49
2015 5	16 ～ 17		木造2階建て料亭解体工事において車両系建設機械（解体用つかみ機）を使用している作業中、当該重機の右側方で被災者が解体後の破片等を袋詰めしていたところ、隣地境界のブロック塀が倒壊し、被災者の後方から覆いかぶさって下敷きになったもの。被災者は、病院に搬送後死亡。	30209	5	1～9
2015 7	12 ～ 13		被災者は、会社が警備業務を受託したパチンコ店において、店舗に付設してある立体駐車場で巡回警備を行っていた。平成27年7月19日、午後0時から巡回警備を開始。巡回中、立体駐車場4階の非常窓から約15メートル下の立体駐車場出入口スロープまで墜落し、死亡したもの。	170201	1	10～ 29
2015 4	18 ～ 19		作業構台から地下4階部分の鉄骨建方を行うため、構台覆工板の一部を開けて移動式クレーンを使用して作業を進める過程で、被災者が覆工板開口部から約27.5m下の地下4階スラブ上に墜落したもの。病院に搬送され死亡が確認された。	30201	1	10～ 29
2015 3	11 ～ 12		橋下の護岸工事現場において、施工済みの護岸ブロックの上から、高さ3.3m下のコンクリート地面に墜落したものである。被災者は、作業時に保護帽を着用していたが、安全帯は未着用であった。なお、災害発生時は護岸ブロック上での作業はなく、通常通路としても使用していない箇所であった。	30107	1	30～ 49
			労働者3名が、光波測量を行うための敷地境界の踏査を終えた後、林			

2015	6	16 ～ 17	地の斜面を登る途中で高さ1.5メートル、幅3メートルの水路に入ったところ、1名が急こう配の水路を15乃至20メートル滑落して死亡し、1名が水路の淵で足を踏み外して水路の中に落ち負傷した。	170202	1	1～9
2015	6	22 ～ 23	滞在国現地時間6月12日10:30頃、同国市内の会社において、金属加工用機械の納品及び設置のため出張中の被災者が、客先で機械の組み立て作業指示を行っていたところ、当該設置する機械の据え付けピット付近で足元の鉄筋につまづき、深さ約3.3mのピット底に転落して頭部を強打したため、脳内出血と脳挫傷により、搬送先の病院で現地時間同月19日14:23に死亡した。	11301	1	1～9
2015	5	16 ～ 17	珪石サイロ内部の珪石抜き取り作業中、サイロ下部に設けられたコンベヤーにより珪石を抜き取るため、被災者はサイロ内においてドラグ・ショベルを運転し足元を固め作業場所を確保していたところ、突然サイロ中心部の珪石が陥没しドラグ・ショベルが後方に転落し運転席から投げ出された被災者に崩れた珪石が覆い被さり上半身が埋没したものの。	10901	1	50～ 99
2015	1	9 ～ 10	雨水受けタンクを設置し終え、発注者と一緒にその設置状況を確認する作業中、タンク内部の明り取りのために、被災者1名がタンク上部に上がり、タンク上部のマンホールを開けたところ、マンホールの蓋とともに約10m下のタンク床面に墜落した。	30309	1	10～ 29
2015	1	10 ～ 11	RC造2階建校舎の雪下ろしの作業のため、1人で約10mの高さの校舎屋上にて雪庇を降ろそうと端部に近づいたところ、屋上のパラペット部分に積もった雪庇とともに10m下のアスファルトへ墜落した。雪庇は約70cmパラペットの端部からせり出していた。	120109	1	1～9
2015	11	9 ～ 10	橋梁の補修工事のために設置された吊り足場の解体作業において、足場の解体作業に従事する労働者が誤って30m下の海に墜落し死亡したものの。	30105	1	1～9

2014	1	6 ～ 7	ビル管理会社に勤める被災者は、設備の巡回のため、ビル屋上で設備の巡回を行っていたところ、ビル屋上から地上に墜落した。	150101	1	1～9
2014	1	10 ～ 11	構内にて、自社所有の軽トラックでドライドックに向け走行中、場所を間違えたことに気づき車輛の方向転換をしようとして、岸壁で車輛の頭を振ったところ、運転操作を誤り、岸壁から海に転落した。運転者は自力で脱出したが、同乗者が搬送先の病院で死亡した。	11501	10	10～ 29
2014	1	11 ～ 12	被災者ら3名は、排水機場内の植樹・生垣等の剪定作業を行うこととなった。しばらくして同僚が被災者を呼びに行ったところ、導水路に浮かんでいる被災者を発見した。目撃者はいないが、周囲の状況から、被災者は高さ4.23mのコンクリート壁のすぐ側の生垣の剪定作業を行っていて、誤って墜落したと思われる。尚、保護帽は被っていなかった。	170209	1	1～9
2014	1	10 ～ 11	注水工設備（農業用水）の水槽建屋にて、コンクリート内壁の防水工事中、農業用水路入口付近で容器に水を汲んでいたところ、下り勾配の水路内（水が入っている状態）に誤って転落した（高さ約11m、長さ約15m、勾配約43度）。搜索の結果、水路内の底部で死亡している被災者が発見された。	30101	10	1～9
2014	1	10 ～ 11	被災者は、教室の窓のクリーニングを行っていた。4階底に脚立を立てて教室の窓の外側の清掃作業を行っていたところ、地上に墜落した。尚、当該底には手すりがなく、親綱等を含め墜落防止措置を講じていなかった。	30209	1	1～9
2014	2	9 ～ 10	被災者は、ドラム缶に満たした水の中で手作業により、バッテリーケースを粉碎した樹脂片を洗浄する作業を開始しようとしたが、ドラム缶内の水が凍結していたため、これをハンマーにより砕き、氷片にして取り出した。被災者は、この取り出した氷片を作業場所に近い貯水池に投棄する作業を行っていたところ、当該貯水池に転落した。	11101	10	50～ 99
		13	被災者は、ゴミ収集車の助手としてゴミの収集を行っていた。収集し			

2014	2	14	たゴミの搬入先である処分場にて、高さ10.9メートルのピットへ墜落し、死亡した。	150103	1	10～29
2014	2	15 ～ 16	一般住宅改修工事現場にて、高さ1.3メートルの塀の上に乗る、外壁補修作業（補修箇所の高さは約3メートル）に従事していたところ、何らかの原因により塀の上から墜落した（災害発生を目撃した者はいなかった）。	30202	1	1～9
2014	2	9 ～ 10	建物（4階建）屋上の防水改修工事にて、労働者2名が人力で既設の防水シートを剥がそうと引っ張ったところ、シートが勢いよく剥がれたため、2名がその余力により屋上から高さ約17メートル下の地面にシートと共に墜落した。	30209	1	1～9
2014	2	2 ～ 3	鉄道の高架橋等の補修工事にて、剥落対策工事としてコンクリートの補修、剥落防止のシート設置及び塗装作業等が行われていた。被災者は、柵架道橋の上り線側の高欄の天端上にて、同箇所に施工した剥落防止シートの保護フィルムの撤去を行っていたところ、1.5メートル下の軌道内に墜落した。	30105	1	10～29
2014	3	22 ～ 23	坑内のL型擁壁の設置作業にて、位置、高さのレベル最終調整を行うためバルにてL型擁壁を持ち上げ、擁壁とスペーサーのすき間にライナー（厚さ2mm）を挿入していたところ、擁壁が倒れ、作業員1名が挟まれた。	30102	5	30～49
2014	3	10 ～ 11	5階建て建物の屋上にて、防水及びシーリング工事前の洗浄作業を実施していた際、パラペット（高さ0.4メートル）の外側スペースより、約15メートル下の地上に墜落した。	30209	1	1～9
2014	3	14 ～ 15	工場（屋外）にて、船体ブロックを製作していたところ、当該船体ブロックの一部を仮溶接する前に被災者が当該船体ブロックの一部の下に入り、油圧式ジャッキを使用して取付け角度を調整していた際、鋼管等に支えられた船体ブロックの一部がバランスを崩して倒れ、被災者に激突した。	11301	6	10～29

2014	3	9 ～ 10	下水管工事現場にて、被災者は、到達立坑内（深さ約7m）の作業を開始するため、立坑内に収納していたタラップの手すりを引き上げる作業中、立坑内に転落した。安全帯は装着しておらず、立坑周囲に墜落防止用の柵、安全帯設備等は無かった。	30110	1	30～ 49
2014	3	8 ～ 9	2階建て住宅の屋根に設置されている設備を撤去する際、工具類を荷上げ作業中、1階屋根部の踊り場（地上から4m）で待機していた被災者が、踊り場から墜落した。	30203	1	10～ 29
2014	3	7 ～ 8	構造物を台船から引き出す作業中、構造物が倒れ、構造物上にいた被災者が溺死した。	170209	10	30～ 49
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	30199	10	50～ 99
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	30199	10	100 ～ 299
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	30199	10	30～ 49
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	30199	10	30～ 49
2014	3	7 ～ 8	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	30199	10	1～9
2014	3	7 ～	建設現場にて、栈橋を台船から引き出す作業中、栈橋が倒れた。	30199	10	30～ 49

		8				
2014	5	9 ～ 10	階段踊り場付近をモップ掛け清掃中、同僚が通行しようと押し開いた扉に激突され、反動で階段を2 mほど転落し、頭を強打した。	10104	1	50～ 99
2014	6	13 ～ 14	屋上に設置されている鉄塔看板を撤去する際、支柱のH型鋼を被災者がガス溶断していたところ、看板が倒れ、頭部を保護帽ごとはさまれた。	30201	5	10～ 29
2014	6	23 ～ 24	ホテルの7階客室窓から、3階陸屋根部へ約10メートル墜落した。	30106	1	10～ 29
2014	7	13 ～ 14	被災者は、建屋外階段2階踊り場付近の構築物上部に設けられたエアコン室外機を取り外す作業を行っていた際、2.8メートル落下した。	40301	1	1～9
2014	7	11 ～ 12	客室外部に設置された浴槽のろ過装置を点検中、被災者は7.6m下の地上に墜落した。	140101	1	30～ 49
2014	7	8 ～ 9	校舎屋上防水工事のため防水シートを貼る準備中、被災者はロール状の防水シートを伸ばすため、後ろ向きで屋上東側端部へ向かって後退していたところ、パラペットを乗り越え、12.84メートル下の地面に墜落した。	30209	1	1～9
2014	7	11 ～ 12	ブロック壁の解体作業中、解体したブロック壁が、解体作業を行っていた被災者の上に崩壊し、崩壊してきたブロック壁と地面との間に体を挟まれ、圧迫死した。	30209	5	1～9
2014	7	11 ～ 12	建物の屋上端部から2階箇所に、ステージ足場上に建柱をロープで降ろす作業を行っていたところ、墜落した。	30209	1	50～ 99
		11	被災者は、廃棄物埋立処分場にて、電動ポンプで集水槽の水を下水道			

2014	7	～ 12	に圧送する作業に従事。2枚の鉄板で覆われている開口部の鉄板1枚を外し、開口部から集水槽の水位を確認し、操作盤を操作していたが、集水槽の中に沈んでいるところを発見された。	150103	1	1～9
2014	8	～ 11	10 汚水管ポンプから送り出した汚水の管の詰まりを除くため、下流側の マンホール内に入り、タラップに足をかけ、管ツールを管に通していたところ、マンホール底へ落下した。	11603	1	30～ 49
2014	8	～ 11	10 建築中の2階鉄骨の梁の上を歩いていたところ、墜落した	30201	1	1～9
2014	9	～ 16	15 駐車場の解体工事現場にて、敷地境界のブロック塀の解体作業を行っていた際、脇で別作業の単管ベース金具を外していた被災者に、ブロック塀が倒れ落ちた。	30209	4	1～9
2014	9	～ 11	10 木造家屋解体工事現場にて、被災者はガラス戸を取り外す作業を行っていた際、土間で倒れているところを同僚に発見された。	30209	1	1～9
2014	10	～ 12	11 小屋仮筋交いを設置しようと、杉板材を移動させていたところ、バランスを崩し、高さ約4.8mの梁上から墜落した。	30202	1	10～ 29
2014	10	～ 4	3 橋梁補修工事にて、アーチ部につり足場を設置する作業中、つりチェーンの取り付け箇所の確認のため、アーチ上面に上った被災者が滑落し、約15メートル下の道路上に墜落した。	30105	1	10～ 29
2014	10	～ 12	11 スカイプラットフォームをクレーンで移設するため、玉掛準備作業中、高さ約23mの搬入口より落下し、死亡した。	30209	1	1～9
2014	11	～ 15	14 鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の解体工事現場にて、被災者が、建物の5階で車両系建設機械（解体用）を用いた壁面の引き倒し作業をしていたところ、引き倒した壁面の下敷きとなった。	30209	5	1～9

2014	11	8 ～ 9	ビルの屋上から吊ったブランコ上でビルの外窓を清掃中、ブランコのメインロープをかけていたグレーチングが建物から外れ、ブランコごと墜落した。	150101	1	10～ 29
2014	11	11 ～ 12	下水道工事中、L型擁壁脇を開削していた際、擁壁が倒壊し、開削部分にいた被災者ら2名が擁壁に激突され、1名が死亡した。	30110	5	1～9
2014	12	8 ～ 9	解体予定の既設水路の天板上に立ち、同僚の墨出し作業のチェックをしていたところ、天板部が崩壊し、下の水路内へ墜落。天板部のコンクリート塊が被災者の頭部に激突し、その下敷きとなり、死亡した。	30201	1	10～ 29
2014	12	9 ～ 10	鉄骨造2階建解体工事現場にて、解体作業を行っていたところ、一階ひさし部分が崩壊し、被災者がひさしの下敷きになった。	30209	5	1～9
2014	12	13 ～ 14	ビルの解体作業中、4階の床部分にて、ハンドブレーカーを使用し、壁の下部のはつり作業を行っていたところ、壁が内側に倒れ、壁と4階の床部分との間に挟まれ、死亡した。	30201	5	30～ 49
2014	12	10 ～ 11	擁壁上に落下防止用のフェンスを設置する準備作業中、隣接する敷地内に墜落した。	30309	1	1～9
2014	12	14 ～ 15	国旗掲揚台上に脚立を設置し、国旗掲揚台の掲揚ポールに掛かっていた松の木の枝を脚立天板に跨り、高枝剪定鋏に付いている鋸で枝を切っていたところ、バランスを崩し、掲揚台の下のコンクリート上に墜落した。尚、被災者は、保護帽を被っておらず、安全帯も着用していなかった。	170209	1	50～ 99
2014	12	13 ～ 14	工場内の土砂が保管されているピットの端にて、土砂をダンプに積み出すためのドラグショベルの運転を誘導中、ピットの端から2.5m下のコンクリート地面に墜落し、死亡した。	150102	1	1～9
		14	被災者は、新造船の船尾デッキ上で作業していたところ、高さ約8			30～

2013	5	～ 15	メートル下の砂地に墜落した。	11501	1	49
2013	8	～ 15	砂防ダム工事現場において、被災者は堰堤の上で測量作業中、堰堤から約7m下のコンクリート地面に墜落した。尚、堰堤はほぼ完成しており、災害発生時に堰堤の上に手すり等は設けられていなかった。	30108	1	10～ 29
2013	7	～ 18	体育館新築工事の設計監理を請負う建築事務所の建築士（被災者）が、竣工後の建屋の西側外壁と舞台の背板との間、狭隘な幅67cmの場所に入って施工検査を行っていたところ、気分の不調を訴えて、検査場所から最も近い屋上となる高さ8m55cm、幅1m20cmの水平の庇の上に仰向けになって休んでいた。約30分間休息し立ち上がろうとしたところ、体のバランスを崩し地上に墜落した。	170209	1	1～9
2013	4	～ 17	船体ブロック上で、外板から張り出した吊ピース（船体ブロックの反転に使用するもので重量195kg）を同僚と切断中、被災者は、外板から内側に2m離れたデッキ上で、吊ピースの穴にエステルロープを掛けてデッキ上に引き込もうとしていた。同僚が吊ピースを切断したところ吊ピースは落下し、同時にロープを被災者が掴んでいたため、船体ブロックの外板の墜落防止柵の間から、被災者は吊ピースとともに9.5m下の定盤上に墜落した。	11501	1	1～9
2013	1	～ 17	木造家屋の解体工事を行うにあたり、当日の作業の終了前に、解体途中の壁の倒壊を防止するため、壁に金具を取り付けてワイヤーで内側に引く作業を行う際、金具を取り付けるため2階床上で作業を行おうとしたところ、釘で固定されていた床材が外れて天秤状態となり、2.3メートル下の地面に墜落して頭部を強打した。	30202	1	10～ 29
2013	5	～ 11	石炭火力発電所構内で発電ボイラーの定期補修作業に従事していた被災者は、補修に伴い開口部となった石炭搬送用シュート（鋼製の管）上部から、同シュート下部まで約16メートル転落し、全身を強打した。	30302	1	1～9
		14	木造2階建ての個人住宅の解体工事現場において解体作業中、北西側			

2013	5	～	の外壁（土壁、幅約4m×高さ約2.2m×厚さ約10cm）が突然	30202	5	10～
	15		倒壊し、倒れてきた外壁の上端の軒桁が被災者の頭部に当たった。			29
2013	10	～	産業廃棄物処理施設において、廃プラスチックを回収するため、廃プ	150102	1	30～
	13		ラスチックストックヤードで積込作業を終えヤード内を清掃していた			49
	14		ところ、コンクリート製仕切り壁の上部（高さ2.1m、幅0.2			
			m）から足を滑らせ地面に墜落した（当日雨天、保護帽着用）。			
2013	6	～	被災者は、ビルの9階部分にて窓の清掃作業を、窓の外側にある幅約	150101	1	10～
	9		75cmの植栽スペースにて行っていたところ、約28m下の地面に			29
	10		墜落した。			
2013	5	～	被災者は、集じん機架台の床及び手すりの取り付け工事に従事中、地	30209	1	1～9
	9		上からの高さ3.7メートルの架台に登り、架台に立てかけていた手			
	10		すりとともにアスファルトの地面に墜落した。尚、被災者は、保護帽			
			及び安全帯を着用していたが、手すり設置工事のため墜落時に手すり			
			はなかった。			
2013	3	～	被災者は、ビルの屋上にて防水工事を行っていたところ、屋上の端部	30209	1	1～9
	15		から地上まで墜落した。			
	16					
2013	5	～	4階建てビル屋上において、広告看板を設置するため看板設置用鉄骨	30309	1	1～9
	13		最上部端部にて看板取付作業を行っていたところ、バランスを崩し1			
	14		6m下の道路に墜落した。尚、安全帯は着用していたが使用はしてい			
			なかった。			
2013	8	～	被災者は、地上4階建てRC造の建築物（マンション）の解体作業の	30209	5	1～9
	11		補助として、コンクリート圧碎機で解体する箇所に対し、当該建物の			
	12		3階部分から散水作業を行っていた。被災者が作業していた箇所（3			
			階部分）の床とコンクリート壁が倒壊し、当該コンクリート圧碎機と			
			落下したコンクリートとの間に挟まれて死亡した。			
		0	被災者は、マンションの6階外廊下において、脚立を使用して高所に			300

2013	10	～	ある蛍光灯を取替作業中、脚立が外向きに倒れ、手摺を越えて1階敷	170209	1	～
	1		地内の廊下へ墜落したものと推測される。			
2013	11	～	被災者は、同僚と鉄骨作業所（平屋）の解体を行っていた。壁・屋根	30209	5	1～9
	15		トラスを溶断、解体するため、庇トラスにワイヤロープを掛けて重機			
	16		で吊り上げ固定してから、溶断する予定であった。同僚がワイヤロー			
			プを掛けて少しした後、庇トラスが倒壊。その横で脚立（高さ1.8			
			m）の上から2段目の踏面（高さ1.5m）に乗っていた被災者に激			
			突し、被災者は墜落した。			
2013	5	～	鉄骨建屋の2階部分に看板を取り付けるための下地（骨組み）を、溶	30209	1	1～9
	8		接作業により行っていた。仮溶接の段階で、取り付け位置が適切かど			
	9		うかを判断するため、仮溶接した鉄骨の上に乗って各所の寸法を計測			
			していたところ、仮溶接した鉄骨が外れ、約4.5メートル下の地面			
			に墜落した。			
2013	8	～	被災者は、単独で、農業用水路の左岸にある揚水機場の取水口に取り	60101	10	1～9
	10		付けられた鉄製柵に付着した草などのゴミを除去する作業中、取水口			
	11		上のグレーチングの作業床又は取水口入口ゲートからグレーチングの			
			作業床に至る間にあるコンクリート製階段から当該用水路に転落し、			
			約500m下流で心肺停止の状態で見つされた。			
2013	2	～	被災者は工作中、客の勧めで飲酒し、泥酔した状態となったため、ベ	140209	1	1～9
	5		ランダ内で休憩していたところ、ビル4階のランダの手すり（コン			
	6		クリートの立ち上がり壁が50cm、その上部に高さ60cmの鉄製			
			柵が取り付けられた全高1.1m）から誤って高さ約1.2mの地面に			
			墜落した。			
2013	7	～	林道開設工事現場において、被災者は、地山整形した法面に設置され	30106	2	10～
	11		た排水用U字溝内にたまった土石の排出作業を単独で行っていたとこ			29
	12		ろ、鋼製のU字溝内でL字アングルに前のめりにもたれ掛った状態で			
			発見された。			

2013	3	8 ～ 9	<p>標記所在地のS造4階建（一部RC造3階建）ビルの解体作業中、被災者は、4階床スラブ上にて、鉄骨の溶断作業の下準備を行っていた。解体用重機（鉄骨切断機を取り付けた建設機械）で5m程離れた4階屋根スラブ（コンクリート）を支える鉄骨を切断した際、その拍子で被災者の直上の4階屋根スラブが崩落、落下してきたコンクリートが被災者にぶつかり死亡した。</p>	30201	4	10～ 29
2013	11	13 ～ 14	<p>大豆貯蔵用サイロ（高さ30m・直径7.4m、RC造）下部取り出し口から大豆を取り出す作業中、大豆の出が悪くなったため、取り出し口付近上方に設けられた点検口を開け、下方に溜まった大豆を棒で突き落とした直後に、サイロ内部で爆発が起こり、サイロから20m付近で待機していた被災者の頭部に崩壊したサイロのコンクリート片が当たり、搬送先の病院で死亡した。</p>	50101	14	10～ 29
2013	3	11 ～ 12	<p>被災者は、学校解体工事において、移動式クレーンにアタッチメントを取り付けた車両系建設機械のくい抜機（以下、くい抜機）を用い、建物基礎部分に埋設されていた直径約45cm、長さ約20mのPC杭を引き抜く作業を行っていた。地面から約6mほどの高さまでPC杭を自立させながら抜いたところ、地面とほぼ同じ高さの位置で折れ、折れた杭がくい抜機の運転席に倒れ、運転していた被災者を直撃した。</p>	30108	5	30～ 49
2013	12	9 ～ 10	<p>被災者は、既存のブロック塀の解体作業中、ブロック塀が倒れ、倒れたブロック塀と隣地建物の外壁との間に身体を挟まれた。</p>	30201	5	10～ 29
2013	5	9 ～ 10	<p>2階建て木造アパートの解体工事現場にて、2階の外部通路部分が落下し、下で作業を行っていた被災者が下敷きになった。尚、被災者は保護帽を未着用であった。</p>	30309	4	1～9
		7	<p>被災者は、港の岸壁等の調査のため、災害発生場所の旅館に宿泊しながら調査業務を行っていた。災害発生日の朝、同僚が被災者を呼びにいったところ、窓を開けた状態で着替えをしているところであった。</p>			

2013	5	～	その後、しばらくたっても被災者が部屋から出てこないことを不審に思い、部屋を訪れると鍵が掛っていた。旅館の人にスペアキーで部屋を開けてもらったところ、室内には誰も居らず、窓が開いていて、窓下の地上に倒れている被災者を発見した。	170209	1	1～9
2013	9	～	被災者は、民家を解体して立て直す工事において、民家の2階部分の解体作業を行っている際、解体現場を覆う養生シートの骨組を解体しようとして、約5メートルの高さから地面に墜落した。	30202	1	1～9
2013	2	～	被災者は、工場等屋根への太陽光発電パネル設置工事において、工場敷地内の電柱の高さ（6.2m）付近の電気配線作業中、敷地外の道路に墜落し、頭部を打った。	30301	1	1～9
2013	2	～	被災者は、鉄骨組立作業において、高さ6.8mの鉄骨梁から墜落した。	30201	1	1～9
2013	6	～	ビルの窓ガラス清掃を行うため、ブランコ型の板にのり、5階付近で作業を行っていた、ブランコごと地上に墜落した。尚、ブランコのメインロープ、補助ロープとも屋上にある柵の控え部の根元に、それぞれ固定されていたが、重さに耐えきれず、控えの根元ごと外れたことにより、ロープも外れ、墜落に至った。	150101	1	1～9
2013	8	～	小学校校舎トイレ改造工事現場内において、現場に出勤してきた二次下請事業場の労働者が、地上に積んであった建築部材（壁、天井に使用する鋼製の下地材）と枠組み足場の間で仰向けで倒れている被災者（元請現場代理人）を発見した。	30201	1	1～9
2013	12	～	豆腐の製造に使用した型箱12個を、苛性曹の湯（約1.5立米、約68度、苛性ソーダ約0.5%含有）の曹から一つ一つ引き上げ洗浄中、最後の一つを苛性曹より取り出そうとした際、苛性曹内に転落し首から下全身をⅡ度～Ⅲ度の化学熱傷を負った。	10109	11	1～9
			集成材からおが屑を製造する工場内の積込場所において、おが屑をサイロの落とし口から4トントラックの荷台上に積みこんでいたとこ			

2013	5	15 ～ 16	ろ、荷台上にいた被災者の上に大量のおが屑が落下して埋まり、病院へ搬送されたが死亡した。尚、荷台上にいた被災者は、サイロの落とし口からおが屑が出てこないため、長い木の棒をサイロの出口に差し込んで排出させようとしていたところ、大量のおが屑が荷台上に落下した。	80209	5	10～ 29
2013	8	21 ～ 22	事業場は老舗の温泉旅館である。火災により、木造建築の旅館建物及び物置の計約700平方メートルが全焼し、事業場に住み込みで勤務していた女性労働者1名が現場の焼け跡から焼死体で発見された。	140101	16	1～9
2013	11	11 ～ 12	損傷した蔵（木造）2棟の内、1棟の解体を終え、がれき等の撤去及び積込みの作業を行っていた際、袖壁（蔵2棟の間を通行できないようにするレンガ造の壁）が倒壊し、その付近でがれき等の撤去を行っていた被災者が下敷きになり、死亡した。	30209	5	1～9
2013	11	10 ～ 11	市道の橋梁新設工事に伴う既存橋梁の解体撤去作業において、当該橋げたを二台の移動式クレーンでつり上げるための準備作業として、当該橋げたの中央下部に切れ目を入れる（ガス溶断）ため、移動式クレーンでつり上げた搬器に乗りガス溶断作業中、橋げたが中央部で折れ搬器に当たり、その際、落下した橋桁等に後頭部をはさまれ、強打した。	30105	6	10～ 29
2013	6	14 ～ 15	船の清掃作業中、船体上部に堆積した鉄粉をエアで飛ばす作業を行うため、エアホースを操舵室の上に引き上げようとした被災者は、高さ約2m下の船舷に付いていたタイヤ上に墜落し、タイヤで弾んだ後、さらに3m下方の地面に墜落した。尚、保護帽は着用していたが、安全帯は未着用、墜落防止の措置はなかった。	11501	1	10～ 29
2013	3	14 ～ 15	被災者は、現場工区内の埋戻し作業を行っていた。支持物の最下層の脚部補強材を復旧する作業中に、支持物の構成材である単管が折れ、倒壊した降雪用仮屋根（30m×28mの範囲）の下敷きとなった。	30201	5	50～ 99
		10	被災者と同僚の2名で、ビル2階の屋上に設置している空調室外機に			

2013	11	～ 11	ビニールシートを掛ける作業中、4.8メートル下の1階屋上部分に墜落した。被災者は、幅10センチメートルの金属製の架台に乗って作業をしていた。また、ヘルメット、安全帯は着用していなかった。	170209	1	1～9
2012	7	8 ～ 9	道路建設工事において、盛土擁壁の端部で測量作業をしていた被災者は、約13.8m下の地面に墜落した。被災直後は意識もあり会話も行えたが、救急搬送中に意識が低下し心肺停止となり、搬送先の病院で死亡した。	30106	1	10～ 29
2012	3	13 ～ 14	個人住宅の解体工事現場において、高さ約2.5m、幅6mのブロック塀のうち、地上から高さ1.2mの範囲のブロック塀を残して解体するため、被災者は、ピックを用いて幅6mにわたり、高さ1.2mの箇所をはつり、その部分にあった鉄筋をサンダーにより切断していたところ、ブロック塀が倒壊し、下敷となった。	30309	5	1～9
2012	1	11 ～ 12	被災者は冷却槽の横幅方向に渡していた2本のH鋼の上に大小2台の鋼製架台を重ねて仮置きし、大きな鋼製架台をメッキ作業で使用するためメッキ槽へ天井クレーンを使用して移動させようとしていたところ、1本のH鋼と鋼製架台とともに槽内に転落した。被災者は胸などを強打し、出血性ショックにより死亡した。	11204	1	30～ 49
2012	10	12 ～ 13	塀の改修工事において、塀を解体するため塀の下部を電動ピックハンマーで横方向へ直線状に斫っていたところ、塀が幅262cm×高さ105cm（厚さ19.5cm、重さ0.7t）にわたって倒れ、斫り作業を行っていた被災者が倒れた塀の下敷きとなり死亡した。	30209	5	1～9
2012	8	10 ～ 11	S造の家屋解体工事において、ドラグ・ショベルを用いて2階屋根スラブを解体中、下がっていたコンクリート片をバケットで下へ引っ張った時、コンクリート片が振り子のように振れ、ドラグ・ショベルの運転席上部へ激突したのち、横で水まきをしていた被災者の頭部に激突、被災者は下敷きとなった。	30209	4	1～9
2012	7	9 ～	被災者は地上8階建てのホテルの屋上から墜落し、駐車していた自動車	140101	1	1～9

		10	の横に倒れているところを発見された。			
2012	6	15 ～ 16	被災者は賃貸住宅の退居部屋（9階）の間取り改善工事の仕上げである清掃作業を行っていたが、同室のベランダ部分から約26m下の地上に転落した。	30209	1	10～ 29
2012	5	23 ～ 24	被災者は、工場内の脱臭塔（高さ約30m）において計器類の点検を始めた。終了予定時刻になっても被災者が戻って来ないことを不審に思った同僚が周辺を探したところ、脱臭塔の下で倒れている被災者を見つけた。	10109	1	100 ～ 299
2012	7	19 ～ 20	骨材ヤード内砕砂骨材ビン底部に設置されている2基のホッパーを、業者が修理をすることとなった。そのための準備作業として、6名で砕砂骨材ビン内の砕砂を手作業でホッパーに落とし、排出する作業を開始した。約45 tを排出し、砕砂骨材ビン底部北側ホッパー部分の回り約50cmが露出するまで掘り進めた際、西側砕砂が崩れ6名が砂に埋まった。被災者のうち、完全に埋まった2名が死亡した。	10901	5	10～ 29
2012	7	19 ～ 20	骨材ヤード内砕砂骨材ビン底部に設置されている2基のホッパーを、業者が修理をすることとなった。そのための準備作業として、6名で砕砂骨材ビン内の砕砂を手作業でホッパーに落とし、排出する作業を開始した。約45 tを排出し、砕砂骨材ビン底部北側ホッパー部分の回り約50cmが露出するまで掘り進めた際、西側砕砂が崩れ6名が砂に埋まった。被災者のうち、完全に埋まった2名が死亡した。	10901	5	10～ 29
2012	8	14 ～ 15	被災者は所属する事業場の代表者と2名で、現場において電話線を引き込む作業を行っていた。被災者は、代表者と離れた箇所で保安器と呼ばれる設備の配線作業を行っていたが、代表者により作業を行っていた箇所の近くの水路で倒れているところを発見され、外傷性脳挫傷により、死亡が確認された。	30301	1	1～9
2012	5	5 ～	被災者は紛失した工具を探すため、7階建ての化学プラントを1人で捜索し、「工具があったこと及び現在6階に居る」旨を無線にて同僚に伝	10899	1	100 ～

		6	えた後、地面へ墜落した。			299
2012	9	7 8	被災者はドック外の地上部分に設置されている水道管蛇口にホースを接続して、ドック内渠底で当該ホースを使用して船体の水洗作業を行っていた。船体水洗場所の移動に伴いホース接続場所も移動するため、ホースを蛇口から外し渠底まで下し、ホースを移動後、ホース引き上げ用のロープを被災者が渠底へ投げたが、ドック内側の犬走りの手すりにロープが乗り、同人が水道管等を乗り越え、足でロープを蹴落とそうとして滑り渠底へ墜落した。	11501	1	10～ 29
2012	6	16 17	木造2階建の倉庫3棟（北棟、中棟、南棟）の解体工事現場で、中棟を解体するため、現場責任者がグラップルで中棟東側の梁を引き抜いたところ、中棟全体が倒壊し、作業員2名が西側の壁面の下敷きとなり、1名は死亡、1名は負傷を負ったもの。なお、被災者2名は倒壊防止用の控えを設置するため、梯子及び脚立に昇り西側壁面に穴を掘る作業を行っていた。	30209	5	1～9
2012	2	10 11	線路下の埋設排水管補修工事で、列車先方見張を行っていた被災者と無線連絡を行ったが被災者からの応答がなかったため、他の見張員が被災者の見張位置に赴いたが、姿が見えなかった。周辺を捜索したところ、指示を受けた見張位置から約200m離れた踏切わきの側溝に、意識がなく呼吸していない状態で倒れてる被災者を発見した。救急搬送したものの、頸髄損傷による窒息で死亡した。なお、被災者に頸髄以外の外傷はなかった。	30104	2	10～ 29
2012	4	10 11	乾粉タンク（鋼製の製品タンク）に詰まりが生じたため、修理班の3名が清掃作業を行っていた。被災者が、ガス溶断で穴あけされた同タンク側面から棒状のもので詰まりを除去していたところ、大量の粉が被災者に降りかかった。被災者は、3階のステージ面より約1.57m上方にあるスクリーコンベアの上蓋からバランスを崩し、ステージの手すりを乗り越えて約9m下の地面に墜落した。	10909	1	10～ 29
			アーケード解体工事において、アーケード屋根上部にある消防用の消			

2012	2	15 ～ 16	火足場の解体撤去準備のために消火足場の部材及び付設している消火管の一部分を切断する作業を2名で行っていた。1名が切断用電動鋸の刃を交換するためにアーケードより降りた後、残った被災者が消火足場上で電線等の廃材の片づけ作業を行っていたところ、消火足場上からアーケード屋根を破り、約8m下の地上に墜落した。	30209	1	1～9
2012	3	15 ～ 16	木造平屋建ての納屋の解体工事中、屋根瓦を撤去し、外壁材である杉板を取り外した状態で廃材の整理を行っていたところ、突然建物が南側に倒壊し、その下敷きになった。	30209	5	1～9
2012	7	7 ～ 8	被災者は、タコいけす（幅1.96m奥行き1.03m高さ1.76m、木製、100kg程度）を岸壁から海面へジブクレーンを用いて降ろす作業をしていた。タコいけすを海面へ着床させた後、バランスを崩し、岸壁から推定約1.8m下の当該タコいけすの上面に墜落して頭部を強打し、死亡した。	170209	1	1～9
2012	11	11 ～ 12	公園にある角度33度、上下幅約10mの、のり枠内の草刈り作業を行っていた際、その下にある角度75度の擁壁から、垂直高さ約5.4m下のコンクリート溝に墜落した。	60101	1	1～9
2012	5	8 ～ 9	被災者は2階屋上に設けられた機械室の屋上（高さ3.7m）においてクレーンの誘導作業を行っていたが、2階屋上に倒れた状態で発見された。	30302	1	10～ 29
2012	3	12 ～ 13	工場内工業用水の配管の修理終了後、工事立会人であった被災者は、補修工事のため閉めていた配管バルブを開けるため、工場内配線ラックの防護ボード（地上約5m、石膏厚さ1cm）付近を歩行していたところ、防護ボードが割れて地上へ落下、救急搬送先の病院において死亡した。	11001	1	100 ～ 299
2012	7	11 ～ 12	住宅地盤沈下修正工事現場において、当該住宅床下の地盤を手掘りで横方向に掘削している際に、住宅基礎部分のコンクリートの一部が上から崩落し、被災者の体の一部が掘削地面との間に挟まった（掘削高さ約1.5m、奥行き約2m）。被災後、天候が豪雨となり、掘削箇所浸	30202	5	1～9

			水し、救出するまでの間に溺死した。			
2012	11	8 ～ 9	4階建てマンションの屋上防水工事現場において、当該マンションの屋上に移動するために隣接するマンションの屋上に上がり、床に養生シートを敷く作業中、屋上の外周にある立ち上がりに被災者が右足のかかとを引っ掛けて体勢を崩し、高さ約12mから地上に墜落し、死亡した。	30309	1	1～9
2012	4	14 ～ 15	ホッパーへの砂利投入作業の際、ホッパーシュート部に砂利が堆積し作業に支障が生じたため、外部から除去作業を行った。被災者は、除去できなかった一部の砂利を除去するため、ホッパー下部に設置されているベルトフィーダからホッパーシュート内部に入った際、砂利に埋まり死亡した。	20202	5	1～9
2012	12	9 ～ 10	工場内で大掃除中、被災者は竹竿の先にエアーストローを結びつけ、そのエアーストローで天井クレーンのホイスト部分の埃を払う作業等をしていた際、乗っていた高さ約2mの作業台の登り口付近から墜落し、更に、その下に設置されていた深さ1.5mのタンクの底まで墜落した。	10805	1	10～ 29
2012	11	10 ～ 11	建物の3階で固定されている窓ガラスの拭き掃除作業を行っていた被災者は、誤って約10m下の構内通路に墜落した。災害発生当時、窓ガラスの周囲に足場はなく、被災者は安全帯を装着していなかった。また、保護帽は被っていたものの飛来落下災害防止用であった。	150101	1	30～ 49
2012	1	10 ～ 11	流雪溝（雪を流水を利用して流下させ、排雪するための設備。幅80cm、深さ65cm、水深20cm、水温3℃）の上部を覆った雪を取り除く作業において、スノーダンプを用いて雪を削り取るようにして流雪溝に落としていたところ、誤って、当該流雪溝に転落し、約70m流された。	30309	10	10～ 29
2012	7	16 ～ 17	被災者は刈払機を使用し単独で土手における草刈り作業を行っていたところ、土手の端の石垣（高さ約1m強）から転落し、頭を負傷した。発見時、被災者は会話ができる状態であったが、その後搬送された病院にて容態が悪化し、死亡した。	140309	1	10～ 29

2012	1	9 ～ 10	3階建て建屋の塗装作業を行っていた被災者は、隣接する道路上に倒れているところを発見され、頭部及び全身打撲により、救急搬送先の病院で死亡した。	170201	1	30～ 49
2012	4	14 ～ 15	マンションの立体駐車場ピット内にて、同マンションの管理人が立体駐車場脇の扉から7～8m下にあるパレット（自動車載せる台）上に、扉位置口付近の作業床端部よりパレット内に墜落した被災者が横たわっているのを発見した。被災者は既に昏睡状態であったが、救急搬送先の病院にて死亡が確認された。	150101	1	30～ 49
2012	3	9 ～ 10	3階にてグレイチング付及び墨出し作業をしていたところ、被災者が何らかの理由により屋上へ上がり、パラペット上から約10m下に墜落した。	30201	1	10～ 29
2012	3	14 ～ 15	7階建て建築物改修工事において、足場組立に従事する被災者は、屋上に設けられた手すりを乗り越え、約20m下の地上に墜落した。なお、安全帯は着用していたが、使用した形跡は確認されていない。	30201	1	1～9
2012	4	19 ～ 20	災害発生場所であるビル脇の路上にて、被災者が倒れているのが発見された。	170209	1	100 ～ 299
2012	4	17 ～ 18	被災者は災害が発生した建物の設備等の保守・点検業務を行い、作業終了後建物の所有者に点検完了の報告を行った。しかし、その後も被災者は、建物11階のセットバックになっている屋根上の排水溝部分の目詰まりを確認するため当該場所へ向かい、確認作業を行ったところ、高さ約70cmのパラペット部分を乗り越え、約30mの高さから地上へ転落し、死亡した。	150101	1	300 ～
2012	4	7 ～ 8	被災者は既存建築物の屋上にて窓ガラスの清掃作業準備中、屋上から地上へ約20m墜落した。	150101	1	1～9
		10	3階建マンションの屋上防水工事現場において、同建物の屋上で防水			10～

2012	5	～	シート貼の作業をしていた作業者が、高さ約30cmのパラペットを超えて、約10m下のコンクリート地面に墜落した。	30209	1	29
2012	6	～	11 新築工事中のマンションで、エアコン室内機の取り付け作業を行っていた被災者が、エアコン室内機を運搬中に躯体7階ベランダ部分から墜落した。	30203	1	1～9
2012	6	～	9 被災者は事務所に設置されている段ボール製のゴミ箱が発煙しているのを発見し、事務所の台所にて水を汲み消火活動を行ったところ、10 煙を吸い込んだため死亡した。	10101	16	10～29
2012	8	～	8 建築物の屋上（高さ約15m）において、ヘリサイン（屋上に学校名等の場所の名前を書くことにより、災害発生時に救援ヘリコプターの目印の役割を持ったもの）のライン引きのための墨の追い出しで計測作業を複数名で行っていたところ、メジャー片端を持ってパラペット際に移動した被災者が、建物端部より墜落した。	30209	1	1～9
2012	10	～	17 被災者はサーキット内のロケハンを行っていた最中にピットの上にある2階テラス（高さ約6m）から墜落し、頭部を強打し死亡した。	100101	1	1～9
2012	1	～	8 2階建軽量鉄骨造アパートの解体工事現場において、解体した資材を仮置き位置へ移動作業中、資材と共に重機が梁を引っ張ってしまい、2階外階段の床を支持していた鉄骨がたわみ、床が脱落、同床で溶断作業をしていた作業員2名が墜落し、1名が死亡し、1名が重傷を負った。	30201	5	10～29
2012	8	～	14 間仕切りのブロック壁をエアピックハンマーによりはつっていたところ、突然間仕切りのブロック壁が倒壊し、近くでガラ（はつりカス）15 の片付け作業をしていた被災者がその下敷きとなった。	30209	5	10～29
2012	4	～	11 被災者はコンクリート擁壁を設置する河川護岸工事において、コンクリート打設の完了後、その型枠を解体しようと、既存の護岸と擁壁の間で作業していたところ、既存護岸の基礎コンクリートが崩壊し、その下敷きとなって死亡した。	30107	5	10～29

2012	7	8 ～ 9	被災者は既設屋外配管架空架台上において、新設配管の敷設準備のため架空架台を移動中、当該架台から約10m下の地面（アスファルト）に墜落した。	30309	1	1～9
2012	11	10 ～ 11	高さ約60mの送電線用鉄塔の防錆塗装工事において、被災者は準備作業のため、鉄塔に附設されたステージ（地上高さ20m）から身をのり出し、工具箱に入ったサンダーを取ろうとして、地上に墜落して死亡した。なお、被災者の腰には2丁掛けの安全帯が着用されていたが、被災時に使用されていなかった。	30209	1	1～9
2012	4	13 ～ 14	被災者はU字溝を設置する作業を行っていた。中古のU字溝を所定の長さ に切断するため、U字溝の上に乗ってエンジンカッターで切断ところ、切断部分が倒れて落下し、その際にU字溝に背中を強打した。	30199	1	1～9
2012	6	11 ～ 12	岸壁建設工事において、被災者らは岸壁海側のたれ壁（鉄筋コンクリート製）を作るため鉄筋を組み立てていたところ、当該鉄筋が海側へ傾きながら倒れ、3名が海に投げ出された。1名は自力で岸壁に泳ぎ着いたが、3名が海中で鉄筋の下敷き状になり、死亡した。なお、被災者らは救命胴衣を着用していた。	30111	5	30～ 49
2012	6	11 ～ 12	岸壁建設工事において、被災者らは岸壁海側のたれ壁（鉄筋コンクリート製）を作るため鉄筋を組み立てていたところ、当該鉄筋が海側へ傾きながら倒れ、3名が海に投げ出された。1名は自力で岸壁に泳ぎ着いたが、2名が海中で鉄筋の下敷き状になり、死亡した。なお、被災者らは救命胴衣を着用していた。	30111	5	30～ 49
2012	9	9 ～ 10	水力発電水路護岸等の除草作業現場において、水路周囲に設けられたフェンス内の草取を行っていた被災者が誤って水路内に転落し、そのまま水管内を流され、約3 kmほど下流で発見され、病院に搬送されたが間もなく死亡（溺水）が確認された。	30199	10	1～9
2012	8	13 ～	法面にコンクリートブロックを設置し擁壁を建設する工事において、事業者がドラグショベルを運転し、最後の一枚を吊って設置し、被災者がワイヤーロープの玉外し作業を行っていたところ、コンクリート	30199	5	1～9

		14	ブロックが被災者側に倒れ、下敷きとなった。被災者は、骨盤骨折等による大動脈損傷により失血死した。			
2012	9	16 ～ 17	被災者はコンクリート壁を解体中、6段積みされているブロックのうち一番下のコンクリート壁を壊し、鉄筋が見える状態してからエアカッターで鉄筋を切断している際、鉄筋が壁を支えられなくなり倒れ、逃げ遅れたため下敷きとなった。	30201	5	1～9
2012	12	15 ～ 16	アルミ製のカーポートを新築する工事中、基礎用の2つの溝内に、梁を取付けた支柱を各4本建てた後、被災者が溝の中に入り、支柱をハンマーで叩き、間口の間隔を調整していたところ、支柱が4本目から1本目まで順次倒れ、被災者の頸部及び胸腹が支柱の間に挟まれた。	30209	5	1～9
2012	2	10 ～ 11	雪処理場である埠頭にて、海水の水質検査業務に従事していた被災者は、バケツにロープを括り付け、海水を採取しようと岸壁の端まで移動したところ、岸壁に着いていた雪庇（40～80cmほど張り出していた）に乗ったため、雪庇を踏み抜き約2m下の海面に墜落した。なお、ライフジャケットは着用していなかった。	30199	10	1～9
2012	5	9 ～ 10	被災者は木造平屋の屋根の建て込み作業中、高さ約5mの梁の上に足を乗せ、母屋材を梁に釘止めしていたところバランスを崩し、左側面からコンクリート床に墜落、心臓破裂により死亡した。	30202	1	1～9
2012	8	10 ～ 11	被災者は鉄骨平屋建ての商業施設新築工事において、躯体外部の鉄骨部材の据え付け位置を微調整するため、地上から約5mの高さにある鉄骨部材に足をかけ、足をかけた鉄骨部材の上方の鉄骨部材のボルトを外したところ、バランスを崩し地面に墜落した。	30201	1	10～ 29
2012	9	14 ～ 15	雨水用排水路の改修工事において被災者らは、排水路のコンクリート床のはつり殻の掻き出し作業をしていたところ、取り壊し予定のなかった北側の側壁が倒れてきて、被災者が挟まれて即死した。なお、災害発生場所における南側の側壁は、前日までに取り壊しが完了して、はつり作業をしていた排水路はL字型の状態だった。	30107	5	10～ 29
			広告塔の看板を張り替える作業中、被災者らは広告塔に備え付けられ			

2012	10	13 ～ 14	<p>ていた設備（アルミ製のはしごを加工したもの）に乗り、看板の張り替えを行っていたところ、はしごの部材が破断したため同設備ごと地面に墜落し、うち1名が死亡した（地面から看板下端まで約15m）。なお、同設備は看板に設けられているレールにかけられた状態で設置されており、人力により水平方向に移動することができる。</p>	30209	5	1～9
2011	6	9 ～ 10	<p>平成23年6月27日9時頃、被災者は、個人邸宅の一面に設けられているプレハブ小屋のベランダに、既設の墜落防止用の囲いをメッシュ状のフェンスを取り替える工事に従事していたところ、3m49cm下の地面に墜落して頭を強く打ち、平成23年7月1日に死亡したものである。</p>	80209	1	1～9
2011	8	19 ～ 20	<p>ホテル新築工事現場において、2階床スラブ上で、ダクト工事のために約1.7メートル四方でスラブがはつられ1階天井材の鉄板（厚さ0.9mm）のみとなっていた個所を被災者が歩いたときに、当該鉄板が湾曲してできた隙間から3.8m下の1階に墜落したものの。</p>	30203	1	1～9
2011	11	9 ～ 10	<p>鉄骨造6階建てビルの解体工事現場において、1階部分の外壁を倒す作業を行う際に、外壁が倒れ込む区域に被災労働者がいたため、当該外壁に押しつぶされて被災したものの。</p>	30209	5	1～9
2011	3	11 ～ 12	<p>被災者と同僚の2名で「折りたたみ式現場事務所」を組み立てようと、垂直方向に折りたたまれた床（重量約250kg）を支えていたところ、同僚が基礎石を取りに行ったため、被災者1名で床を支えることになり、支えていた床が倒れかかり、被災者が床の下敷きとなったものの。</p>	30108	5	1～9
2011	5	14 ～ 15	<p>午後から、被災者ら6名は、ホッパー（7m×7m、深さ12.7m）内に固着した原料の除去作業を再開した際、被災者が、投げ入れたスコップが跳ね上がり、開口部分（直径1.2m、深さ6.1m）に落ち込んだため、上部から垂らした親綱につかまり、開口部の底部まで入って行った。スコップを拾い上げたのでほかの作業員が上部へ引き揚げていたところ、開口部分の周囲が崩壊し、生き埋めとなり、</p>	11001	5	10～ 29

			死亡したものである。			
2011	7	13 ～ 14	廃業した養豚場の飼料サイロ（FRP製、高さ5.2m）を解体する作業中、サイロの鋼製支柱を溶断した後、サイロを倒すために被災者がサイロの下部で溶断後の支柱をハンマーで叩いたところ、サイロが倒れ、当該サイロの下敷きになったもの。	30309	5	1～9
2011	12	11 ～ 12	岸壁に係留している新造船のWBT（ウォーターバラストタンク：海水を入れて船のバランスを取るタンク）内の塗装（スプレーガンによる吹き付け）作業をしていたところ、被災者が血を流して倒れているところを同僚が発見した。被災者が使用していたスプレーガンは、高さ約2.6mの位置にある船舶構造物（奥行約60cmの作業床）に置かれていた。目撃者はいない。	11501	1	30～ 49
2011	4	10 ～ 11	インターネットの光回線をアパートの1室に引き込むため、被災者が電柱に上がりワイヤー固定用の金具を取り付けた後、一旦地上に降りようとして、高さ4.64メートルから地上に墜落し、病院に搬送されたが死亡したもの。	30301	1	1～9
2011	3	13 ～ 14	汚水処理場の建設現場において、被災者は躯体上部の片付け作業を行っていた。地下に多数の貯水槽があることから、躯体上部には多数の穴が存在し、それらはベニヤ板等を使って塞がれていたが、何らかの理由で蓋がずれ、被災者が貯水槽（深さ約6m）内に墜落し、死亡したもの。	30199	1	1～9
2011	11	4 ～ 5	4直3交替に勤務する被災者は、一人体制の1直勤務（0時～8時20分）に就いていたが、午前4時30分の定時連絡後、午前7時30分に連絡が取れなかったため行方を探していた。午前9時頃、出勤してきた労働者が、工場に隣接する水路内でうずくまっている被災者を発見した。すぐに救急搬送するも、11月8日午前2時22分、頭蓋骨骨折、急性硬膜下血腫急性硬膜外血腫、脳挫傷により死亡した。	20309	1	50～ 99
		9	漁港内において、岸壁の投棄場から牡蠣殻を接岸した台船に積み込む			

2011	12	～ 10	作業を行っていたところ、被災者が海中から発見され死亡した。	40102	10	1～9
2011	1	～ 16	被災者は、ゴルフ練習場の外周に設けられたボールネット支柱の塗装工事に従事、高さ約3.6mの支柱の2.5m付近（現認者なし）に、支柱に設けられた梯子を使用し登っていたところ、支柱の1.2m付近に設けられた点検通路上に墜落、救急搬送後発生日夜に死亡したもの。 被災者は、塗装作業の経験は長いものの災害発生日前日に雇い入れられ、現場入場2日目であった。また当日、当該支柱での作業は予定されていなかった。	30309	1	10～ 29
2011	3	～ 12	ダムへ向かう通路橋上で定点写真を撮る作業を行っていた被災労働者が約3.2メートル下の川へ墜落し死亡したものである。	30199	1	50～ 99
2011	8	～ 12	当該事業場の荷受け場所である高さ8.8cmのホーム上を歩行中、突然転落し頭部を強打した。病院に搬送されたが3日後に死亡したものの。	80201	1	300 ～
2011	6	～ 15	被災者他1名で天井に撮影機材等を吊り下げるボルトの取り付け作業を行っていた。天井に穴を開け、被災者が天井裏に上がり下から差し込んだボルトの固定作業を行った。ボルトの固定作業が完了したので、天井裏から床面に降りようと、4.5センチ角の開口部から床面に設置しておいた脚立（高さ2.6メートル）に足を掛けて降りようとしたところ、足を踏み外し高さ3.3メートルの床面に墜落した。	30209	1	1～9
2011	1	～ 10	被災者は、おごえ川流末整備工事での排水を河川へ流す吐き出し口のコンクリート擁壁（1.9×2.0×0.45m 重量約3t 傾斜角63度）の製作において、コンクリート打設後の養生を終え、型枠の脱型作業を行っていたところ、当該擁壁が倒れ、その下敷きとなり被災したもの。	30106	5	50～ 99
			平成23年9月8日午後4時頃、A市に所在する会社が特定元方事業者として施工する分譲住宅No. 9新築工事現場において、同社より同			

2011	9	15 ～ 16	建築工事の建前工事を含む大工工事を請け負った建築会社の労働者が、2階壁部の筋交となる部材を建屋内から取り付ける作業中、筋交の部材と共に3.5メートル下の地上に墜落被災したもの。搬送先の病院にて同15日死亡した。	30202	1	1～9
2011	9	14 ～ 15	被災者は、事業場の屋上に設けられた排水口の清掃を行っていた。当該事業場は鉄筋コンクリート造の3階建てで、屋上階の東側が一部セットバックしており、セットバックした屋上部分には手すりが設けられているが、東側張り出した部分には手すりが設置されていない構造となっている。被災者は東側張り出した部分にある排水口の清掃を行うため、手すりを乗り越えたところ、地上（高さ9.28メートル）に墜落した。	80109	1	1～9
2011	12	23 ～ 0	平成23年12月4日午後11時40分頃、A社の経営する店内で接客中、着ぐるみの衣装に着替えるため席を離れ、店内の入り口付近から通じるベランダに出て、カゴに入っていた着ぐるみ用のつなぎの衣装を取り出し、衣装を身に付ける際、誤ってベランダの落下防止用の擁壁を越えて1階地面まで墜落したものである。	140209	1	30～ 49
2011	6	10 ～ 11	個人住宅のブロック塀の解体工事において、当該工事を請負った事業場の代表者が、下請け労働者1名（被災者）と2人で作業を行っていたが、高さ145cm、幅176cm、厚さ15cm、重量680kgのブロック塀の基礎部を代表者がチップングハンマーで斫っていたところ、当該ブロック塀が倒れ、近くでコンクリートがらを集積していた被災者がその下敷きとなった。	30209	5	1～9
2011	9	19 ～ 20	2名の労働者が乗車した事業場所有の送迎車が工場に受かって走行していたところ、台風のため道路が渋滞しており橋の上で停車した。両労働者は送迎車から降車し、徒歩で工場に向かっていた際に、車道橋に併設している歩道橋に移ろうとして両労働者が車道橋の欄干（高さ約1m）を乗り越えたところ、車道橋と歩道橋は約50cm離れていたため、その隙間から約5m下（台風により増水）の川に両労働者が	10805	1	30～ 49

			墜落したもの。			
2011	8	13 ～ 14	橋梁上部工工事において橋桁間をアングルで固定する作業中、レンチでアングルを固定するボルトを締めていた時にレンチがボルトから外れ、その反動で身体のバランスを崩して橋桁から約8メートル下に墜落し、その7時間後に脳挫傷で死亡したもの。	30105	1	30～ 49
2011	1	18 ～ 19	コンテナ船内において、ラッシング・ブリッジ歩廊上で積荷コンテナの固定具（ツイストロックピン）の解除作業を行っていたところ、5. 3 m下の船舶デッキ上に墜落したもの。	50202	1	30～ 49
2011	2	13 ～ 14	R C壁柱（プレキャストコンクリート（P C）板（サイズ2 5 4 0 × 8 8 0 × 2 0 0 mm、重量9 8 0 k g）をスリット状に建て込む構造の不連続壁）を築造するため、P C板を据え付け、控えサポートを設置後、クレーンの吊りワイヤロープの玉外しをしたところ、P C板が倒壊し、近くで次のP C板の建て込み準備作業をしていた被災者が下敷きとなったもの。	30201	5	30～ 49
2011	3	17 ～ 18	建物改修工事において、現場作業終了後に施工状況や建物の施錠確認などを行っていた被災者が、建物屋上に設けられている天窓を踏み抜き、9. 5 mの高さから墜落し、死亡したもの。	30209	1	1～9
2011	4	8 ～ 9	港湾倉庫に設置されるコーン等の穀物飼料が保管されているコンクリート製サイロ（3 m × 4 m 深さ5 m）内部において、飼料の増量保管する空間を確保するため、作業員3名で砂山状に堆積された穀物飼料を均していたところ、別作業員が当該飼料をサイロから取り出すために下部排出口を解放したため、内部にいた1名は梯子につかまり無事であったが、他の2名が流出する当該飼料に飲み込まれ、埋没し胸部圧迫により死亡したもの。	50101	1	10～ 29
2011	4	8 ～	港湾倉庫に設置されるコーン等の穀物飼料が保管されているコンクリート製サイロ（3 m × 4 m 深さ5 m）内部において、飼料の増量保管する空間を確保するため、作業員3名で砂山状に堆積された穀物飼料を均していたところ、別作業員が当該飼料をサイロから取り出すた	50101	1	10～

		9	めに下部排出口を解放したため、内部にいた1名は梯子につかまり無事であったが、他の2名が流出する当該飼料に飲み込まれ、埋没し胸部圧迫により死亡したものの。			29
2011	11	14 ～ 15	平成23年10月23日に発生した地震の被害調査と救助活動を行うため、10月26日から現地で活動をしていたところ、平成23年11月9日夜に、トルコ東部で発生したM5.6の地震により宿泊していたホテルが倒壊。救出されたものの病院に搬送中に死亡したものの。	170209	5	
2011	7	21 ～ 22	中国出張中、滞在先ホテル前において車から降車し歩き出した所、スロープ脇のブロックにつまずき頭を強打した。現地の病院に搬送されたが、平成23年7月13日午前0時25分に死亡した。なお、平成24年2月に業務上として労災認定したものの。	80109	2	50～ 99
2011	6	8 ～ 7	現場管理責任者として建物を巡回している途中で、9階建て建物の屋上から1階の植栽内へ墜落した。	150101	1	300 ～
2011	8	23 ～ 0	駅のエスカレーター設置のための土木改良工事における、地上から地下階への階段通路の側壁をウォールソーで7つに切断されたコンクリート塊を移動式クレーンでつり上げて搬出する解体作業において、側壁のうちコーナー部分のコンクリート塊をワイヤで玉掛けし、移動式クレーンでつり上げようとしていた時、隣のコンクリート塊（重量3.8トン）が倒れ、退避していた玉掛け者が下敷きになった。	30199	5	10～ 29
2011	3	17 ～ 18	被災者は飼料運搬車（タンク車）で飼料を配送する者であるが、配送先にある高さ5.5メートルのサイロ下の地面でうつ伏せに倒れているところを発見された。	40302	1	10～ 29
2011	6	16 ～ 17	運動施設の立木の枝打ち作業にあたり、刈った枝を手作業で運搬していたところ、何等墜落防止措置を講じていなかったことから、高さ702cmの擁壁上から地面に墜落し、死亡したものの。	60101	1	1～9
			工場建屋内のピット床面から6m上方に据え付けられた製品として製			

2011	11	16	作中のコンプレッサーの性能確認テストのため、当該コンプレッサーの下部の鉛直方向にテスト用送風配管（φ 2 m× L 4 m）を取り付ける作業の一環として、取り付け箇所に足場を組み立てていた際に、足場上方 2 m のコンプレッサーの架台から足場に降りようとした被災者が足場上に転落し、そのはずみで、足場の端の開口部から、6 m 下方のピット床面に墜落した。	11301	1	1～9
2011	3	9 10	伐採した枝の片付け作業を命じられた被災者が、コンクリート擁壁上で付近に落ちている枝を集めていたところ、約 4 メートル下の町道に墜落し、死亡したものの。	140101	1	50～ 99
2011	8	15 16	壁面の A L C ボードの取り外し作業の後、H 鋼の枠により自立していた鉄製の開閉扉の固定状態（上部 H 鋼溶接不十分）が不安定であり、また下部溶接部も簡易なもので経年劣化していたため、4 人の人力により早急に取り外しを行おうと、2 人が枠組みの両脇を支え、1 名が徐々に力を加え枠組みごと溶接部より切り離し体育館床に押倒そうと降下させていたところ、急に下部溶接部が切り離れ、反対側で支えていた労働者の上に崩落したものの	30201	5	10～ 29
2011	4	15 16	被災労働者は震災で破損した倉庫側壁の補修を行うため、昇降設備を使用せず自動倉庫のラックを上ろうとしたところ約 5 m 下のコンクリート床面に墜落し死亡したものの。	30309	1	1～9
2011	1	13 14	気象観測用鉄塔を上部から約 4～6 m づつに切断しての解体作業中（当初高さ 216 m、災害発生時高さ 56 m）、被災者は高さ 50 m に位置する踊り場において U 字つり専用安全帯を直径 30 cm の鉄柱に回し鉄骨等の溶断作業に従事していたが、その鉄柱にクレーンで吊るためのシャックル通し穴を加工中、溶断時に発生する溶解した鉄の滴が安全帯のランヤードのロープ部にかかり、その熱がロープを浸食し切断、地上に墜落したものの。	30201	1	10～ 29
			震災で破損した原炭槽を増設する工事において、原炭槽（高さ 18 m）の最上部に生じていた開口部（長さ 2.5 m×奥行 65 cm）を			

2011	11	17 ～ 18	足場板で養生する作業中、開口部上に並べた足場板を番線で結束していたところ、被災者が足を掛けていた足場板がずれて外れ、足場板と共に約17m下の槽の底に転落した。被災者は安全帯（一方は2丁掛け用の補助ロープ）を使っていたが、取付元をカラビナに接続しており、墜落時の衝撃で外れた。	30203	1	1～9
2011	12	15 ～ 16	建築中のメタン発酵槽コンクリート躯体に設け、コンクリート打設したメンテナンス作業架台（庇状のコンクリート構造物のもの）の脱型のため、パイプサポートを外し1名が構造物の上で、1名が下で型枠材を取り外していたところ、アンカーボルトが躯体から抜け構造物が落下、その下敷きになった。	30201	5	1～9
2011	5	8 ～ 9	店舗の害虫防除を行っていた被災者が、同店舗の屋根（高さ約4m）から墜落したものの。	80409	1	10～ 29
2011	6	14 ～ 15	東日本大震災により一部倒壊した擁壁（石垣上にコンクリートブロックを積み上げたもの）の補強工事現場において、擁壁の根元から約0.6メートル離れた床堀箇所にはいた被災者が、倒れてきた石垣及び土砂の下敷きとなったもの。被災時の被災者の作業内容は不明であるが、床堀箇所において、敷き均した碎石の手直し又は確認作業を行っていたものと推定される。	30199	5	10～ 29
2011	12	12 ～ 13	木材チップ工場において、のこ屑をサイロからトラックに積み込む作業中、のこ屑の出が悪くなり、被災者はサイロ内壁に堆積しているのこ屑をフォークで掻き落とすためサイロ上部に上った。被災者が戻ってこないで同僚が見に行ったところサイロ内にはおらず、13時過ぎにトラック荷台ののこ屑の中に埋もれているところを発見された。	40301	1	10～ 29
2011	12	14 ～ 15	電波塔のアンテナ及びケーブル線撤去工事現場において、高さ約30mの箇所から墜落した。	30301	1	1～9
			汚泥等を乾燥させるプラントのオペレーターである被災者は、濁水を			

2011	11	20 ～ 21	貯留しておく調整池で溺死しているのを発見されたもの。当該調整池の周囲には高さ約1.5メートルの鉄製フェンスが設置されている。被災時の目撃者はいない。	150102	10	10～ 29
2011	6	10 ～ 11	被災者は砂利プラントの原石ホッパーに川砂利を投入する作業をトラクターショベルを使用して一人で行っていた。製品である砂利が出てこないと同僚から報告を受けた工場長が原石ホッパーを見に来たところ、ホッパーの底部排出口から両足が出ている状態の被災者を発見した。被災者はすぐに救助され病院へ搬送したが、窒息により死亡したものの。	20202	1	1～9
2011	6	13 ～ 14	小麦貯蔵施設において被災者はダクト配管等のメンテナンス作業に従事中、排熱ダクト上にある集塵ダクトのファンを取り外そうと、ボルトを外すため集塵ダクトに覆いかぶさりボルトにスパナを掛けようとしたところ、集塵ダクト側のボルトは取り外し済みで固定されていなかったため、覆いかぶさっていた集塵ダクトが折れて、バランスを崩し、排熱ダクト横の開口部から17.7m下のコンクリート製地面まで墜落したものの。	170209	1	10～ 29
2010	12	8 ～ 9	工場出入り口の鋼鉄製大型シャッター（幅5.7m、高さ4.3m、電動ホイスで鋼鉄製の約500kgの板を吊り上げる方式）のワイヤロープが経年劣化による摩耗により切断し、自重によりシャッターが落下した。この際、下にいた被災者がシャッターと地面の間に挟まれ死亡したものの。	11301	4	10～ 29
2010	12	12 ～ 13	排水処理施設において、被災者は水質の検査等の作業を行っていたところ、誤って流量調整槽内を点検するための点検口（通常は蓋がされており、点検時に開放する開口部）から墜落し、溺死したものの。流量調整槽の深さは約5mで、災害発生時は約2mの水深があった。	150103	1	10～ 29
			スキーリフトの山頂監視小屋において2名でリフト利用客の監視業務を行った。営業終了後、監視小屋周辺の整備作業を終え、リフト点検			

2010	12	15	を兼ねて山麓まで降りるために、先に別の監視員がステージから下り	140309	1	100
		16	リフトに乗った後、被災者は次の下りリフトに乗ったが、何らかの理			～
			由により再びステージへ降車しようとしたため、そのまま当該リフト			299
			に押されて、高さ約5mの下の地上に墜落したものの。墜落した箇所につ			
			いては雪はなく砂利だった。			
2010	11	19	工場長が帰宅の際、敷地内にエンジンがかかったままの委託会社の生	40301	1	1～9
		20	コン車を発見し、運転手を探したところ、ボイラー室地下の受水槽に			
			墜落している被災者を発見したものの。			
2010	11	14	窓ガラスを清掃するため、当該建物屋上（高さ約24m）に吊り下げ	150101	1	30～
		15	器具を設置し、吊り下げ用ロープにチェアを吊り、窓ふき作業を実施			49
			していた。清掃場所を移動するため2名で吊り下げ器具を移動させた			
			後、吊り下げ器具の固定をするための親綱を張っていたところ、背後			
			で声がしたため、振り返って確認したところ、パラペット付近にいた			
			被災者が、吊り下げ器具とともに地上に墜落していた。吊り下げ器具			
			のカウンターウエイト（作業時のバランス用、約60kg）を取り付け			
			ていなかった。			
2010	11	10	地上10階建てマンションの外壁改修工事前調査で共用廊下から	30209	1	100
		11	外壁の状態を診断中、建物内から地上の駐車スペースに墜落し、死亡			～
			したもの。なお、墜落直前の被災者位置は不明。			299
2010	10	16	ダム湖流芥処理作業中、流芥を囲い込んだ捕獲網羽（流芥回収用の網	30199	10	1～9
		17	で、円周約50m）を作業ヤードに係留するため、被災者が手鉤付き			
			竹竿で網羽に接続したロープを引っかけて手繰り寄せようとしたとこ			
			ろ、足を滑らせて路肩から水中に転落して溺死した。			
2010	10	9	車庫内から電動シャッター（高さ4m、幅8m）をくぐり出ようとし	40301	7	30～
		10	たところ、同シャッターとコンクリートの地面に胸部を挟まれたも			49
			の。同僚が発見し救急搬送したが、死亡が確認された。			
2010	9	11	9階建ての建築物の解体工事において、屋内のコンクリートブロック	30209	5	100
			製の壁の解体作業中、壁の床に取り付けられていた横木を取り外した			～

		12	ために同壁が倒壊し、壁の下敷きとなった。			299
2010	9	11 ～ 12	傾斜地において、清掃作業を行っていたと推定される被災者が、当該傾斜地で転倒し、斜面を転がって下部の擁壁上（垂直高さ2m20cm）から敷地外の歩道に墜落したものの。	170209	1	10～ 29
2010	9	13 ～ 14	高さ1.1mのセメント用サイロの上部から地上のコンクリートに墜落したものの。サイロの上部には高さ1.1mの手すりが備わっていたが、監視カメラの位置を調整していた際に何らかの原因で手すり部分から墜落したものである。	10901	1	10～ 29
2010	9	13 ～ 14	被災者が鉄塔の作業床を解体する作業を行っている際に、作業床の端から安全帯と共に、約2.5m下の建築物屋上に墜落し死亡したものの。被災者使用の安全帯は、キーロック仕様の胴綱に接続していたものの、胴綱ごと墜落したものの。	30201	1	10～ 29
2010	9	6 ～ 7	被災者は早朝に出勤し、機械の日常点検に出かけたが、出荷時間の20分前になっても事務所へ戻ってこなかったため、工場長代理が携帯電話に連絡したが通じなかったことから、工場内を探したところ、シクナー（凝集沈降槽）の1次槽内に転落している被災者を発見したものの。前日に修理したポンプのホースを点検しようとした際に転落したとみられる。	10901	10	1～9
2010	9	9 ～ 10	建屋解体工事において、ドラグショベルを使って屋内の居住スペースのコンクリートブロック壁を解体作業中、運転士（現場代理人）の指示でコンクリートブロック壁に立てかけてあったバールを取りに行き、ブロック壁に背を向けて前方へ移動していた際、後方から3列1.2段積み（幅1.18m、高さ約2.3m）のブロック壁（内部の鉄筋が少ない）が倒壊し、被災者はうつ伏せの状態の下敷きとなったものの。	30209	5	1～9
2010	9	10 ～	ホテル内の高さ約4.3mの中庭において、樹木の剪定ででた枝葉等をかき集め、高さ約3mの新館通路上でゴミ袋に入れる作業を終了し、中庭に戻ろうとしていた被災者が、地面に墜落し、頭部打撲し	140101	1	50～

		11	た。その後、入院加療中であつたが、約10日後に死亡した。墜落防止措置がなされていなかった。			99
2010	8	9 ～ 10	法面工事で、コンクリート吹き付けに使用する機材（圧送パイプ等）を現場に搬送する作業中、休憩のためコンクリート製の壁（既設の構造物で、被災者が通行していた通路から高さ約60cm）の上に腰かけたときに、後ろ向きに転倒して、約5.9m下の道路に墜落した。	30199	1	1～9
2010	8	14 ～ 15	ガソリンスタンド解体工事において、敷地境のブロック塀を解体していた。4次請負労働者2名が手持ちのブレーカーでブロック塀（長さ約13m、高さ約1.3m）の下部をはつり、3次請負労働者1名がむき出しとなった内側の鉄筋の溶断を行っていた。13mのうち約11mまではつりと溶断が済み、残りをはつっていた際、ブロック塀全体が自立できなくなって手前に倒れ、はつり作業中の1名が死亡、同じく1名が負傷したもの。	30209	5	1～9
2010	8	11 ～ 12	病院の内装工事で撤去しようとしていた壁（コンクリートブロックを積み上げモルタルで固めたもの。一部に鉄筋が入り）が天井から離れて下に垂れ下がってきたので、その壁を被災者他4名で支えようとしたところ、壁が突然作業側側に倒れてきて、被災者が倒れてきた壁に激突されて死亡したもの。	30201	5	10～ 29
2010	8	9 ～ 10	中学校の屋上防水工事で、ロール状（1m×16m）の防水シートを貼る作業において、これにより発生する接着面をカバーしていた、剥離紙の片付け、たたみ作業を後退しながらしていた被災者が、屋上（高さ16.2m）の端に気が付かずに端から墜落し死亡した。	30209	1	10～ 29
2010	8	10 ～ 11	被災者は6階建ビルの窓拭き作業のため、屋上において、ビル外壁を下るための「ブランコ（通称）」を取付けるメインロープを盛り替える途中、何らかの原因で屋上から22.3m下の当該ビルのアスファルト駐車場に墜落したもの。	150101	1	1～9
		8	公共施設の定期清掃において、2階の外部の窓清掃を行っていた被災			100

2010	7	9	者が高さ約4.7mから転落したものの。墜落防止措置を講じていなかった。	150101	1	～ 299
2010	7	9 ～ 10	携帯電話用基地局の点検作業のため、被災者を含む2名がアンテナの鉄塔に昇り、最上部での点検を終え、次の点検箇所である高さ約10m部分の鉄塔接続部まで被災者が先に降りながら写真撮影を行っていたところ、地面に墜落したものの。U字つり用安全帯を掛け替える時に、1本つり用安全帯を掛けずにU字つり用安全帯を外したためとみられる。	30301	1	10～ 29
2010	7	9 ～ 10	道路側溝整備工事のため、民家のコンクリート壁（高さ約2m、厚さ約30cm）の下で、道路側溝部分の床堀作業を労働者5名で行っていたところ、コンクリート壁裏の土砂ごと長さ約10mにわたって崩れてコンクリート壁が倒壊し、労働者2名がコンクリート壁の下敷きとなり、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。なお、現場代理人の話では、床堀は深さ60cm、幅80cm、コンクリート壁の根入れは20cmであったとのこと。	30106	5	1～9
2010	7	9 ～ 10	道路側溝整備工事のため、民家のコンクリート壁（高さ約2m、厚さ約30cm）の下で、道路側溝部分の床堀作業を労働者5名で行っていたところ、コンクリート壁裏の土砂ごと長さ約10mにわたって崩れてコンクリート壁が倒壊し、労働者2名がコンクリート壁の下敷きとなり、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。なお、現場代理人の話では、床堀は深さ60cm、幅80cm、コンクリート壁の根入れは20cmであったとのこと。	30106	5	1～9
2010	7	15 ～ 16	倉庫内の棚から必要な板（幅91cm、高さ182cm）を取り出す作業を行う際、その前に立てかけてあった同サイズのコンパネ等合計9枚（以下「材」）が邪魔になったため、被災者が立てた状態で支え、同僚作業者が材の奥に位置する棚から必要な板を取り出そうとしたところ、被災者が材を傾け過ぎて支えきれなくなり、被災者方向に倒れて転倒し、右足を材とコンクリート床面との間に挟まれ、頭部を	30202	2	1～9

		床面に打ちつけ死亡した。				
2010	7	10 ～ 11	農業集落排水施設の中継ポンプ槽の保守点検のため、道路に設置されているマンホール内部の堆積汚泥等をバキュームした後に、内部にあるフロートをマンホールの外に引き上げるため、被災者は、マンホールに常設されているタラップにて、内部に降りていった。その際に3.5m下のマンホールの底に転落し、救出され病院に収容されたが、汚水を飲み込んだことにより肺に炎症を起し、数日後に死亡した。	150109	1	1～9
2010	6	10 ～ 11	生コンクリート製造工場において、砂貯蔵用タンクの排出口が砂の塊で詰まったため、タンク内で作業員4人が同箇所の砂を掘り、片寄せしていた。その後、作業員2人がタンク内にいる状態で、別の作業員らがタンク外にある排出口のホッパー内をはつり機で突いていたところ、急に詰まりが取れ砂が流出したため、被災者が砂で埋まり、圧死したもの。	10901	1	30～ 49
2010	6	16 ～ 17	被災者は、木造2階建ての倉庫解体工事において、2階床を解体することから床部分の根太材をチェーンソーを使用して切り込み作業をしていた。2階部分の床が残っている箇所で小休憩後、再度被災者が作業を行っていた場所での作業再開時に、切り込みを入れていた床部分の根太材に足をかけたところ（推定）、当該床部分の根太材が折れ、3.9m高さから墜落し死亡した。防網等の墜落防止措置を講じていなかった。	30209	1	10～ 29
2010	6	13 ～ 14	被災者が、下請作業員1名とともに、船体ブロック（幅約2m、長さ約10m、7t）をジブクレーン（40t吊り）にて吊り上げ、反転作業を行っていたところ、吊り上げていた同船体ブロックの仮止め溶接した吊りピースが破断し、同船体ブロックが落下、落下地点に置いてあった鉄板鋼材（補強材）が跳ね飛ばされ被災者を直撃したもの。船体ブロックは、片方を溶接で2か所ピースを取り付け、もう一方をクランプで2か所保持して吊り上げていた。仮止め溶接が不十分で	11501	4	10～ 29

			あったとみられる。			
2010	6	14 ～ 15	鉄骨・コンクリート造の工場解体工事現場において、地上から高さ約5 mの鉄骨の梁を溶断するために、解体用建設機械のアタッチメント（鉄骨カッター）の上に労働者が乗って（用途外使用）溶断を行っていた際、家屋上部から落下物（コンクリート片）が溶接中の労働者に当たったため、バランスを崩して約3 m下の地面に頭から墜落した。作業計画とは異なる解体方法であった。	30201	4	30～ 49
2010	6	9 ～ 10	木造2階建家屋の2階ベランダの高さ105 cmの既設の柵内において既存の防水シートをはがす作業を行っていた際に、何らかの理由で既設の柵の外から337 cm下の地上に墜落し、死亡したものの。安全帯を着用する等、墜落防止措置を講じていなかった。	30209	1	1～9
2010	6	7 ～ 8	事務所において、前日からの勤務を退社することなく継続していた労働者が、翌朝に同事務所の5階喫煙室で同僚労働者と喫煙していたが、その20分後、地上で倒れているのを発見された。喫煙室窓から転落したと推定される。	11109	1	1001 ～ 9999
2010	5	15 ～ 16	被災者は単独で建材倉庫内において廃材の分別、廃棄作業中、倉庫内の柵さんに足をかけた際、高さ82 cmから墜落し、コンクリート面に頭部を打ちつけ死亡したものの。	80101	1	10～ 29
2010	5	12 ～ 13	被災者は、砂利搬送用コンベヤーのスナップローラー交換作業のため、骨材ビンの上部の鉄骨上で作業を行っていたところ、当該骨材ビン内の砂材料上に墜落した。当該骨材ビンは運転中で、骨材ビン下部から砂材料が放出されることによって、しだいに被災者が砂材料に深く埋もれていき、窒息死した。開口部への転落防止対策が講じられていなかった。	10901	1	10～ 29
2010	5	16 ～ 17	タンクに附随する配管を撤去する作業において、被災者は、隣にある混合槽（4×4 m、高さ4.5 m）を覆っている木製板の蓋の上を渡り、当該槽の上部で撤去作業を行っている作業員に工具を渡した直後、木製板が割れ、水槽内に墜落したものの。安全帯を使用していな	30309	1	10～ 29

			かった。			
2010	5	16 ～ 17	浄水場のろ過池の土手法面に放置していた塩ビ管（直径100mm、長さ約50m、重量約180kg）を移動式クレーンを使用して、法面の下方にあるよう壁上部の平坦な箇所を下ろす作業を4名で行い、被災者が塩ビ管に通してあったスリングを塩ビ管の端から外す作業をしていた際に、塩ビ管全体がよう壁から落下した。この際、よう壁が狭いため近くにいた被災者が足元をすくわれ、塩ビ管とともに高さ2.4mのよう壁上から墜落した。病院に搬送されたが、翌日死亡したものの。	170209	1	10～ 29
2010	4	15 ～ 16	高さ約50mの鉄塔の上部の作業床にて、アンテナの取り付け作業を行っていたところ、昇降口付近から墜落した。安全帯を使用しておらず、昇降口に手すり等が設置されていなかった。	30301	1	10～ 29
2010	4	14 ～ 15	航空機格納庫内で、格納庫大扉を稼働しながら扉の不具合箇所を確認していたところ、当該大扉と躯体側鉄骨とに挟まれたもの。なお、被災者は2日間の予定で、本件被災地付近で行われていた別件の機械修理作業を行っていたところ、急遽、依頼を受けて、本件作業に従事していた。	11702	7	30～ 49
2010	4	9 ～ 10	災害発生場所の伐出作業現場において、雑役を行っていた被災者が林道から5.4m下の沢へ墜落し、病院へ搬送されたが死亡したものの。	60201	1	10～ 29
2010	4	10 ～ 11	都市高速道路の橋脚上端付近で橋桁連結部分の錆び取り及び補修作業を終え、現場から離れようとしたところ、2次下請会社の労働者が約9m下の川に墜落したものの。病院に搬送されたが、死亡が確認された。	30106	1	10～ 29
2010	4	15 ～	14階建てワンルームマンションにおいて、本来労働日でない金曜日に、清掃作業員である被災者が14階共用外部廊下（高さ39m）より墜落し死亡したものの。目撃者はいなかったが、14階共用外部廊下の風よけガラスが設置してある箇所に、管理室の折りたたみ椅子と清	150101	1	1～9

		16	掃用ウエスがあったことから、風よけガラスの上部を清掃作業中にバランスを崩し、墜落したと思われる。			
2010	4	14 ～ 15	被災者は、公民館のアンテナ取替え作業において、部下1名と屋上棟屋に設置されているアンテナのポールをパラペット上で切断作業を行っていた時、高さ3.5mの屋上に墜落したものである。	80209	1	50～ 99
2010	3	16 ～ 17	被災者は、鉄骨造家屋新築工事において、高さ6.25mの梁の上でプレートの取り付け作業を行っていたところ、足を滑らせて同所より墜落し、首を損傷した。病院に搬送され治療を受けていたが、2カ月半後に死亡した。なお、作業箇所には足場や防網、安全带取付設備等は設置されておらず、安全带も使用されていなかった。	30201	1	10～ 29
2010	3	11 ～ 12	被災者は、スポーツセンター内の体育館天井裏にて、漏水調査の作業を行っていたところ、バランスを崩して天井裏の梁の上から落ち、天井板とともに12.5m下の体育館床に墜落した。本作業は、以前に行った防水工事の保証期間中であり、発注者から保証の対象となるかどうか調査の依頼を受けて、事前調査として行った出張作業中に発生した。	30201	1	10～ 29
2010	2	14 ～ 15	上屋の改修工事現場において、ガス溶断により空調ダクトの撤去作業中、当該空調ダクト上（高さ約3.6m）でガス溶断していたところ、ダクトが一部崩壊し足元が崩れる形で墜落し、その際に後頭部を強打したとみられる。現認者はおらず、被災者が倒れうめき声をあげているのをたまたま現場巡視していた元請けの労働者が発見した。病院搬送されたが約12時間後に死亡した。高所作業であるが作業床を設けず、また安全带を使用していなかった。	30209	1	10～ 29
2010	2	11 ～ 12	屋内立体駐車場内部足場の解体作業中、他の労働者とともに巻上げ機を使用して解体した足場の材料をつり降ろす作業を行っていた被災者が、躯体の梁上でかいしゃくロープを持っていたところ、約35m下の1階床面まで墜落した。	30201	1	1～9

2010	1	13 ~ 14	2階建て個人住宅新築工事現場において、大工ら6名で建前作業中、他の大工が並べた構造用合板の2階床板をはめ込む作業をしていた時、固定されていない床板に足を乗せたところ、当該床板が外れて床板とともに、高さ3.27m下の1階コンクリート基礎部へ墜落した。	30202	1	1~9
2010	1	17 ~ 18	客先の油圧式カーリフター（積載荷重2500kgのエレベーター）の月次点検作業で、カーリフターの搬器に乗り、搬器を上昇させながら身を乗り出してガイドレールへのグリース塗布及び状況確認を行っていたところ、ガイドレール支持塔頂部を繋ぐ梁と搬器の鉄柵（高さ1.4m）の間に挟まれた。非常停止ボタンを押したが間に合わなかった。	80209	7	30~ 49
2010	1	10 ~ 11	粃殻庫で1人作業中、粃殻の状況確認のため粃殻倉庫内部を移動中、粃殻の少ない箇所へ転落し、反動で粃殻が崩れて粃殻に埋まり、多量の粃殻を吸引し窒息したと思われる。	70101	1	1~9
2010	1	7 ~ 8	RC造5階建ての共同住宅新築工事現場において、元請の職員が屋上のパラペットから約15m下の地面に墜落した。当日は関係会社を実施する建物検査が予定され、被災者はその準備のため、竣工した建物の点検・清掃業務を行っていたと思われる。	30201	1	10~ 29
2009	2	9 ~ 10	村道の排水溝設置工事において、掘削箇所に近接した民家の既設ブロック塀の倒壊防止のため、ブロック塀をベニヤ板と単管パイプ、木材（棒）で支えていたが、排水溝設置のため、被災者が掘削箇所において準備していたところブロック塀が倒壊し被災者は下敷きになった。	30110	5	1~9
2009	1	16 ~ 17	護岸工事において、間仕切り壁（上辺4.8m、底辺6m、高さ2.5m、厚さ0.28m、重量10t）の型枠解体作業中、間仕切り壁が倒れ、解体作業中の被災者が下敷きとなった。	30107	5	10~ 29
			朝礼終了後、同僚作業者は被災者の姿が見当たらないため捜したところ、午前9時過ぎ頃事業場敷地内にある生コンの原料（細砂）を投入す			

2009	8	8 ～ 9	るホッパーの下部に取り付けられた空け口から被災者のゴム長靴が一部出ているのを発見した。このため、消防署に連絡し救急隊が当該ホッパー内の細砂を取り除いたところ、生き埋めとなっている被災者を発見し、病院に搬送したが死亡が確認された。	10901	1	30～ 49
2009	12	16 ～ 17	高等学校の校舎改築に伴う鉄筋コンクリート造3階建の校舎解体工事中において、被災者は2階でドラグ・ショベルを使用しての廃材集積作業等が終了した後、校舎西側の既存階段を当該ドラグ・ショベルを運転して通り、1階へと降りる途中に1階床へ当該ドラグ・ショベルとともに転落し、当該ドラグ・ショベルと校舎の壁にはさまれた。	30309	1	1～9
2009	2	16 ～ 17	小学校教室棟2階トイレにおいて、高さ1.7mの枠組足場上で鉄製ハンマーを使用して、パイプスペースの間仕切りブロック壁を解体作業中、ブロック壁が崩壊し、その反動で足場からコンクリート床まで墜落し、身体を床の段差の角で強打した。	30209	1	10～ 29
2009	12	13 ～ 14	RC造地上7階建てマンション新築工事中において、被災者は屋上の防水工事を2次下請、3次下請の作業員4人と共同で行っていた。施工内容は、ボンドで長さ10m、幅1.2mの塩ビシート（防水シート）を貼り付ける作業で、屋上平面部分を施工後、パラペット立ち上がり部分を施工するため、被災者は塩ビシートを後ろ向きに歩きながら並べていたところ、背後のパラペット部に気付かず、20m下の地面に墜落した。	30201	1	1～9
2009	12	14 ～ 15	被災者は同僚3人と共に、窓ガラスの清掃作業等に従事していた。被災者は中2階の外側車庫の庇の上（高さ3.2m）から、窓ガラス外側清掃用の専用ブラシ（タッカー）で3階部分の外側のガラス（高さ5.1m）を清掃していて車庫の庇上から墜落した。庇には手摺り等が設置されておらず、作業にあたり墜落防止措置や安全帽も着用していなかった。	150101	1	1～9
2009	3	12 ～	被災者は、御神牛の調教業務のため、事業所から御神牛が預けられている家に赴き、御神牛の調教を行った。調教を終えた後、家玄関部にて転倒し負傷した。その後、ふらつきながら歩行中、再度転倒して庭	170209	2	100 ～

		13	先の物干し竿土台コンクリートで身体を損傷して被災した。なお、被災時は一人作業で目撃者はおらず、通りかかった近隣住民が救急隊に通報し、搬送先の病院で死亡した。			299
2009	2	11 ～ 12	木工場内に設置されているリングバーカー（皮むき機）の丸太受鉄枠台のH鋼に膝をのせた状態で仰向けに倒れている被災者が発見された。被災者の体の上には、約4mの材がのっていた。	10401	2	10～ 29
2009	10	19 ～ 20	営業担当者が、営業先の近くの敷地に駐車をして歩いて営業先に向かっていた。敷地と道路の間の側溝（深さ1.5m）に転落しているのを発見された。	80209	1	50～ 99
2009	6	13 ～ 14	コルゲートタンクの架台をジャッキで支持して、作業者が1人で架台の鉄骨部材の受架台取替作業を行っていたところ、タンク底部の鉄製排出口が突然抜け落ち、一気に大量の砂が流出し、生埋めとなった。直後に被災者が助けに入ったところ、再び流出した砂に埋もれた。	30209	5	10～ 29
2009	6	13 ～ 14	コルゲートタンクの架台をジャッキで支持して、作業者が1人で架台の鉄骨部材の受架台取替作業を行っていたところ、タンク底部の鉄製排出口が突然抜け落ち、一気に大量の砂が流出し、生埋めとなった。直後に被災者が助けに入ったところ、再び流出した砂に埋もれた。	30209	5	10～ 29
2009	12	15 ～ 16	高圧受電設備移設工事現場において、現場責任者であった被災者が、本件工事で移設するキュービクル（屋根までの高さ2.6m）の上に上がり、キュービクルに電線を引き込んでいた電柱の電線の行き先確認を目視で行っていた時、コンクリート打設された地上に墜落した。安全帽、安全帯を着用していた。	30301	1	10～ 29
2009	1	19 ～ 20	被災者は、踏台に上がり酒母タンク内の仕込みの状況を確認していたところバランスを崩し醸造タンク内（タンク内もろみの深さは約1m）に転落して被災した。	10105	1	1～9
2009	2	13 ～ 14	鉄骨造の工場施設の建設工事において、高さGL19.6mの箇所鉄骨に胴縁を取り付ける作業をしていて約11.8m下の2階の床に墜落した。作業床はなく、取付中の胴縁を足掛かりとして作業をしていた。	30201	1	1～9

2009	7	9 ~ 10	生コンクリートプラント解体現場において、被災者がバッチャープラント最上層で骨材導入部の大型ベルトコンベヤーの縁切りのためガス溶断作業をしていたところ、同ベルトコンベヤー溶断部が下方に傾いた。ガス溶断作業を中断し、当初予定を変更、ワイヤロープをかけて圧碎機で引いて折り曲げるべく段取りを始めたところ、同ベルトコンベヤーが大きく傾き、安全帯のランヤードが切れて被災者は約19mの高さから墜落した。	30309	1	30~ 49
2009	2	10 ~ 11	木造建築物の解体工事現場において2階外壁撤去作業中、軒桁が壁つなぎの上に落ちていたため、被災者は軒桁を撤去しようと高さ約3mの位置にある庇の辺りから軒桁にワイヤロープを掛けようとしたところ墜落した。	30202	1	30~ 49
2009	9	16 ~ 17	高速道路情報板設備更新工事において、情報板基礎部分のアンカー打設後の引抜き試験終了後、作業員5人で作業場所から工事用車両駐車場に一列で移動していた。その際、先頭を歩いていた作業員が脚立撤去を思い出し戻ろうとして振り向いたところ、最後尾の被災者がいないことに気付き、付近を確認したところ移動経路沿いの3.5m下を流れる川に転落しているのを発見し、死亡を確認した。	30302	1	1~9
2009	6	15 ~ 16	大学の実験施設C棟新営その他工事（RC造3F地下1F）において、R階のパラペット（幅39cm）上をH鋼材（長さ約67cm、重さ22kg、梁部材）を持って歩行中、R階に設置されたダクトにH鋼材が接触し、被災者が約14m下の1階に墜落した。	30309	1	1~9
2009	4	10 ~ 11	ソーダ灰を貯蔵しているタンク（直径約3.9m、高さ約8.5m、容量約80立方mの内部清掃作業のため、被災者を含む5人がタンク内部において、ソーダ灰をタンク下部より排出しながら、タンク内部壁面に付着しているソーダ灰を掻き落とす作業をしていたところ、被災者がタンク下部の排出口に吸い込まれて死亡した。	50202	1	50~ 99
		12	民家解体工事現場で民家解体後、周囲のブロック塀撤去のため、ドラグ・ショベル（0.6立方m）を用いてブロック塀手前を約40cmほど掘削			

2009	4	～	をしたのち、ブロック塀の基礎部分である最下段部手前側を削岩機に	30309	5	1～9
		13	て破碎していたところ、突然ブロック塀（高さ1.9m、長さ14.2m）が 倒れ、下敷きとなった。作業員2人死亡、代表者1人が負傷した。			
2009	4	～	民家解体工事現場で民家解体後、周囲のブロック塀撤去のため、ドラ			
		12	グ・ショベル（0.6立方m）を用いてブロック塀手前を約40cmほど掘削			
		13	をしたのち、ブロック塀の基礎部分である最下段部手前側を削岩機に	30309	5	50～ 99
		13	て破碎していたところ、突然ブロック塀（高さ1.9m、長さ14.2m）が 倒れ、下敷きとなった。作業員2人死亡、代表者1人が負傷した。			
2009	4	～	都市ガスを貯蓄するタンクである都市ガス・球形ホルダー（高さ			
		13	38.0m）において、ホルダー側面部に設置されている頂部にいたる点検			
		14	用階段通路の手すりの錆び止め塗装を行っていた被災者が、ホルダー	170201	1	100 ～ 299
		15	頂部付近の手すり外側から地上に墜落した。			
2009	7	～	建物解体（RC造、一部4F建）工事現場において、3F壁部分をハンドブ			
		16	レーカーで縁切作業中、壁が倒壊し下敷きになった。	30201	5	10～ 29
2009	1	～	被災者は、他の作業員2人と客先での運送品納入場所等確認作業を終			
		18	え、乗用車に他の2人を乗せて事業場に向け運転していた。途中で交通			
		19	渋滞に巻き込まれていたため、用を足そうと、同乗者と運転を代わ	40301	10	100 ～ 299
		19	り、車から降りて車道欄干を越え歩道側に飛び移ろうとしたところ約 11m下の川に墜落した。			
2009	10	～	被災者は下り線追越車線の道路舗装工事現場にて交通誘導を行ってい			
		2	たが10tダンプのドライバーからの用事を伝えるためアスファルトフィ			
		3	ニッシャーのオペレーター及びその後方の作業員のところまで移動す	170201	1	30～ 49
		3	る途中、下り線側のガードレールの外をカニ歩きで移動していたとこ			
		7	ろ足を滑らせ約8m下の川に墜落した。			
		7	工事現場にて鉄骨の建方中、建築中の20～21階の高さから墜落し、約			
		7	58m下の6階外周に設置されていた仮設足場へ激突した。被災者が災害			30～

2009	4	8	発生前に行っていた作業は、クライミングクレーンのオペレーターと無線で連絡を取りながら、つるされた鉄骨の梁を取り付け位置へ誘導する作業であった。	30201	1	49
2009	6	9	事業場内の砕石プラントにおいて、ベルトコンベヤーのキャリアローラー交換の準備を行う際、作業床として利用していた分級脱水ごみ処理機の上部から足を滑らせ、手前にあった幅80cmの通路を超えて、7.7m下の地面に転落した。分級脱水ごみ処理機の上部に手すり等は設置されていなかった。	10909	1	10～ 29
2009	3	14 ～ 15	市道改良工事における側溝基礎工事の準備作業が終了したため、側溝から出ようとしたところ、市道と民地境の斜面に沿って設けられていたコンクリート製の壁（L12.5m、H80cm、D13～28cm）が突然崩れ落ち、その下敷きとなった。	30106	5	10～ 29
2009	12	16 ～ 17	チェックイン前の客室内の点検を被災者を含む数人で行っていたが、被災者が担当した6階客室に併設されたバルコニーに1m程度の積雪があったことから、エアコン室外機の周辺の除雪を行おうとしたか、もしくはバルコニー直下にある地下駐車場通路の方向の雪庇（せっぴ）を除去しようとしていたところ、19.1m下のコンクリート床に墜落した。	140101	1	10～ 29
2009	10	12 ～ 13	火力発電所から変電所に送電するための送電線の架線工事中において、A鉄塔からB鉄塔に向かって送電線に接触防止のラインスペーサを取り付ける作業を午前10時より開始し、午後0時30分にB鉄塔に到着した。B鉄塔に到着後、鉄塔を下りるためのロリップを取り付ける直前に高さ79mの鉄骨から53m下の踊り場に墜落した。	30301	1	30～ 49
2009	9	14 ～ 15	体育館に通じる階段の窓拭き作業終了後、窓枠のへり（幅30cm）に上がり建物の内側から網戸を取り付けていたところ、2.3m下の踊り場床面に墜落した。	150101	1	100 ～ 299
		7	鉄骨柱の建方作業中、通常地上から鉄骨柱を玉掛けしているコラムロックの玉外しを行うが、不具合により玉外しできなかったため、被			100

2009	6	8	～	災者が鉄骨柱（高さ約15m）に登り、コラムロックの玉外しを終了し、間もなくして鉄骨柱が倒れ、被災者が鉄骨柱とともに地上スラブ面に墜落した。	30201	1	～	299		
2009	12	2	1	3階建て事業場内の2階渡り廊下のコンセント付近からの出火により火災が発生し、渡り廊下と隣接する美容院約90平方mが焼けた。その際美容院の建物と渡り廊下で繋がっている変身スタジオの建物の2階受付・待合室のソファで寝ていた被災者1人は火災で発生したガスを吸入し死亡した。屋上の植物温室用ハウスで寝泊まりをしていた作業員1人は、火災に気づき屋上から隣接したビルに飛び降りた際に身体を負傷した。	170209	16	1	～9		
2009	12	11	10	～	到着する列車の車内清掃を行うため、駅構内プラットホームの乗車位置付近で待機していたところ、1.26m下の軌道（線路）内に転落して血を流しているのを同僚に発見された。直ちに救急車で病院に搬送されたが数時間後に死亡した。	150101	1	10	～	29
2009	2	15	14	～	被災者は勤務を終えて職員室を出た直後、職員室前のホールで出口に向け全2段の階段の最上段の位置まで歩いたところで、何らかの理由であおむけの状態に倒れ、身体をホール床に打ちつけた。	120109	2	10	～	29
2009	2	8	7	～	会社の資材置場において、足場用のパイプを棚から降ろしている際、棚から約3m墜落した。	30201	1	10	～	29
2009	4	15	14	～	被災者は、入庫ホーム上で、飲料入りケースをベルトコンベヤーに投入する準備作業中に足を踏み外してホーム下に転落した。	50101	1	100	～	299
2009	9	16	15	～	17階型枠スラブにおいて、被災者2人が、階段開口部をふさぐために梁型枠上に掛け渡された8枚のデッキ（デッキ1枚につき、長さ2750cm、幅61cm、厚さ1.6mm、重さ30kg）上で話をしていたところ、突然梁型枠の一部が外れ、デッキ5枚とともに、約8m下の作業構台上に墜落した。1人が死亡し、1人が負傷した。デッキ上には、被災者の外、パ	30301	1	1	～9	

			イブ馬と呼ばれる鉄製の道具30個等が置かれていた。			
2009	9	14 ～ 15	自社の倉庫の改築を代表者他1人で行っていた。鉄骨の建て方作業中に柱、梁、桁が倒壊し、基礎部にいた被災者に鉄骨（長さ5m、重量約80kg）が落下した。	30199	5	1～9
2009	7	8 ～ 9	工場1階の大根漬け物用タンク（間口縦2.5m、横2.5m、深さ2.5m、コンクリート製）内で倒れていた。タンク内には底から約30cmまで大根や漬け汁が入っていた。死因は溺死であった。	10103	10	30～ 49
2009	9	16 ～ 17	警備員として勤務していた被災者が、施設外に出してしまったボールを回収し、作業場に戻る途中、高さ3.5mの塀を乗り越えようとして、塀の上から墜落した。	170201	1	10～ 29
2009	3	10 ～ 11	原子力発電所内の廃棄物処理棟地下1階に設置されている廃棄物貯蔵タンクの内壁・外壁の外観検査を行っていた（放射線管理区域内）。被災者は、詰所に戻るため、検査中のタンク上面から30cm離れた隣のタンクへ渡した足場板を渡ろうとしたところ、タンク間の隙間から約9m下の床面に墜落した。	170209	1	50～ 99
2009	11	11 ～ 12	ボイラー機械室屋上において、テレビ受信のために設置した臨時アンテナを取り外す作業中、アンテナパイプを固定していたステンレスバンドを外す際に、工具に力が入りすぎて勢い余って屋上から約3m下の地面へ墜落した。	80209	1	1～9
2009	2	13 ～ 14	既設の鉄塔（高さ40m）にアンテナを取り付ける作業において、鉄塔を登り作業場所へ移動していたところ、地上約20m～25mの位置から墜落し、現場敷地内のフェンスに激突した後に地面に墜落した。	30309	1	1～9
2009	2	11 ～ 12	水力発電所の水路補修工事の際、型枠組立作業を行っていた被災者が、立ち入り禁止区域に進入し、作業場から約17m離れた最大深さ2mの貯水部に落ち溺死した。被災箇所は入場者教育等で立ち入り禁止を指示されており、進入口には、パイプサポートや単管が積んであったが、被災者はそれらを乗り越えて進入した。被災箇所は照明等がな	30101	10	10～ 29

			く、何も見えない状況であった。			
2009	11	9 ～ 10	被災者が建設中の護岸と掘削した地山（高さ約3.4m）の間で、護岸の型枠の解体作業を行っていたところ、地山に埋設されていた古い護岸（幅約3m、高さ約1m、厚さ約50cm）が土砂とともに倒壊し、その下敷きとなった。	30202	5	10～ 29
2009	12	9 ～ 10	道路の防雪柵設置工事現場において、被災者は、荷つり作業をしていた車両積載形トラッククレーンの後ろ側に立ち、交通誘導を行っていたところ、市街地から走行して来た乗用車にはねられた。その後、乗用車は車両積載形トラッククレーンに追突し、被災者は、乗用車と車両積載形トラッククレーンにはさまれた。なお、現場には注意喚起のカラーコーンと看板が置かれていた。事故時の天候は晴れ、路面は乾いていた。	30302	5	30～ 49
2009	12	9 ～ 10	道路の防雪柵設置工事現場において、被災者は、荷つり作業をしていた車両積載形トラッククレーンの後ろ側に立ち、交通誘導を行っていたところ、市街地から走行して来た乗用車にはねられた。その後、乗用車は車両積載形トラッククレーンに追突し、被災者は、乗用車と車両積載形トラッククレーンにはさまれた。なお、現場には注意喚起のカラーコーンと看板が置かれていた。事故時の天候は晴れ、路面は乾いていた。	30302	5	30～ 49
2009	11	11 ～ 12	マンションの出入口の1階の庇の上に倒れている被災者（マンションの管理人）を向かいのビルの会社員が発見した。被災者は11階供用部廊下の清掃前の換気のために、外開きの窓を開けた際、バランスを崩して約30m下の1階庇に墜落した。	30202	1	50～ 99
2009	2	16 ～ 17	木造家屋（旧洋裁工場）の解体工事現場において、被災者は16時ごろに金属廃材を積んだダンプトラックを運転するため入場したが、ダンプトラックの荷が満載になっていなかったため待機することとなった。現場では最後の壁2面の解体作業中、グラップルで壁のうち1面を引き倒したと同時にもう1面の壁が倒れ、付近を歩いていた被災者に柱	30209	5	30～ 49

			が当たった。			
2009	1	15 ～ 16	店舗兼住宅の底部分の除雪のため、被災者はトラクター・ショベルのバケットに乗せられ、底の一部の雪庇を落とした後、当該底部分（高さ4.56m、幅85cm）に乗り移り、足元の雪を踏み固めていたところ、バランスを崩し墜落した。	150109	1	10～ 29
2008	12	8 ～ 9	上水道管移設工事のため、民家のコンクリート壁（高さ1.5m、長さ9.7m）横の道路（幅3.5m）を床掘り（幅0.6m、深さ1.2m、長さ12.1m）し、その中に入り計測作業を行っていた。その際、突然倒れてきたコンクリート壁と床掘り側面にはさまれ死亡した。	30110	5	10～ 29
2008	12	8 ～ 9	スラグ材（リサイクル材）が入ったホッパー（投入口：縦・横3m、深さ約3.5m）下部の材料出口部分にスラグ材が詰まったため、スラグ材の上から鋼管を突き刺して下に押し出す作業をしていた。その時、突然、足元のスラグ材が崩れて被災者がスラグ材に埋没した。	40302	1	10～ 29
2008	12	14 ～ 15	治山工事現場において、防護柵の組立て作業中に用具（はしご）を取りに行くよう指示を受けた被災者が行方不明となった。搜索したところ、現場敷地内の古井戸（直径76cm、深さ約19m）に転落しているのを発見された。	30108	1	10～ 29
2008	2	14 ～ 15	道路災害復旧工事において、道路下の河川に護岸のために河床から擁壁を築造していた。基礎のコンクリート打設した部分の上に型枠を組み、2日前にコンクリートを打設した高さ1～2m、長さ18m、厚さ40cm、総重量約14tの擁壁の裏側の型枠を3名で解体していたとき、擁壁全体が突然倒れた。この際、1名が身体をはさまれ死亡し、他2名は脱出中に負傷した。倒れた擁壁と基礎部分の接合面は綺麗にはがれていた。	30106	5	1～9
2008	1	8 ～ 9	個人宅の敷地内に設置されている門の傾きを直し、補強するための門改修工事現場で被災者が門柱の根元周辺のコンクリートを電動ハンマーで破碎する作業を行っていたところ、門が倒壊して当該門が被災者に激突した。	30209	5	1～9

2008	11	10 11	鉄骨倉庫(23×15×6m)建築工事で組み立て中の鉄骨柱が倒壊した。2本の柱に各々作業者が上り、梁を取り付けようとしていたところ、1本の柱が傾きだし、もう1本の柱に倒れ掛かかって2本とも倒れた。最初に傾き始めた柱の上部で作業をしていた作業者は、移動式クレーンでつられていた梁材に掴まり転落しなかったが、もう1本の柱で作業をしていた作業者は、倒壊する鉄柱とともにコンクリート床面に叩きつけられた。	30201	5	10～ 29
2008	8	15 16	工場構内の集じん機の増設工事において、移動式クレーンで集じん機の配管（直径約3m、高さ約4m）の上部に作業デッキ（計588kg）をつり上げた。その後、デッキ脚部を配管に溶接しようとしたとき、デッキが滑り落ちて配管下で構造物の仮組み作業をしていた被災作業者にデッキが激突して死亡した。	30203	4	1～9
2008	4	13 14	倉庫壁面にスレートを設けるため、倉庫内側の地面から高さ170cmの仮設足場上において、被災者は、右手を倉庫の外側に出して取り付け予定のスレートに左手をかけて身体を支えながら作業をしていた。その際、当該スレートが割れて反動で倉庫外部に飛び出し、地面からさらに2.4m下の側溝に墜落した。	30201	1	10～ 29
2008	9	8 9	ドック内のブロック組立定盤で番船の船首部ブロック組立作業を行っていたところ、高さ4.82mから墜落して死亡した。	11501	1	1～9
2008	1	18 19	被災者は、修繕船の船底の鋼製外板をガス溶断により取り外しを行う作業をしていた。取り外していた船底外板が身体を強打して死亡した。	11501	4	100 ～ 299
2008	1	15 16	被災者は、渉外業務のため、社用車を運転して客先であるレストラン店舗へ赴き、私道に社用車を駐車した後、事務所へ通じる倉庫内で転倒して死亡した。	90101	2	10～ 29
2008	5	14	移転後の工場建屋内の設備の撤去工事において、壁面のラック等の設備の撤去作業等に従事していたところ、壁際の床に倒れているのを発	30302	1	1～9

		15	見された。壁面構造物からの墜落であった。			
2008	11	10 ～ 11	木造平屋の解体工事現場において、同敷地内の離れに設けられていたコンクリートブロック造のトイレを解体するために被災者が大ハンマーを用いてコンクリートブロック壁をはつっていたところ、コンクリート製、重量約500kgの天井部が落下して死亡した。	30209	5	1～9
2008	6	13 ～ 14	住宅改修工事で、住宅（長屋形式）を区画するコンクリートブロック塀を解体する際、ブロック塀全体（幅160cm×高さ200cm×厚10cm、重さ約700kg）を倒そうとして、被災者が最下段のブロックをチッパーで砕く作業を行っていたところ、当該ブロック塀が倒れて被災者が下敷きになり死亡した。	30309	5	1～9
2008	5	11 ～ 12	3階建て店舗の屋上において、被災者と他の店員の2名で採光用の窓ガラス（厚さ約5mm）に日除け用のシートを被せようとしていたところ、被災者が当該窓ガラスを踏み抜いて約8m下の階段の踊り場に転落して死亡した。	80302	1	1～9
2008	8	10 ～ 11	採石場内に破碎機を設置する工事において、破碎機の付属設備である仮置き中の架設通路に、移動式クレーンでつり上げた張出しデッキを取り付ける作業を実施した、その後、玉掛したワイヤロープをはずしたところ、架設通路が張出しデッキ側に傾いて地上に落下したため、架設通路上で作業していた被災者が架設通路とともに約10m下まで墜落した。	30302	1	1～9
2008	10	13 ～ 14	事務室を退出するときドアの鴨居に身体を強打した。12日後に事務室で電話中に意識を失い倒れた。病院へ搬送後に死亡した。	11409	3	10～ 29
2008	12	15 ～ 16	傾斜地に建てられた建物の解体工事中、手元工として入場していた被災者が、解体に伴いできた高さ3mの段差の下で倒れているのを発見され、その後死亡した。	30209	1	1～9
			1階壁の上部型枠を解体中、床上で足場2段目の他の作業員から降ろさ			

2008	11	14 ～ 15	れるパネルを受け取る業務を行っていた時、作業者の姿が見えなくなったので確認すると1階床で仰向けに倒れていた。作業場所周辺の1階床上には、コンクリート製のダクトの立ち上がりが40cmあり、中心には50cm四方の開口部があった。開口部には、雨よけのシートがかぶせてあり、そこに足を突っ込んだ状態で倒れていた。	30209	1	50～ 99
2008	8	10 ～ 11	ビルの管理人として常駐していた被災者に地下1階駐車場に至るスロープに設置されていたシャッターの袖扉（高さ440cm、幅120cm、厚み9cm、重量250kg）が突然倒れ、身体が下敷きになり死亡した。	150101	5	100 ～ 299
2008	4	17 ～ 18	8階建てマンションの屋上部において、足場のシートを片付けるためにシート端を持って後方へ移動中、転倒して建物中央部吹き抜け部から落下した。	30209	1	1～9
2008	1	11 ～ 12	被災者は、倉庫の改修にかかる内装の損傷状況調査を行うため、2階にあるステージ上（2階床からの高さ約3m）で天井ボードの損傷状況を確認していたところ、荷揚げ用開口部から墜落して死亡した。	170209	1	10～ 29
2008	5	15 ～ 16	建築物の解体作業現場で被災者が粉じん飛散防止のための散水作業をしていたところ、溶断中の建築物が倒壊し、その下敷きになり死亡した。	30209	5	30～ 49
2008	11	10 ～ 11	スタックークレーンの撤去工事において、掃除機を使用して周囲の清掃作業を行っていた際、解体途中であった鉄骨製のラック（高さ483cm、幅227cm、重さ推定100kg）が倒れて被災者が下敷きになった。	11209	5	1～9
2008	11	14 ～ 15	配水本管の布設工事現場において、既設の水道管に新設の水道管（内径60cm）を接続するため、掘削した溝（長さ3.8m、幅1.9m、深さ1.9m）の中で既設の水道管の蓋のボルトを外していたところ、残りのボルトが切断し、管内の水が吹き出して溝が満水になった。その後、水が既設の水道管へ逆流したため、溝にいた被災者が既設の水道管に吸い込まれて死亡した。	30110	10	1～9
		10				

2008	5	～ 11	発電所のつり橋上で足場部材の片付け作業を行っていたところ、つり橋踏板の端から約8.7m下の川に墜落して死亡した。	30105	1	1～9
2008	3	13 ～ 14	建物内部の吹付け石綿封じ込め工事の準備作業において、建物内部に構築されていたコンクリートブロック製の間仕切壁を解体中、当該ブロック壁が幅約4.8m×高さ約2mにわたり倒壊して作業員2名が下敷きとなった。	30209	5	30～ 49
2008	9	～ 10	消波ブロック製作のため、被災者は消波ブロックの型枠の上部でコンクリート打設作業をしていた。となりに並べられた型枠に木製の足場板を渡して移動した後、元の消波ブロックの型枠に戻ろうとして足場板に足を掛けた時、足場板が天秤の状態になり、足を載せた足場板が沈み込んでバランスを崩して高さ1.8m下の地上に墜落した。	30111	1	10～ 29
2008	8	6 ～ 7	自転車で朝刊配達を終えて販売店に戻る途中、農業用水路に自転車ごと転落して死亡した。	80205	1	10～ 29
2008	12	10 ～ 11	作業員4人で、従業員の実家敷地内の苗木の採取作業を始めた際、集会所に被災者が来ないので3人で捜したが見つからなかった。工場に応援を頼み捜したところ、井戸の入口から1.5mの所に苗木の採取用のビニール袋があったため、レスキュー隊によりさらに捜索したら井戸の底に沈んでいるのを発見した。	10806	1	300 ～
2008	12	10 ～ 11	作業所事務所が入居している8階建ビルの屋上で施工中のビル新築工事現場を写真撮影中、約26.4m下の道路に墜落して死亡した。	30201	1	300 ～
2008	7	21 ～ 22	出発準備をしていた被災者は、駐車場脇に設置された自動販売機で飲料を購入した。その際、10tトラックのサイドブレーキをかけていなかったため、同トラックが動き出し、それを止めようと同トラックの運転席に乗り込もうとした被災者が、同トラックのドアが電信柱と接触したことにより、同トラックのキャビンとドアの間にはさまれ死亡	40301	7	10～ 29

			した。			
2008	2	10 ～ 11	4階内装解体工事において、エスカレーター横の断熱ボードをはがす作業をしていた際、階下の同僚作業者に指示を出そうとして同ボードの隙間にあいていた65cm程度の開口部から身を乗り出してのぞいていたところ、1m84cm下のエスカレーター上に墜落した。	30309	1	30～ 49
2008	2	10 ～ 11	減容機器（マグネシウム鋳造時の端材を破碎する機械）の覆い上部と排気ファンを接続するダクトを製作据付する作業に従事していた。被災者は、減容機器の覆い上部に昇降するためのはしご、あるいは、減容容器の覆い上部を移動中に2.7m下の縞鋼板に墜落し、その後、さらに1.2m下のピットに墜落した。	11102	1	50～ 99
2008	7	23 ～ 24	貨物船の修繕工事において、ハッチ開閉用のチェーンのねじれを戻す作業を行っていたところ、船底に墜落していた被災者を発見した。甲板通路の船底側には、高さ70cm幅46cmのハッチコーミングがあり、それを乗り越え墜落したか、墜落防止措置のないハッチカバーの端から墜落した。	11501	1	10～ 29
2008	7	8 ～ 9	被災者はドラグ・ショベルでコンクリート等の廃材の山を整理する作業を行っていた。朝礼後、作業を開始するために廃材の山に登ろうとして擁壁付近を通過しようとしたところ、高さ3mの擁壁の上から墜落して死亡した。	150103	1	10～ 29
2008	9	16 ～ 17	復旧治山工事において、法面吹付け工事のための丸太の作業構台を設置する作業を行っていた。ケーブルクレーンを使用して丸太をつり込み、設置中の作業構台に番線で固定する際、当該丸太が作業構台の一部に接触していたにもかかわらず巻き上げを続けたため、当該丸太をつっていた玉掛用ワイヤロープが切れた。その反動で被災者は、当該丸太とともに4m下の法面に墜落して、そのまま約86m滑落した。	30108	1	1～9
2008	9	11 ～ 12	鉄塔の建替に伴い、送電線を既設鉄塔から仮設鉄塔に移し替える際、4名の作業者が張り出し部の上で碍子（がいし）を取り外す作業をしていたところ、地上45m付近で本体部分が折れて墜落した。	30301	5	10～ 29

2008	9	11 ～ 12	鉄塔の建替に伴い、送電線を既設鉄塔から仮設鉄塔に移し替える際、4名の作業者が張り出し部の上で碍子（がいし）を取り外す作業をしていたところ、地上45m付近で本体部分が折れて墜落した。	30301	5	50～ 99
2008	5	4 ～ 5	新聞配達中に、次の場所に移動しようとして徒歩で車に戻ろうとしたところ、道路脇の側溝に転落した。側溝内で意識がない状態で倒れているところを発見されて病院に搬送されたが、死亡した。	80205	1	30～ 49
2008	11	11 ～ 12	建物屋上塔屋で点検口確認作業後、塔屋外壁にある鋼製タラップを降りて庇（幅75cm）の端に右足を掛けたところ、バランスを崩して3.45m下の建物屋上コンクリート面に墜落して死亡した。	30209	1	1～9
2008	12	11 ～ 12	自社倉庫脇の資材置き場において、資材を風雨から避けるために単管等で仮設していた仮囲いの解体作業を一人で行っていたところ、屋根部分から約3.1m下に墜落した。なお、被災者は保護帽や安全帯は着用していなかった。	11709	1	10～ 29
2008	2	11 ～ 12	小学校校舎（鉄筋コンクリート3階建て）の窓拭き作業中、2階の底部分からバランスを崩し、約4m下の地上に墜落した。安全帯は腰に巻いたが、使用していなかった。	150101	1	10～ 29
2008	7	8 ～ 9	宅地造成工事において、被災者は汚水のマンホール内にある昇降用ステップに巻かれているビニールをはがす作業を行おうとしたが、誤って他に設置してある雨水のマンホールに入ってしまったところ、意識を失い倒れた。上司が現場に到着して雨水のマンホールで倒れている被災者を発見し、助けようと雨水のマンホールに入ったところ意識を失った。	30109	12	0
2008	7	10 ～ 11	鉄骨2階建て（屋上に塔屋あり）の建築物の解体工事において、塔屋部の鉄骨材を切断して2階屋上の端部から投げ下ろしていたところ、鉄骨材と一緒に約6.3mの高さから墜落した。	30209	1	1～9
		11	被災者ら3名は、イベント会場設営のための事前の下見作業中、宴会場の天井裏に敷設された歩廊上で天井バナー吊のつり元の状況確認を行っ			30～

2008	10	～	ていた際、付近の写真撮影をしていた被災者が、厚み約1cmの天井板	170209	1	49
	12		を踏み抜き、会場床まで約15m墜落して死亡した。なお、被災者は保護帽及び安全帯を携行していたが着用していなかった。			
2008	11	～	定期的な電気使用量のメーター検針業務を行うにあたり、事務所棟の2	170209	1	10～
	16		階屋上に設けられた受変電設備へ向かうため、通路の内側から高さ1m40cmの手すりを乗り越えて屋上の床面に着地したところ、バランスを崩して床面から高さ62cmのパラペットを越えて5m45cm下の地面に墜落した。			29
2008	3	～	被災者は、機械式立体駐車場の定期点検中に上層スペースでリフト装置と駐車室のローレベル（下限）を測定後、下層に降りる際、スペースフレームから垂直はしごに移動しようとして足を踏み外してピット	11702	1	1～9
	15		最下部（深さ4m）に墜落して死亡した。被災者は、ヘルメット、安全帯を装着していたが、移動のため安全帯は使用していなかった。			
2008	2	～	隣家の塀（高さ2.09m）に乗って塗装前のビニール養生を行っていたところ、バランスを崩して塀と室外機との間に墜落した。	30202	1	1～9
	12					
2008	5	～	3階建建築物の軽量鉄骨建方工事において、屋上に移動式クレーンで搬入された壁材の取り付け作業をしていた。その際、屋上で被災者が壁材（重量30～40kg程度）を抱えた時、つまづいて9.5m下の駐車場予定敷地に設置されていた移動式クレーンのサイドミラー部に激突後、移動式クレーンの沈下防止用に設けられていた敷き鉄板上に墜落した。	30202	1	50～
	12					99
2008	1	～	9	30209	1	1～9
	10		外壁修繕工事後、修繕工事の対象となったビルの9階屋上で改修箇所の確認作業を行っていたところ墜落した。			
2008	3	～	12	30209	1	1～9
	13		サイロの解体工事で、サイロの排出口から砂が排出されずに残っていたため、被災者がサイロに入り下端部をハンマーで叩いていたところ、砂が流れ出してサイロ内で生き埋めとなった。			
			クリーンブースの解体工事現場において、クリーンブースの上に設置			

2008	3	13 ～ 14	されたクリーンユニットと称する箱型の換気装置の撤去作業の際、被災者を含む3名でクリーンブースの上に乗ってクリーンユニットを持ち上げて一旦仮置きしたところ、バランスを崩した被災者がクリーンブースの端から2.5m下の地面に墜落して死亡した。	30302	1	10～ 29
2008	5	10 ～ 11	個人住宅リフォーム工事のための解体作業で、2階建物の床板をはがしていた際、厚さ3mmのベニヤ板一枚のみの状態となった床を歩いた作業者が、ベニヤ板を踏み抜いて約4m直下の1階コンクリート床面に墜落して死亡した。	30209	1	1～9
2008	11	13 ～ 14	被災者は、コンクリート製橋梁の建設工事で架設桁の設置作業を行っていた。架設桁の位置決めの際し、同僚作業者と2台のジャッキを使用して、レベル調整を行っていたところ、架設桁が滑動して当該架設桁と後方にあったコンクリート構造物との間にはさまれて死亡した。	30105	6	10～ 29
2008	7	13 ～ 14	火災にあった住宅（木造2階建て）の解体現場において、焼け残った柱を倒すために柱にチェーンソーで切れ込みを入れロープで引っ張ったが倒れなかった。そこで、被災者自身が、柱の切れ込み付近をハンマー（柄の長さ1m）でたたいたところ、柱まわりの壁が落ちてきて、下敷きとなり死亡した。	30209	5	1～9
2008	9	16 ～ 17	飲食店の看板解体工事において、解体していた看板を支えていた鉄骨が倒壊して、作業を請負った事業主と一緒に作業を行っていた被災者に当たり死亡した。なお、被災者に当たった鉄骨は縦横20cm、長さ322cmのH鋼で重量160kgであった。	30209	5	1～9
2008	3	18 ～ 19	消石灰貯留槽内の消石灰の詰まりを直す際、貯留槽のはしごに乗って作業を行っていたところ、約2mの高さに詰まっていた消石灰に墜落して石灰の中に埋まり死亡した。	150109	1	10～ 29
2008	1	16 ～ 17	鉄骨コンクリート造4階建ビルの解体作業現場において、4階部のALC板の内壁及び切断した鉄製の柱を同時に引き倒す作業を行っていたところ、レバーブロックを操作していた被災者が逃げ遅れて倒れてきた鉄製の柱の下敷きとなった。	30309	5	1～9

2008	4	8 ～ 9	住宅改築工事現場において、作業員10名で柱を交換するために油圧ジャッキ及びパイプサポートを用いて木造家屋の2階部分を持ち上げる作業をしていたところ、木造家屋が倒壊して木造家屋の下敷きになり死亡した。	30202	5	1～9
2008	12	9 ～ 10	自走式駐車場の側溝（幅22cm）補修工事において、フェンスとフェンスの間（幅38cm）からモルタルを塗っていたところ、フェンスが開いて15.8m下のコンクリート地面に転落した。なお、フェンスは消防車が外から開けられるよう外側に取っ手があったが、取っ手が壊れていて番線で縛られていた。	30209	1	1～9
2008	1	11 ～ 12	4階建旅館の2階と3階の客室窓ガラス清掃作業を1階屋上石庭から行っていたところ、バランスを崩して約5m下のコンクリート製階段踊り場付近に墜落して死亡した。	140101	1	10～ 29
2008	9	17 ～ 18	社屋内の一側面が開放されている休憩所（喫煙所）で休憩している時、休憩所の脇を流れている水路（段差1.4m、幅1.8m、水深0.2m）に転落して死亡した。	11209	1	10～ 29
2008	10	14 ～ 15	被災者が粉殻サイロ（高さ12.14m、幅6.74m、奥行き10.3mでその底に2箇所排出口がある構造）内に入り、粉殻の均し作業を行っていたところ、サイロ内に貯まった粉殻をトラック荷台に積み込みするため、粉殻サイロ底の排出口を開けたとき、粉殻サイロ内の粉殻が流動して中にいた被災者らが粉殻内に吸い込まれ被災した。	170209	1	10～ 29
2008	10	14 ～ 15	被災者が粉殻サイロ（高さ12.14m、幅6.74m、奥行き10.3mでその底に2箇所排出口がある構造）内に入り、粉殻の均し作業を行っていたところ、サイロ内に貯まった粉殻をトラック荷台に積み込みするため、粉殻サイロ底の排出口を開けたとき、粉殻サイロ内の粉殻が流動して中にいた被災者らが粉殻内に吸い込まれ被災した。	170209	1	10～ 29
		16	浄化槽解体工事で電動カッターを壁に取り付けて天端から1.9mの深さで横に切り、続いて全幅4mの壁を縦（幅68cm、厚さ22cm、重量			

2008	9	～ 17	0.8t) に切って6枚に分割していた。切断が最終箇所付近まで進行したとき、カッターが壁に食い込んで停止したため、2人がかりで引き抜こうとしていたときに分割した壁体6枚が手前に倒壊して近くで見ていた被災者が下敷きとなり死亡した。	30109	5	1～9
2008	3	13 ～ 14	木造2階建のモデルハウスの新築工事の現場写真を撮るために足場を上り、小屋裏部屋の床（高7m）と外部足場の隙間（0.8m）から墜落して死亡した。墜落途中で足場の部分や角材にあたった。着用していたヘルメットは外れ落ちていた。	30202	1	1～9
2008	12	15 ～ 16	産業廃棄物処理場において、搬入された汚泥水を貯めておく水槽から固形物の分離処理を行うための沈澱処理槽へ大型バキュームカーを使用して汚泥水を移す作業中に水深約2mの沈澱処理槽の中に転落して死亡した。単独で作業していた被災者の姿が見えなくなったことから、被災者を捜していた同僚が沈澱処理槽の汚泥水を抜いてみたところ、処理槽の底に沈んでいる被災者が発見された。	150102	10	1～9
2008	10	23 ～ 24	被災者は、石炭焚きボイラーへ石炭を供給するためのホッパー内の石炭上を移動していたところ、すり鉢状になった石炭の中心に向かい転落して石炭に埋まった。ホッパー底部のダクトの一部を切断して被災者を救出したが死亡していた。	11609	1	1～9
2008	12	15 ～ 16	ふるい分け工場内において、被災者と同僚2名はホッパー内の粒状肥料をフレコンバックに詰め込む作業を行っていた。同僚の携帯電話に被災者から電話があり、同僚は被災者が何も話さないため周りを見たと ころ、ホッパー出口から被災者の足が見えたため、救出して病院に搬送したが、翌日死亡した。	50101	1	30～ 49
2008	11	23 ～ 24	空港内に設置された航空保安無線設備の更新工事において、被災者は夜間一人で新設した鉄塔（GS空中線柱、高さ16m）に上がり、約8mの箇所で同軸ケーブルを結束固定していたクレモナロープの手直し作業中に墜落した。翌朝、鉄塔下で倒れているところを発見された。	30301	1	10～ 29
			鉄筋コンクリート造4階建ての建築物解体工事現場において、被災者は			

2008	8	14 ～ 15	油圧圧砕機（ベースはドラグ・ショベル）を地下を解体した廃材の上で運転し、2、3階の外壁の柱、梁及びスラブの一部をカッター付アームを用いて引き倒したところ、柱等が2階床に倒れたはずみで更に地上に落下し、その一部が油圧圧砕機のキャビンを直撃した。	30209	5	10～ 29
2008	8	8 ～ 9	被災者は同僚2名と小学校の3階にある教室の外側の窓を清掃作業中、被災者は二段窓の上段窓枠に両足をのせて窓を両脚ではさむように窓拭きをしていたところ、バランスを崩して10.4m下のタイル張りの校庭に墜落し死亡した。なお、安全带等の墜落防止措置はしていなかった。	150101	1	50～ 99
2008	2	13 ～ 14	高さ41mの既設分譲マンションにおいて、マンション管理会社から委託された事業場の作業者が、屋上の屋根からはね出していた雪庇をスコップで落としていたところ、地上へ墜落した。安全带は使用していなかった。	30209	1	10～ 29
2008	8	7 ～ 8	現場代理人である被災者が、午前8時から行われる打ち合わせ時間になっても現場に現れなかった。作業者が捜したところ機械室の地下にある原水調整槽の開口部（1.0m×0.5m）に設置していた囲いの一部が外されていたので、不審に思いその開口部から水槽内を確認したところヘルメットが浮かんでいるのが発見されたため、水槽内の水を排水したところ被災者が発見された。	30302	10	1～9
2008	2	15 ～ 16	被災者は、14時に昼休みを終了し、日直の職員に「2階の雪下ろしを行う」と申し送りして、一人で2階入所者用居室のベランダ部分の雪下ろし作業を行っていた。その後、15時頃に雪下ろし作業をしていた場所から4.71m下の職員玄関前（雪下ろし作業をしていた直下）に倒れているのを入所者に面会に来た人が発見した。なお、保護帽・安全带は未着用であった。	130201	1	50～ 99
		9	水力発電所の放水路内の定期点検に伴う放水路水替工事において、排水ポンプで放水路内の水抜き作業を行っていた。被災者は、放水路下流口で排水ポンプに詰まった落ち葉等を除去する作業を行っていた			

2008	11	～	が、途中から行方不明となり、本工事の作業予定箇所ではない、放水路の本線から分岐した予備放水路の奥にある水深約5m、奥行き約10mの水留め部の底で発見された。被災者の作業箇所と被災箇所は約50m離れていた。	30199	10	10～ 29
2007	11	16 ～ 17	校舎解体工事現場において、油圧圧砕機（ニブラー）を使用して、高さ約19mの渡り廊下の階段部分を解体していたところ、当該階段部分が倒壊し、ニブラーを運転していた作業者が下敷きになり死亡した。	30201	5	30～ 49
2007	6	～	個人住宅の敷地内に敷設されているブロック壁が経年劣化により傾いていたため、当該ブロック壁を撤去する作業を行っていた。当該ブロック壁を高速カッターを用いて切断作業中に突然ブロック壁（高さ1.1m、幅2.7m）が撤去作業を行っていた足場側に倒れ、足場上で作業を行っていた作業者が下敷きとなった。	30199	5	1～9
2007	7	8 ～ 9	道路災害復旧工事現場において、コンクリート吹付け法面のアンカー設置工事が終了し、当日の朝から法面の足場解体作業を行っていたところ、隣接した現場に設置されていたコンクリートブロック（縦1.5m、横1.5m、重さ800kg）が高さ2.7mから落下し、下にいた被災者を直撃した。	30199	4	1～9
2007	5	14 ～ 15	被災者は、ホテルの空調設備の整備作業（冷却用ポンプのモーターシャフトとポンプ間のグランドパッキンの交換）を行っていたが、作業終了後、当該ホテルの屋上より約2.7m下の隣接家屋のベランダ部分へ墜落した。	80409	1	1～9
2007	3	11 ～ 12	被災者が、海岸沿いにおいて同僚の運転するワゴン車を後方に誘導していたところ、階段状の堤防より転落した。	130201	1	1～9
2007	8	～	被災者は、手持ちグラインダーを用いて、鋼製の船体ブロックに製作作業用に取り付けられていたつりピースをガス切断にて外した跡の手	11501	1	10～

		12	直し作業を行っていたところ、船体ブロックの当該作業位置（高さ5.27m、幅0.8m）から地面に墜落した。			29
2007	7	10 ～ 11	被災者は一人で飼料運搬車の専用のアームを使用し、飼料サイロ（最大容量3t、高さ4.9m、直径2.3m）の中に鶏のえさを入れる作業を行っていた。農場長が当該サイロの下敷きになっている被災者を発見し、病院に搬送したが、死亡した。	40301	5	10～ 29
2007	2	10 ～ 11	自社所有ホテルの内部改装工事において、居室内の浴室側面にあったコンクリートブロック製の壁を撤去するため、被災者が壁をハンマーで叩いていたところ、当該壁が被災者側に倒壊し、下敷きとなった。	30209	5	30～ 49
2007	11	13 ～ 14	被災者が、溝内に仮置きされたL字型ブロック（重量約2t）に玉掛用具を取り付けようとした時、L字型ブロックが倒れた。被災者は、倒れたL字型ブロックと溝の壁にはさまれ、死亡した。	30309	5	1～9
2007	8	9 ～ 10	ホール新築工事現場において、被災者と同僚1名が1階と踊り場に渡る鉄骨階段の穴部と基礎ボルトを取り付けるための微調整を行っていたところ、被災者の上部にある踊り場から2階に渡る鉄骨階段（重量約1t）が突然落下し、被災者に激突した。	30201	4	1～9
2007	4	14 ～ 15	移動式クレーンで足場部材を立坑下部に下ろすため、被災者が地上で部材に玉掛けし、クレーンオペレーターが立坑の開口部上につり荷を移動させたところ、被災者がつり荷の向きを変えようとして開口部に設置された手すり（高さ80cm）を乗り越え、つり荷に手を伸ばした際、足を踏み外して深さ約30mの立坑下部へ墜落した。	30102	1	1～9
2007	12	11 ～ 12	エレベーターの定期点検のため、4階と5階の中間に搬器を停止させ、各階に分かれ昇降路の戸を開き、搬器上部と下部の機器類の点検等を行っていたところ、4階で点検等を行っていた被災者が、昇降路の出入口から約12m下のピットに転落した。	11301	1	1～9
2007	9	9 ～	岸壁に係留し艀装中のコンテナ貨物船の船首フォックス（船倉）で塗装作業の補助作業（ホース引き）に就いているはずの被災者が、約25m離れた場所にあるカーゴ・ホールドの底部で倒れているところを	11501	1	10～

		10	発見された。2. 6 mあるカーゴ・ホールド内の段差か、約1.4 mあるカーゴ・ホールドトップから墜落したと思われる。			29
2007	7	9 ～ 10	天井クレーンの走行レール上において作業を行い、作業終了後、地上に下りるため、作業場所から通路を通り、さらに通路から天井クレーン点検通路に渡ろうとしたところ、バランスを崩し、天井クレーンのガーダとガーダの間から約6.6 m下の地上に墜落した。	11209	1	10～ 29
2007	3	11 ～ 12	鉄骨2階建て倉庫の新築工事現場において、高さ7.4 mの大梁上（幅20 cm）で、小梁を取り付け作業中、地面に墜落した。	30201	1	10～ 29
2007	4	16 ～ 17	廃棄物処理施設の2階作業場において、被災者と同僚の2名でペットボトルを詰めた袋（80 cm×80 cm×80 cm約25 kg）をショベルローダーのバケットに積み込む作業を行っていたところ、同僚がバケットに手を添えていた被災者に気付かず、積み込み終了の合図を出したために、ショベルローダーの運転手がバックし、被災者が2階作業場（高さ約4 m）より1階のコンクリート床に墜落した。	150109	1	30～ 49
2007	7	16 ～ 17	船体ブロック組立作業中、壁面鋼板（縦3.5 m、横9.7 m、重量3.7 t）を床面鋼板に取り付けるため、締めつけ用チェーンで固定して仮止め溶接を行っていたところ、壁面鋼板が倒れて被災者が下敷きとなった。	11501	5	10～ 29
2007	3	10 ～ 11	製造蔵2階の醗酵室において醸造中の仕込タンク開口部の転落防止枠がはずされた状態で高圧洗浄機のホースがタンク内に入っているのを不審に思った同僚が、タンク内部で浮いている被災者を発見した。	10105	1	10～ 29
2007	5	10 ～ 11	市役所3階屋上に設置してある空調用冷却塔（クーリングタワー）の清掃作業時に、約8 m下の1階屋上に墜落した。	170209	1	1～9
		15	ダム本体工事におけるコンクリート製造設備解体工事において、ベルトコンベヤー（全長約44 m）の最上部のボルト外しを行い、移動式			

2007	5	～ 16	クレーンでつり上げ地上に下ろすため、つり上げる最上部の1スパン下のベルトコンベヤーに作業員3名が待機した後、最上部をクレーンでつり上げたところ、3名が待機していたベルトコンベヤー上部側が支柱から外れ、作業員3名と共に約20m下の地上に墜落した。	30199	1	1～9
2007	10	～ 21	社用車を駐車した付近にある道路脇のガードレールを超えて6m下に墜落した。	30106	1	1～9
2007	10	～ 11	店舗北側の商品置場において、商品の個口数と伝票を確認する検品作業を行っていたところ、コンクリート製床面に倒れた。	80201	2	100～ 299
2007	10	～ 12	被災者は、汚水処理施設において、曝気槽の覆い（骨組：鋼、蓋板：FRP、1枚あたり大きさ2×4m、重量約100kg）を新品（ステンレス製）に交換する作業中、覆いを移動式クレーンを用いて撤去するため、覆いの上で玉掛け作業を行っていたところ、覆いが折れて、被災者も覆いと共に曝気槽の汚水中へ墜落した。	30309	10	1～9
2007	11	～ 15	駐車場外周の集草作業（雑草の伐採、収集）を行っていたところ、幅約1.2mの擁壁の犬走り上から、4.4m下方の民家敷地に墜落した。	60101	1	1～9
2007	1	～ 13	調整池の排水路の改修工事作業所において、コンクリートポンプ車を無線操作するため、運転者がコンクリートポンプ車とコンクリート打設場所が見える位置まで移動しようとして排水路脇の幅約40cmのコンクリート製堰堤の上部を歩行中にバランスを崩して約8m下のコンクリート製の排水路底部に墜落した。	30107	1	1～9
2007	8	～ 13	マンションの敷地内で雑草などを除去作業中、高さ4.4mの擁壁の端から地上に墜落した。	80409	1	10～ 29
		13	休憩を終えた被災者は、当日午後からの作業場所である立坑底部に向かうため、土留支保工（3段目梁）上に設置された鋼製足場（高さ			10～

2007	4	～ 14	4. 8 4 m) を移動中、頭部を 2 段目梁のブラケットにぶつけ、バランスを崩して墜落した。	30110	1	29
2007	12	～ 16	他の作業員 1 名と共にケーブル配線作業中の被災者が天井クレーンのランウェイから 8. 5 m 下のコンクリート床下に墜落した。被災者が作業していたランウェイ (幅 3 0 c m) 端には手すり等はなく、防網の設置もなかった。災害時の被災者は、保護帽、安全帯、安全靴を着用していたが、親綱等もなく安全帯は使用していなかった。	30301	1	1～9
2007	5	～ 20	9 階建ての既設マンション屋上で行われていた携帯電話基地局建設工 事において、作業員 7 名がアンテナの設置作業中、被災者は、屋上端 から身を乗り出し、アンテナケーブルのテーピングを行っていた。被 災者は作業を終え、屋上内部に戻ろうとしたところ、地上 2 7. 3 m の高さから墜落した。	30301	1	10～ 29
2007	3	～ 15	4 階建て事務所ビルの解体工事において、4 階フロアの解体時に 3 階 に落とした鉄骨梁の付いたデッキプレートが横に立った状態になり、 引き倒そうとドラグ・ショベルにワイヤーを掛けて引いたが倒れず、 様子を見に行った作業員 2 名がその後倒れてきたデッキプレートの下 敷きになった。	30209	5	0
2007	9	12 ～ 13	ホテル建物の 8 階外部装飾に鳩が入ってくるのを防ぐため、被災者は 鳩よけネットを取り付けようと、この外部装飾に上り作業をしようと していた。この部分はコンクリートとベニヤ板でできており、被災者 はこのベニヤ板部分を踏み抜き 1 階まで墜落した。	140101	1	1～9
2007	3	8 ～ 9	建物の維持管理業務中、1 0 階廊下手摺り上部に異常を発見し、その 後、作業中に 1 0 階から転落した。	170209	1	30～ 49
2007	6	～ 10	製氷の具合を点検するため、冷却機の製氷タンク (高さ 2. 7 m、直 径 2. 3 m) の上に登ったところ、同タンクから墜落した。被災者は 安全帯や安全帽等を着用していなかった。	130201	1	100 ～ 299

2007	3	8 ～ 9	グラップル装備の解体用重機オペレーターをしていた被災者は、他の作業員3名と共に木造平屋家屋の解体作業を行っていた。同家屋の北壁及び西壁の解体作業を開始し、被災者は重機で西壁を地面に倒した後、重機から降りて他の作業員と共にガラの分別作業を行っていたところ、続いて解体する予定であった北壁が南側へ倒壊し、被災者は倒壊した壁の下敷きになった。	30209	5	30～ 49
2007	2	15 ～ 16	クリーニング工場の脱水工程で、被災者は脱水機の脇にある通路を歩いていたところ、通路に設置されていた排水用の溝（深さ2.5cm、幅6.5cm）に躓いて転倒した。	11703	2	50～ 99
2007	2	11 ～ 12	被災者は、浄水場に送水するための取水口の引入口付近で、点検維持管理業務を行っていたところ、水面からの高さ約1.7mのところから水面へ墜落した。	11603	1	50～ 99
2007	9	17 ～ 18	4階フロアの機械室と同階クリーンルームエリア間を結ぶダクト設置作業において、機械室とクリーンルームエリアに分かれて作業を行い当該設置作業が完了し、クリーンルーム側で作業を行っていた被災者が機械室側に戻る途中、機械室側へ通じる扉と間違え、搬送リフト昇降路の点検扉を開け足を踏込んだため、4階フロアより2.5m下の当該昇降路ピットへ墜落した。	30302	1	1～9
2007	7	10 ～ 11	L型擁壁（PC版、重量4.3t）を据え付けるため、2.5tトラッククレーンを用いて立て起こし作業をしていた。L型擁壁を立て起こして、取り付けていた4箇所の専用のつりクランプを外したところ擁壁が倒れ、つりクランプを外す作業のために立て掛けていたはしごを支えていた被災者が、倒れた擁壁の下敷きとなった。	30201	5	10～ 29
2007	3	8 ～ 9	庇増築工事にて、被災者は、移動式足場に乗り作業を行っていた。被災者が通りかかった元請責任者に声を掛け、元請責任者が移動式足場を登っているときに、移動式足場が動き、被災者が移動式足場から墜落した。	30209	1	10～ 29
		16				

2007	8	～ 17	灯油貯蔵タンク内の製品のサンプル採取を行うためにタンク上に登った作業者が、高さ約10mのタンク上から墜落した。	170209	1	50～ 99
2007	7	～ 14	13 鉄筋コンクリート造の住宅解体現場にて、住宅南面の壁兼ブロック塀 をチッパーにて解体中、倒壊してきた高さ約2m、幅約2.6mのブ 14 ロック塀の下敷きになった。	30201	5	10～ 29
2007	7	8 ～ 9	開店準備のためシャッターを開けたが、台風により雨が店の中に入り 込むため、被災者（店長）は電動シャッターを閉めながら陳列台 （キャスター付きワゴン）を店内へ移動していたところ、降りてきた シャッターと陳列台との間にはさまれた。	80209	7	1～9
2007	4	～ 11	10 開閉式アーケード屋根上でアーケードのひび割れ箇所を確認しよう と、ポリカーボネート板（厚さ3mm）に乗ったところ、当該板が割 11 れ、これを踏み抜き、約9.1m墜落した。	30209	1	1～9
2007	9	8 ～ 9	夜間の国道の舗装工事において、現場事務所で元請から交通誘導員に 対する教育を受けた後、約200m離れた工事現場の詰所に向かって 街灯のない市道を歩いていたところ、橋の上から深さ約1.9mの用 水路に転落した。	170201	1	10～ 29
2007	1	15 ～ 16	下水道処理施設の改修工事において、反応槽のFRP製の蓋の上を作業 者3名が歩行していたところ、蓋を支持していたコンクリート製の 受台とともに、3枚の蓋が幅1.6m、長さ6mにわたって落下し、 作業員3名が墜落した。被災者は約10m下に墜落した。	30203	1	1～9
2007	10	9 ～ 10	アパート外壁塗装工事現場において、2階建の屋根から墜落した。建 物の養生を直すために屋根に上っていた。	30309	1	1～9
2007	3	8 ～ 9	標高700m付近から当日作業予定だった標高900m付近の治山ダ ムに作業員4名と向かう途中、被災者のみ別の治山ダムに立ち寄り天 端付近より約3m下に墜落した。救助隊によりヘリコプター搬送され たが死亡した。	30108	1	30～ 49

2007	11	15 ～ 16	被災者が自宅に帰って来ないので会社に電話し、勤め先の管理人が探したところ、清掃用具置き場のピット底に被災者が倒れているのを発見した。	150101	1	10～ 29
2007	11	13 ～ 14	3階建て分譲マンションの外部窓ガラスの清掃作業を行なうため、高さ約10mの3階屋上に上り、建物中央の吹き抜け開口部（370cm×337cm）付近で、ロープ（長さ80m）を丸環に結ぶ等のブランコ作業の準備作業をしていたところ、誤って吹き抜け開口部から地下1階（高低差12m）へ墜落した。	150101	1	10～ 29
2007	12	8 ～ 9	木造アパートの解体作業中、二階に上がるための鉄骨階段を破碎機を取り付けた車両系建設機械で切断しようとしたところ、デッキプレートにコンクリートを打設した構造の二階廊下（約1.2m×1.5m）が全面に渡り崩れ落ち、1階にいた作業員がその下敷きになった。	30202	4	1～9
2007	12	9 ～ 10	病院南棟2階で、被災者は窓の外側をスクイジーによるシャンプーの拭き取り作業を行おうとして誤って転落した。	150101	1	1～9
2007	9	9 ～ 10	鉄筋コンクリート建築物の5階の解体工事に伴い、鉄筋の溶断を行っていた作業員が倒れてきた壁にはさまれた。	30209	5	1～9
2007	8	15 ～ 16	木造3階建住宅新築工事において、荒床板貼り作業のため、床板を梁上に並べ、後退しながら釘打ち作業を行っていた際、次に釘打ちをするために並べてあった床板に足をかけたところ、床板が斜めに傾き、その隙間から1階コンクリート基礎床に墜落した。	30202	1	1～9
2007	3	14 ～ 15	被災者は単独で小学校体育館の窓ガラスの清掃作業を、窓の棧（幅12cm）に足を乗せて行っていたところ、8.3m下の体育館外側の小学校敷地に墜落した。	150101	1	1～9
2007	12	14 ～ 15	自動車修理工場（平屋建て、高さ4.84m）の解体工事の現場において、ハンマーで壁面のスレートを解体していた被災者が、工場に隣接する道路上で倒れているところを発見され、病院で死亡した。	30209	1	1～9

2007	5	11 ～ 12	<p>宅地販売業者から貯水池に面する斜面の草刈作業を請負い、刈り終えた草を集めて斜面上方まで運搬する作業を4人で行っていたところ、そのうちの1人が斜面に設置されていた貯水池へつながる排水溝（深さ1.2m）に墜落した。墜落時、被災者は保護帽を着用していなかった。</p>	30109	1	1～9
2007	3	10 ～ 11	<p>土砂崩壊防止のためのコンクリート壁造成工事において、被災者がコンクリート壁（高さ約2m×長さ約4m×厚さ約40cm、推定重量約7.5t）の型枠パイプサポートを地山側で取り外し、解体していたところ、約77度の角度で自立していたコンクリート壁が地山側に倒れ、地山とコンクリート壁との間にはさまれた。</p>	30108	5	1～9
2007	11	9 ～ 10	<p>被災者は、4階建てマンションの屋上で、ハッチの塗装作業を行っていた。養生のために敷いていた布が風で飛んだため、これを追いかけて取りようとしたところ、高さ11.95mのマンションの屋上から墜落した。</p>	30201	1	30～ 49
2007	2	14 ～ 15	<p>個人住宅の外装工事において、親方が壁のひび割れのモルタル補修を、被災者が塗装の準備作業である養生シートを敷く作業を離れて行っていた。親方が西側で作業をしていると「ドスン」という音がしたため、東側へまわってみると車庫前で被災者がうつ伏せに倒れていた。</p>	30209	1	1～9
2007	3	9 ～ 10	<p>2階便所内装工事において、室内壁にボード板を取り付ける作業を行うにあたり、災害発生当日、1階棟内通路がワックスがけにより使用できなかったため、棟外の渡り廊下から便所外側霧よけ上を通り、便所の窓から出入りしていたところ、霧よけ上から約4m下のアスファルト地面に墜落した。</p>	30203	1	10～ 29
2007	10	16 ～ 17	<p>信号柱に登りケーブル線交換工事を行っていた。ケーブル線を柱の先端から2方向にテンション張りするため、一方を終えてもう一方のケーブルを工具を使用して締め付けていたところ、突然、信号柱が中央部で折れて柱の上部で作業していた被災者は柱とともに地上に墜落</p>	30301	1	30～ 49

			した。			
2007	6	10 ～ 11	深さ0.45mのピット内にある薬物保管庫（高さ1.6m）天井部分に登り、転倒防止措置（保管庫を埋め込んだネジにロープで固定すること）を一人で行っていた。発見時ピット内に倒れていた。	11409	1	1～9
2007	3	10 ～ 11	小学校の校舎の窓ガラスの清掃作業中、2階にいた作業者が何かが落下したような音を聞いたため、様子を見に行ったところ、地上に倒れている被災者を発見した。校舎3階の窓枠に足をかけ、身を乗り出して窓ガラス外側の清掃を行っていたところ、地面に墜落したと思われる。なお、被災者は安全帯、保護帽を着用していなかった。	150101	1	50～ 99
2007	8	22 ～ 23	大雨により水位の上昇したダムの放流を行うため、同僚1名と事前の点検作業中、国道の橋の上から下部の河川敷の状況を確認していたところ、欄干上部から約30m下の河川に転落し、15時間後約1.5km下流で発見された。	11601	1	30～ 49
2007	7	11 ～ 12	被災者は高さ2.3mの資材置き場2階で足場板を番線で縛っていたが、バランスを崩して北側の雑木林へ転落した。	30309	1	1～9
2007	9	15 ～ 16	高さ約4.5m、傾斜約26度のコンクリート製擁壁の上で除草作業を行っていたが、休憩の時間となったため、擁壁下の道路に降りようとしたところ、擁壁の上を滑るようにして転落した。	30199	1	1～9
2007	3	12 ～ 13	トレーニングセンター内の階段状の植え込み上、地上高さ約7m付近に上がり、刈った枯れ枝を手で下へ掻き落としていた被災者が、足を踏み外して地面（アスファルト面）に墜落した。	30309	1	100 ～ 299
2007	8	15 ～ 16	鉄骨造3階建て建物の解体工事現場において、被災者が地上約3.7mの鉄骨梁の上で鉄骨同士をつないでいる部分をガス溶断したところ、被災者が片足を載せていた一方の鉄骨が垂れ下がり、被災者がバランスを崩しコンクリート地面に墜落した。作業場所には親綱が張っており、被災者は保護帽、安全帯を着用していたが、安全帯は使用し	30201	1	1～9

			ていなかった。			
2007	4	13 ～ 14	木造家屋建築工事現場で建方作業中、被災者は1階天井部分となる梁上で柱の設置作業を行っていたところ、約3.5m下へ落下した。	30202	1	1～9
2007	3	12 ～ 13	道路改良工事において、法面への基盤材吹付け作業終了後、被災者の姿が見えないため、捜索したところ現場近くの沼から溺死体で発見された。被災者は吹付ノズル（ガン）の操作を行っていたため、基盤材で汚れた手を洗うため手すりを乗り越えて沼へ下りていったところ、誤って沼に転落し、溺死したと思われる。	30199	10	1～9
2007	7	10 ～ 11	被災者は、スキー場内の地滑り発生現場にて、縦断配水管の状況を確認するため、既存地下マンホール（深さ約10m、管直径約65cm）内部に進入し、昇降設備を下降している途中、約5m下へ墜落し、死亡した。なお、当該マンホールの酸素濃度は4.4%（事故直後）であった。	170209	12	100 ～ 299
2007	6	13 ～ 14	被災者は、9階客室の椅子・テーブル等のセットの業務に従事していた。客室の最終点検を行ったリーダーから、客室のコップが不足しているので補充すること及び虫が入っているので客室より追い出すことを指示され、窓を開けて「はたき」で虫を追い出していたところ、開けた窓から2.4m下の地上に墜落した。	150101	1	100 ～ 299
2007	8	17 ～ 18	生コン工場内において、被災者が見当たらないので、プラント内を探していたところ、セメントサイロ（30t）の上部点検口が開いており、中に入ると様子がおかしいので、セメント粉体内をさがしたところ、埋まっている被災者を発見した。既に死亡していた。	10901	1	10～ 29
2007	9	16 ～ 17	牛舎を建設するため、被災者は、当該牛舎の屋根頂部に上り、鉄骨で組み立てられた換気口の傾きを修正する作業を行っていたところ、屋根の鉄骨と鉄骨との間に50cm間隔に並べられていた垂木を踏み折り、約9.5m下の地面に墜落した。	70101	1	1～9
			木造2階建の事務所兼木工場において、2階の作業場にある机の下付			

2007	3	13 ～ 14	近から煙が出ているのを発見し、作業員数名が消火器で火災を消そうとしたが、火の勢いが強くなり全員避難した。しかし、被災者だけが再度消火器を持って建物内部に入り、死亡した。	10503	16	10～ 29
2006	12	16 ～ 17	電柱上で設備点検作業を行っていたところ、安全帯ランヤードのフックと補助フックの掛け違いにより高さ約8m下の河川に墜落した。	110101	1	30～ 49
2006	12	13 ～ 14	橋台深礎杭の主筋建込み後、安全帯2丁掛けの一丁のフックを腹部の位置から取付け、水平方向に移動しようともう一丁のフックを外したところ、腹部の位置に取付けていたカラビナからフックが抜け、被災者は約1.1m下の杭底に墜落した。	30106	1	10～ 29
2006	9	10 ～ 11	被災者は、前日に降った雨により製品倉庫内に保管してある出荷前の商品が雨漏りによる影響がないかを確認するため、朝礼終了後一人で製品倉庫へ向かい、7月に補修した製品倉庫の屋根の状況を確認しようとして3階の非常口から屋外のベランダに出て、補修箇所の外観を確認していたところ1.3. 3メートル下の構内通路面に墜落した。	50101	1	1～9
2006	12	10 ～ 11	工場内会議室において、会議の準備をしていた被災者は、会議参加者が使用するために壁面に設置されたヘルメットホルダー付近にて転倒し、同ヘルメットホルダー部品が被災者を直撃した。	10808	2	100 ～ 299
2006	12	9 ～ 10	液化ガス貯蔵タンク（直径約40メートル、高さ約30メートル）の屋根面の塗装作業を行うため設置したゴンドラの撤去作業中、ゴンドラのワイヤロープの取外しを行っていた際、高さ約28メートルの貯蔵タンクの上から作業員2名が墜落した。	30309	1	1～9
2006	12	9 ～ 10	液化ガス貯蔵タンク（直径約40メートル、高さ約30メートル）の屋根面の塗装作業を行うため設置したゴンドラの撤去作業中、ゴンドラのワイヤロープの取外しを行っていた際、高さ約28メートルの貯蔵タンクの上から作業員2名が墜落した。	30309	1	1～9
		19	1 tトラックの荷台から荷を降ろし配送用の荷物の仕分け作業を行っ			10～

2006	11	～ 20	ていたところ、ホームから地面に墜落（1 m強）した。	40301	1	29
2006	11	8 ～ 9	中期点検工事において、エンジンの修理を請け負い、会社から持ち込んだ機械を搬入し段取り中、エアーの供給口にホースの取り付けをしていた被災者が、取り付け直後に乾ドッグの縁から約8メートルの深さのドックの底に墜落した。	11501	1	1～9
2006	12	16 ～ 17	生コンの追加注文が入ったので生コンプラントの操作室へ連絡したところオペレーターの被災者が内線に出ないため従業員全員で被災者を探したところ、骨材ヤード内骨材びんの一つに骨材をつつく棒がささっているのを発見し、つつき棒のささっている骨材びんを掘ったところ被災者が埋まっているのを発見した。	10901	1	50～ 99
2006	8	10 ～ 11	工場で平置きされた船体ブロック外板に鉄板の壁（以下フローア）を垂直に溶接取り付けする作業中、フローア（幅2.6メートル、高さ1.5メートル、厚さ1.4センチメートル、重量430キログラム）が、前屈状態で作業していた被災者に覆いかぶさるように倒れた。	11301	5	50～ 99
2006	11	4 ～ 5	事務所兼事業場付属寄宿舍（鉄骨造）2階にて3名の労働者が就寝していたところ1階の資材置場付近から出火し、2階の窓から飛び降りた被災者は死亡、1名が軽症、1名はほぼ無傷で、事務所兼事業場付属寄宿舍は全焼した。	30201	16	10～ 29
2006	12	11 ～ 12	建築後30年を経過して老朽化した事業主自宅のブロック塀（高さ1.9メートル、長さ12.5メートル）の自然倒壊を防止するため、事業主と被災者が手工具で当該ブロック塀を解体していたところ、ブロック塀が全長に渡って倒れ、被災者がその下敷きになった。	80109	5	1～9
2006	11	15 ～ 16	事業場所有の資材倉庫等の解体・整地工事において、土木作業員3人が、木造平屋造（軒高2.8 m、間口14.7 m、奥行き6.3 m）の資材倉庫を手作業で解体していたところ、同倉庫が突然横方向に倒れて、同倉庫の内部にいた被災者1人が下敷きとなった。	30199	5	10～ 29

2006	11	14 ～ 15	建物の解体作業現場で、コンクリートブロック壁が倒壊し、解体作業に従事していた作業員がコンクリートブロック壁と鉄骨に激突され、床面と鉄骨の間にはさまれた。	30201	5	0
2006	2	9 ～ 10	栈橋解体の作業において、被災者は地上付近のブレース（筋交い）を溶断し、上方のブレースを溶断しようと鉄骨の支柱を上っていたが、安全帯のフックを掛け換えたとき、約5 m下の地面に墜落した	30106	1	1～9
2006	10	8 ～ 9	ロック組立工場建屋内の足場材をジブクレーンで搬出するのに、つり上げの邪魔になる移動建屋を移動しようと、被災者が移動建屋壁面に設置された操作盤を操作して同建屋を移動中、同操作盤と停止していた門形クレーン脚部の昇降タラップの踊り場に挟まれた。	11501	7	10～ 29
2006	11	11 ～ 12	コンクリート擁壁のコンクリート打設作業のため、地上高約7.5 mの足場を組立作業中、被災者は擁壁にセパレータで固定していた角鋼管をはしごがわりとして機材を取りに地上に降りていたところ、高さ7 mの位置に仮置きしていた角鋼管があり、被災者はこれをつかんだため、鋼管とともに地上に墜落した。擁壁はベニヤ板、セパレータ、角鋼管を型枠材として組み立て、これにコンクリートを流し込んで築造する。	30108	1	1～9
2006	8	14 ～ 15	発電機建屋周囲の土間コンクリート打設後、被災者が転落防止柵に付着したコンクリ飛沫の拭取り作業を一人で行っていたが、9.5 m下の水面（ダム擁壁すぐ下の水たたき部、水深1 m）に浮いている姿が発見された。	30102	1	1～9
2006	10	15 ～ 16	道路の拡張工事に伴うコンクリート製の水路の設置現場において、被災者は水路に設置された高さ1.1 mの集水升の横にある石の上でうつ伏せになって倒れていた。	30106	1	1～9
2006	10	9 ～ 10	酒造会社の建屋等解体工事において、麴室として使用していた土蔵を解体するため、屋根と前壁を取り壊した。その後、3人で土蔵内部で資材の分別・回収作業を行っていたところ、側壁が倒れてきて3人のうち1人が逃げ遅れ、下敷きになった。	30199	5	30～ 49

2006	7	16 ～ 17	ビル改築工事現場において、2階外部壁面窓枠上部に取り付けられた換気扇用排気口グリル（雨水等浸入防止カバー）の取替え作業を行っていた被災者が、高さ約5メートルの2階窓枠部分から地上へ転落した。	30201	1	1～9
2006	9	9 ～ 10	木造建築新築現場において、1人で作業を行っていた被災労働者が、土場に倒れているのを訪問者に発見された。	30202	1	10～ 29
2006	10	8 ～ 9	門扉撤去の段取り作業中に、門扉を押したところ門扉が倒れて止めを超えて被災者の上に倒れた。	30199	5	1～9
2006	9	0 ～ 1	ケーブルを接続する出張作業中（1日のみ）、高所作業車を方向転換するため被災者は車から降りて車の誘導を行っていたが、その直後に運転手が門柱と被災者が倒れているのを発見した。	30301	5	1～9
2006	9	11 ～ 12	店舗→住宅用途変更改装工事において、コンクリート壁に窓を設けるために、はつり作業し、壁に鉄筋で繋がったままのコンクリート壁を取り除こうとした被災者が、鉄筋をサンダーにて切断し左右及上部の繋がれた鉄筋をすべて切断した際に、コンクリート壁の塊が倒壊し被災者に激突した。避けようとした被災者の倒れた場所にコンクリート壁に繋がった鉄筋がコンクリートの塊とともに倒壊して、倒れた被災者にあたった。	30201	5	1～9
2006	9	10 ～ 11	工場内にて、サンプリング調査のため、食肉冷凍庫内の電灯を付けようと入り口付近のスイッチを押しに柵の裏側へ立ち入ったところ、ヒモで開閉する扉と柵との間に身体をはさまれた。	10101	7	100 ～ 299
2006	8	13 ～ 14	牧場で飼っている牛馬の寝床に敷くおが屑を、木工所のサイロから2トントラックの荷台に落とそうとしたが、おが屑の出が悪かったため、サイロのホッパーを下からバールで突いたところ、大量のおが屑が落下し、被災者がおが屑を大量に吸い込んだ。	70101	4	1～9

2006	8	10 ～ 11	小学校において、給食調理員3名で、本館4階の配膳室の清掃作業中、窓拭きを行っていた被災者が、外側の窓ガラスを拭くために、3階の庇の上に降り作業を行っていたとき、庇の上から11.5メートル下の地面に墜落した。	10109	1	1～9
2006	8	11 ～ 12	3階建ての鉄骨鉄筋コンクリート造の建物の解体工事において、被災者はアセチレンガスを用いて屋上のペントハウスの南側の壁の鉄骨を溶断する作業を行っていた。被災者が南側の鉄骨の溶断を行った後ロープ等で引っ張って壁を倒す予定であったが、被災者が溶断作業を行っているときに南側壁面が突然被災者側に倒れてきて挟まれた。	30201	5	50～ 99
2006	8	18 ～ 19	建設寄宿舍から出火し、火元付近に寄宿していた被災者は出火時屋外にいたが、火を消し止めようと部屋に駆け込んで逃げ遅れた。	30106	16	30～ 49
2006	8	19 ～ 20	引越しのための荷の運搬作業を終えた被災者が、運搬先の共同住宅の階段踊場（2階と3階の間）において、手すりから身体を乗り出した状態で休憩していたところ、地面に墜落した。	170101	1	30～ 49
2006	8	13 ～ 14	マンションに併設している14階建て立体駐車場の定期点検のため、中央の昇降するリフト（車専用の搬器）に専用の足場板を敷詰め最上段まで昇降し巻上機の点検後、リフト上で小休憩をとり、各車室の点検作業開始し直後の13階の車室に移動する際に足を踏み外し約2.2mの高さから墜落した。	170209	1	1～9
2006	8	9 ～ 10	車庫2階部分の改修工事の見積りのため、車庫の2階部分を計測していた被災者が、鉄骨を踏み外し、天井材ボードを突き破って4.1m下のコンクリート床に墜落した。	30209	1	50～ 99
2006	7	10 ～ 11	工場内の2階作業場のプラスチック成形機への材料投入口（ホッパー）に被災者がうずくまっているのを同僚が発見し、救出しようとしたところ感電していて触ることができなかったので、電源を切り病院へ搬送したが死亡した。	10805	1	30～ 49
			建物解体工事現場にて、間仕切りのコンクリートブロック（高さ2.9			

2006	7	2 ～ 3	8 c m、幅 3 7 0 c m、厚さ 2 0 c m) の撤去作業中、コンクリートブロックが作業員の方向に倒れてきた。作業員は下敷きになり、死亡した。	30209	5	10～ 29
2006	7	15 ～ 16	マンション新築工事において、鉄骨組立作業のために親綱を張るべく、移動式クレーンにて親綱（8階と7階分を各10本）を束ね、ワイヤロープで玉掛けし、荷揚げを行った。被災者は、8階鉄骨梁上で当該親綱を待ち受け、8階用10本を荷下ろしした後、バランスを崩し、玉掛けワイヤロープにつかまっていたが、手がすべり1階コンクリート床に約24m墜落した。	30201	1	10～ 29
2006	7	16 ～ 17	木造家屋新築工事現場の外部枠組足場の1段目作業床上（高さ1.8m、幅21cm）において、トラッククレーン（5トン）にて吊り上げられた敷桁を、建屋外周の柱に取付けようとして、被災者の手許に当該敷桁が移動してくるのを待っている時、作業床から足を踏み外して墜落した。	30202	1	1～9
2006	6	10 ～ 11	工場内のスクラップを搬送する台車に手すりを取り付ける工事を行うため、作業用の足場を組み立てる準備をしていた。被災者はピット内に足場を組むため、ピット上部から足場の材料（1200枠）を手作業にて荷卸し中、ピット内に約2.2m墜落した。	30302	1	10～ 29
2006	5	8 ～ 9	構内船台において、貨物自動車運搬船のブロック組み立て中、船尾ブロックの継ぎ目部分をブロックの内側から溶接しようとしていた被災者が、ブロックの穴から雨水が浸入するのを防止するため、ブロックの外側に回り、ブロックの端の部分に立ち、穴をパテを使用し埋める作業中、高さが地上約8mのブロックの端より墜落した。	11501	1	50～ 99
2006	7	11 ～ 12	被災者は、船体ブロック上でキャスター付椅子に座った状態で、ガスバーナーを使ってひずみ取り作業を行っていたところ、キャスター付椅子の1本の脚がスカッパ（船体ブロックの雨水排水口）に入り、椅子が傾きバランスを崩して、船体ブロック上から約5.6m下の地	11501	1	30～ 49

			上へ転落した。			
2006	7	13 ～ 14	鉄筋コンクリート4階建て建物の窓拭き作業の準備中、高さ約22メートルの屋上から地上へ墜落した。	150101	1	1～9
2006	6	14 ～ 15	牧場内に鉄骨造り平屋建て牛舎を新築する工事において、被災者ともう1名が屋根の端に釘で板を打ちつけていたところ、誤って4.4mの高さからコンクリート床に転落した。	80409	1	10～ 29
2006	6	13 ～ 14	研修のため外出中、地下鉄駅でホームの端から約1mぐらい手前でかがんで電車を待っていた。電車が来たので立ち上がった際、前によろめいた感じでホームに落ち、電車に跳ねられた。	140101	1	50～ 99
2006	6	14 ～ 15	被災者は、社員寮改修工事の見積書の内容を確認するため、5階建ての寮の屋上で写真を撮っている際、屋上から約14.6m下の隣地駐車場に墜落した。	170209	1	10～ 29
2006	5	10 ～ 11	事務所ビルの改修工事現場において、3階天井（漆喰天井）の解体作業中、解体作業責任者がバールを使用して天井の漆喰を剥がしていたところ、突然、天井（幅2.2m×長さ11.2m）が壁を支点として落下した。解体作業責任者は声が聞こえたので、声の方を見ると10m先で被災者が落下した天井に寄りかかった状態で座り込んでいた。	30201	5	30～ 49
2006	5	12 ～ 13	事業場敷地内の工場建屋の裏手にあるフェンス付近において、そこに植えられている桐の木の小枝を手で剪定し、ゴミ袋に入れて作業中、桐の枝につかまってフェンス頂部に足を掛けた状態で、バランスを崩して工場敷地外周にあったコンクリート側溝に墜落した。	10102	1	10～ 29
2006	5	20 ～ 21	被災者は工場内の金属表面処理工程において、摂氏50℃から60℃に保温された工業用アルカリ洗剤の薬液が注入されている深さ283センチの脱脂槽に転落し、槽の縁にかけてあったシートと共に浮かんでいたところを、出勤してきた同僚に発見された。	11209	1	10～ 29

2006	4	15 ～ 16	交通警備員である被災者は、用便のために現場から約100メートル離れた地点まで走っていったが、その後被災者が戻ってこないため捜索したところ、現場から約260メートル離れた側溝の集水枳内で、発見された。	170201	10	50～ 99
2006	5	20 ～ 21	冷温水機の点検のため9階屋上の明り取り用ガラスの上を歩いていたところ、ガラスが割れて8階に墜落した。	170209	1	10～ 29
2006	5	14 ～ 15	顧客の依頼により農機具（トラクター）の修理に行った被災者が、農地内の古井戸（深さ約8m）に転落した。	80209	1	1～9
2006	4	13 ～ 14	播種機（苗箱に土、種、水を入れる機械）を撤去する工程で、土入れ機の上部に設けてある外付けのホッパー（高さ1.7m）内に置いてあったフレコンバックを取ろうとホッパー上で同僚1名と作業していた際、墜落した。	60101	1	1～9
2006	5	12 ～ 13	木造家屋の解体工事現場において、午前の作業が終了し、昼休みに解体工事現場内で休憩中、被災者が休憩していた付近の壁（高さ270×幅313厚さ12センチ）が被災者側に倒壊し、その下敷きになった。	30209	5	1～9
2006	2	0 ～ 1	被災者がビルの屋上に設置された1階店舗の換気扇の排気装置の状態を確認するため、同ビルの屋上に上がったところ、屋上パラペット部から足を滑らせ、約21m下へ墜落した。	170209	1	30～ 49
2006	4	9 ～ 10	スーパー新築工事現場の生活排水路の一部を撤去してボックスカルバートに改修する作業において、生活廃水路の一部を撤去後その下部をドラグ・ショベルで明かり掘削していたとき、下流にあった生活排水路が崩壊し（高さ2m、長さ3.9m、奥行1.8m、重量約14.5トン）、崩壊した排水路内で掘削溝の水の汲み出し作業をしていた作業員とともに掘削溝に転落し、作業員1名が死亡した。	30201	5	1～9
			マンション新築工事現場にて、被災者は同僚と2人で9階屋外鉄骨階			

2006	4	17 ～ 18	段部（高さ約2.3m）の外壁及び梁の塗装作業を行っていた。同僚が被災者に背を向けて作業を行っていたところ、突然、ガタンと音が鳴ったので、振り向いて階段吹抜部を覗くと、被災者が墜落していた。	30209	1	1～9
2006	4	5 ～ 6	被災者は、最大積載量約1.3トンの飼料運搬車にて、鶏の飼料を高さ約8mのサイロに投入する業務に携わっていた。同僚が、別の飼料運搬車で運搬に訪れたとき、被災者が、サイロと運搬車の間で、死亡しているのを発見した。	40301	1	10～ 29
2006	4	14 ～ 15	護岸裏の土砂流出による災害復旧工事現場において、2名で残された護岸（ブロック積み）の解体をしていたところ、幅約5m、高さ約2.4mの護岸（ブロック積み）が倒れて、護岸裏にいた被災者が被災した。	30199	5	1～9
2006	3	16 ～ 17	中央監視室設備改修工事において、事前調査として各階に設置している配電盤の位置を探している途中でPDS室にある扉を開けたところ、その扉の先が吹き抜けの開口部となっていたために約1.6m下のコンクリート床に墜落した。	30301	1	10～ 29
2006	4	9 ～ 10	廃品運び出し作業を本館2階と実験室2階とを結ぶ渡り廊下にて実施していた被災者が、約3メートル直下のトラック荷台に墜落した。被災当時約60kg重のガスマトログラフイーを荷台に直接投下しており、当該機械も被災者とほぼ同時に荷台に落下した。	150102	1	10～ 29
2006	3	9 ～ 10	被災者はろ過用活性炭の入れ替えを行うため、屋外に設置した吸引車から吸引ホースを伸ばして、活性炭吸着塔内で活性炭の抜き取り作業を行っていたが、吸引車の操作者が吸引ホースの異音に気づき活性炭吸着塔内を覗いたところ、活性炭に全身が埋没した状態で発見された。	170209	1	10～ 29
2006	3	13 ～	6階フロアに機械設備を搬入するため、4名の作業員が6階のフロアの搬入口扉を開け、屋外ステージ上で準備作業を行っていたところ、突然強風にあおられた搬入扉が閉り、ステージ上で手摺りの撤去	30302	1	10～

		14	作業を行っていた被災者に当り、その反動で約1.8m下の地面に墜落した。			29
2006	3	15 ～ 16	寄宿舍で火災が発生、災現場より被災者が発見された。	30309	16	10～ 29
2006	3	10 ～ 11	ビル屋上にある冷却塔の塗り替え工事において、塔の手摺内部から身を乗り出した時屋上部に墜落した。	30209	1	1～9
2006	3	11 ～ 12	水路改修工事において逆L型擁壁据付作業中、横に5つ並べた擁壁の1つが前のめりになってずれていたののでずれを直すため、作業員2人が擁壁の前後で擁壁の底部にバールを入れ押し上げようとしたが動かなかった。そこで擁壁の底面部の出し筋にワイヤを掛け、これを移動式クレーンで緊張させた上でバールを押し上げたところ擁壁が倒れ、擁壁の背後で待機していた作業者が擁壁と法面の間に挟まれた。	30107	7	1～9
2006	3	10 ～ 11	マンションの防水工事で屋上にて下地処理剤を塗る作業を行っていたところ、墜落した。	30209	1	1～9
2006	3	13 ～ 14	古いタワークレーンを解体する作業中、上部旋回体後部に取り付けられたカウンタフレーム（重さ8.9t）を解体するため、ワイヤロープ（16mm）で玉掛けした移動式クレーン（吊り上げ荷重45t）で保持した後、カウンタフレームを支持する鋼棒をガス溶断したところ、ワイヤロープが破断し、カウンタフレームが傾斜して、被災者は約1.3m下の地面に墜落した。その直後、カウンタフレームが被災者の上に落下した。	80109	1	1～9
2006	3	11 ～ 12	生コン製造用の砂が入ったサイロの中で、サイロの砂を全部かき出すため、サイロの内壁に付着した砂をかき落とす作業をしていたところ、被災者の足元の砂が崩落して被災した。	10901	1	10～ 29

2006	2	14 ～ 15	被災者は、河川護岸工事に伴う擁壁建造作業を行っていたが、被災者が建造中の擁壁と河川の間の溝に転落しているところを発見された。	30203	1	1～9
2006	2	14 ～ 15	架台組み立てを請け負っていた他社の作業員が、天井クレーンを用い、架台の天板（重量約284kg）を所定の位置まで移動させた。その際、玉掛け用具が天板の重量で取り外せない状況であったため、被災者が協力してバールを使って天板を持ち上げていた際、約4.9m下の床面に墜落した。	11209	1	1～9
2006	3	10 ～ 11	鉄骨・コンクリート造3階建て集合住宅の3階部分及び屋上部分を解体していたところ、手摺付3段コンクリートブロックが丸太足場側に落下し、当該足場が当該ブロックの激突した振動で揺れたため、当該足場の上に乗っていた被災者はバランスを崩し、前方の3階スラブ上に飛び降りたものの、上方から落下してきたコンクリートの塊に強打され、4.72メートル真下の地面に転落した。	30209	5	1～9
2006	1	13 ～ 14	セメント原料を生産するキルンのダクト（直径約3.4m、長さ約103m）からクリンカーダストを抜き出すダスト回収ホッパーがあり、このホッパー内に溜ったダストの抜き取り作業を行っていたところ、ダクト内にいた被災者が、ホッパーに引き込まれ、ダストの中に全身が埋没した。	30309	1	10～ 29
2006	2	16 ～ 17	工事現場において、橋梁に設置されている欄干の固定ボルトの点検作業中、橋梁のジョイント設置予定箇所の開口部（幅50cm）から約12m下の地面に墜落した。	30105	1	10～ 29
2006	2	10 ～ 11	ダム堰堤改良工事において、被災者がダム放水路内に設けられた作業構台を解体していたところ、作業構台の基礎部材であるH鋼が外れH鋼とともに水深約5メートルの川に転落した。被災者は、自力で泳ぎ救助を求めていたが、約5分後姿が見えなくなった。その後の捜索により発見されたが、死亡が確認された。	30302	1	1～9
		11				

2006	1	12	資材等の荷物を置くために、工場建屋内に設けられた高さ4.17mの棚の上で、荷物の整理を行っていたところ、当該棚から墜落した。	11301	1	10～29
2006	1	3～4	事業場の屋上で人を探していたところ、誤って墜落した。	140101	1	1～9
2006	1	19～20	地下機械式立体駐輪場の建設のため、立坑（直径7m、深さ15m）を掘削していた。他の下請け事業者が、翌日の作業に備え、立坑を覆っていた鋼製の覆工板（縦1m×横3m）を一部取り外し、開口部としていた。そこに資材を運搬していた被災者が、開口部より墜落し被災した。	30201	1	10～29
2005	1	10～11	取水ダムの排砂門に挟まった流木の撤去作業において、調査のためアクアラングを装備し潜水中に死亡した。	30199	90	1～9
2005	3	10～11	砂防工事現場において測量等の準備作業を行うため、法面下部の竹等の木々の伐採作業を行っていたところ、2.5m下の水路に墜落した。	30108	1	30～49
2005	11	10～11	電柱の建替え工事現場において、停電作業処理後、高さ9mの電柱の先端に上り、低圧電線を切断して地上に下ろす作業中、電柱が根元から倒壊して、電柱とともに河川に墜落した。	30301	1	10～29
2005	5	11～12	台風被害により崩壊した防波堤の災害復旧現場において、石積みの防波堤が崩壊し、乗っていたコンクリート製の床板とともに海中へ転落し、海中で当該床板の下敷きとなった。	30111	5	10～29
2005	8	4～5	発酵槽において、高さ8mの点検用足場に上がり、メタンガスを排出するためのハッチが閉まらないよう角材を挟み込む作業を行った後、地面に墜落した。	150102	1	30～49
2005	3	14	既設送電用鉄塔において、鉄塔から発生する風切り音を防ぐため、ネジの隙間にシーラントを詰め、ふたをする作業を高さ40mの箇所	30301	1	10～

		15	行っていたところ、墜落した。			29
2005	1	11 ～ 12	店舗の新築工事現場において、広告塔鉄骨（高さ12m）の錆止め塗装作業中に墜落した。作業箇所から6m下の安全ネットで墜落は止まったが、その間、張り出していた梁に激突していた。	30201	1	1～9
2005	3	8 ～ 9	工場内でトラックに飼料を積み込むため、飼料を積み込む荷台のタンクの蓋を開けようと運転席横のはしごを昇っていたところ、建屋の鉄骨部に当たり、その反動で3m下の地面に転落した。	40301	3	10～ 29
2005	7	10 ～ 11	建造中の貨物船において床材として使用する「すのこ」を作成するため、機関室倉庫の開口部から手を出し、木束を上部デッキの同僚より受け取る作業を行っていたところ、3m下の貨物スペース床面に墜落した。	10409	1	10～ 29
2005	1	11 ～ 12	既設のベルトコンベヤーを撤去するため、コンベヤーカバーのボルトを取り外していたところ深さ5mの水路に転落した。	30302	10	10～ 29
2005	8	10 ～ 11	雨で崩壊した盛土法面上のコンクリートブロックをドラグ・ショベルでつり上げて撤去する作業中、玉掛けを行うために斜面上のブロックに乗り、堆積している土砂を足で払い落としていたところ、バランスを崩して約10m下の地面に墜落した。	30107	1	10～ 29
2005	2	11 ～ 12	鉄塔解体工事で、鉄塔に取り付けられているアンテナを下ろすため、デリックでつりながら固定ボルトを取り外す作業をしていたところアンテナが下方にずれ被災者に激突した。	30209	6	10～ 29
2005	3	11 ～ 12	木製電柱の撤去作業において電柱に上がり、抜柱用の台付けを取り付けようとしたとき、地中に埋まっていた電柱が腐食のため折れて倒れ、電柱とともに被災者が墜落した。	30301	5	10～ 29
2005	8	6 ～ 7	木材チップの排出、運送業務において、サイロ内のチップの掻き落とす作業をしている際に足元のチップが崩れて、生き埋めとなった。	40301	1	1～9

2005	11	19 ～ 20	ビル屋上に携帯電話の中継基地を作る建設工事において、トランスを取り外す作業中、屋上（地上高さ20m）から墜落した。	30302	1	1～9
2005	8	16 ～ 17	建設機械の修理点検作業において、事業場敷地とその隣にある作業場敷地への行き来の際、両敷地の境界にある用水路に転落した。	30106	1	30～ 49
2005	2	10 ～ 11	組立定盤のパイプ治具上に設置された船体ブロックの部材取付作業において、部材の位置合わせのためチェーンブロックで部材を引っ張っていたところ、船体ブロック全体がパイプ治具からずり落ち、被災者が背後にあった鋼製ゴミ箱とずり落ちたブロックとの間に挟まれた。	11501	4	10～ 29
2005	3	19 ～ 20	事業場に隣接している寮で入浴中、浴室の洗い場の窓から4m下の地面に墜落した。	10105	1	30～ 49
2005	2	11 ～ 12	車庫解体工事において、梁等を溶断した後に自立していた前面枠を車両積載形クレーンでつり上げるため繊維スリングで玉掛作業中、前面枠が急に倒れ、前面枠とクレーンのアウトリガーとの間に挟まれた。	30209	5	1～9
2005	4	13 ～ 14	11階建てマンション屋上（地上高さ30m）の端部において清掃作業中に墜落した。	80409	1	1～9
2005	4	0 ～ 1	ガスタンクの解体工事で、ガス槽の屋根上でアーク溶接作業等を行っていたところ、ガス槽内部で爆発が発生してガス槽が跳ね上がり、ガス槽の屋根上で作業していた被災者が跳ね飛ばされ、地上に墜落した。	30309	14	1～9
2005	12	10 ～ 11	5階建てマンションの屋上で携帯電話基地局設置の調査中、屋上端部より地上に転落した。	30301	1	1～9
		16	道路の防災工事の現場において交通誘導及び落石等の監視を行って			100

2005	6	～	た警備員が、ガードレールの外側にある川の擁壁の上部から、7m下の	170201	1	～
		17	川に墜落した。			299
2005	12	～	15 鉄骨建て方中の梁上で、鉄骨製の柱にボルト取り付ける作業を行って	30201	5	10～
		16	いたところ、柱が傾き、アンカーボルトが抜け、柱と梁がともに倒壊			29
			し、柱と梁との間に挟まれた。			
2005	3	～	15 体育館内部の板材取り外し解体作業を行っていたところ、体育館軒先	30209	4	30～
		16	から300kgのスチール板が剥がれ落ち、被災者に激突した。			49
2005	12	～	11 鉄道駅構内において、業務中、ホームから軌道上に転落した。	40101	1	300
		12				～
						499
2005	1	～	13 室内の間仕切壁撤去作業を行うため、壁の上下左右の端部を鉄筋が露	30201	5	1～9
		14	出するまではつり、片側をパイプサポートとチェーンブロックで支持			
			したところ、壁が倒れ、被災した。			
2005	3	～	0 店舗解体工事において、ブロック造壁を引き倒す直前に、引倒し場所	30209	5	1～9
		1	に入り込み、壁が自重で倒れ、下敷きとなった。			
2005	3	～	16 工場増設に伴う電気設備工事において、鉄骨造3階建ての屋上にて	30301	1	1～9
		17	ケーブルの配線作業を行っていたところ、高さ15mの屋上端から墜落			
			した。			
2005	11	～	16 解体工事現場において、9階で重機を用いてコンクリートガラの小割	30209	1	1～9
		17	り作業を行っていたところ、廃材投下用開口部から墜落した。			
2005	1	～	16 ビル屋上に設置された看板の解体工事において、移動式クレーンにて	30209	1	1～9
		17	つり上げられた鉄骨部材が、内側に傾き、建物に当たりそうになった			
			ため被災者が荷のタラップ部分をつかんで、傾きを修正しようとした			
			ところ、突然、荷が外側に飛び出し、荷をつかんでいた被災者は荷と			

			ともに屋上の外側に振られ、そのままビル屋上から25m下の駐車場に墜落した。			
2005	4	19 ～ 20	地上16mの躯体5階端で、外壁取付けのためのアングルをアーク溶接する作業中、地上まで墜落した。	30201	1	10～ 29
2005	11	15 ～ 16	高さ2.5mの石垣の上で落ち葉の清掃作業を下見中、墜落した。	150101	1	10～ 29
2005	7	18 ～ 19	木造家屋新築工事現場の2階床で内部造作作業中、転倒した。	30202	2	10～ 29
2005	5	9 ～ 10	市街灯柱建替え工事現場において、架空引込電線及び蛍光灯器具の取外し作業中、突然柱が根元から折れ、被災者とともに地面に倒れた。	30309	1	1～9
2005	12	10 ～ 11	もみ殻庫内のもみ殻残量等を点検していたところ、もみ殻排出口下部付近でもみ殻に埋もれた。	170209	1	10～ 29
2005	3	9 ～ 10	宅地造成地フェンス取付け工事において、高さ4mの擁壁の上で電動ドリルを用いて穴を開ける作業中、バランスを崩して擁壁下へ墜落した。	30209	1	1～9
2005	3	16 ～ 17	携帯電話用無線鉄塔にケーブルを配線する作業において、鉄柱の梁上（高さ22m）で、ケーブルを固定していたところ、墜落した。	30209	1	1～9
2005	1	13 ～ 14	ブドウ糖液を貯蔵するタンク間をつなぐ配管敷設工事中、高さ10mのタンク上部から地上まで墜落した。	30302	1	10～ 29
		8	配達のため正面西側のオートロック扉から建物内に入り、配達後退出			10～

2005	5	～	する際に、正面扉横のガラス壁に激突したため、割れたガラスで被災	40301	3	29
	9		した。			
2005	9	10	送電鉄塔で絶縁体部品のがいしの洗浄作業で、鉄塔上部を移動中に	30309	1	10～
		～	50mの高さから墜落した。			29
		11				
2005	2	12	店舗の階上にある寝室で休んでいたところ、火災が発生し焼死した。	140209	16	1～9
		～				
		13				
2005	12	9	砂防副堰堤上を移動中、当該堰堤上に被せてあった養生用シートに足	30108	1	1～9
		～	を乗せた際、足を滑らせて6m墜落した。			
		10				
2005	4	0	県道の除雪工事において、高さ1.8mの道路擁壁上に上がり、車両の通	30199	1	10～
		～	行に支障となる雑木類の除去作業中、足が滑り道路に転落した。			29
		1				
2005	2	8	畳を擁壁上で運んでいたところ、突風によりあおられ7.2m下の地面へ	30108	1	1～9
		～	墜落した。			
		9				
2005	10	10	建物の1階の庇の上で外ガラスを清掃中、3m下の地面のコンクリート	150109	1	1～9
		～	に墜落した。			
		11				
2005	5	8	マンションにおいて、暖房屋外機の置き場の床シートの貼り状況を確認	30201	1	1～9
		～	するために、5階の窓から幅が70cmの屋外機置き場に下りようとし			
		9	て窓の手すりを乗り越えた際に、そのまま12m墜落した。			
2005	8	7	サイロの改修工事においてシートからの浸水がないかを確認しようと	30302	1	10～
		～	して、サイロ頂部から貯蔵物であるセメント面まで15m墜落した。			29
		8				
		13	高さ3mの箇所にある配管をガス溶接装置で切断し撤去する作業中、墜			10～

2005	10	～ 14	落した。	10901	1	29	
2005	2	～ 8	寮の管理業務に従事していた被災者が、管理室内で転倒した。	170209	2	1000 ～ 9999	
2005	10	16 ～ 17	鉄骨コンクリートブロック造の車庫解体工事において、鉄骨の屋根部分を撤去後、軽量コンクリートブロックで造られた壁の一部を残して解体する作業中、残す部分をコンクリートカッターで縁切りしても完全に縁が切れなかった箇所を被災者がハンマーで叩いて縁切りしていたところ、壁が高さ約3m、幅7mにわたって倒れ、その下敷きとなった。	30201	5	10～ 29	
2005	6	17 ～ 18	2階の窓拭きをベランダ（幅62cm）で行っていたところ、5m下に墜落した。	140201	1	1～9	
2005	12	～ 10	9 ～ 10	駐車場に歩いて向かっていたところ、凍結していたため転倒した。	80409	2	10～ 29
2005	4	～ 14	13 ～ 14	檜設営工事において、高さ12.5mの箇所で安全帯のフックを掛けていたカラビナからフックが外れ、地上へ墜落した。	30107	1	10～ 29
2005	2	～ 9	8 ～ 9	鉄骨の高さ調整作業を高所作業車に乗り行っていたところ、鉄骨が落下し、下にいた被災者に当たった。	30201	4	50～ 99
2005	12	～ 10	9 ～ 10	下水道施設調査業務において、マンホールを開け、はしごを挿入した際に、深さ3.6mの下水道に墜落し、溺れた。	30110	10	1～9
		7	出張中、宿泊していたホテルの部屋（7階）の窓を開閉しようとして、			300	

2005	2	8	床から90cm高い位置にある内窓の枠と外窓の枠に足をかけたところ、バランスを崩し転落した。	11403	1	～ 499
2005	12	18 ～ 19	明かり取りの天窓の取外しを行うため、屋上に出て取外しの対象である天窓の確認を行っていたところ、天窓付近から7m下に転落した。	30309	1	1～9
2005	12	11 ～ 12	建物屋上に設置してある貯水槽の内部を調べるため、貯水槽に設けられたタラップを昇っていたところ、墜落した。	170209	1	1～9
2005	5	21 ～ 22	ガスタンク（直径60m）の外層と内層の間に断熱材の紛体を充てんする作業を行っていたところ、誤ってタンク上部の球面で滑落し、側壁部の充てん済みの断熱材に埋没した。	30309	1	1～9
2005	8	17 ～ 18	給油ホースをトラックの荷台から屋外に設置された灯油タンクまで引き出す作業に従事していたところ、敷地内にあった使用されていない古井戸の中に墜落した。	80204	1	1～9
2005	2	13 ～ 14	工場敷地内にある廃水処理装置を見回りしていたところ、廃水処理装置の原水の調整槽（水深5m）に転落した。	10701	10	50～ 99
2005	3	10 ～ 11	事業場内において、倉庫に保管している米を確認するため、倉庫の脇を歩いていたところ、倉庫の下屋が倒壊して激突し、その際、下屋に積もっていた雪が落下し、その下敷きとなった。	40301	5	50～ 99
2005	11	14 ～ 15	保管庫新築工事において、地山（斜度17度）に沿って斜面に打設したコンクリート壁（長さ30m）の内側で残材の片づけをしていたところ、当該壁が内側に倒壊し、被災者が下敷きとなった。	40301	5	10～ 29
2005	11	13 ～ 14	2階建て納屋解体作業現場にて、解体された建材の分別作業に従事中、煉瓦壁の上部に固定されていた角材を重機で撤去したところ、突然煉瓦壁が倒壊し、当該壁と重機との間に挟まれた。	30209	5	1～9
		9	フォークリフトで篩（ふるい）網を床に下ろす作業中、篩網の上に乗			50～

2005	3	～	り、運転手に合図を送っていたところ、3m下のコンクリート床に墜落	50101	1	99
	10		した。			
2005	6	15	鉄骨柱の建方作業中、移動式クレーンにより基礎に据え付けて仮止め	30201	5	10～
	～		を行った建方開始後、3本目の柱の頂上部に上り、玉掛けワイヤロープ			29
	16		を外し、地上へ下りる際、鉄骨柱が傾き始めたため頂上部に戻ったも			
			の、そのまま鉄骨柱が倒壊し、被災者が鉄骨柱とともに墜落した。			
2005	12	11	木造建物の解体工事において、鉄骨フレーム造の物置にベルトスリン	30202	5	10～
	～		グで玉掛けを行っていたところ、物置が不安定な状態であったため、			29
	12		転倒して下敷きとなった。			
2004	3	21	擁壁側の路盤の手直し作業を急ぎよ行うこととなったため、夜間まで	30199	1	1～9
	～		残業をすることになり、暗くなった後、西側から東側へ照らす投光器			
	22		が1台しかない状況の中で、作業場所間を移動していた時に、擁壁の上			
			から、深さ5.7mの水の入っていない貯水池の底に墜落した。			
2004	2	13	産業廃棄物処理場中間保管場所敷地に隣接する川の堰堤（高さ約	150102	1	30～
	～		6.5m）の端から墜落した。			49
	14					
2004	5	15	骨材プラントに設置してある砕石ダスト貯蔵コルゲートビン（鋼製の	30101	1	10～
	～		円筒形のタンクで直径5m、高さ4.9m）内で、被災者が1人で同ビン底			29
	16		部の排出ゲートから砂岩の砕石ダストをスコップを使用して排出する			
			作業を行っていたところ、貯蔵していた砕石ダストに埋没した。			
2004	9	7	高さ5mの木材チップタンクの底面を開放し、チップタンク下のトラッ	40301	1	10～
	～		クに、木材チップを積み込む作業を行っていたところ、5m下の地面に			29
	8		墜落した。			
2004	2	7	被災者は、朝のミーティング時に資材置き場へ行った。しばらくして	30199	1	30～
	～		被災者らしき者のうめき声がしたため資材置き場を確認すると、コン			49
	8		クリート床に仰向けに倒れている被災者が発見された。			
		14	鉄骨組スレート葺きの工場、一部解体工事において、スレート外壁を			

2004	2	～ 15	鉄骨の横棧の上に乗って、手持ちハンマーで破碎していたところ、当該作業箇所から墜落した。	30209	1	1～9
2004	3	～ 17	無線中継所新設工事現場において、通信用鉄柱上で避雷針を取り付ける作業中、上にある作業袋を下ろすために移動したところ、安全帯の掛け替えができていなかったために約10m下の架台上に墜落した。	30301	1	10～ 29
2004	5	～ 14	組立工場において、貨物船の2重底の組立作業を4名で行っていた。ブロックの側面の鋼板をクレーンで定盤上のブロックの所定の位置に設置し、チェーンブロックで4カ所を固定した。3名で鋼板をブロックに仮溶接し、チェーンブロックを調整した直後、鋼板が突然落下し、ブロックの外側にいた被災者と他の作業者が鋼板の下敷きになった。	11501	4	1～9
2004	12	9 ～ 10	窓拭き作業に従事していた被災者は、高さ1.2mの擁壁を乗り越えてひさしからベランダへ移動するため、タラップが取り付けられている場所を登って擁壁を越えようとしたところ、バランスを崩しベランダに転落した。	150101	1	1～9
2004	3	9 ～ 10	ビル解体現場において、飛散防止用シートを取り外す作業中、約8m下の解体がら上に墜落した。	170209	1	1～9
2004	5	19 ～ 20	工場敷地内を自転車で夜間巡回警備中に、岸壁から自転車で海に転落した。	170201	1	100 ～ 299
2004	7	9 ～ 10	建造中のコンテナ運搬船の左舷船首側のアッパーデッキを含む船体ブロックをジブクレーンでつり上げて船体に据付け後、突然当該ブロックが外側に倒れ、ドック底に向けて倒壊し、ブロック天端で作業中の被災者がドック底に転落した。	11501	1	1～9
2004	7	9 ～ 10	建造中のコンテナ運搬船の左舷船首側のアッパーデッキを含む船体ブロックをジブクレーンでつり上げて船体に据付け後、突然当該ブロックが外側に倒れ、ドック底に向けて倒壊し、ブロック天端で作業中の被災者がドック底に転落した。	11501	1	100 ～ 299

2004	6	15 ～ 16	宅地内排水配管埋設用の側溝内に、レベルを測るため降りようとして滑り落ちた。	30110	1	1～9
2004	9	9 ～ 10	高さ約2mのブロック塀を縦に必要箇所切断し、その後ドラグ・ショベルで倒壊させる工事において、被災者は、倒壊させるより前に、そのブロック塀付近で準備作業を行っていた時に、ブロック塀が幅約5mにわたって倒壊し、その下敷きとなった。	30209	5	1～9
2004	2	8 ～ 9	作業開始直前に、既設のスロープを駆け降りようとした被災者がスロープの端から2.3m下のアスファルトに墜落した。	30199	1	10～ 29
2004	4	17 ～ 18	屋外の汚水処理施設汚泥貯槽内に降りる際に転落し、溺死した。	150105	10	1～9
2004	10	0 ～ 1	木造建築現場において、荷物を、受け渡す要領で荷卸し作業を行っていたところ、荷の受け手であった被災者がバランスを崩し、2m下のアスファルト道路に墜落した。	40301	1	50～ 99
2004	2	9 ～ 10	ホテル内プール棟8階ベランダ上に仮設されていた足場を解体するため、被災者はベランダの手すりを乗り越え、腰壁（高さ約20cm）上で防網を取り外す作業を行っていたところ、誤って足を踏み外し、ベランダから約19m下の隣棟3階の屋上に墜落した。	30209	1	1～9
2004	3	11 ～ 12	重油タンク解体作業中、屋根板のガス溶断を行っていたところ、屋根板および梁が落下し、その上で作業していた3名が被災し、うち2名が死亡した。	30209	1	1～9
2004	3	11 ～ 12	重油タンク解体作業中、屋根板のガス溶断を行っていたところ、屋根板および梁が落下し、その上で作業していた3名が被災し、うち2名が死亡した。	30209	1	1～9
		13				

2004	12	14	木造2階建新築工事において、高さ6.4mの建屋から墜落した。	30202	1	1～9
2004	12	17 ～ 18	建設廃材を細かく砕いた再生土が入ったピット（6m×6m×4.7m）のその再生土の上に乗り、ベルトコンベア補修作業をしていたところ、ピット内の再生土がピット下部にあるホッパーから流れ出たため、再生土に飲み込まれ生き埋めになった。	10909	1	1～9
2004	5	14 ～ 15	ビル（10階建）6階フロア窓清掃作業において、室内から窓枠に足をかけ、体を外に乗り出して窓拭き作業を行っていたところ、約17m下の地上に墜落し死亡した。	150101	1	1～9
2004	7	11 ～ 12	ボイラー煙突の地上約100mの部分に設けられている既設の作業床を踏み抜き、地上約75mの部分に設けられた既設の作業床へ墜落した。	30203	1	10～ 29
2004	1	17 ～ 18	溶解炉のバーナーの修理作業を終了後、手洗いのため工場構内を通行中に炉用インゴット冷却用水槽（水温約70℃・深さ約1m）に転落した。	80109	1	1～9
2004	10	10 ～ 11	5階建ての建物の4階にあるプレヒーター（石灰岩を仮燃焼させる炉）を解体する作業において、被災者が下部をガス溶断していたところ、溶断箇所上部の一部が落下し、被災者を直撃した。	170209	4	1～9
2004	5	16 ～ 17	鉄骨2階建倉庫解体工事現場で鉄骨の梁（長さ約6m、重量約300kg）を、アームの先端に鉄骨カッターを取り付けたドラグ・ショベルで2階から下ろそうと梁を挟んで持ち上げたところ、梁が振れて近くにいた被災者がその梁を避けようとして墜落した。	30201	1	1～9
2004	12	14 ～ 15	公民館屋上に倒れ掛かった木を撤去する作業において、当該風倒木の根元（直径約25cm）をチェーンソーで切断したが、木は切断面が離れず屋上から落下しないため、被災者が屋上に上がり、端に立って木を揺すって落とそうとしたところ、突然木が落下し、これに当たった被災者が外階段の踊り場に墜落した。	30202	1	1～9

2004	1	11 ～ 12	会議室改修工事において、冷暖房用のダクトを取り外すため、ダクトを囲むコンクリート壁を解体中、コンクリート壁の下部のはつりが終わったため一時作業を中断しようとした直後、突然東側のコンクリート壁が倒壊し下敷きとなった。	30201	5	10～ 29
2004	7	8 ～ 9	事故当時、被災者は一人で2階梁鉄骨のボルトの本締め作業中、バランスをくずして高さ3.4mから墜落した。	30201	1	1～9
2004	3	14 ～ 15	ガードレール設置工事現場において、打設されたガードレールの基礎コンクリートの法面（のりめん）側にある型枠を法肩に立って解体していたところ、法長約20m下にある県道の側溝付近まで法面を転落した。	30106	1	10～ 29
2004	3	16 ～ 17	建物改修工事現場の地下1階において、コンクリートブロック製の間仕切り壁（高さ4.9m、横4.2m、厚さ0.15m）を解体中、壁の下部分をハンマーで叩いていたところ、壁が手前に倒れ、その下敷きとなった。	30201	5	1～9
2004	10	0 ～ 1	プラント運転者がプラントを稼働させようとしたところ、骨材ビン（砂ストック個所）の砂の中に埋まっている被災者を発見した。	30108	4	1～9
2004	11	13 ～ 14	ダム浚渫工事のため、取水口のゲートを開放したまま、ゲートの状況を確認しようとダム内に潜水した後、他のダイバーにより、水面下7mの取水ゲートに覆い被さるように貼り付いているのが発見された。	30199	10	1～9
2004	8	17 ～ 18	エスカレーターの照明器具取替え作業を行っていたところ、照明カバーの止め金具が同エスカレーターのひさしに落ちたため、被災者はそれを取ろうと同エスカレーターの外側に身を乗り出した時に、約12m下に墜落した。	170209	1	10～ 29
2004	1	11 ～	自社の資材置き場を拡張する工事中、法面（のりめん）（約65度）に面した手すりを撤去するため車両系建設機械で引き抜いていたところ、車両系建設機械が転倒したため、近くで手元作業中の被災者が、	30199	1	1～9

		12	これを避けようとして法面を約5m墜落した。			
2004	11	14 ～ 15	RC造4階建住宅解体工事において、階段室の側壁を解体していたところ、突然壁が被災者の方に倒壊し、下敷きとなった。	30209	5	1～9
2004	10	15 ～ 16	2階建て物置の屋根部分の解体作業を2階床（高さ約2m）で内側から行っていたとき、1階土間部分に墜落した。	30209	1	1～9
2004	3	15 ～ 16	ビル屋上において、屋上フェンス扉の修理作業の確認写真を撮ろうとしたとき、約40m下の地面に墜落した。	170209	1	300 ～
2004	9	13 ～ 14	雑居ビルのエレベーター1階外扉についたキズの状態を確認し、キズついていた扉の交換のための採寸作業を行うため、一人で雑居ビル内で作業中にエレベーターピット内で墜落した。	150101	1	10～ 29
2004	7	7 ～ 8	13階建てマンションの屋上にある広告用看板のシートを張替える工事で、養生ネットを張る作業をしているとき、被災者が看板の上から約45m下の地上に墜落した。	170209	1	1～9
2004	4	1 ～ 2	SRC造のビル解体工事において、5階部のコンクリート柱の内部の鉄筋および鉄骨をガス溶断作業中、同柱が壁と共に倒壊し、被災者が挟まれた。	30209	5	1～9
2004	2	13 ～ 14	ビルの建築設備検査のため、ビルの屋上に検査業者とともに上り、点検対象の機械から下りようとしたところ、転落した。	170209	1	1000 ～ 9999
2004	5	11 ～ 12	校舎増築工事の鉄骨建方作業において、鉄骨支柱を移動式クレーンを用いてつり上げ、地面に垂直に据え、各部のボルト締めを行っていたところ、支柱が倒れ、上部で作業をしていた被災者が支柱もろとも地面に叩きつけられた。	30209	5	1～9
		16				

2004	2	17	建物の解体作業中、2階押入れの天袋の梁上でバールを使って作業していたところ、誤って約7メートル下の地面に転落した。	30202	1	1～9
2004	9	13 ～ 14	吸着式冷凍機の冷水タンク配管に電気ドリルで穴を開け、温度センサー用ソケットをアーク溶接機で溶着する作業を行っていた際、何らかの物質に引火して爆発し、同冷水タンクに取り付けられた鉄製の蓋2枚のうち1枚が被災者を直撃した。	30302	14	1～9
2004	7	10 ～ 11	マンションの塔屋上の高架水槽を点検清掃し、ひさしの上に移り、道具を下ろす準備中にマンション屋上に墜落した。	150101	1	1～9
2004	2	11 ～ 12	3階建て木造建築物の建前作業中、3階床部分の梁の上から足を踏み外し、約6m下の1階土間に墜落した。	30202	1	1～9
2004	2	14 ～ 15	高さ24mのマンション新築工事において、屋上の配管接続作業中、調整具合を後ずさりしながら目視点検していた時、外壁立ち上りに当たり墜落した。	30201	1	1～9
2004	2	10 ～ 11	工場の屋根の塗装作業をしていた被災者が、誤って屋根の採光窓のガラスを突き破り、高さ7.2mの屋根から床に墜落した。	30209	1	1～9
2004	5	9 ～ 10	事業所構内を巡回中、冷却塔上部より冷却水がこぼれ落ちているのを発見し、高さ約1.2mの階段を昇り、進入扉を手前に引いたところ、手がすべり、反動でアスファルト路面に転落した。	11009	1	100 ～ 299
2004	2	11 ～ 12	道路拡張工事現場で、帯工の型枠をはずしていた時、突然当該帯工が倒壊し、コンクリート床との下敷きになった。	30106	5	1～9
2004	11	10 ～ 11	市道脇に雨水を通すU字溝を敷設する工事で掘削作業中に、市道脇の民家のブロック塀（高さ160cm）が基礎を残し8.5mにわたり倒壊、溝の床固め作業を行っていた被災者がブロック塀と溝の縁に挟まれた。	30110	5	1～9

2004	11	15 ～ 16	砂貯蔵用のホッパー内で貯蔵していた砂が固まり、ホッパー下部の開 放口から落ちないため、ホッパー内部に入り、鋼製の棒を使って砂を 叩いていたところ、突然落ちはじめた砂に巻き込まれ埋没した。	10901	1	1～9
2004	9	10 ～ 11	マンホール内における下水道管（直径70cm）の内壁点検作業におい て、上流側の管を止水ボールで閉塞し下流側の管を点検をしようと していたところ、止水ボールが外れ、流れ込んだ下水により下流側に流 された。	170209	10	1～9
2004	5	15 ～ 16	解体工事現場において、フロントアタッチメント（カッター）を取り 付けたドラグ・ショベルにてプラント建屋の鉄骨支柱を切断作業中、 当該プラント建屋がドラグ・ショベルの上に倒壊し、当該機械の運転 席にいた被災者が運転席と共に押しつぶされた。	170209	5	1～9
2004	11	13 ～ 14	生コンプラントの骨材投入口に取り付けられている保護用ラバーを交 換する作業において、取り外したラバーをホッパー内部から拾うため に点検口よりタラップを降りようとして墜落し、ホッパー内の碎砂に 埋没した。	10901	1	10～ 29
2004	6	11 ～ 12	ビニールハウスの解体作業中、休憩をとるため近くにある小屋に入ろ うとした時、小屋入り口のシャッターをつっていたワイヤロープが切 断したためシャッターが落下し、被災者が下敷きとなった。	10803	4	10～ 29
2004	7	10 ～ 11	発電所定期点検工事において、タービン建屋の外にある循環水放水管 上部にあるピットマンホールから内部に入り込み、約21m下の放水管 底部まで墜落した。	170209	1	10～ 29
2004	2	14 ～ 15	移動式クレーンで破砕機を架台にのせた後、ワイヤロープを外すため に破砕機上部に上り、作業を終えて下りる際に転落した。	30302	1	1～9
2004	10	17 ～ 18	橋梁工事において25 t 移動式クレーンを用いてエレクションガーダー の仮バンド撤去作業中、仮バンドの上に敷いていた鉄板を地上へ降ろ すために、鉄板にクランプを取り付け単管をコロにして移動させてい たところ、鉄板が滑り落ちてつり足場に落下、それと同時に被災者は	30105	1	10～ 29

			鉄板を避けようとして、高さ約3.6m下の橋脚上に墜落した。			
2003	12	13 ～ 14	エレベーターの昇降路塔の上部で、校舎の「ひさし」を解体したときの「コンクリートがら」を地上に搬出するためバケツに詰めているときに、昇降路塔と外部足場との隙間（50cm）からピットに墜落（高さ：約13m）した。	30199	1	1～9
2003	12	11 ～ 12	事業場の駐車場脇の生コン車洗浄用水等の浄化沈殿槽内でコンビニで昼食を買った被災者が近道をするため、通路外を通ったため、ほぼ満水状態の沈殿槽に転落し、溺死しているのを発見された。	10909	10	10～ 29
2003	12	11 ～ 12	ロングスパン工専用エレベーターの屋上ステージで、リミットスイッチの配線作業を終了したときに、屋上のパラペットを越えて31m下の地上に墜落した。	30201	1	30～ 49
2003	12	13 ～ 14	病院5階の階段部分の窓拭き清掃作業で、建屋外部へ出て作業を行って5階からアスファルト面に転落した。	150101	1	30～ 49
2003	12	8 ～ 9	岸壁付近に重ねて置かれていたパレット（重さ約1t）3枚をトラックに積み込む作業で、上2枚のパレットの向きを変えるため玉掛けしてジブクレーンで2枚同時につり上げ回転させていたときに、下のパレットが引っ掛かったのでこれを外したときの反動でバランスを崩し岸壁から海中に墜落した。	11501	1	1～9
2003	12	10 ～ 11	地上4階建の職員寮において、4階塔屋の上にある高架水槽の清掃を行ったのち高架水槽の点検をしていたときに、高さ約13mの高架水槽の天板または高さ約11mの塔屋の上から地上へ墜落した。	150101	1	100 ～ 299
2003	12	10 ～ 11	作業前ミーティング後、通常業務であるコンクリート用骨材の管理業務に従事していた者から指示がないため、場内放送、電話等で探したところ、骨材ストックヤード（砂ビン約20m ³ ・高さ約6m）上の砂びんの上に立ち入り、自動運転中にびんの底が開いたため骨材ストックヤードの砂に埋もれているのが発見された。	10909	1	1～9

2003	12	14 ～ 15	木造建築物の解体で、2階の床（コンパネ）を外す作業中に2階の床端部より墜落した。	30202	1	1～9
2003	12	11 ～ 12	4階の床に積み上げた解体ガラ上に重機を載せて上階の解体作業を行っていたときに、4階の床が抜け落ちたため3階と1階の床を突き抜けて落下し、重機の運転士ががれきの下敷きになった。	30201	1	1～9
2003	12	9 ～ 10	高速道路の高架橋工事において、外部足場設置の妨げになる分電盤とキャブタイヤコードを上り線から下り線につり上げ荷重が2.9tの移動式クレーンで移設するため、キャブタイヤコードに玉掛けして移動しているときにバランスを崩し14.5m下に墜落した。	30105	1	10～ 29
2003	12	17 ～ 18	アスファルトをトラックに積載するサイロの出口扉部分の開閉具合が悪かったので、扉を全開にして扉部分にたまったアスファルトかすをガスバーナーで加熱して取り除いていたときに、扉が閉って頭をはさまれた。	10804	7	1～9
2003	11	9 ～ 10	6階建ビルの塔屋（エレベーター機械室）上に設置された高架水槽を撤去のためハンドグラインダーで切断中に、塔屋の上から約5m下の非常階段の踊り場に墜落した。	30203	1	1～9
2003	11	20 ～ 21	ダムベータで客室から引き上げた食器類を5階の厨房へ運ぶため、4階でダムベータの搬器内へ積み込もうとしたところ、搬器が5階に停止していて4階には来ていなかったため、4階昇降路の荷の出入口から約10m下の昇降路底部へ墜落した。	140101	1	1～9
2003	11	13 ～ 14	6階マンション新築工事で、屋上の床面の仕上げを行って電気コードリールを片付けているときに、高さ30数cmのパラペットを越えて18.7m下の歩道に転落した。	30201	1	10～ 29
2003	11	16 ～ 17	工場内の休止設備の現状確認業務で、脱ガス設備と排ガス分析室の調査を終え、同僚の後に続いてエゼクター室上部フロアーを歩行中に、フロアーが腐食していて床を踏み抜き約11.2m下のエゼクター室床面に墜落した。	11001	9	1000 ～ 9999

2003	11	16 ～ 17	ゴミ焼却施設で、カーボン貯留槽内のカーボン残量を確認していたときに、マンホールからカーボン貯留槽内に転落した。	150103	1	10～ 29
2003	11	0 ～ 1	高架橋工事において、塗装の補修作業を行っていて昼になったので作業員は休憩に入ったが、職長だけがそのまま現場に残り一人で補修の確認作業を行っているときに、桁に足を掛けた状態で足を滑らせ手すりの上から13m下の地面に墜落した。	30105	1	1～9
2003	11	11 ～ 12	アパート外壁塗装工事に伴う電線防護工事で、アパート2階の通路手すり（高さ1.24m）に上って電線の引き込み取り付け点の状況を確認しようとしていたときに、手すり上から後ろ向きに通路に墜落した。	30301	1	10～ 29
2003	10	14 ～ 15	ホテル屋上の定置式ゴンドラをつりワイヤの交換およびリミットスイッチ用ストライカーの補修溶接作業中に、階段室屋上のパラペット付近から約2m上方のゴンドラ点検通路上にいた作業員に軍手を渡そうとしたときに、パラペットから約6m下の床に墜落した。	80409	1	10～ 29
2003	10	10 ～ 11	高さ3.4mの投入台上でホッパーに材料を投入しているときに、転落防止用の囲いがなかったため誤って墜落してギアに巻き込まれた。	10209	1	1～9
2003	10	13 ～ 14	精米機の据え付け工事において、同僚とシュートパイプ取付け用サポート（寸切ボルト製）の長さを計測しようとしたが寸切ボルトが湾曲していて計測できないため、架台梁に上がって金具を取り外したのち安全帯を外して降りようとしたときに墜落した。	30302	1	10～ 29
2003	10	10 ～ 11	コンクリートブロック塀（高さ1.8m、幅約5m、質量約1.6t）解体で、エアーチッパーを使用して基礎部分をはつっていたときに塀が倒壊し下敷きになった。	30209	5	1～9
2003	10	9 ～ 10	廃棄物焼却施設プラントの清掃作業で、同僚3人と燃焼室上部の煙道内に入り、スコップ等を用いて付着堆積した焼却灰を燃焼室へ掃き落としていたときに、焼却室への開口部から足を踏み外して11.9m下の焼却	150109	1	10～ 29

			室底部に墜落した。			
2003	10	14 ～ 15	光ケーブル敷設工事において、電柱（高さ約7m）に登ってケーブル巻 きつけて降りるときに墜落した。	30301	1	1～9
2003	10	0 ～ 1	川岸の中段（高さ2.6m、幅1.8m）で鎌を用い草刈作業を行っていたと きに、コンクリート製の川岸に転落し頭部を強打した。	60201	1	10～ 29
2003	9	10 ～ 11	ビリヤード場から外部駐車場へ通ずる出入口を閉鎖するため、築造さ れていたコンクリートブロック壁（積み上げブロック4列12段、幅 183cm×高さ241cm×厚さ15cm）を撤去していた「はつり工」2名が 倒れてきたブロック壁の下敷きになり、うち1名が死亡した。	30209	5	10～ 29
2003	9	14 ～ 15	ゴルフ場内の練習場の鉄筋コンクリート製支柱を油圧ショベル（リッ パ、クラッシャ）を用いて撤去しているときに、支柱が油圧ショベル の運転席に倒れてきて下敷きになった。	30209	5	1～9
2003	9	10 ～ 11	農免道路工事において、擁（よう）壁コンクリート打設後の型枠を解 体するため、型枠材に載ってダムフォームのボルトを緩めていたとき に足を踏み外し墜落した。	30106	1	1～9
2003	9	0 ～ 1	8階建ホテルの6階バルコニーの端部で窓拭き作業中に、バルコニーに設置 のコンクリート製手すり（高さ約1m、幅17cm）を超えて約15m下の 外部非常階段の2階と3階の間の踊り場に墜落した。	140101	1	30～ 49
2003	8	11 ～ 12	13階建ビルの屋上から懸垂幕を下ろす作業で、懸垂幕を広げていて約 40m下に墜落した。	90209	1	1～9
2003	8	11 ～ 12	防水工事の見積りのため、県営住宅（RC造4階建）の屋上で巻尺を 持って西端に立っているときに、高さ31cmのパラペットを越え約12m 下の地上に墜落した。	30209	1	1～9
		15	鉄骨平屋造建築工事において、高さ約20mの広告塔の垂直方向の歪み			

2003	8	～	の調整作業をほぼ終了して片付作業を行っていたときに、踊場の足場	30201	1	1～9
		16	板上（地上約5.5mの高さ）に墜落した。			
2003	8	～	倉庫内に設置されていた天井クレーンのランウェイガーダの一部（長	30209	4	10～
		16	作業車からガーダの両端をガス溶断して落下させようとしたが落下し			
		～	なかったため、ガーダにワイヤロープを取り付けて重機で引っ張って			29
		17	落すため床上でワイヤロープを重機に取り付けようとしていたとき			
			に、溶断したガーダが落下し下敷きになった。			
2003	8	～	セメントサイロ工場において、サイロ内の固結したセメントをかき出	170209	5	30～
		11	す作業を行っていたときに、セメント山が崩落してサイロ下部の抽出			
		～	口に転落し埋没した。			49
		12				
2003	7	～	職場のレイアウト変更のため、中2階の資材置場の解体工事を3名で	11502	1	50～
		13	行っていて、1名が中2階の床板（縞鋼板）をガス切断してできた開口			
		～	部（45cm×90cm）から床板とともに2.25m下の1階コンクリート床に			99
		14	墜落した。			
2003	7	～	地上約3mの平家屋根の葺き替え作業で、古い鉄板をはがすため母屋に	30202	1	1～9
		11	付設された物置屋根上を歩行中に、塩ビ波板葺きの屋根を突き破って			
		～	2.5m下の地上に墜落した。			
		12				
2003	7	～		150101	1	10～
		9	建物3階の外側の窓を拭いていて、10.8m下の地上に墜落した。			
		～				29
		10				
2003	7	～	集荷に向かう途中で追突事故を起こし現場で検分中、トイレに行きた	40301	2	1～9
		15	くなり近くの役場のトイレを借りて事故現場にもどる途中で転倒し、			
		～	役場のガラス壁を割って首を切った。			
		16				
2003	7	～	市道の側溝補修工事において、ドラグ・ショベルで掘削した溝（深さ	30106	5	1～9
		11	約80cm、幅約1.1m、長さ約16.6m）に碎石を入れ掘削溝内で床均し作			
		～	業を行っていたところ、側面のブロック塀（塀の高さ約1.9m、長さ約			
		12	15.6m）が倒壊し、ブロック塀と道路との間にはさまれた。			

2003	7	11	住宅の新築工事において、工事中仮設電気設備のポールに電柱から引	30301	1	1~9
		12	込線を接続するため高さ約8.5mの電柱上で作業を行っていたときに、			
			地上に墜落した。			
2003	7	8	鮭フレーク工場において、調味料運搬のため空台車を油圧式エレベ-	10102	1	100
		9	ーターに搬入しようとしたところ、搬器が1階にあったため、昇降路内を			~
			1階まで墜落した。			299
2003	7	15	窓ふき作業中に建物の下から休憩の合図があったので、バルコニーの	150101	2	1~9
		16	パラペット部から身体を持ち上げて下を見たのち降りるときに転倒し			
			て首を骨折した。			
2003	7	9	既存のコンクリート壁の補強工事において、コンクリート壁の基礎付	30199	5	1~9
		10	近の床掘り作業を行っていたときに、コンクリート壁が崩落し下敷き			
			となった。			
2003	7	16	8階梁上で鉄骨組立作業を行っていた者が現場で行われる安全大会に参	30209	1	1~9
		17	加するため、梁から地上へ降りようとしたときに本設の鉄骨階段横の			
			梁（高さ17m）から墜落した。			
2003	7	12	1階が倉庫・洗い場・ゴミ置場、2階が事務所・休憩室、3階が調理	10109	16	30~
		13	場、4階が労働者の居住部分となっている鉄筋コンクリート造4階建の			49
			建物が全焼し、焼け跡から4階に住んでいた労働者のうち1名が焼死体			
			で発見された。			
2003	7	14	3階屋上で、幅約100cm、深さ約90cmの溝の底のゴミを水切り等を用	140301	1	100
		15	いて収集する作業を行うため移動中に、溝の側壁（段差約20cm）を乗			~
			り越えて約11m下の地面に墜落した。			299
2003	6	13	ガソリンスタンドの屋根雨漏り修理工事の下見で、高さ5.22mの屋根か	30209	1	1~9
		14	ら隣接する駐車場のひさし（高さ3.6m）に降りようとしたときに、足			
			を滑らせて地上に墜落した。			
2003	6	14	焼却炉設置工事において、3人が冷却塔（高さ6m92cm）上でダクトの	30302	1	30~
		~	取付け作業を行っていたところ、ダクトに仮止めしていた蓋（ステン			

		15	レス製、200kg) のボルトが1本を残して外れて回転したため、その横にいた者が蓋を避けようとして地上まで墜落した。			49
2003	6	15 ～ 16	9階建ビルの窓ガラス清掃で、屋上搭屋のパラペット部で下方の窓ガラス清掃に使用するためのブランコ（ベンチ）をセットする際にライフラインを使用していなかったため約38m下の駐輪場の屋根に墜落した。	150101	1	1～9
2003	5	13 ～ 14	木造2階建て従業員寮の解体作業で、フォーク・グラップルを取り付けた車両系建設機械で最後に残った2階部分の屋外通路を支えていた梁（H鋼）の西側部分の解体をはじめたところ、通路東側部分が突然崩壊し、通路下で残材片付け作業をしていた者が下敷きになった。	30209	5	10～ 29
2003	5	13 ～ 14	駐車場の改築工事において、駐車場2階の鉄骨屋根の梁を溶接する作業で、同僚が高所作業車を使用して溶接を行うため、梁材（10cm四方角パイプ、長さ5m60cm、質量約31kg）を水平に支えているときに、約4m下の地面に墜落した。	30209	1	10～ 29
2003	5	15 ～ 16	木造建築工事において、建物内部の造作作業を行っていたとき急に雨が降り始めたので、雨が建物内に入るのを防ぐため2階のベランダ出入口部分にビニールシートを張るため、外部足場の手すりに掛けてあったシートをベランダの縁（笠木）に乗って取ろうとしたときに、バランスをくずして約6m下の隣家との境界線上にある側溝に墜落した。	30202	1	10～ 29
2003	5	13 ～ 14	午後から来る来訪者の視察案内下見のため、浄水処理棟の屋上を歩いていて転落した。	11603	1	50～ 99
2003	5	19 ～ 20	工場出庫口の扉が開閉不能になったので、高さ2.95m上にあるシャッターレールに載ってワイヤ巻きドラムの乱巻状況を確認していたときに、墜落してコンクリート床に頭部を強打した。	150101	1	30～ 49
2003	5	16 ～ 17	倉庫の中2階からイベントに使用する部材を降ろす作業中に、置いてあったトラロープに足を取られて中2階の端から約4m下に墜落した。	80409	1	10～ 29

2003	5	20 ～ 21	おがくずをトラックに積込むため、おがくずサイロ2階に上がって、角材およびスコップで突いてピットからトラック荷台におがくずを落とす作業中に転落し、サイロ内でおがくずに埋まった。	80109	1	1～9
2003	5	13 ～ 14	ビル（9階建・高さ約31m）の窓ガラスをブランコで清掃する作業で、2回目の作業に取り掛かる前に、まず、ライフラインを次の作業個所に移設し、次にメインロープ等を運搬しているときに墜落した。	150101	1	1～9
2003	5	9 ～ 10	生コンの製造プラントで、点検のため事務所をでた者が約4時間後にプラント砂貯蔵瓶砂の中で埋もれていたのが発見された。	10901	1	1～9
2003	5	14 ～ 15	ゴルフ場所有の防災ダム（高さ約14mのえん堤）上で、污水管の修理作業を行っていたときに転落した。	140301	1	50～ 99
2003	4	15 ～ 16	携帯電話中継用の鉄塔設置工事において、鉄塔の高所部のリング状ステージ（高さ約51m）で、資材をつり上げるためのデリックの誘導をしていたときに鉄塔の内部側に墜落した。	30209	1	1～9
2003	4	14 ～ 15	船着場に設置してある簡易雨天荷役設備（雨天時にコイル等を保管する簡易倉庫、屋根が電動で移動および開閉できるもの）の屋根の清掃作業で、側壁外面に設置してある通路上にいるにもかかわらず、他の者がペンダントスイッチを操作して屋根を移動させたため、移動してきた屋根と通路の手すりとの間（6cm）にはさまれた。	50202	7	10～ 29
2003	4	10 ～ 11	百貨店の5階催事場で行われている物産展会場の流し配管が詰まったので2名で復旧作業を行い、仮復旧したため同僚は別れたが昼過ぎになっても事務室に戻ってこないのを捜していたところ、6階屋上から約8m下の4階屋上に転落し倒れているのを発見した。	150101	1	10～ 29
2003	4	20 ～ 21	到着予定の団体宿泊客のために宿坊1階の客室を石油ストーブで暖めていたところ、何らかの原因で出火して木造二階建宿坊（延べ1500m ² ）が全焼し、ストーブで暖めていた者が焼け跡から焼死体で発見され	140101	16	1～9

			た。			
2003	4	14 ～ 15	鉄骨コンクリート3階建建物の解体で、2階道路面の壁を解体して側面の壁を引き倒すため、鉄骨柱2本目の根元のフランジを溶断していたときに壁が倒壊して2名が下敷きになった。	30209	5	1～9
2003	4	14 ～ 15	鉄骨コンクリート3階建建物の解体で、2階道路面の壁を解体して側面の壁を引き倒すため、鉄骨柱2本目の根元のフランジを溶断していたときに壁が倒壊して2名が下敷きになった。	30209	5	1～9
2003	4	0 ～ 1	工場屋外に空調機を取付ける工事で、2名が工場内と屋外とに分かれて屋内から屋外への配線作業を行うため、まず予備線を配管の中から通そうと屋内にいた者が、屋外にいた者に合図のための声をかけたが返事がないため、不審に思い様子を見に行ったところ、コンクリート床上に墜落していた。	30301	1	10～ 29
2003	4	14 ～ 15	5階建の建物屋上に設置してある給湯機の不具合の個所を確認するため、屋上の端を通行中に約17m下に墜落した。	130201	1	100 ～ 299
2003	3	16 ～ 17	大規模小売店舗の6階屋上の冷却塔清掃作業中に、誤って1階屋上まで約19m墜落した。	170201	1	1000 ～ 9999
2003	3	16 ～ 17	鉄筋コンクリート建築物屋上で、厚さ約8cmに敷いた玉砂利をレーキを用いて後退しながら均していき、高さ約47cmの腰壁を乗り越え、4.68m下のコンクリート床に墜落した。	30201	1	10～ 29
2003	3	13 ～ 14	仮置きしてあったケーソン（縦15m、横8.4m、高さ16m）を据付けるため、起重機船のクレーン（つり上げ荷重60t）で約40m移動させる前にケーソン内の水を抜き、クレーンでケーソンを浮上させたところ、ケーソンが起重機船側に傾き、ケーソン内の残水確認のためケーソン天端中央に乗っていた作業員2名が海中に投げ出され、1名が翌日ケーソン内（海中）で発見された。	30111	10	30～ 49

2003	3	13 ～ 14	解体中の建物4階で、床面（地上高さ9.1m）のコンクリートがら等の片付け作業中に、建物から墜落して地上に設置してあったクレーンに激突した。	30201	1	1～9
2003	3	13 ～ 14	7階建ビルにおいて、脚立を使用して5階の観音開きになっている窓を清掃中に、15.8m下のコンクリート地面に墜落した。	150101	1	10～ 29
2003	3	15 ～ 16	ビル解体工事において、5階外壁解体作業中に建物外壁および鉄骨梁、柱の一部が外部足場とともに約15m下の道路に崩落したため、外部足場上にいた作業者も同時に墜落した。なお、道路上で信号待のため停車だった自動車の運転手2名（非労働者）も死亡した。	30201	1	10～ 29
2003	3	17 ～ 18	国道バイパス工事現場で、法面（のりめん）処理を行っていて高さ約10mの急斜面（約80度）から転落した。	30102	1	10～ 29
2003	3	15 ～ 16	2階建パチンコ店兼住宅の解体工事において、解体作業で出た木片を拾い集めていたところ、コンクリートブロックでできている壁が高さ約1.7m付近から上の部分（高さ約2m×幅約3.9m）が倒れてきて下敷きになった。	30209	5	1～9
2003	3	15 ～ 16	電線の地中化工事で、電線管をコンクリート製変電ボックスの差込口にに取り付ける作業を行っていたところ、車道の雨水溝に接する形で残っていた古い建設物の基礎コンクリート（柱状で質量2.8t）が崩れ落ちてきて直撃した。	30199	5	30～ 49
2003	3	10 ～ 11	木造平屋建て住宅の解体工事において、建物のブロック壁の解体に伴って内側に10度ほど傾いていた壁に取り付けられていた木材板をバールで取り外していたところ、突然壁が倒れて下敷きになった。	30209	5	10～ 29
2003	2	9 ～ 10	校舎3階にある男子更衣室で、校庭側窓ガラスを拭いているときに、8.5m下の地面に墜落した。	150101	1	1～9

2003	2	11 ～ 12	学校4階の多目的ホールで、窓の網戸を張り替えてサッシ枠に取り付ける作業中、誤って窓から13.2m下の地上に墜落した。	120109	1	1～9
2003	2	18 ～ 19	7階建ビルの屋上に設置されていた空調室外機のメンテナンスで、屋上フェンスと室外機の間（70cm）に入り作業をしていてフェンスによりかかったときに、フェンスに張ってあった網（パンチングメタル）のビスがはずれたため開口部となり、そこから地上に墜落した。	40301	1	100 ～ 299
2003	2	9 ～ 10	河川の魚道工事において、移動式クレーンによるL字溝の撤去運搬作業で、車両に1つ目のL字溝を積み込んで仮置きし、補助者が荷のつり上げに使用してしたワイヤロープを外したときに、仮置き状態であった質量約2tのL字溝が倒れたため背後から下半身をはさまれた。	30199	5	10～ 29
2003	2	7 ～ 8	会社に出勤してきたとき、別の者が門扉をフォークリフトで開く作業を行っていて、その鉄製門扉が倒れてきてはさまれた。	80109	5	1～9
2003	2	14 ～ 15	橋脚の下部工工事中において、橋台フーチング部分の鉄筋枠（10m×5m×高さ1m）の内部で、橋台本体部分の立筋とフーチング鉄筋枠とを結束する作業を行っていたところ、既に結束が完了していた立筋110本が倒れ、それと同時に鉄筋枠自体が押し潰されて胸部を圧迫された。	30105	5	10～ 29
2003	2	10 ～ 11	工場内排水処理場で、沈殿槽全体に広がった泡を網を使ってすくい取るため休日出勤していた守衛が、沈殿槽の底部で発見された。	10104	10	300 ～ 499
2003	2	9 ～ 10	橋梁建設工事で、ベント支柱に張出し足場を設置するため、水面からの高さが約2.5mのベント支柱のH鋼の上で足場板を上方に盛替えをしていたときに、バランスを崩し水中に落下し溺死した。	30105	10	50～ 99
2003	1	17 ～ 18	電柱に防犯灯を取り付ける作業中、トランス付近を移動するため安全帯を外したときに、約7m下の地面に墜落した。	30301	1	1～9

2003	1	14 ～ 15	下水管の布設工事でリースしていた防音ハウスの解体作業中、天板（防音パネル、寸法1×2m、質量約50kg）の上で屋根材を取り外していたときに、乗っていた天板とともに防音ハウスの内部（高さ約1.2m）に墜落した。	30110	1	10～ 29
2003	1	10 ～ 11	県民文化会館内に設置されているスピーカー等放送設備の点検作業のため、メインホール地下1階のスピーカーの点検に行くときに、間違えてオーケストラピットの入口ドアを開けて入り、地下2階まで3.6m墜落した。	30301	1	10～ 29
2003	1	11 ～ 12	2階建て住宅新築工事現場において、2階部の柱間に設置されていた間仕切壁取付け用の下地材（10cm×10cm角鋼管）の上から約3.8m下へ、または、近接して設置されていたローリングタワーの作業床上から約5m下へと墜落した。	30201	1	1～9
2003	1	13 ～ 14	コンテナ倉庫上（高さ約2.7m）での資材整理で、木材（3cm×6cm×4m）を引っ張りあげようとしたときに、小雨で濡れていたコンテナ上で足を滑らせて地上に落下した。	30209	1	1～9
2003	1	21 ～ 22	ビルの6, 7階バルコニーのコンクリート仕上げ具合を点検するため、7階西側バルコニーの外側にあたるひさしの端を通行中に、約17m下の地上に墜落した。	30201	1	1～9
2003	1	3 ～ 4	配送先へ向かうためトラックで走行中、交通上のトラブルがあって2人組の乗用車に追跡され、国道の橋上で停車させられ、その後、トラックから降りて逃げる際に橋から約11m下に墜落した。	40301	1	10～ 29
2003	1	10 ～ 11	年末年始の休暇期間中に構内を巡回していたところ、循環ポンプのバルブのパッキンが破裂しているのを発見しパッキンの交換作業をする前に、高さ5mのところにあるケーブルラック（幅40cm）に上がって元バルブを閉止しようとしたときに、積雪により足元が滑り5m下の構内道路に墜落した。	10899	1	30～ 49
		14	同僚の放火により、鉄骨プレハブ平屋3棟と2階建て1棟の計約450m ² が			30～

2003	1	～ 15	全焼し、1名が焼死体で発見された。	30201	16	49
2002	10	～ 12	水路用のボックスカルバートを設置するため県道に接する部分をドラグショベルで掘削していたところ、道路擁壁下部の土砂が幅0.6m、長さ2.0mに亘って崩落したので掘削及び床ならし作業を中止して道具等の片付けを行っていたときに、土砂とともに道路擁壁が崩壊し2人が下敷きになり1人が死亡した。	30109	5	1～9
2002	12	～ 16	鉄骨平屋造り社屋の新築工事において、左足を鉄骨にかけて2階床の根太取付け作業中に、足が滑って約3m下のコンクリート床に墜落した。	30201	1	1～9
2002	11	～ 15	路上犯罪等防止の巡回パトロールで国道を走行中、橋上から約65m下の沢に墜落した。	170209	1	30～ 49
2002	10	～ 16	事務長が看護師寮を覆っている藁を除去するため、建物周囲の高さ3.6mの石垣に上がっていてバランスを失い墜落した。	130101	1	30～ 49
2002	7	～ 16	鉄骨造の病院新築工事において、玄関の底部材であるチャンネルを取付けるボルトを締めしようとしたときに、高さ4.46mの鉄骨上から基礎のコンクリート床へ墜落した。	30201	1	1～9
2002	9	～ 9	8 岸壁の車止めで休憩中に、岸壁から2.6m下の海面に転落し溺死した。	80401	1	10～ 29
2002	12	～ 11	10 砂防ダム建設工事において堤体横の盛土に芝張作業中、芝のシートを取りに行くため擁壁の天端脇を移動していて、高さ2.65mのところから擁壁下の川床に墜落した。	30107	1	1～9
			9 家庭の排水を流し込むマンホール（内径40cm、深さ1.1m）の中に頭から上半身を入れて、マンホール底の家庭排水管（塩ビ製直径15cm			

2002	12	～	m) と町下水管との接合部周囲にモルタルを手作業で盛っていたときに、頭からマンホール底に落ち込んで自力で脱出できなくなり、もがいているうちに力尽きた。	30110	1	1～9
2002	11	9 ～ 10	浄水場配水池改良工事において、換気塔の点検用タラップの踊場（コンクリート製、3m×1.2m、厚さ20cm、推定質量1.48t）の型枠下部パイプサポートを撤去したところ、踊場が突然落下し踊場と足場板との間に胸部を挟まれた。	30199	5	100 ～ 299
2002	11	13 ～ 14	平屋木造家屋の解体作業において、土壁を倒すため控えを外したとき脚立を置き忘れたことに気づいて取りに行こうとしたときに、壁が倒壊して下敷きになった。	30202	5	1～9
2002	12	11 ～ 12	公園の樹木の剪定作業中、足場としていた石垣の上で躓いて1m下の石畳通路に転落し、そのとき使用していた剪定バサミが左上腕に刺さった。	60101	1	1～9
2002	12	11 ～ 12	マンション新築工事のための床掘り作業において、敷地境界のよう壁（厚さ44cm、高さ1.3m、長さ15m）を補強するためドラグショベルで深さ2.3m、幅1.2m、長さ16mにわたり床掘りし型枠を組んでいたときに、よう壁が倒壊し挟まれた。	30201	5	10～ 29
2002	11	8 ～ 9	木造平屋建住宅の解体工事において、トタン屋根の雪下ろしをしていたときに、足を滑らせて屋根から2.4m下に墜落した。	30202	1	1～9
2002	12	9 ～ 10	自社の門柱を移動させるため基礎付近を掘削していたところ、基礎の底にコンクリートの塊が付着したのでバールで塊を削ったときに、門柱が倒れ直撃された。	30199	5	10～ 29
2002	10	16 ～ 17	水路工事において、村道の片側通行の交通誘導を行っていた者が誘導場所から離れて掘削溝（幅約4m、深さ2.7m）に転落した。	170201	1	30～ 49
		13	建造中のコンクリート水槽の上を歩行中、開口部より4m17cm下の水			

2002	10	～ 14	槽のコンクリート底に墜落した。	30110	1	1～9
2002	12	11 ～ 12	川に架かった水管橋の上で、塗装工事用の足場設置のための親綱を張っているときに、水管と作業通路を結ぶ鉄骨の開口部から約1.3m下の地面に墜落した。	30209	1	30～ 49
2002	12	15 ～ 16	作業場の1階床面に従業員が仰向けに倒れているのを、通りかかった隣の事業場の従業員が発見した。	30209	1	10～ 29
2002	12	11 ～ 12	6階の柱の建て方を行ってその後6階の孫梁を納めていたところ、同僚の側のボルトが入り難い状態になったので、応援するため建て方の終わった小梁上に左足をかけたときに、足を滑らせて約7m下に墜落した。	30201	1	1～9
2002	12	9 ～ 10	宅地造成地において、トラック積載型小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93 t）で法面（全長約24m）に緑化ブロック（質量725 kg）を積み上げる作業中、ブロック3段目が終わり4段目（高さ約3m）を全長の半分まで積み上げたときに、裏込めをしていなかったためブロックの自重で3、4段目が倒壊し、作業中の4名がブロックの下敷きになり1名が死亡した。	30199	5	1～9
2002	12	8 ～ 9	8階建てマンションの屋上塔屋塗装工事において、塔屋下のマンション屋上の端で塗料飛沫の拡散防止用養生シートの設置作業を2人で行っていて、一人が屋上の端から約23m下のアスファルト舗装の駐車場に墜落した。	30209	1	1～9
2002	12	16 ～ 17	高校の耐震補強工事において、3階トイレのパイプスペースの隔壁（ブロック積、モルタル仕上げ）の下部をコンクリートブレーカーで破碎していたときに、隔壁の一部（1m×3m×14 cm、約540 kg）が突然崩壊しその下敷きになった。	30209	5	50～ 99
2002	11	16 ～	木造3階建て分譲住宅の建方作業で、屋根の下地を張る作業を終了して	30202	1	30～

		17	片づけをしているときに、3階屋根より約9m下に墜落した。			49
2002	11	15 ～ 16	鉄骨6階建の構造補強及びエレベータの新設工事において、エレベータ・シャフトの上端（地上1570cm）の鉄骨梁上で鉄骨の溶接作業中、バランスを崩して1680cm下の地下エレベーターピットに墜落した。	170209	1	1～9
2002	10	11 ～ 12	新しいU字溝の敷設（総延長約1000m）工事において、掘削した箇所（深さ約70cm）に木の根が見えたので切断していたときに、擁壁が倒壊して腹部を挟まれた。	30199	5	30～ 49
2002	8	13 ～ 14	4階建物の新築工事において、鉄骨組立終了後のボルト締めのため、ボルトの入ったダンボールを担いで4階の東側に設置されていた階段から降りる途中で階段下のデッキプレートを布設していない箇所から地面に墜落した。	30201	1	1～9
2002	11	16 ～ 17	病院のトイレ専用棟の増築工事において、トイレ専用棟の鉄骨にデッキプレートを設置するため、鉄骨の外部に取り付けた昇降用タラップを移動中に約13m下のコンクリートの階段に墜落した。	30201	1	1～9
2002	10	11 ～ 12	水路用ボックスカルバートを設置するため県道に接する部分をドラグショベルで掘削中、道路擁壁下部のU字溝の基礎部分の土砂が幅0.6m長さ2.0mに亘って崩落したので掘削及び床ならし作業を中止して道具等の片づけを行っていたときに、土砂とともに道路擁壁が崩壊し下敷きになった。	30109	5	1～9
2002	10	0 ～ 1	セメントサイロ（直径21m、高さ26m）の内部清掃作業で、サイロ中央部の排出口横のセメント排出作業中に高さ約3mのシュート内に転落し窒息死した。	170209	1	10～ 29
2002	8	13 ～ 14	駐車場の造成工事の一環として側溝にU字溝を敷設するため、隣家との境界にあるコンクリート塀のコンクリート基礎部の一部をはつり機ではつっていたときに、コンクリート塀が倒れて地面との間に挟まれた。	30109	5	1～9

2002	10	9	スキー場のゴンドラリフト頂上駅新築工事において、ゴンドラリフト 押送装置を設置するため駅構内の高さ約4.5mに設置されたH鋼（幅30 cm）上を歩いていて墜落した。	30302	1	10～ 29
2002	9	20	トラックで飼料を運搬したのち運転手が行方不明になったので捜索し ていたところ、事務所へ帰る途中の通路横に設置してある汚水処理槽 に転落していた。	10109	10	50～ 99
2002	9	13	公園内に設置されていた高さ3.4mの藤棚の上で、藤の剪定作業を行っ ていて藤棚の端部から地上に転落した。	160101	1	300 ～
2002	9	13	菓子製造工場2階の廃ダンボール搬出用扉の前で廃棄ダンボールの荷造 り作業中、50cmほど空いていた扉から約3m下のアスファルト道路に 転落し頭頂部を強打した。	10104	1	10～ 29
2002	8	9	トンネル内で、事業主が高所作業車の上ではついていたコンクリート 片が、下で重機の誘導作業を行っていた者の頭部に落下した。	30102	4	10～ 29
2002	9	12	電気炉で銑鉄等の溶解作業中に、電気炉のあるステージから回収くず 置場の鉄材の上に墜落（高さ1.65m）した。	11002	1	30～ 49
2002	8	7	2階から1階玄関エントランスにせり出している段飾り（2段）内にある 植木鉢の清掃と水遣り作業中、上段から下段に移動しようとしてに約 4m下の1階フロアに落下した。	150101	1	100 ～ 299
2002	9	11	6F建パチンコ店及び駐車場の新築工事において、屋上部分の墨出し作 業を電気工事士が行うために仮置きされていたデッキプレートが作業 の邪魔になるので移動していたときに、敷設されていた屋上デッキプ レートの端（地上約24m）から3階部分（地上約7m）まで墜落した。	30201	1	1～9
2002	8	15	団地の防水工事の見積もり作業のため4→2→1→3号棟の順に屋上の屋 根の亀裂の確認作業中、3号棟の住宅屋上（4階建て）で墨だし作業中	30203	1	1～9

		16	に高さ12.05mの屋上から地上へ墜落した。			
2002	7	11 ～ 12	家屋の解体工事に先立って畳、ふすま、サッシ等を取り外して運搬車に積込む作業中、屋根上で転倒して停めてあった運搬車のアオリで強打した。	30209	2	10～ 29
2002	8	10 ～ 11	4階建てマンションの鉄骨組立て作業で3階部分の鉄骨のボルト締め作業中、床に墜落した。	30201	1	1～9
2002	7	13 ～ 14	陸に揚げた定置網にシートを被せるため、防潮堤上（幅50.5cm）に上がって作業中に4m下の砂浜に墜落した。	70201	1	10～ 29
2002	7	14 ～ 15	エレベーター（積載荷重：600kg）の増設で、最上層の角パイプの胴縁（10cm角、長さ：450cm）を取付けるため梁上で胴縁の片側をボルトで取付けたのち別の側のボルトを取り付けていたときに、バランスを崩して胴縁とともに建屋からせり出し、胴縁の端につかまっていたが力尽きて16m下のコンクリート上に墜落した。	11209	1	1～9
2002	7	11 ～ 12	エアコン取り替えのため、古いエアコンの配管の切断を行い新しい配管を接続する作業中に、手すりから5m下の地面に墜落した。	80209	1	1～9
2002	4	9 ～ 10	清掃工場の解体作業において、ゴミ焼却灰を地下に搬送するシューターの一部（質量約1 t）を溶断する作業をしていたところ、シューターが転倒したため地上との間に挟まれた。	30209	5	1～9
2002	12	15 ～ 16	7階建の工場棟建築工事において、仮止めのため高さ17.9mの地点で胴縁の取付作業を行っていたところ、足を掛けていたと思われる下から15本目の胴縁がピースから外れたため地面に墜落した。	30201	1	10～ 29
2002	7	10 ～ 11	8階建マンション屋上の防水工事において、防水テープの増し張りを行っていた者が休憩中には約20m下の地面に墜落した。	30209	1	1～9

2002	7	15 ～ 16	市道拡幅工事において、L字擁壁設置予定箇所（高さ2.4m幅1.8m）の土手をドラグショベルで掘削するため掘削面の下でドラグショベルに合図をしていたところ、深さ1mの位置に埋設されていたヒューム管（径33cm、長さ4m）が掘削面の土砂および街灯（長さ4m、根入60cm）とともに倒壊して激突された。	30106	5	1～9
2002	7	20 ～ 21	構内の巡回作業中に裏門の電動式の上下開閉式の鉄製ゲート（たて3.4m、横6.7m、質量860kg）をペンダントスイッチで閉めるときにゲート落下防止用に固定ボルトの片方を抜かないまま下降させたため、ゲートが引掛かって閉まらなくなったので金切鋸でボルトを切断したところ、ゲートが落下して下敷きとなった。	170201	4	10～ 29
2002	6	18 ～ 19	工場内の造管機の接地工事において、幅約80cmの箇所でピットを両足で跨ぎ携帯式アース棒打込機を用いてアース棒（1.4φ、長さ150cm）を打込んでいたときに、約30cm入ったところで体のバランスを失って前に倒れ、アース棒が右眼から頭部に刺さった。	170209	2	10～ 29
2002	6	9 ～ 10	構内にある山砂貯蔵ビンの内壁に張り付いた砂を取り除くため、ビンの内部に入り鉄棒により突く作業をしていたところ、張り付いていた砂がはがれて落下し生埋めになった。	10901	1	10～ 29
2002	3	10 ～ 11	プレハブ倉庫の撤去工事で、倉庫の骨組みとなっていた門型鉄骨（高さ2.5m×幅2.5m、質量約160kg）の梁部分にロープをかけて手で引っ張ったとき、その鉄骨の下に歩いてきた者が倒壊した鉄骨が激突した。	30209	5	1～9
2002	6	15 ～ 16	就業時間終了後、事務所内で休憩するため床上82.5cmの高さにある窓枠に腰をかけたとき、開放していた窓から20.2m下の駐車場に墜落した。	80209	1	10～ 29
2002	6	14 ～ 15	地上4階地下2階のダム管理事務所の改修工事において、足場の仮設配電盤の撤去作業を行っていて作業床から16m下の基礎部分に墜落した。	30301	1	1～9
		14	マンション（11階建）の9階の窓清掃作業で、支障となる網戸を取り外			

2002	6	15	すため窓をまたぐ姿勢で網戸を取り外していたときに、約24m下の植え込み部に墜落した。	150109	1	1~9
2002	6	17 ~ 18	新築倉庫の鉄骨建方作業で、柱4本を建て長手方向の傾斜梁を2本架設し次の梁を架設するために、高所作業車（ケージ内で運転）で移動して梁横で待機しているときに、架設した柱と梁が倒れたため高所作業車のケージと倒れた梁との間に挟まれた。	30201	5	1~9
2002	6	14 ~ 15	電柱の頂部の「腕金（うでかね）」及びその他の金具を交換するため、電柱に昇り腕金に安全帯を取り付け身体を支えたが作業中に腕金が水平に倒れたため、安全帯が腕金から外れ高さ6mの位置から地面に墜落した。	30301	1	1~9
2002	5	21 ~ 22	立体駐車場において、管理人が所在不明となったので整備業者らが捜索していたところ、地上階と地階をつなぐハシゴの直近で地下4階（最下階）床面に倒れているのを発見した。（客が落とした眼鏡を回収するためハシゴを昇降していたと推定される。）	80109	1	10~ 29
2002	5	0 ~ 1	最大積載量12.5tのバルク車で牛用飼料を農家に運び、牛舎に設置されている高さ約6.5m、容積9.7?のタンクに上部より飼料を投入していたところ、タンクが倒壊して下半身がタンクの下敷きとなり上半身が牛用飼料に埋もれた。	40301	5	30~ 49
2002	4	9 ~ 10	ホテルの4階客室のガラス窓をスクイジ（窓を拭くT字の器具）を用いて拭く作業で、窓から外に出て約1m離れた外部柱と躯体を繋ぐコンクリート梁（幅70cm）に移り作業を行い、客室内に戻ろうとしたときにバランスを崩し9.8m下の地面に墜落した。	150101	1	300 ~ 499
2002	5	14 ~ 15	工場建屋の改築工事で、L字型間仕切り（コンクリートブロック製）の一面を解体して基礎部分のはつり作業を行っていたところ、残りの一面（2.5m×3.1m、約1t）が倒れ下敷きになった。	30201	5	10~ 29
2002	4	13	鉄筋コンクリート造2階建て住宅の幅約50cmの1階ひさし上において、外壁のエアコン用ダクトの取外し作業を行っていたときに、高さ約	30302	1	1~9

		14	3.6m下のタイル床面上に転落した。			
2002	7	9 ～ 10	車庫解体工事において、軽量鉄骨梁にワイヤーロープを掛けるため踏面のない脚立の2段目（高さ91cm）に上がって作業をしていたときに、バランスを崩してアスファルトの地面に墜落し、墜落する途中で鉄骨梁に触れたため鉄骨枠が倒れてきて梁部分の下敷きになった。	30209	5	10～ 29
2002	3	19 ～ 20	染色する巻糸（1本の径18cm、厚み15cm、質量1150g）を倉庫から取り出す作業で、自動化された床上型スタッカークレーンを使用せずに昇降設備のないラックを登っていて、高さ約7.3mから地上コンクリート面に墜落した。	10204	1	50～ 99
2002	4	16 ～ 17	液体酸素充填場において、ボンベに液体酸素を充填し95cm下の舗装された地上へ移動させる作業中、墜落して左側頭部を強打した。	80109	1	30～ 49
2002	4	14 ～ 15	水路岸のコンクリート法面（傾斜角35度）の除草作業で、水路内外を隔てる柵の外から草を受け取るためガードレール支柱と柵にそれぞれ足をかけて水路側へ身を乗り出したときに、水路側へ墜落し約3km下流で発見された。	30106	1	30～ 49
2002	4	10 ～ 11	花火製造所で木造平屋建て倉庫の解体を4名で手作業で行っていたところ、建物が崩れ落ち中で作業していた1名が下敷きになった。	30202	5	1～9
2002	2	10 ～ 11	高架橋建設工事において、用水路に張っていた防護ネットを移動式クレーンで撤去するため1個目のネットを移動式クレーンで吊り上げネットをおろそうとしていたときに、用水路の擁壁上で作業していた者が用水路に転落し、2時間後に約4.2km下流の用水路の貯水池で発見された。	30105	10	10～ 29
2002	2	11 ～ 12	鉄骨造3階建て建物の解体工事で、鉄骨柱のアンカーボルト部分を溶断中、柱（高さ3m）部分とそれに附帯する2階床スラブ（厚さ13cm、幅1.2m）が建物中央方向に倒れその下敷きとなった。	30209	5	1～9

2002	3	13 ～ 14	雨水調整池内の換気設備設置工事において、調整池の上段梁で足場を組み立てる作業中に足場作業床より足を踏み外して、約16m下の調整池の床に墜落した。	30302	1	10～ 29
2002	3	9 ～ 10	マリーナ内のマンションの管理員がガス管交換工事の写真を写すため、マンションの屋上に上がってパラペット（高さ約50cm）から身を乗り出す形で地上で行われている工事の状況を撮影していて30m下の地面に墜落した。	170209	1	30～ 49
2002	3	10 ～ 11	産業廃棄物処理場の満水になったピット（直径1.4mの円筒状で深さ2.1m）の清掃のため、蓋（格子状、質量70kg）を開けようとしたときに蓋もろともピットに墜落した。	150102	1	10～ 29
2002	3	14 ～ 15	リサイクルラインの配管が詰まったため、フォークリフトを配管の下に配置してパレットを刺したフォークを上昇させて高さ3.8mのところに固定し、パレットの上で詰まりを取る作業中にパレットから転落した。	10909	1	10～ 29
2002	2	10 ～ 11	茶畑の防霜ファン修理のため、鉄柱に登って防霜ファンを取外中に約7m下に墜落した。	80209	1	1～9
2002	2	11 ～ 12	産業廃棄物処理施設工事において、床板取付け作業中にチェーンブロッックで仮吊り（1点吊り）されていた床板上に乗ったため、床板が傾いてコンクリート土間に墜落した。	30302	1	10～ 29
2002	2	9 ～ 10	新規入場者に1階から上の階へ順に現場案内を行った後、5階北側のベランダの状況確認中に墜落した。	30201	1	300 ～
2002	1	16 ～ 17	7階の外部に面した柱の型枠を解体するため、建築物の床の端部に設けられた手すりの上に乗って作業していて、22.5m下の地面に墜落した。	30201	1	1～9
		2	焼石灰製造ラインの夜間パトロール中に発見したベルトコンベアーの			100

2002	1	3	リターンローラーの修理をしていたときに、開口部から墜落した。	11009	1	299
2002	1	11	下水道工事において、ドラグショベルで掘削した幅0.9m、深さ3.76m	30110	5	1~9
		12	の溝内に入りジョレンで掘削面の整形作業中、片側の掘削面が崩れ生き埋めとなった。			
2002	1	10	ガス管理設工事現場において、埋設管内の窒素ガスを抜くために帽甲	30199	4	1~9
		11	(ぼうこう)と呼ばれる閉止蓋(金属製)と押し輪(帽甲を固定させる金具)とのボルト接合部をトルクレンチとモンキースパナを使って緩めているときに、ガス管内に封入されていた窒素ガスの圧力により帽甲と押し輪(約25kg)がガス管より外れ右脇腹部に当たった。			
2002	1	10	排水路の改修工事で、蓋付きのU字溝を布設するためドラグショベル	30106	5	10~29
		11	で深さ約90cm、幅約140cm掘削し、床部に約10cmの生コンクリートを入れて均しているとき、コンクリートブロック製の擁壁(基礎部分も含め高さ約160cm、長さ約190cm)が倒れ、擁壁と掘削した道路の舗装部との間に頭部を挟まれた。			
2002	1	10	プレヒーター下部の補修工事で、上部からの落下物による危害防止の	10901	4	50~99
		11	ための養生用の床の設置作業中、上部からキャストブル(不定形耐火物)が落下してきて頭部に激突した。			
2001	8	3	工場から出火し工場内に寄宿していた2名のうち1名が逃げ遅れて焼死	70101	16	30~49
		4	した。			
2001	11	13	新築マンションの三段式昇降駐車設備の工事で自動車収納パレットを	30201	4	1~9
		14	載せていた支柱が傾いていたため、傾きを直そうと、パレットの下に入り支柱を固定しているボルトを緩めたところ、パレットが支柱から外れ落下した。			
2001	12	13	鉄塔の鋼管部材の接合部分のき裂、損傷の点検(目視確認)中に、地上約	30309	1	50~99
		14	25mの高さに位置する水平材上から墜落した。			

2001	12	10 ～ 11	工場の増築工事において、前日の夜間作業に使用した高さ約4.5mの位置に取付けてあった投光器を取り外して胴縁を伝って降りるときに転落した。	30201	1	1～9
2001	12	13 ～ 14	深さ3mの掘削溝へ導水管を布設する作業で、掘削した側面から道路標識柱の基礎コンクリート部分が突き出ていたため、この基礎コンクリートの下部をツルハシで掘っていたときにコンクリートの塊部分が突然剥離して倒れ、土留め用のシートパイルとの間で押しつぶされた。	30110	5	1～9
2001	12	16 ～ 17	総合老人福祉施設の5階エレベーターホールの窓ふき作業中に18m下の地面に墜落した。	150109	1	10～ 29
2001	12	10 ～ 11	鉄骨造9階建ホテル建設工事において、移動式クレーン(16t)で床配筋用金網1束(質量0.8t)を3階に取り込むときに吊荷の奥左角を手摺単管に押し当て右手前を躯体方向へ引張ったところ、手摺単管のベース金物が破損して支えを失った吊荷が回転して左側で作業指揮と合図を行っていた者にあたり、3階(高さ約8m)より墜落した。	30201	1	1～9
2001	12	13 ～ 14	建屋の外部通路を移動中に約15m下の地面に墜落した。	30199	1	30～ 49
2001	12	16 ～ 17	木造モルタル瓦葺2階建の建屋解体工事において、現場の地上で軒板を片付けていたところ、自立していたモルタル壁面が突然背後で倒壊し、その下敷きになった。	30202	5	1～9
2001	12	10 ～ 11	倉庫の2階に置いてあるロッカー(重さ約40kg)を搬出するため、2階からロッカーを手渡しでトラックの荷台に降ろすときに手すりが壊れてロッカーとともに、2.95m下のコンクリートの床面に墜落した。	30111	1	30～ 49
		16	道路舗装に附帯して農業用水パイプを埋設する工事において、道路に沿って掘削した溝(幅約70cm、深さが約70cm?2.3m)の内部で床なら			10～

2001	11	～	し作業を行っていたところ、道路側に設置されていた現場打ちコンクリート擁壁(長さ約4.6m、高さ1.5m、厚さ約75cm)が倒壊したため法面との間に頭部を挟まれた。	30106	5	29	
2001	11	～	リゾートマンションのエントランス部の立木に取り付けられた電飾を取り外す作業で、擁壁上から杭上へ飛び降りたときにバランスを崩して杭から墜落し、頭部を強打した。	30201	1	30～ 49	
2001	11	～	破砕機のホッパーに詰まった原石をブレイカー(機体質量23.64t)で小割りする作業をブレイカーの旋回範囲内で見ていた。ダンプ運転手を旋回範囲外へ退避させようとしていたときにブレイカーが左旋回してきたためバランスを崩した2人のうち1人が擁壁上から6.6m下に墜落した。	20201	1	10～ 29	
2001	9	～	1 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	～	1 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	～	1 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	～	1 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	～	1 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
			1	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃			10～

2001	9	～ 2	げ遅れて死亡した。	140309	16	29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
		1	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃			10～

2001	9	～ 2	げ遅れて死亡した。	140309	16	29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	140309	16	10～ 29
2001	11	11 ～ 12	6階建ビルの5階セットバック部分で植栽の剪定作業中に、植栽のツタに足を絡ませてバランスを崩し、3. 18m下のテラスに墜落した。	60101	1	1～9
2001	10	16 ～ 17	法面の緑化工事において、当日の作業が終了し打合せを行うため集合したところ、1人が来ていなかったため捜したところ、擁壁(高さ約5. 2m)の下に倒れているのを発見した。	30199	1	10～ 29
2001	11	14 ～ 15	緩速ろ過方式の調整池内において、整流板の向こう側にある幅10cm程度のタイル上で整流板につかまりながら約90cm先の壁面をデッキブラシで清掃していたときに、あやまって2. 7m下の調整池底部に墜落した。	11603	1	30～ 49
2001	10	13 ～ 14	7階建ビルの外窓清掃作業中に、作業箇所を移動するためブランコを取り付けるロープ先端のフックを付け替え、作業を開始しようとビル屋上のパラペット上に乗り身体を傾けたところ、フックがかかっていたため約25m下にブランコとともに墜落した。	150101	1	10～ 29
2001	10	15 ～ 16	4tミキサー車を再生骨材製造ピット進入用のスロープ(勾配10度)の中央付近に停車させ、スロープ下に停めてあった11tミキサー車ヘシューターを使って残生コンの移替え作業を行う準備作業を行っていたときに、バランスを崩してスロープ端部から高さ3. 2m下のコンクリートの地面に墜落した。	10901	1	10～ 29

2001	10	14 ～ 15	用水路の改修工事において、コンクリート橋の解体で発生したコンクリート塊をドラグ・ショベルで集積を行っていたところ、橋上で作業していた者が川に転落し、1km下流の水路内で、意識不明状態で浮いていたのを発見された。	30107	10	30～ 49
2001	10	18 ～ 19	テレビ番組撮影のための舞台セットであるアーチ型トラス(高さ3m16cm、重さ約125kg)の転倒防止用ワイヤーのアーチ上部への取り付けで、まだ固定されていないトラスに昇降設備を使用しないでよじ登ったとき、アーチ型トラスがバランスを崩して転倒し下敷きになった。	100101	1	10～ 29
2001	10	11 ～ 12	工場の増築工事において、外壁を取り付けるための下地となる胴縁を鉄骨柱に取りつける作業を行っていて鉄骨梁の上から13.4m下に墜落した。	30201	1	10～ 29
2001	9	0 ～ 1	11階建のビル新築工事において、移動式クレーンで鉄骨組立てを行っていて鉄骨柱頂部の玉掛用具を外そうと鉄骨柱に取付けられた昇降用タラップを昇っているときに、手を掛けたタラップの溶接部が外れ、部材とともに約20m下の1階スラブ上に墜落した。	30201	1	1～9
2001	10	10 ～ 11	ホテルの外壁塗り替え工事において、ホテル4階の客室窓ガラス外面に付着した汚れを拭き取る作業中に、約10m下の玄関前の大理石盤上に墜落した。	30209	1	1～9
2001	10	15 ～ 16	トンネル坑口前の道路保護用仮設覆工の解体作業の前作業として覆工上面に敷並べてあった緩衝材のEPSブロック(発泡スチロール重さ20kg/個)を撤去する作業をしていたときに、覆工と落石防護柵の隙間(約50cm)から約5.3m墜落し、頭部を道路面に強打した。	30199	1	50～ 99
2001	10	12 ～ 13	軌道道床のつき固め作業中、列車接近で待避命令が発出されたことから県道の跨道橋部に待避したときに、跨道橋と隣接する公道間52cmの隙間から約7m下の県道上に墜落した。	30104	1	10～ 29
2001	9	10 ～	市道直下のコンクリート擁壁(高さ約4m)の基礎部分の補強工事を行っていたところ、擁壁が高さ約4m、幅約14mにわたり崩壊し、基礎部分	30111	5	1～9

		11	で補強作業中の2名が崩壊したコンクリートと土砂の下敷きになった。			
2001	9	8 ～ 9	鉄骨を吊るために使用していた玉掛用具の自動解除装置がリモコン操作では外れなくなったので、鉄骨上(高さ15m)に昇りシャックルを手で外したところ、乗っていた鉄骨が倒れはじめたので自ら飛び降り地面に激突した。	30201	3	10～ 29
2001	9	10 ～ 11	電気通信設備の新設工事において、地上約40mの鉄塔上でトルクレンチを使用してボルトの本締め作業をしていて墜落し、途中、地上27.5m付近にある踊り場で一旦引っ掛かり止まったが墜落に気付いた同僚達が救出のために移動している最中に地上まで墜落した。	30301	1	30～ 49
2001	8	10 ～ 11	工場のタンク等の増設工事において、高さ8.1mの鉄骨上作業床の端から地上に墜落した。	30302	1	1～9
2001	9	15 ～ 16	廃止した浄化槽に砂を入れるため上部床をコンプレッサーでハツリ作業を行っていたところ、乗っていた床が傾きながら浄化槽内に転落(約2.3m)したため同時に浄化槽内に落ち、落ちてきた床板の下敷きになった。	30309	1	1～9
2001	8	11 ～ 12	小学校の校舎3階の窓を窓枠の外側に立って清掃していて、足を滑らせ高さ8.7mの箇所から地上に墜落した。	150101	1	50～ 99
2001	8	11 ～ 12	LPGタンカーの船倉内で清掃と塗装の補修作業を行い、昼の休憩のため、船倉内より上甲板に上がっていく途中6m前後の高さから船底に墜落した。	11501	1	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	CATVケーブルを一般家庭に引込む工事で、ケーブルを電柱に固定する固定金具を取付けるため電柱を登っているときに、約6m下のアスファルト道路へ墜落した。	30301	1	1～9
2001	7	15 ～	亜鉛めっき工場において、フラックス槽からクレーンで引き上げたフラックス処理済みの製品(荷)を槽脇の置場に降ろそうとしていたとこ	11204	1	30～

		16	ろ、荷の付近にいた者と荷が接触したため約90℃のフラックス槽に転落し全身火傷を負った。			49
2001	8	15 ～ 16	木造家屋住宅の2階部分の解体工事において、2階の梁上を移動中に天井板に乗ってしまい、天井板を踏み抜いて4.8m下の階段に墜落したのち1階床まで階段を転げ落ちた。	30202	1	1～9
2001	4	9 ～ 10	3階建建築物の非常階段設置作業において、地上から電気コードリールを持って上がっていたときに3階踊り場(高さ約10m)に床板を張っていなかったため、その開口部から墜落した。	30201	1	10～ 29
2001	7	11 ～ 12	高等学校の消防用設備等の点検作業で講堂内の消火器の点検のためコンクリート床面から吊天井に乗り移ったときに天井材を踏み抜き高さ11m下の1階床面へ墜落した。	170209	1	10～ 29
2001	7	10 ～ 11	校舎屋上防水工事において、既存の防水層の撤去作業に使用するエアーチッパー(はつり機)のホースを取扱い中に屋上より約16m下の地面へ墜落した。	30309	1	1～9
2001	6	17 ～ 18	雨水ポンプ場の新築工事において、足場に荷取構台を組み立てるため鋼製足場板を支持用単管パイプに番線で結束しているときに約5m下の敷鉄板上に墜落した。	30201	1	50～ 99
2001	6	16 ～ 17	乗った取付けている住宅建築工事で、二階で作業中に根太が折れたため3.42m下に墜落した。	30202	1	30～ 49
2001	1	10 ～ 11	バキュームカーで簡易浄化槽の汲取り作業のため徒歩で汲取り宅に向かっていた道路側溝に転落した。	150109	1	10～ 29
2001	7	8 ～ 9	砂防ダム建設工事において、ダム堤体となる鋼矢板を打ち込むための準備作業中に鋼矢板上部付近に立て掛けられた梯子から約5m下の地面に墜落した。	30108	1	50～ 99
		7	イカ釣り漁船からイカの荷受け作業をしたのち、タコの荷積作業を開			50～

2001	6	8	～	始することになっていたが姿を見せなかったので付近を捜していたところ、テトラブロックの間で溺死体となっていた。	170209	1	99	
2001	6	10	～	11	地下2階において高さ約1.7mの脚立を使用し、約2.7mの高さにある給水管と滅菌槽をつなぐバルブの修理をしていて脚立より墜落した。	150101	1	10～ 29
2001	1	16	～	17	電話引込み線の取り付け作業で電話本線ケーブルが配架された電柱に長さ2.48mの脚立を立てかけ昇柱したときに道路に墜落した。	30301	1	10～ 29
2001	6	10	～	11	分譲リゾートマンション6階の共用通路において、居室の窓の汚れを通路側からウエスで拭きとっていたときに、手すり(高さ約1.1m)を乗り越えて、約15.5m下のマンション中庭部分に墜落した。	140101	1	50～ 99
2001	5	12	～	13	鉄骨プレハブ2階建の寄宿舍より出火してほぼ全焼し、約3時間30分後に鎮火したものの4名が焼死した。	30201	16	30～ 49
2001	5	12	～	13	鉄骨プレハブ2階建の寄宿舍より出火してほぼ全焼し、約3時間30分後に鎮火したものの4名が焼死した。	30201	16	30～ 49
2001	5	12	～	13	鉄骨プレハブ2階建の寄宿舍より出火してほぼ全焼し、約3時間30分後に鎮火したものの4名が焼死した。	30201	16	30～ 49
2001	5	12	～	13	鉄骨プレハブ2階建の寄宿舍より出火してほぼ全焼し、約3時間30分後に鎮火したものの4名が焼死した。	30201	16	30～ 49
2001	5	14	～	15	モルタルを吹き付けた高さ22mの法面に落石防止用養生ネットを貼る作業において、養生ネットの上部を固定するため既に貼り終えたネットを登っているときに法面上部から墜落した。	30108	1	10～ 29
		13			張出歩道設置用の脚柱立込み穴を作るため既設擁壁のはつり作業をハ			

2001	3	～	ンドブレーカーで行っていたところ、バランスを崩して80cm下の足場	30199	2	1～9
		14	に転落した。			
2001	4	8	鉄骨3階建ビルの解体工事において、2階天井スラブの梁の溶断作業中	30209	5	1～9
		～	スラブが崩落し、瓦礫の下敷きになった。			
		9				
2001	5	13	天井裏に置かれていたダンボールを取りに行き、天井裏石膏ボード	80209	1	1～9
		～	を踏み抜いて4.2m下の1階コンクリート床面に墜落した。			
		14				
2001	5	15	建築中のマンション7階バルコニーにおいて、ワイヤーメッシュの寸法	30201	1	50～
		～	切りを行っていて躯体側の吹き抜けから14. 2m下の2階バルコニーの			99
		16	コンクリート床上に墜落した。			
2001	5	18	建売住宅建設現場において、既に納入されている建材を建屋の2階部分	80109	1	30～
		～	に上って確認し、降りようとしたときに地面まで墜落した。			49
		19				
2001	2	14	道路改良工事において、法面保護のために木柵の苗木植生作業中に、	30106	1	10～
		～	足を滑らせ7m下の県道に転落した。			29
		15				
2001	4	9	産業廃棄物の処理会社において、鋼鉄製囲いを撤去するため、囲いの	30309	4	1～9
		～	両側をガス溶断し地上へ引き倒そうとしたところ、地上より約3. 3m			
		10	のところに設置されていた鋼材が落下してきて頭部に当たった。			
2001	5	14	コンクリート製造プラントの山砂用貯蔵槽の内部に付着した砂のかき	10901	1	1～9
		～	だし作業を行っていたところ、排出される砂の動きに巻込まれ全身が			
		15	埋没した。			
2001	4	11	ダム工事用道路の工事において、労働者の寄宿舍が火災により全焼	30102	16	1～9
		～	し、焼死した。			
		12				
		11	家屋解体工事で、隣接家屋を破損させないように古い防波堤の上に			

2001	2	～ 12	立って合図を行っていたところ、足を滑らして転落し解体中のコンクリートブロックに頭を強打した。	30209	1	1～9
2001	3	～ 11	10 引越し作業において、タンスの2個所にロープを掛け2人作業で2階窓から吊り降ろす作業を行っていたところ、2階の窓枠が外れたため、タンスを崩してタンスとともに約2.5m下の地上に墜落した。	40301	1	10～ 29
2001	4	～ 23	22 ピット内において配管部品等の定期整備を行っていて、休憩のため既設タラップを使用して昇っていたときにピット内に墜落した。	170209	1	10～ 29
2001	5	～ 18	17 所定の終業時刻を過ぎたので高さ約7.7mの明かり取りの窓を閉めるため柱と直角に約60cm間隔で設けられている部材を壁伝いに上っていて滑り落ちた。	11209	1	30～ 49
2001	4	～ 11	10 推進工事の発進立坑において、騒音防止のための防音壁(天井付)を解体し、外したパネルを防音壁の屋上で運搬中に歩いていたパネルが外れ、パネルとともに約15m下に墜落した。	30201	1	1～9
2001	4	～ 12	11 高さ10.5mの常設作業床で鉄鉱石運搬用コンベアの駆動部プーリの上に設置する屋根(落下する鉄鉱石からプーリ部を保護するための屋根)の取付でガスの炎で熱した鉄棒で屋根の両端に設置されるゴム板に設けられた切込みを広げていたときに作業床の端から地上に墜落した。	11702	1	10～ 29
2001	4	～ 20	19 作業車を事業場内で目撃した者がいないため事業場内を探したところ、事業場内の汚水処理施設の第4曝気槽に沈んでいるのを発見した。	10109	10	100～ 299
2001	2	～ 12	11 鉄骨の建方作業で、ラフタークレーンで吊り上げた梁を躯体に仮留めする作業を行っていて18m下の地上に墜落した。	30201	1	10～ 29
2001	1	～ 12	11 事務所棟の新築工事において、玄関車寄せの底に設けられたトップライト(明かり取り用窓)のガラスシールを行っていて、ガラスを踏み抜いて6.2m下のコンクリート面に墜落した。	30201	1	50～ 99

2001	2	15 ～ 16	30万t級タンカー建造作業において、船体ブロックの組立で、質量約260tのブロックを仮置きして据付位置を調整中に、ブロックを支えていた鉄製支柱2本が外れブロックが倒壊し、付近で高所作業車の操作をしていた者がブロックとドック床面との間に挟まれた。	11501	5	100 ～ 299
2001	4	10 ～ 11	高架橋工事で路盤のコンクリート打設作業で、コンクリートバイブレーターの補助作業を行っていた者が型枠の端部から2. 2m下のコンクリート製の橋脚天場に落ち、さらに手すりの下をすり抜け、5. 17m下の地面に墜落した。	30105	1	1～9
2001	4	9 ～ 10	玉石垣(たまいしがき)上の樹木の剪定作業中に、樹木または玉石垣から墜落した。	30309	1	1～9
2001	3	10 ～ 11	国道沿いの防雪柵収納作業において、支柱を固定している2本のボルトのうち手前のボルトを外し、次いで収納した防雪板に覆い被さるようにして裏側のボルトを外したところ、直立していた支柱が倒れ支柱と防雪板との間に腹部を挟まれた。	30106	5	1～9
2001	3	15 ～ 16	貯水池の擁壁嵩上げ工事において、貯水池の縁でコンクリートのガラ片付け作業を行っていたときに、足を滑らせて手すりのない階段を1. 6m転げ落ちたのち4. 9mの高さから水を抜いた貯水池の底面(コンクリート面)まで墜落した。	30199	1	1～9
2001	3	6 ～ 7	破碎機で廃プラスチックの破碎作業中に、ベルトコンベヤーの覆いである鉄板の上に上がって点検口から廃プラスチックの流れを見ていて4. 4m下の地上に墜落した。	11001	1	50～ 99
2001	3	17 ～ 18	墓地の石積み擁壁補強工事において、擁壁の養生(支え等)を行わずに44cm離れた箇所でも明かり掘削(深さ約1m、幅1. 5m)を行い、その中に入って土止め支保工用の矢板を設置していたところ、擁壁が崩れたためその下敷きになった。	30110	5	1～9
2001	1	8 ～	工場2階のデッキ(4. 05m×87cm)からコンプレッサーのコードを地面	10701	1	1～9

		9	に垂らす作業を行っていて、3. 95m下に墜落した。			
2001	1	16 ～ 17	主変圧器放圧板破壊装置などの修繕工事において、最上部の気体検出器を取り替えるための足場組立てているときに、既設配管の傾斜上部から滑り、さらに主変圧器の作業床端部から5. 4m下のコンクリート床に墜落した。	30301	1	10～ 29
2001	1	16 ～ 17	造船所内の船台において、新造のコンテナ船の後部甲板上に艀装品を設置する作業のため仮付けされていた手すりをガスバーナーで取り外して、誤って約14m下の船台床に墜落した。	11501	1	1～9
2001	1	0 ～ 1	昼休みを終えて作業場所である台船上の新造船船首付近の甲板上に移動するため、仮通路(アングル鋼材4本からなる)を通っていたとき、通路上に仮置きされていた本通路の部材が倒れたため、約16m下のコンクリート路面に墜落した。	11501	1	10～ 29
2001	1	11 ～ 12	国道の除雪作業において、抗門の上部に上がり(高さ約10m)スコップで除雪を行っていて道路に転落した。	30106	1	100 ～ 299
2001	1	14 ～ 15	鉄骨2階建工場の2階部分で粉体塗装作業を行っていたときに火災が発生し、3名が焼死した。なお、2階部分には、焼付炉及び乾燥設備の熱風発生装置などがあった。	11709	16	10～ 29
2001	1	14 ～ 15	鉄骨2階建工場の2階部分で粉体塗装作業を行っていたときに火災が発生し、3名が焼死した。なお、2階部分には、焼付炉及び乾燥設備の熱風発生装置などがあった。	11709	16	10～ 29
2001	1	14 ～ 15	鉄骨2階建工場の2階部分で粉体塗装作業を行っていたときに火災が発生し、3名が焼死した。なお、2階部分には、焼付炉及び乾燥設備の熱風発生装置などがあった。	11709	16	10～ 29
2001	1	22 ～ 23	BOD曝気槽(工場から出る汚水をバクテリアで分解する槽)の巡視で、曝気槽の通路を通行中に槽内へ転落した。	10802	10	100 ～ 299

2001	1	11 ～ 12	倉庫出入口のオーバースライダー(高さ4.7m、横5.1m)が上がらなくなったので、壁を昇って不具合を直して降りるためスライダーの上部を移動しているときにコンクリートの床面に墜落した。	40301	1	30～ 49
2000	7	13 ～ 14	芝生張り替え工事において、張り替え済みの芝生に土をかけて均す作業を行っていたときに、天端付近から約5m下のコンクリート面に墜落した。	30199	1	10～ 29
2000	6	10 ～ 11	ブレーカーの点検修理で、故障原因と思われる建物外のひさし(幅75cm、長さ230cm)に設置されているクーラーの室外機を点検するため4階の窓からひさしに乗り移ろうとしたときに11m下に墜落した。	30301	1	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	コンクリート造の堤防の天端を資材(重さ3kgの鉄筋)運搬中に転倒して法面を転落し、溜池(水深4.5m)で溺死した。	30199	1	30～ 49
2000	6	18 ～ 19	自社ビルの屋上駐車場から同僚の車を昇降設備で降ろすため、搬入口を開いていたとき、搬入口から昇降路内を7.65m下へ墜落した。	80109	1	10～ 29
2000	9	17 ～ 18	緊急地すべり対策の工事で、同僚二人で作業が終了した既設集水井(外径3.52m、深さ12.8m)の金属製の蓋(半円形で半径1.8m、質量約230kg)を、既に設置していた同型の金属製の蓋に乗って人力で引き寄せようとしていたところ、引き寄せていた蓋が既設集水井の中に落ち、同時に既設集水井の中に墜落した。	30199	1	10～ 29
2000	12	13 ～ 14	自動車道の路肩の土止めブロックに積もったコンクリート破片等を取り除くため、ブロック法面を親綱を使い下っているときに滑って転落し、約4m下の木製防護柵で胸及び腹部を強打した。	30105	1	30～ 49
2000	5	16 ～ 17	倉庫に長さ約6mのアルミサッシ用の新しい棚が設置され、その棚への入庫作業(予定質量約100t)が並行する形で行われていて、入庫作業の約90%が終了したときに棚が荷とともに倒壊し、入庫作業を行っていた約30名の作業者のうち9名の労働者が下敷になった。	11101	5	50～ 99

2000	5	16 ～ 17	倉庫に長さ約6mのアルミサッシ用の新しい棚が設置され、その棚への入庫作業(予定質量約100t)が並行する形で行われていて、入庫作業の約90%が終了したときに棚が荷とともに倒壊し、入庫作業を行っていた約30名の作業者のうち9名の労働者が下敷になった。	11101	5	100 ～ 299
2000	12	14 ～ 15	地上10階建マンションの外壁補修工事において、最上階出窓上の庇または足場の最上層で、外壁の防水塗装作業中に約28m下に墜落した。	30201	1	0
2000	7	14 ～ 15	ビル外壁改修工事において、高さ約8mの3階テラス上で足場の組立作業を行っていてテラス上から墜落した。	30209	1	10～ 29
2000	5	15 ～ 16	高圧送電線鉄塔の防錆塗装工事において、準備作業として主柱に登り塗料の飛散防止ネットの固縛作業中に、地上約13mの所から墜落した。	30209	1	1～9
2000	3	6 ～ 7	生コンクリート製造プラントの始業前点検作業中に、高さ約23mのプラント屋上から転落した。	10901	1	50～ 99
2000	3	17 ～ 18	エレベーターピットを施工で、ピットの側壁として設けていた高さ約1m40cm、長さ7mのブロック塀が山留めをしていた土砂約1m3とともに崩壊し、電気コードを移動していた者がその下敷きになった。	30201	5	50～ 99
2000	7	14 ～ 15	鉄骨造建築工事において、3階の鉄骨梁上で手すり固定用の鞘管を溶接していたときに、バランスを崩して12m下の地面に墜落した。	30201	1	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	砂防堰堤工事において、型枠盛替のためダムフォームのスライド作業中に、ダムフォームを吊り下げていた三脚チェンブロックの頂部固定用のロープが切断し、ダムフォーム上で作業中の者がダムフォームとともに約6m下に墜落した。	30108	1	30～ 49
		11	水銀灯埋設工事で掘削作業をしていたときに、倒れてきた古い水銀灯			

2000	2	～ 12	の土台コンクリート塊の下敷きになった。	30106	5	1～9
2000	2	～ 12	11 テニスコート斜面の草刈り作業において、休憩後、現場までの約50m を移動中に傾斜角30度のコンクリート斜面上でスパイク足袋のスパイクが滑って転倒し、斜面を約4m滑落したあと約1.6m下の同コート面に墜落した。	160101	1	10～ 29
2000	9	～ 11	10 配筋作業を行うため同僚らの最後尾で作業場に登ったのち、同僚らが 町職員による鉄筋の組立検査を見ているときに橋台から7.2m下の砂利地面に墜落した。	30105	1	1～9
2000	10	～ 19	18 物品搬入搬出用ステージに開閉式の手すりを設置するための蝶番を取り付け作業を行っていて、仮設手すりの中さんとステージ床面の隙間から7.6m下の地面に墜落した。	30209	1	1～9
2000	6	～ 16	15 道路新設工事において、土留め用コンクリートパネルで擁壁を設置する作業中、パネルのレベル調整のため仮固定用の金具を取外したところパネルが倒れ、付近にいた者を直撃した。	30106	5	10～ 29
2000	10	～ 10	9 木造平屋の瓦葺き替え工事のため、瓦を撤去開始前に大屋根にスタンション手すり及び養生ネットを取り付けているときに、1.6m下の下屋に墜落し、その後3.1m下の地面に墜落した。	30202	1	30～ 49
2000	5	～ 1	0 コンテナ専用船の船底海水吸入箱の清掃作業を終了してドックサイドに上がり、反対側の岸壁端のゴム製フェンダーの上に上がろうとして約2.5m下の海中に落下した。	11501	10	1～9
2000	10	～ 17	16 民家のブロック塀を取り壊す作業中に、塀脇の水路内の犬走り上(幅約60cm)へ転落した。	30209	1	1～9
2000	5	～ 9	8 始業時間になっても持ち場に来ないため同僚らが捜したところ、工場裏手の沈殿池(コンクリート型枠洗浄後の排水処理用)に沈んでいたのが発見された。	10901	10	10～ 29

2000	8	10 ～ 11	野外ステージの鉄骨建作業中、鉄骨のボルト1本がうまく入らないので、同僚と鉄骨にまたがってボルト穴にバールを差し込んでボルト穴合せをしようとしたときにバールが抜け、その反動で鉄骨から6.85m下のコンクリート床に墜落した。	30201	1	1～9
2000	11	11 ～ 12	土蔵(11.5m)の解体作業で、全体の約3分の1を壊したところで手作業により廃材集めをしていたところ、内壁(幅約4.4m、高さ約4.0m、厚さ約13cm)が倒壊し、その下敷きになった。	30202	5	10～ 29
2000	10	11 ～ 12	解体するコンクリートプラント上に登って上部に設置された小屋の柱を焼き切り、プラント上で状況の確認をしていたときに突然小屋が崩れ落ち、小屋と一緒に5.6m下の地面に墜落した。	30209	1	10～ 29
2000	7	15 ～ 16	H型鋼の溶断箇所をガス溶断し内部に詰っていたコンクリートを手持ブレイカーで取り除いていたところブレイカーの先が挟ったため、同僚がバールでこじあげようとしていたときにH型鋼4本(約200kg)が落下して手前に倒れその下敷きになった。	30110	5	10～ 29
2000	8	11 ～ 12	解体用車両系建設機械でRC造3階建ビルの3階部を解体中、解体箇所の背後にあった煙突が上部から約7mにわたって倒れ、建設機械の運転席を直撃した。	30201	5	10～ 29
2000	11	13 ～ 14	住宅の庭木の剪定作業において、ブロック塀(高さ約2m)の上で木の枝(高さ約3.5m)を鋏で剪定しているときに、墜落した。	60101	1	1～9
2000	8	13 ～ 14	高さ約18mのパチンコ店の広告塔の内部において、付着していた鳥のフンを取り除くため広告塔下面の鉄板に足を乗せたところ、鉄板に穴が空いてそのまま地面まで墜落した。	30309	1	1～9
2000	8	9 ～ 10	草刈り作業中に、高さ約5mの石垣上から下方の側溝に転落した。	150101	1	10～ 29
		13	高さ約1,6m、長さ約5,3mの7段積のブロック塀を金属製のハンマー			

2000	6	～ 14	で解体中に、ブロック塀が倒れてきて下敷きになった。	30201	5	1～9
2000	6	～ 17	増築工事で搬入した窓サッシ枠を手直しする作業中に、バランスを崩し、窓サッシが仮付けだったため窓サッシもろとも約5m下に墜落した。	80203	1	1～9
2000	5	～ 12	橋梁修繕工事において、新しい欄干を取り付けるためのボルト穴を電動ハンマーで行っていて、次の箇所に移動しているときに、橋上より川原のコンクリート部に墜落し、その弾みで川の中に転落した。	30105	1	1～9
2000	4	9 ～ 10	2階の木製品加工作業所において、木製品から出た木屑の清掃作業を行っていて2階引き戸(181cm×110cm)から3.2m下の道路に墜落した。	30202	1	1～9
2000	3	～ 11	スキーで、スキー場内の巡回と清涼飲料水等の自動販売機の代金回収・在庫確認を行い事務所に戻る途中、勾配約16度17m幅の下山コース途中でコースの外に設置されたリフトの鋼製支柱に激突した。	140309	3	100 ～ 299
2000	12	0 ～ 1	鉄骨造の3階建住宅解体工事において、脚立上で3階壁の鉄骨をガス溶断していたときに壁が倒れてきて下敷きになった。	30309	5	1～9
2000	8	10 ～ 11	エレベータの定期点検で、エレベータ機械室(屋上)のカップリングゴム取替作業が終了し、機械室に居た責任者より復旧のため6階に停止中のかごに乗り込むよう5階に居た者に指示したところ、5階と6階を勘違いして5階の乗場扉を開けてしまいピットへ転落した。	11702	1	1～9
2000	7	14 ～ 15	野外コンサート会場の設営作業中、スピーカースタンドから14メートル下の地面に墜落した。	30209	1	10～ 29
2000	6	11 ～ 12	8階建マンション屋上の高架水槽の点検中に約35m下の1階地面に墜落した。	150101	1	100 ～ 299

2000	4	11 ～ 12	振動ミル屋根嵩上げ工事において、同僚と2人で振動ミルの上部に載って配管の支持金具の締め付け作業中に振動ミルの上部から墜落した。	30201	1	1～9
2000	12	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造5階建ビル解体工事において、4階外壁を倒すためのはつり作業中に突然、外壁が倒れ下敷きになった。	30209	5	1～9
2000	6	8 ～ 9	事務所前の廊下で団体職員が廊下の窓を開けたときに、誤って窓から10m下の路上に転落した。	170209	1	10～ 29
2000	4	9 ～ 10	災害防除工事の検査前の準備作業(清掃)中に、道路の壁面約6.8mの犬走り(幅約45cm)上から墜落した。	30199	1	1～9
2000	4	15 ～ 16	金属製単管を骨組みに使用したトタン張りの木材加工場の解体作業中に、高さ約3mのところ単管を運搬していて墜落した。	30202	1	1～9
2000	12	14 ～ 15	コンクリート壁(高さ2m長さ5m)の倒壊工事で、倒壊前の準備作業としてコンクリート壁の縦方向に筋打ちの作業をハンマーで行っていたところ、突然、壁が倒壊し、その下敷きになった。	30209	5	1～9
2000	7	11 ～ 12	個人住宅新築工事現場において、2階ベランダ部で鉄骨梁材の配置作業中に3.2m下の地面に墜落した。	30201	1	1～9
2000	3	10 ～ 11	鉄骨建方工事において、長さ約12mの柱鉄骨をクレーンで吊り上げて脚部をボルト締めしたのち、上部にあるクランプを外して鉄骨を降りようとしたときに鉄骨が倒れ、鉄骨とともに約12m下のコンクリート面に墜落した。	30201	1	1～9
2000	9	14	深礎工法による深礎杭建設工事で、深礎床の湧水除去のために設置された水中ポンプの点検のためフープ筋を足掛りに降りていく途中で墜	30105	1	30～ 49

		15	落した。			
2000	4	11 ～ 12	養鶏場内の鶏舎から他の鶏舎へ移動する際、鶏舎と飼料用タンクの間を走ろうとしたところ、飼料用のパイプに頭をぶつけてよろけ、約3.5m下のコンクリート製の溝に転落し、頭を強打した。病院に運ばれたが、脳挫傷で死亡した。	70101	1	1～9
2000	11	8 ～ 9	解体工事現場において、重機のオペレーターが壁を内側に倒すため、張出部分の壁を縁切りして次の作業の取り掛かろうとしたときに張出部分の壁、スラブ4スパン分がほぼ垂直に崩壊落下し、1名は3スパン目のスラブ下にいて落下してきたコンクリートの下敷きになり、2スパン目のスラブ上にいた1名はスラブとともに墜落した。	30209	5	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	解体工事現場において、重機のオペレーターが壁を内側に倒すため、張出部分の壁を縁切りして次の作業の取り掛かろうとしたときに張出部分の壁、スラブ4スパン分がほぼ垂直に崩壊落下し、1名は3スパン目のスラブ下にいて落下してきたコンクリートの下敷きになり、2スパン目のスラブ上にいた1名はスラブとともに墜落した。	30209	5	1～9
2000	7	15 ～ 16	RC3階店舗新築工事において、解体した型枠パネルを移動式クレーンで吊り上げ搬出するため3名で手渡しによる運搬集積を行っていたところ、立っていた基礎梁の上面(高さ88cm)の端から左足を踏み外して基礎から出ていた鉄筋に顔面から倒れ込み、鉄筋が左眼窩より頭蓋内に貫通した。	30201	1	10～ 29
2000	6	7 ～ 8	直径2.5mのミキサーで1.5?の泥コンを製造する工程の土、水を混合する作業中に土とともにミキサーの中に落ち、窒息死した。	10901	10	10～ 29
2000	5	17 ～ 18	製造設備の据付作業で、架台の作業床(高さ約5m・手すり無し)上でホッパー等を据え付ける作業を行っていてコンクリート床に墜落した。	30302	1	1～9
2000	6	5 ～	ホテルの夜間警備で定期巡回中に、ホテル屋上から28m下の地上に墜	170201	1	30～

		6	落した。			49
2000	3	9 ～ 10	古紙回収工場の解体作業で、ガスバーナーで鉄骨モルタルの壁(高さ約3m、長さ約6m、厚さ約10cm)を切断中に、倒そうとした壁が反対側に倒れてきたため、倒れた壁に押し倒された間柱に激突された。	10601	5	100 ～ 299
2000	2	14 ～ 15	生コン製造プラントの貯蔵ビンの中で砂の上に立ちながら内壁を清掃していたときに、プラント2階にある操作室で出荷係がミキサー車に製品を積み込むためにボタン操作を行ったため、貯蔵ビンに溜まっていた砂が計量ビンへと移動し、蟻地獄となって砂に埋もれた。	10901	1	30～ 49
2000	2	8 ～ 9	木造住宅の2階の入母屋のラス張り中に、1階の屋根から墜落した。	30202	1	1～9
2000	9	13 ～ 14	倉庫の解体作業で、高さ約1.6mのブロック塀に上り解体作業をしていたときに隣地の庭に墜落して頭を打った。	30209	1	1～9
2000	5	9 ～ 10	鉄塔組立工事現場において、地上で鉄塔組立の作業指揮をしていた被災者は、部材の組立状況を確認するため、あらかじめ部材に取付けられていた長さ5mのキーロック式移動ロープにより順次確保しながら鉄塔を登っていたところ、地上から31メートルの地点で後ろ向きに倒れ、約2.1m墜落した地点で宙吊り状態になり、そのときに鉄塔の部材に激突した。	30209	1	50～ 99
2000	3	10 ～ 11	引込線の漏電検査で、養魚場の分電盤を検査するため石段を降りていたときに水槽のマンホールのベニア板の覆いを踏み抜きマンホール内に転落した。	170209	10	1～9
2000	3	14 ～ 15	道路改良工事において、コンクリート基礎の上に1段目のコンクリート擁壁(150cm×150cm×14cm600kg)を自立させ、位置調整のためにかがんで目地の整形中に、コンクリート擁壁が倒れ地面との間に挟まれた。	30199	5	1～9

2000	7	16 ～ 17	民家の高さ約0.75mに作られた土止庭に植えられている庭木(直径約0.4mの玉ツゲ)の剪定を行っていたときに、足を滑らせて後方に転落し持っていた剪定鋏が右胸に突き刺さった。	60101	1	1～9
2000	3	14 ～ 15	鉄骨2階造増改装工事現場で2階床で間仕切壁の下地取り付けの作業をしていて、取り付けた胴縁(下地鋼材)をはしごの代わりに登っていたところ、胴縁の一本の溶接をし忘れていたため胴縁が外れ開口部から地面に墜落した。	30201	1	1～9
2000	1	16 ～ 17	コンクリート打設のため掘削溝の中で型枠設置の作業をしていたところ、突然民家のブロック塀が倒壊し下敷きになった。	30106	5	1～9
2000	12	2 ～ 3	木造平屋の建物が全焼しその建物にひとりで居住していた者が焼死した。	140101	16	10～ 29
2000	12	13 ～ 14	3階建物に付設した荷取りステージにフォークリフトで運び込んだ荷を地上から3階荷取りステージに取り込むため、テルハクレーンの準備をしているときに荷取り込み口から7.35m下に墜落した。	170209	1	50～ 99
2000	11	14 ～ 15	配水管敷設工事現場で後退する工事車両(2tトラック)を誘導中に支障となるカラーコーンを移動しようとしたときに、車両が電柱に衝突し、折れた電柱が電線に引っ張られた反動で腹部に激突した。	170201	6	100 ～ 299
2000	10	15 ～ 16	住宅地で剪定後の切り枝などを集めて高さ115cmの生垣から約2m下の道路へ落としていたときに生垣を越えて道路へ墜落した。	60101	1	1～9
2000	7	15 ～ 16	木造建築工事現場で、3階軒鉄骨梁部分と外壁端との間に金属製水切板を取付中に、約8m下の地上に墜落した。	30202	1	10～ 29
2000	6	11 ～	7階の窓ガラスの外側の清掃を、部屋の内側から手を伸ばして行っていた際に墜落した。	150101	1	50～ 99

		12				
2000	6	10 ～ 11	建築資材置場で移動式クレーンを使用して建築物の棚の上に積まれた コンクリート・パネルを荷台に積込むため、玉掛作業を行っていて足 を滑らせ約4m下に墜落した。(オーバーステイの外国人)	30201	1	1～9
2000	2	10 ～ 11	休憩時間を終えて持場に戻ろうとした時に手袋を忘れたので取りに戻 るときに、高さ3.25mの石積み天端の上を転落防護柵に捕まりながら 移動していて転落した。	30199	1	10～ 29
2000	12	13 ～ 14	午前中に倉庫工事現場の大掃除を実施し、昼食後に最終確認のため倉 庫2階に上がったときに床部分より約4m下に墜落した。	30202	1	30～ 49
2000	12	0 ～ 1	立体駐車場で、クレーンを使用して内装材をパレット上(高さ約40m)に 荷降し作業中に、パレットに偏荷重がかかり、荷取作業をしていた2人 のうち1人は途中のパレット上に、1人が地上にあった装置上に墜落し た。	30201	1	100 ～ 299
2000	12	14 ～ 15	鉄骨庇の改修工事で、屋根鉄板を解体した木毛セメント板に載ってし まい木毛セメント板(約60cm×80cm)を踏抜いて約6m下の地上に転 落した。	30209	1	1～9
2000	11	10 ～ 11	高圧線の太線化の工事で高所作業車の補助として電柱に昇り既設電線 と新設電線の入替が終り低圧線付近で待機するよう作業指揮者及び共 同作業者に指示され待機しているときに感電した。	30301	13	50～ 99
2000	10	15 ～ 16	8階建ビルの外部窓ガラスをブランコを使用して清掃中、屋上の端でバ ランスを崩し、27m下の路上に墜落した。	150101	1	10～ 29
2000	10	16 ～ 17	1階金庫室の解体工事中に、未解体の鋼板・コンクリート製の金庫室南 側側壁が倒壊し、既に解体した資材の搬出作業を行っていた2名がその 下敷きとなり、1名が死亡、1名が重傷を負った。	30209	5	10～ 29
		16	鉄骨造2階建個人住宅建設工事において、2階床部分の小梁間に足場板			

2000	10	17	を渡し、胴縁材を取り付けているときに1階床面に墜落(高さ3.9メートル)した。	30209	5	1~9
2000	10	11 ~ 12	5階建ビルの窓ガラス清掃中、次の窓ガラスを清掃しようとしたときに、約14m下の道路面に墜落した。	150101	1	50~ 99
2000	9	19 ~ 20	屋上の雑草取りを行ってごみ袋に入れて屋上に置いたままにしていたが、夜になってから風が強くなってきたのでごみ袋が気になり、屋上 に行って墜落した。	150101	1	100 ~ 299
2000	4	10 ~ 11	給水配管の取替工事で、塔屋屋上の給水配管の下見作業中に工具を取りに塔屋屋上から既設のはしごを降りていて高さ5mのところから墜落した。	30309	1	10~ 29
2000	2	10 ~ 11	植込み作業の休憩時に飲む飲料水を買に行くため、幅37cmの植込みの縁を歩いていて吹き抜けになっている地下ピットに墜落(高さ5m54cm)した。	60101	1	1~9
2000	2	10 ~ 11	マンション1階の腰壁(間口180cm、高さ153cm、厚さ18cm)の解体作業で、腰壁の周囲をはつた後、剥き出しとなった鉄筋の左右両側、腰壁下部の二列に並んだ立筋をその下方で切断したところ、腰壁(重さ約500kg)が内側に倒れ、腰壁と建物の壁との間に挟まれた。	30201	5	1~9
2000	8	15 ~ 16	トラックで荷物を運搬してきて荷降ろしを行うため、電源コネクターを持って電源ボックスに向う途中で高さ97cmのプラットホームより転落した。	40301	1	50~ 99
2000	6	8 ~ 9	製油所の原油タンクの定期修理工事において、タンク底板の補修作業のため屋根を支える仮サポートを調整していたときに、屋根が陥没したため屋根とタンク側板との間にはさまれた。	30309	7	10~ 29
2000	3	10 ~ 11	住宅屋上の防水工事で、共同作業者と2人で墨出し作業のためチョークラインの一方を持って後ずさりしたときにパラペットを乗越え高さ14.2メートルの屋上から墜落した。	30309	1	1~9

2000	7	16 ～ 17	車道ボックスカルバート撮影のため、枠組足場3層目床部(高さ3.4m)正面を撮影するため、カメラを持って枠組足場ブレースの外側に身を乗り出し、足場近傍に組立て中の鉄筋に片足を掛け撮影しようとしたときに鉄筋結束番線が切れてくずれたところに倒れ、鉄筋が腹部に刺さった。	30106	2	100 ～ 299
2000	4	14 ～ 15	工場床面から走行車最下部までの高さが3.27mある走行車の上で作業して作業後昇降設備を使用せずに降りようとしたときに、80℃の湯が入っている槽(3.38m×0.6m×0.61m)に墜落し全身火傷を負った。	11209	1	10～ 29
2000	3	16 ～ 17	事務所に附属する高さ約3.4mのベランダの端に温室の屋根と壁板を取り付ける作業で、温室側面のサッシと屋根の隙間に波板を取り付けるため床の端に脚立(高さ約1m)を置いて作業していてバランスを崩し地面に墜落した。	30201	1	1～9
2000	2	13 ～ 14	新築工事現場において、屋上のペントハウスから吊るした親綱に固定していた幹線ケーブルを長さ30mのロープに移し替えて地上に降ろす作業をしていたときに、13階廊下の手すりを越えて36.5m下に墜落した。	30201	1	1～9
2000	6	9 ～ 10	砕砂洗浄プラントのホッパー内に入って砂落しをしているときに、同僚作業員がショベルローダーで砕砂をホッパー内に入れたため生理めとなた。	20209	90	10～ 29
2000	8	14 ～ 15	アンテナ設置作業の準備のため、2階屋上で同僚と2人で写真撮影をしていて、全体を写すためカメラのファインダーを覗きながら後ずさりをしていたときに、屋上のパラペットにつまづき8.5m下の地上に転落した。	30301	1	10～ 29
2000	4	0 ～ 1	深さ4.8mのマンホール内で電線管内部の清掃と導通試験を行っていて、昼食のためマンホールのタラップを昇って外に出ようとしたときに墜落した。	30199	1	1～9
2000	3	11 ～	産業廃棄物の中間処理施設建設工事において、休憩後に外壁取付け箇所に戻ろうとして、深さ2.98mのコンクリート製中間処理槽に転落し	30199	1	10～

		12	た。			29
2000	11	11 ～ 12	膨張タンクの解体作業を電動工具で行っていたときに、ブレーカーが落ちたので、復旧するため電源のあるエレベーター機械室内を歩行中、口部から足を踏み外し約16.35m下に墜落した。	30302	1	1～9
2000	1	10 ～ 11	無人のコイン精米機に溜まった糠を取り除くよう依頼を受け、単独で無人精米所へ向かったが、糠タンクと道路の間にある地面より1メートル程水面が下にあるコンクリート製の側溝内に倒れているのを無人精米所へ来た客が発見した。	80209	1	1～9
2000	9	13 ～ 14	マンション新築工事の完成検査のうち15階屋上で行われた消火栓水圧検査が終了したので20mのホースの後片付け中、43m下の駐車場に転落した。	30201	1	1～9
2000	6	14 ～ 15	架空地線の延線工事において、新設鉄塔(高さ58m)に架けた電線に難着雪リング等を取付けるため宙乗機に乗り込んだときに、宙乗機と共に約52m下の地面に墜落した。	30301	1	10～ 29
2000	6	14 ～ 15	鉄骨平屋建駐車場の新築工事現場において、デッキプレートを敷設した屋根にコンクリートを打設するため外周にコンクリート止めの鉄板の溶接を行っていて2.8m下に墜落した。	30201	1	1～9
2000	2	15 ～ 16	建設中のずい道の切羽において、ずい道支保工設置のためのズリかき均しを行っていたところ、石があり落下してあたり肋骨、骨盤を骨折した。	30102	4	30～ 49
1999	12	16 ～ 17	橋梁の解体作業において、床板の張出部をコンクリートカッターで切断し、中央部をアンカーボルトで吊って玉掛け作業していたところ、床板を保持していたアンカーボルトが抜け落ち、床板と共に約6メートル下の川底に2名が墜落し、うち1名が死亡した。	30105	1	10～ 29
1999	12	17 ～ 18	研究室において、窓枠に上って窓を拭いていたときに、誤って墜落し、2階ベランダに激突した。	120109	1	100 ～ 299

1999	12	13 ～ 14	2階にある物置の内部造作のため、ベランダに梱包してある化粧合板(12枚束)の開封作業中にベランダの端から地上に墜落した。	11209	1	10～ 29
1999	4	14 ～ 15	町道の拡幅工事で埋戻し作業に従事していた者が場所を移動しようとしてガードレール基礎コンクリート上から足を踏み外し約1.6m下の側溝に転落した。	30106	1	100 ～ 299
1999	12	10 ～ 11	喫煙のため、8階の喫煙室に行き誤って窓から転落した。	170209	1	300 ～ 499
1999	12	12 ～ 13	工務店の事務所兼宿舍の敷地内にある資材置場から出火し、すぐ隣の所属従業員26名が寝ていた宿舍に燃え移り、このうち1名が逃げ遅れて死亡した。	30201	16	30～ 49
1999	12	14 ～ 15	木造2階建住宅新築工事で、網戸取付け作業が終了したため、同僚が行っていたバルコニー手すり取付け箇所に立ち寄ったときに、仮止めてあった手すりを押倒して高さ4.82メートルのバルコニーの床から地上に墜落した。	30209	1	10～ 29
1999	10	20 ～ 21	移動式クレーン(つり上げ荷重2.63t)を使用して、冷蔵庫(重さ100kg)を2階駐車場から吹き抜けを通して1階へ降ろす作業中、2階駐車場に居た合図者が手すり(高さ100cm)を乗り越え4.5m下に墜落した。	80209	1	1～9
1999	11	0 ～ 1	砂利プラントのホッパー側壁の溶接補修作業が終了したので、ホッパー側壁をよじ登って外へ出ようとしたときに墜落ホッパー底部で頭を強く打った。	10909	1	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	災害復旧工事において、ブロック擁壁の基礎と接する河床部分が豪雨で削り取られたのでコンクリートで補強するための作業中、右岸側のブロック擁壁とその上の玉石積み擁壁が高さ6m長さ12mにわたって崩壊し、下で作業を行っていた3人が下敷きになった。	30107	5	1～9
		8	鉄塔(完成時の高さ35メートル)の組立現場において、高さ約15メート			10～

1999	12	～ 9	ルの箇所から墜落した。	30301	1	29
1999	9	13 ～ 14	公園の災害復旧工事現場において、道路脇法面の緑化ウォールをよじ登っていたときに下の道路上に墜落した。	30199	1	10～ 29
1999	11	8 ～ 9	ごみ焼却処理場において、ごみ収集車をピット前に車の後部で誘導して、ピットの端からコンクリート製の底(深さ6.1メートル)に墜落した。	150103	1	1～9
1999	11	14 ～ 15	ビルの窓ガラスの清掃作業で、3階喫煙室の外側の窓を清掃するため左足を脚立にのせ、右足を高さ約1mの窓枠にのせてスクイズで水切り作業をしていたときにバランスを失い、高さ約7m下の屋外階段のコンクリート踊り場に墜落した。	150109	1	1～9
1999	3	14 ～ 15	コンクリート製側溝の底にコンクリートを打設するため、側壁と地山の間(幅40cm、地山、側壁の高さ約1m)に立ち、ミキサー車のシュートの移動及び側溝内のコンクリートを手で均す作業を行っていたときに、側溝の全長31mのうち約20mの側壁が倒れ、地山と側壁との間に挟まれた。	30109	5	1～9
1999	3	9 ～ 10	産業廃棄物処理施設において、ガス冷却室(炉の燃焼ガスを水冷する施設)の側面のマンホールから上半身を入れて内壁の付着物を除去しようとして、冷却室内に約10メートルを落下した。	150102	1	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	河川拡幅工事で、両岸に設置するL字型のコンクリート製擁壁(重さ1.9t)の据付け作業を行うため、専用の吊具を用いて3点で吊上げようとしたところ、そのうち2点が外れて擁壁が倒れたため、吊具のセットを行っていた者が擁壁の下敷きになった。	30107	6	1～9
1999	11	10 ～ 11	送水管移設工事現場で、水抜きを行った送水管(内径1200mm)の上部を直径約50cm(円形)にガスで切断しハンマーで叩き落としていたところ、送水管内に約7m吸い込まれた。	30199	90	10～ 29

1999	10	11 ～ 12	住宅街の道路改良工事で、既設U字溝を撤去したのちバックホーで深さ70cm、幅1mに掘削し、床ならし作業等を行っていたところ、側溝横の高さ約2mの民家のブロック塀が倒れて、作業員2名が掘削溝とブロック塀との間に体を挟まれ1名が死亡、1名が重傷を負った。	30106	5	10～ 29
1999	11	13 ～ 14	生コンクリート工場において、高さ約8メートルの砂ビン内の砂の残量を確認していて砂の中に生埋めとなった。	10901	1	10～ 29
1999	11	13 ～ 14	高速自動車道の高架橋建設工事において、箱桁の内部に配水管を取付けるため墨出し作業で、墨出し糸の端を持って箱桁上を歩いていたときに、検査孔から18m下の箱桁支持用の支保工の基礎に墜落した。	30105	1	1～9
1999	11	14 ～ 15	冷蔵庫室内で霜取り作業中、天井が崩れ落ちたため天井から吊られているアンモニア(冷媒)の通るコイルが落下し、その下敷きとなった。	80401	5	1～9
1999	10	10 ～ 11	貸店舗新築工事現場において、高さ4.4mの鉄骨柱上で作業を行っていて、地面に墜落した。	30201	1	1～9
1999	11	14 ～ 15	側溝修繕工事において、側溝脇に土止用のアングルを打ち込むためドラグショベルで掘削した箇所(深さ：約80cm)に入り作業をしていたところ、突然東側の石垣が崩壊し、下半身が下敷きになった。	30106	5	1～9
1999	9	8 ～ 9	展示用プレハブハウスの点検中、台風の突風によりハウスが横転しその下敷きになった。	80409	5	1～9
1999	10	16 ～ 17	ケーソン進水台車の解体作業において、上面継板のBOX桁側のボルトを抜いて側面の継板を取り外し、下面継板の最後のボルトを外そうとしたがボルトのナットが回らずボルトがはずれないので、ガスで溶断したところBOX桁が落下しその下敷きになった。	11301	4	300 ～ 499
		15	水路工事現場で碎石の敷き均し作業中、擁壁の一部(石とコンクリート			10～

1999	10	～ 16	で形成された擁壁)が倒壊しその下敷きとなった。	30110	5	29
1999	10	～ 15	14 ケーソン用の箱型型枠を解体する作業において、チェーンで吊って いた高さ約3.5m、幅約3mの型枠板を昇っていたときに型枠板が倒れ、地 15 面との間に挟まれた。	30111	5	30～ 49
1999	6	7 ～ 8	ぎ装中のフェリーの空調ダクト工事のため、船に横付けされていた貨 物船のデッキを経由してフェリーに渡しているタラップを渡ろうとし たときに、バランスを崩してタラップの手すりと通路の手すりとの隙 間(116cm)から、船の間の海上へ後向きに転落した。	11501	1	1～9
1999	9	～ 14	13 工場の新築工事現場において、2階南側の外壁用鉄枠(縦2.7m、重さ 約130kg)の取り付け作業中に、約4.5m下の道路に鉄枠と共に墜落し 14 た。	30201	1	1～9
1999	8	～ 15	14 粉砕機の原料タンク内が空になったことを、センサーが検知し粉砕機 の運転が自動停止したので、タンク内に入って、タンクの原料中に埋 15 没した。	10909	1	1～9
1999	8	～ 16	15 2棟の倉庫間の連絡用通路建築のため、ブラケット側足場2層目の手 すりと建方中の鉄骨上に足を掛け、鉄骨もやを梁に設置する作業をし 16 ていたときに、地上約4.6m下に墜落した。	30201	1	1～9
1999	8	～ 12	11 工場の天井裏にある空調ダクトの移設作業において、移設した空調ダ クトのつなぎ目をボルト締めするため天井裏を移動中に、釣り木及び 12 野縁がともに折れ約4.1m下に墜落した。	30309	1	1～9
1999	8	11 ～ 12	ホテルに新しいエレベーターを設置するため、4階エレベーター機械室 のピットスラブコンクリートのはつり作業を行って、コンクリートガ ラを集めていたときに、足元のスラブコンクリートが抜け落 ち、19.5m下のエレベーターピットに墜落した。	30309	1	10～ 29
1999	6	～ 10	高架橋下部工事で、深礎坑内(直径3m、深さ25m)の鉄筋結束及びコン クリート打設用パイプの設置作業中、深礎坑内に二重に設置されてい	30105	5	50～

		11	た鉄筋(計152本)のうち、内側の鉄筋(76本)が崩れ落ち、深礎杭最深部で作業していた者3人が下敷きになった。			99
1999	6	10 ～ 11	高架橋下部工事で、深礎坑内(直径3m、深さ25m)の鉄筋結束及びコンクリート打設用パイプの設置作業中、深礎坑内に二重に設置されていた鉄筋(計152本)のうち、内側の鉄筋(76本)が崩れ落ち、深礎杭最深部で作業していた者3人が下敷きになった。	30105	5	50～ 99
1999	6	10 ～ 11	高架橋下部工事で、深礎坑内(直径3m、深さ25m)の鉄筋結束及びコンクリート打設用パイプの設置作業中、深礎坑内に二重に設置されていた鉄筋(計152本)のうち、内側の鉄筋(76本)が崩れ落ち、深礎杭最深部で作業していた者3人が下敷きになった。	30105	5	50～ 99
1999	8	14 ～ 15	宅地造成現場の電柱埋設作業において、建てた電柱に作業員が登って配線作業中、電柱が作業員もろとも倒壊した。	30301	5	50～ 99
1999	8	9 ～ 10	建築工事で玄関部分を養生するため、足場と玄関の庇の間に約25cm間隔で鋼製布板(幅24cm)を45枚掛け渡し、番線で固定作業を行っていたときに、27枚目の布板と共に墜落した。	30201	1	1～9
1999	8	6 ～ 7	事業場の守衛が敷地(ビアガーデン)の草むしりをしていて、約4メートル下の河原に転落した。	10202	1	1～9
1999	7	14 ～ 15	木造倉庫の解体でスレート屋根、屋根タル木、筋かい、壁材を撤去したところ、柱のみで立っていた倉庫が倒壊してきて母屋等の屋根の支持材が、倉庫内にいたミニドラグショベルの運転者の上に崩れてきて、変形したヘッドガードの屋根部分が頸椎に当たった。	30110	5	1～9
1999	8	10 ～ 11	建造中の自動車運搬船の右舷側の工事用出入り口となる部分(高さ2m、幅1.9m)の扉の切断を行っていたときに、すべてを切断したために扉が外側に開き、そこから約8m下のドック底へ墜落した。	11501	1	300 ～ 499
		15	法面に植栽してある高さ50センチの庭木の周りの草取り作業中、1メー			10～

1999	7	16	トル80センチのL型よう壁からアスファルト面に転落し、後頭部を打撲した。	60101	1	29
1999	7	13 ~ 14	3階の梁上にいたとび工から「ボルトを取ってくれ」と声をかけられたので、下から手を伸ばしているときとび工にボルトの入った箱を渡そうとしたときに、約7メートル下の地面に墜落した。	11209	1	1~9
1999	6	16 ~ 17	製紙工場の設備修理作業を終え、工場3階の屋外階段を使用して工具類を下に降ろしているときに工具を階段下の天張り部に落していまい、それを取りに階段下に入った同僚が階段下を塞いでいるケイカル板を踏み抜き、天井下地材にぶら下がり助けを求めたため、助けようとしたが同様に踏み抜いて、2人とも約9.5m下に墜落した。	30302	9	10~ 29
1999	6	14 ~ 15	老朽化した煉瓦造りの倉庫を解体作業中、倉庫全体が一気に倒壊する危険が生じたので、ドラグショベルにワイヤーを掛けて建物を支えながら養生用足場の3段目に上がって指揮をしていたところ、壁の煉瓦が大規模に崩壊して足場に激突したため、足場上から約5.4m下の地面に墜落した。	30199	5	1~9
1999	6	16 ~ 17	高さ31mのビル屋上のパラペット脇の溝のゴミを取り除く作業を手すりの外側に出て行っていたところ、足を滑らして約27m下の1階底上に転落した。	80109	1	100 ~ 299
1999	6	13 ~ 14	生ゴミ置場の屋根葺作業中に、風にあおられて屋根材のトタン板と一緒に約2.2m下のアスファルト面に墜落した。	30203	1	1~9
1999	6	11 ~ 12	砂防工事現場において、アンカー敷設のため削岩機を用いて法枠から法面に達する孔の穿孔作業を朝から行い、昼の休憩を取るために法枠上を降りようとしたときに、高さ約7.2メートルの箇所から転落した。	30108	1	1~9
1999	2	9 ~ 10	個人住宅の外壁塗装工事現場で、高さ3.46メートルの下屋付近でウエスを使って塗料の拭き取り作業中に地上に墜落した。	30209	1	1~9

1999	6	6 ～ 7	パーム油再生設備のドレーン槽の排水ポンプのフロートスイッチを修理中に槽内に落ちて、熱症死した。	10801	11	30～ 49
1999	6	10 ～ 11	倉庫の鉄骨建て方作業で、高さ11mの柱を10本建てその後、移動式クレーンで梁を吊って所定の位置に移動させ、その梁の上を這って柱の方へ移動しているときに、柱が傾いて倒れたため、柱とともに11m墜落した。	30201	1	1～9
1999	2	15 ～ 16	砕氷塔のシューターを動かすウインチのワイヤロープを交換する作業で、砕氷塔の砕氷機下の作業床で新しいワイヤロープをウインチへ巻き取る作業を終えて移動しようとしたときに、足を踏み外して後ろの開口部より5.9メートル下のコンクリート床面に墜落した。	10109	1	1～9
1999	5	9 ～ 10	高さ4メートルのブロック積み擁壁上で、上方の伐採する立木を予定の位置に伐倒するため立木にかけたロープを引っ張っていたところ、作業床の端に近付きすぎて作業床の端から墜落した。	30199	1	1～9
1999	1	14 ～ 15	S造2階建て事務所の解体作業中に、高さ3.8メートルのひさし部分から墜落した。	30309	1	10～ 29
1999	2	4 ～ 5	埠頭岸壁から転落しているタクシーを発見したが車内には誰も乗っていなかったため、周辺を船で捜索したところ同地点より約400メートル西の海上で遺体を発見した。	40201	10	300 ～ 499
1999	2	17 ～ 18	看板を撤去するため広告塔の内側からボルトを外していたときに、作業床を踏み抜いて12.6メートル下の地面に墜落した。	30209	1	1～9
1999	4	15 ～ 16	1人で宅地造成地北側の法面(高さ約6m)において「植栽用のシート」を張り付ける作業を行っていたが、現場監督が発見したときには法尻付近に倒れていた。	30108	1	10～ 29
		14	住宅擁壁の工事において、コンクリート擁壁の基礎下部に排水パイプ			10～

1999	5	～	を布設するためドラグショベルで擁壁のすぐ脇を深さ約40cm掘削し、	30199	5	29
	15		その中で床付け作業中に、擁壁が倒れてきて下敷きとなった。			
1999	5	14	造成工事において、法面階段工の階段ブロック設置作業の下地モルタル	30109	1	10～
	～		ルをバケツにより運搬していて、調整池に転落した。			29
	15					
1999	5	13	老朽化した鋼製タンクを2階から1階に降ろす作業で、2階吹抜けの上部	11204	1	10～
	～		に設けた手動式チェーンブロックでタンクを吊上げ手摺越しに1階に降			29
	14		ろそうとしたが鋼製タンクが上がらないため、開口部手すりの一部を			
			グラインダーで切断し、鋼製パイプでこじ抜ける作業をしていたとき			
			に、手摺端部が折れ2階床より1階コンクリート床上に墜落した。			
1999	5	7	仕込み・調理の資材準備のため屋外の冷凍庫に原料の「むきえび」を	10104	6	300
	～		出しに行き、材料を取り出して冷凍庫の扉を閉めようとしたときに、			～
	8		突風で扉があおられて扉に勢いよく押し戻され、隣の冷凍庫で頭部を			499
			打った。			
1999	5	16	事務所兼賃貸アパートの外壁張り替え作業で、2階の棧を跨いで、外へ	30202	1	1～9
	～		身を乗り出してビニール波板を釘で打ち付けていたときに、バランス			
	17		を崩して墜落し、下にあったフォークリフトのフォーク上のスノコ			
			の上へ落ちたのち地面へ首から墜落した。			
1999	5	13	ビルの3～4階で階段の掃除をしていたときに、階段の途中から3階踊場	150101	1	100
	～		に転落した。			～
	14					299
1999	5	16	解体用機械で5階建て工場建物の塔屋部分を解体中、鉄筋コンクリート	30209	4	10～
	～		製の塔屋(3m×3m×6m)が崩れ落ちて解体用機械の運転席を直撃し			29
	17		た。			
1999	2	8	川改修工事において、積ブロック用隔壁の型枠解体作業中に隔壁が倒	30107	5	30～
	～		れたため下敷きとなった。			49
	9					

1999	3	16 ～ 17	部品棚を組立てるため、高さ2.5メートルの鉄骨上でボルト締め作業を行っていたときに、バランスを崩し、途中高さ1.25メートルのところにある鉄骨にバウンドして地上に墜落した。	30209	1	1～9
1999	4	10 ～ 11	ホテルの5階客室の窓を清掃するため、窓枠に足を掛け身体を乗出すようにして作業を行っていたとき、バランスを崩し3階の底部分に墜落した。	140101	1	50～ 99
1999	4	9 ～ 10	アマチュア無線のアンテナ用鉄塔の解体で、鉄塔に昇って作業していたときに高さ約12mのところから墜落した。	30201	1	1～9
1999	4	14 ～ 15	精米プラントの解体工事のため、バケットエレベータの点検床に乗って床およびタラップとの接続箇所をガス溶断していたところ、2本のボルトで固定されていた点検床が作業者の体重と自重により抜け落ち点検床と共に5.25メートル下の土間コンクリート上に墜落した。	30302	1	1～9
1999	3	14 ～ 15	新築工事において、上下水道管を埋設する溝をミニドラグショベルで掘削し、2名が溝の内部に入って埋設作業中、隣地との間のブロック塀が倒れて下敷きになり、1名が死亡、1名が重傷を負った。	30203	5	10～ 29
1999	4	8 ～ 9	雑用水ポンプアップ用の井戸の築造工事において、井戸上部のマンホールから移動用はしごで降りていたときに、誤って7mの箇所から底まで墜落した。	30110	1	10～ 29
1999	4	14 ～ 15	地下鉄敷設工事現場において、土止壁に付着した土石をスコップにより手作業で除去していたところ、既設の下水道構造物の下部に付着していた土塊が落下し、頭部に当たった。	30104	4	30～ 49
1999	3	8 ～ 9	鉄塔の撤去工事において、玉掛けするため鉄塔に登っていたところ、鉄塔が真中から折れて鉄塔と共に地面に墜落した。	30209	1	1～9
1999	4	11 ～	電波障害調査のため、4Fのペントハウス屋上の柵外にあるテレビ機器収納盤にケーブルを接続し、その状態の写真撮影を行っていたとき	170209	1	10～

		12	に、高さ約50センチのパラペットを超えて19.5メートル下の地上に墜落した。			29
1999	3	13 ～ 14	マンション屋外の3階建て立体駐車場で、2階部分に許容高さを超える軽トラックが駐車して屋根が3階プレートの底部に接触したため、この復旧のため軽トラックの隣にあるプレートに上がるため駐車設備のフレームからプレートに移動中、フレームとプレートの間隙から墜落した。	170209	1	10～ 29
1999	3	10 ～ 11	木造モルタル2階建ての従業員寮が全焼し、焼け跡から1名の焼死体が発見された。	30201	16	10～ 29
1999	3	9 ～ 10	セメント工場の配合場横の塩ビ配管の漏水修理のため、アルミ製はしごをシャッター扉収納部の突き出し部分に立て掛けて作業を行っていたときに、2.85メートル下のコンクリート床に墜落した。	10901	1	10～ 29
1999	3	13 ～ 14	仮設橋の解体撤去作業で、架台支柱の内の14mの支柱に登り、支柱と仮設橋の桁をつないでいたボルトを取り外したところ架台が転倒したため架台の支柱に登っていた作業員2名が支柱から墜落し、1名が死亡し、1名が負傷した。	30199	1	1～9
1999	1	15 ～ 16	砂防工事現場において、高さ8mの既設ダム堰堤上部で切削機の試運転していたときに、誤って堰堤上部から川底に墜落し、同時に落下した切削機が右下腿部を直撃した。	30106	1	1～9
1999	3	9 ～ 10	新築工事現場において、ドライチャンバー室内の資材等の片付け作業中にコンベヤーの土台から深さ88cmのピットに転落した。	30302	1	1～9
1999	3	15 ～ 16	新築工事現場において、マンホール内部に逆さになって上半身を入れて配水管の補修作業をしていたときに、通りかかった別の作業員が様子がおかしいのに気づいた。	30201	10	1～9
		13	側溝敷設工事現場において、ドラグ・ショベルで掘削後の溝に入り角			

1999	3	～	スコップで床均し作業をしていたときに、隣のコンクリートブロック	30106	5	1～9
		14	塀が約12mにわたり倒れ、その下敷きになった。			
1999	2	～	液肥槽からスラリーローリー車で液肥を運搬して農地に散布する作業	70101	10	50～
		12	で、6回目の液肥くみ取りを行うため、液肥槽の周囲の除雪を行って			99
			るときに誤って深さ約4メートルの液肥槽に墜落し被災した。			
1999	1	～	福祉施設の大会議室の天井の電球が切れたため、天井裏に上がり	170209	1	1～9
		13	キャットウォークと呼ばれる通路から鉄骨の梁の上を渡って、約4メー			
		14	トル離れた球切れした電灯まで行ったところで、周囲に敷き詰めてあ			
			るガラスウールボードを踏み抜いて約6メートル下に墜落した。			
1999	2	～	発電所の定時巡回を同僚と2名で車両で実施していて、岸壁に向かう	170201	10	10～
		18	ゲートを開けてその場で1名が監視に立ち、1名が車両を運転し不審者			29
		19	等の有無の確認のため物揚場に向かったときに、岸壁端から車両ごと			
			海に転落、溺死した。			
1999	1	～	対面するビルの工事に伴う環境測定のため、4階屋上で屋上部分の面積	170209	1	10～
		11	を測定する作業中、メジャーの端を持って後ろ向きに歩いていたた			29
		12	め、パラペットを乗り越え地上に墜落した。			
1999	2	～	鉄筋コンクリート建物解体工事で、歩行健康器具を同僚と2人で4階の	30201	1	50～
		8	窓から地上のコンテナ車に投下しているときに、皮手袋が健康器具の			99
		9	ボルトに引っかかったため、歩行健康器具とともに1階コンクリート土			
			間まで墜落した。			
1999	1	～	木造2階建住宅新築工事で羽子板ボルト締め作業を行っていたとき	30202	1	1～9
		14	に、1階のコンクリート基礎部分に墜落した。			
		15				
1999	1	～	工場新築工事で天井裏の配管作業中に70センチのすき間から5.3メー	30201	1	1～9
		14	トル下のコンクリート床に墜落した。			
		15				
		2	校舎4階の音楽室内を巡回警備中に、吹奏楽部の生徒が気が付かず音楽			300

1999	1	10 ～ 11	鉄骨矢倉に附設されていた高さ2mの鉄骨上のプレハブ事務所の土台の解体作業で最後の1本の梁のボルトを取り外した時、土台が倒壊し、鉄骨を押さえていた者が鉄骨と傍の仮設用WCとに挟まれ、頭にWCの排気塔部材が刺さった。	30199	5	10～ 29
1999	1	0 ～ 1	ビル屋上の貯水槽の定期清掃及び点検業務で、作業を終了し最後の点検を貯水槽が乗せられている台の上に立ち行っていたときに、足を踏外して、貯水槽の載っているエレベーターホールの塔屋から、屋上まで墜落した。	150101	1	1～9
1999	1	10 ～ 11	事務所屋上で吹きだまった雪を落とすため、プラスチック製のスコップを持って様子を見に屋上へいったときに、誤って約8m下の地面に墜落した。	170209	1	100 ～ 299
1999	1	11 ～ 12	ビルの屋上において点検作業中、屋上の端から約17メートル下の地上に墜落した。	30201	1	1～9
1999	1	11 ～ 12	橋補修工事ですり足場のチェーンを取付ける作業をが終わったので、橋に上がるためはしごを登り欄干を跨いでいたところ滑って川に墜落し溺死した。	30199	1	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_02.html